

- 八 「エルベ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十一年六月二十二日ノ條約
- 九 「エスコ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十三年七月十六日ノ條約
- 十 蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル確定制度ノ設定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約
- 十一 海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約
- 十二 病院船ノ港内ニ於ケル稅金及課金ノ免除ニ關スル千九百四年十月二十一日ノ條約
- 十三 婦人ノ夜業禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約
- 十四 醜業ヲ行ハシムル爲メ婦女賣買ヲ禁止ニ關スル千九百四年五月十八日及千九百十年五月四日ノ條約
- 十五 猥褻出版物禁止ニ關スル千九百十年五月四日ノ條約
- 十六 千八百九十二年一月三十日、千八百九十三年四月十五日、千八百九十四年四月三日、千八百九十七年三月十九日及千九百三年十二月三日ノ衛生條約
- 十七 「メートル」法ノ統一及改良ニ關スル千八百七十五年五月二十日ノ條約
- 十八 有效藥ノ藥局方統一ニ關スル千九百六年十一月二十九日ノ條約
- 十九 模範音ノ制定ニ關スル千八百八十五年十一月十六日及十九日ノ條約
- 二十 羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百五年六月七日ノ條約

- ノ條約
- 二十一 「フィロケセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十一年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約
- 二十二 農業ニ有益ナル鳥類ノ保護ニ關スル千九百二年三月十九日ノ條約
- 二十三 未成年者保護ニ關スル千九百二年六月十二日ノ條約
- 第二十三十五條
- 縮約國ハ奧地利國カ本條中ノ特別規定ヲ遵守スルコトヲ約スルニ依リ本條約實施ノ時ヨリ左記ノ條約及取極ヲ其ノ自國ニ關スル限リ適用スヘシ郵便條約
- 千八百九十一年七月四日維納ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千八百九十七年六月十五日華盛頓ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千九百六年五月二十六日羅馬ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 電信條約
- 千八百七十五年七月二十二日(露曆十日)聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約
- 萬國電信條約附屬國際業務規則及國際料金表
- 奧地利國ハ新國カ加入シ又ハ加入スルコトアルヘキ萬國郵便聯合及萬國電信聯合ニ關スル條約及取極中ニ規定シタル特別協定ヲ該新國ト締結ス

ルコトヲ拒マサルコトヲ約ス

第二百三十六條

縮約國ハ奧地利國カ同盟及聯合國ノ指示スヘキ暫定規則ヲ遵守スルコトヲ約スルニ依リ本條約實施ノ時ヨリ千九百十二年七月五日ノ國際無線電信條約ヲ其ノ自國ニ關スル限リ適用スヘシ

本條約實施後五年以内ニ千九百十二年七月五日ノ條約ニ代ルヘキ新國際無線電信條約ノ締結アリタルトキハ右新條約ハ奧地利國カ其ノ制定ニ參加スルコト又ハ該新條約ニ同意スルコトヲ拒ミタル場合ニ於テモ尙奧地利國ヲ拘束スヘシ

右新條約ハ又第一項ノ暫定規則ニ代ルヘキモノトス

第二百三十七條

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約並製造標及商標ノ國際登錄ニ關スル千八百九十一年四月十四日ノ協定ハ本條約ニ基ク例外及制限ノ爲影響セラレ又ハ變更セラレサル範圍内ニ於テ本條約實施ノ時ヨリ適用セラルヘシ

第二百三十八條

本條約實施ノ時ヨリ縮約國ハ民事訴訟手續ニ關スル千九百五年七月十七日ノ海牙條約ヲ其ノ自國ニ關スル限リ適用スヘシ尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國、葡萄牙國及羅馬尼亞國ニ對シテハ其ノ效力ナカルヘシ

第二百三十九條

奧地利國ハ千九百八年十一月十三日伯林ニ於テ改正セラレ且千九百十四年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名ノ追加議定書ニ依リ補足セラレタル文

外初版

學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日「ベルヌ」條約ニ所定ノ形式ニ依リ本條約實施後十二月ノ期間滿了前ニ加入スルコトヲ約ス

前項ノ條約ニ加入スルニ至ル迄ノ間奧地利國ハ同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ文學的及美術的著作物ヲ右條約ノ原則ニ從ヒテ執ル有效ナル措置ニ依リ承認シ且保護スルコトヲ約ス

前記條約加入ノ有無ニ關セス奧地利國ハ又少クとも千九百十四年七月二十八日ニ於ケルト同一ノ範圍ニテ且同一ノ條件ヲ以テ各同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ一切ノ文學的及美術的著作物ノ承認及保護ヲ引續キ確保スルコトヲ約ス

第二百四十條

奧地利國ハ左ノ條約ニ加入スルコトヲ約ス

- 一 燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約
- 二 國際貿易統計作成ニ關スル千九百十三年十二月三十一日ノ條約

第二百四十一條

本條約ノ一般原則又ハ特別規定ノ趣旨ニ從ヒ同盟國又ハ聯合國ハ各自其ノ嘗テ舊奧地利洪牙利君主國ト締結セシ各種ノ二國條約ニシテ奧地利國ヲシテ之ヲ遵守セシムコトヲ欲スルモノヲ同盟國ニ通告スヘシ

本條ノ通告ハ直接ニ又ハ他國ノ仲介ニ由リ之ヲ行フヘク奧地利國ハ右通告ノ接受ヲ文書ニ依リテ認ムヘシ當該條約ノ實施期日ハ右通告ノ日タルヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ本條約ノ條項ト趣旨ヲ同シクスル條約ニ非サレハ奧



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

地利國ニ對シ之ヲ適用セラルコトヲ相互ニ約ス  
第一項ニ依リ通告セラルル條約中ノ規定ニシテ本條約ノ條項ト趣旨ヲ同  
シクセサルニ依リ適用シ難シト看做サルルモノアルトキハ該通告ニ之ヲ  
掲記スヘシ

意見ノ相違アル場合ニ於テハ國際聯盟ノ決定ヲ求ムヘシ  
同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後六月ノ期間内ニ前記ノ通告ヲ爲スコト  
ヲ得

二國條約ハ前記ノ通告アリタルモノニ限り同盟國又ハ聯合國ト地利國  
トノ間ニ實施セラルヘシ

前諸項ノ規定ハ本條約ノ署名國タル一切ノ同盟及聯合國ト地利國トノ  
間ニ存在スル二國條約ニ適用セラルヘク地利國ト戰爭狀態ニ在ラザリ  
シ同盟及聯合國ニ付テモ異ルコトナキモノトス

第二百四十二條

地利國ハ同盟國又ハ舊地利國洪牙利君主國カ千九百十四年八月一日以後  
本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國、洪牙利國、勃爾牙利國又ハ土耳其  
國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極チ效力ナキモノト承認スルコトヲ聲  
明ス

第二百四十三條

地利國ハ同盟國又ハ舊地利國洪牙利君主國カ千九百十四年八月一日以前ニ  
締結シタル條約又ハ取極ニ依リ獨逸國、洪牙利國、勃爾牙利國若ハ土耳其  
國ニ又ハ右諸國ノ官吏及國民ニ許與シタル一切ノ權利及便益ヲ其ノ種  
類ノ如何チ問ハス右ノ條約又ハ取極ノ效力ヲ有スル限リ同盟及聯合國並  
其ノ官吏及國民カ當然享受スルコトヲ保障スルコトヲ約ス

第二百四十七條

締約國中千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名ノ阿片條約ニ未ダ署  
名セサル國及署名後未ダ之ヲ批准セサル國ハ該條約ヲ實施スルコト及之  
カ爲成ルヘク速ニ且遅クモ本條約實施後十二月内ニ必要ナル法令ヲ制  
定スルコトニ同意ス

締約國又ハ本條約ノ批准カ阿片條約ヲ未ダ批准セサル國ニ付テハ該條約  
ノ批准ト及千九百十四年該條約實施ノ爲開カレタル第三回阿片會議ノ決  
議ニ從ヒ海牙ニ於テ公開セラレタル特別議定書ノ署名ト全然均シキモノ  
ト看做スコトニ同意ス

佛蘭西共和國政府ハ本條約批准書ノ寄託調書ノ認證贈本ヲ和蘭國政府ニ  
送致シ且該認證贈本ヲ千九百十二年一月二十三日ノ條約ノ批准書ノ寄託  
及千九百十四年ノ追加議定書ノ署名トシテ受諾領收スルコトヲ同盟國政府  
ニ申入ルヘシ

第三章 金錢債務

第二百四十八條

左ノ種類ノ金錢上ノ債務ハ左記ホニ定ムル通告ノ日ヨリ三月ノ期間内  
ニ各締約國ノ設置スヘキ清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ決済ス

一 締約國中ノ一國ノ版圖内ニ居住スル該國ノ國民カ敵對國側ノ一國  
ノ版圖内ニ居住スル同盟國ノ國民ニ對シテ負擔スル金錢債務ニシテ戰  
爭前辨濟期限到來シタルモノ

二 締約國中ノ一國ノ版圖内ニ居住スル該國ノ國民ニ支拂フヘキ金錢  
債務中右ノ國民カ敵對國側ノ一國ノ版圖内ニ居住スル同盟國ノ國民ト  
締結シ戰爭狀態ノ爲全部又ハ一部ノ履行ノ停止セラレタル取引又ハ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

同盟及聯合國ハ右ノ權利及便益ノ享受ヲ承諾スルト否トノ權利ヲ留保ス

第二百四十四條

地利國ハ同盟國又ハ舊地利國洪牙利君主國カ千九百十四年七月二十八日  
前ニ又ハ同日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ露西亞國、從前ノ露西亞  
國ノ一部分ヲ以テ版圖トスル國若ハ政府又ハ羅馬尼亞國ト締結シタル一  
切ノ條約又ハ取極チ效力ナキモノト承認スルコトヲ聲明ス

第二百四十五條

同盟國又ハ聯合國、露西亞國又ハ從前ノ露西亞國ノ一部分ヲ以テ版圖ト  
スル國若ハ政府カ千九百十四年七月二十八日以後軍事占領ノ結果又ハ其  
ノ他ノ方法若ハ事由ニ因リ地利國、舊地利國洪牙利君主國又ハ地利  
國民ニ對シ權利、特權及恩典ヲ或官公署ノ行爲ニ依リ許與スルコト又ハ  
其ノ許與ヲ認容スルコトノ已ムチ得サルニ至リタルトキハ右ノ權利、特  
權及恩典ハ其ノ種類ノ如何チ問ハス本條約ニ依リ當然失效シタルモノト  
ス

前項ノ失效ヨリ生スルコトアルヘキ請求又ハ賠償ハ同盟及聯合國又ハ本  
條ニ依リ約定ノ解除ヲ得タル國、政府若ハ官公署ニ於テ決シテ之ニ應  
ルコトナカルヘシ

第二百四十六條

地利國ハ千九百十四年七月二十八日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ  
地利國又ハ舊地利國洪牙利君主國ニ於テ條約又ハ取極ニ依リ非交戰國  
又ハ其ノ國民ニ許與シタル各種ノ權利及便益ヲ右ノ條約又ハ取極ノ地利  
利國ニ對シ效力ヲ有スル限リ同盟及聯合國並其ノ國民ニ當然享受セシム  
ルコトヲ本條約實施ノ時ヨリ同盟國ノ承認スル限リ約ス

外務部

契約ヨリ生スル債務ニシテ戰時中辨濟期限到來シタルモノ

三 敵對國側ノ一國カ發行シ又ハ引受ケタル有價證券ヨリ生シ且締約  
國中ノ一國ノ國民ニ支拂ハルヘキ利子ニシテ戰前又ハ戰時中支拂  
期限到來シタルモノ尤モ戰時中右敵對國側ノ一國又ハ中立國ノ國民  
ニ該證券ノ利子支拂ノ停止セラレザリシモノニ限ル

四 敵對國側ノ一國ノ發行ニ係ル有價證券記載ノ元金ニシテ戰前又  
ハ戰時中償還期限到來シ且締約國中ノ一國ノ國民ニ支拂ハルヘカリ  
シモノ尤モ戰時中右敵對國側ノ一國又ハ中立國ノ國民ニ該元金償還  
ノ停止セラレザリシモノニ限ル

舊地利國洪牙利君主國政府ノ發行シ又ハ引受ケタル證券ニ付支拂ハルヘ  
キ利子又ハ元金ニ在リテハ地利國ニ依リ貸方ニ計上シテ辨濟セラルヘ  
キ金額ハ第九編(財政條項)ノ規定及賠償委員會ノ定ムル原則ニ從ヒ地利  
利國カ履行ノ義務ヲ有スル金錢債務ニ相當スル利子又ハ元金ニ限ル

第四款及其ノ附屬書ニ掲ケル敵人ノ財産、權利及利益ノ清算殘高ハ清算  
所ニ於テ左記(ニ)號ノ通貨及爲替相場ヲ以テ之ヲ計上シ且同款及同附屬書  
ノ條件ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

本條ニ定ムル事項ノ實行ハ左ノ原則ニ從ヒ且本款附屬書ニ準據シテ之ヲ  
爲スヘシ

(イ) 各締約國ハ本條約實施ノ時ヨリ一切ノ辨濟、辨濟ノ受領其ノ他一  
般ニ右金錢債務ノ決済ニ關スル當事者間ノ一切ノ通信ニシテ前記清  
算所ノ仲介ニ由ラザルモノヲ禁止スヘシ

(ロ) 各締約國ハ自國民ノ負擔スル前記金錢債務ノ辨濟ニ對シ夫々其ノ  
責ニ任スヘシ但シ債務者カ戰爭前破産若ハ身代限ノ狀態ニ在リ若ハ



支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金錢債務カ戰時非常法令ニ依リテ戰時中車業ノ清算ヲ受ケタル會社ノ負擔ニ係ル場合ヲ除ク  
 (ハ) 締約國中ノ一國ノ國民ニ對シ敵對國側ノ一國ノ國民カ負擔スル金額ハ債務者所屬國清算所ノ借方ニ之ヲ計上スヘク且債權者所屬國清算所ニ依リテ債權者ニ之ヲ支拂フヘシ

(ニ) 金錢債務ハ利害關係アル同盟及聯合國(同盟國ノ殖民地及保護國、英國自治領並印度ヲ含ム)ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ金錢債務カ右以外ノ通貨ヲ以テ決濟スルコトヲ要スル場合ニ於テモ其ノ金錢債務ハ當該同盟國又ハ聯合國(殖民地、保護國、英國自治領又ハ印度)ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ換算ハ戰前ノ爲替相場ニ依ル

右規定ノ適用上戰前ノ爲替相場トハ當該同盟國又ハ聯合國ト他地利洪牙利國トノ間ニ於ケル敵對行爲開始ノ直前月中ノ右同盟國又ハ聯合國ノ電信爲替相場ノ平均ヲ謂フ

債務ヲ表示スル通貨ヲ當該同盟國又ハ聯合國ノ通貨ニ換算スルニ付一定ノ爲替相場ニ依ルヘキ旨特ニ契約中ニ規定シタル場合ニ於テハ爲替相場ニ關スル前記ノ規定ヲ適用セス

新ニ建設セラレタル波蘭國及「チエッコ、スロヴァキア」國ニ關シテハ金錢債務ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ計上スル爲用井ルヘキ通貨及爲替相場ハ第八編ノ賠償委員會之ヲ定ムヘシ但右ノ問題解決ノ爲當事國間ニ豫メ取極ノ存スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(ホ) 本條及左記附屬書ノ規定ハ一方ニ於テ他地利國ト他方ニ於テ同盟國若ハ聯合國中ノ一國、其ノ殖民地及保護國又ハ英國ノ或自治領若

締約國ハ第二四十八條(イ)號ノ規定ノ違反ニ對シ對敵通商ニ關シテ自國法令中ニ現ニ規定スル刑罰ノ制裁ヲ加フヘシ締約國ハ又本附屬書ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ版圖内ニ於テ敵金錢債務ノ辨濟ニ關スル一切ノ訴訟ヲ禁止スヘシ

第二四十八條(ロ)號ニ規定スル政府ノ保證ハ理由ノ如何ニ拘ラス金錢債務ノ辨濟ヲ得サルトキニ適用アルモノトス但シ金錢債務カ債務者所屬國ノ法令ニ依リ宣戰ノ際時効ニ罹リタルトキ、債務者カ其ノ當時破産者ハ身代限ノ狀態ニ在リ若ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタルトキ又ハ金錢債務カ戰時非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ノ負擔ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス但書ノ場合ニ於テハ本附屬書ニ定ムル手續ハ配當金ノ支拂ニ之ヲ適用スヘシ

「破産」及「身代限」トハ此等ノ法律上ノ狀態ヲ規定スル法令ノ適用セララルル事態ヲ指シ又「支拂不能ノ正式ノ表示」トハ英國法ニ於ケルト同一ノ意義ヲ有スルモノトス

債權者ハ其ノ有スル金錢債權ヲ貸方清算所設置ノ日ヨリ六月ノ期間内ニ同清算所ニ申告シ且其ノ請求ヲ受ケタル一切ノ文書及參考資料ヲ該清算所ニ提出スヘシ

締約國ハ敵債權者及敵債務者間ニ行ハルコトアルヘキ通謀ノ訴追及處罰ニ有用ナル一切ノ措置ヲ執ルヘシ清算所ハ此ノ種通謀ノ發見及處罰ニ資スルコトアルヘキ一切ノ證據及參考資料ヲ相互ニ通報スヘシ  
 締約國ハ金錢債務ノ額ニ付取極ヲ爲サムト欲スル債務者及債權者間ニ當

ハ印度トノ間ニ右ノ同盟國又ハ聯合國ニ於テ自國ノ爲又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ノ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月ノ期間内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ政府ヨリ他地利國ニ其ノ適用ノ通告ヲ爲スニ非サレハ適用ナキモノトス

(ハ) 本條及左記附屬書ヲ採用スル同盟及聯合國ハ相互間ノ約定ニ依リ其ノ版圖内居住ノ各對手國ノ國民ニ對シ該國民ト他地利國民トノ間ノ事項ニ關スル限リ本條及左記附屬書ヲ適用スルコトヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本條ノ規定ニ依リ行ハルル辨濟ハ當該同盟及聯合國清算所間ニ處理セララルヘキモノトス

附屬書

一 各締約國ハ第二四十八條(ホ)號ニ定ムル通告ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ敵金錢債務ノ辨濟及取立ノ爲「清算所」ヲ設置スヘシ

締約國版圖内ノ或地方ニ付地方清算所ヲ設置スルコトヲ得右地方清算所ノ職務ハ當該地方ニ於テハ中央清算所ト同様タルヘシ但シ敵對國側ニ設クル清算所トノ一切ノ交渉ハ中央清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ行フヘシ

二 本附屬書ニ於テ「敵金錢債務」トハ第二四十八條第一項ニ定ムル金錢上ノ債務ヲ、「敵債權者」トハ右債務ノ負擔者ヲ、「敵債權者」トハ右債務ノ支拂ハルヘキ相手方ヲ謂フ「貸方清算所」トハ債權者所屬國內ノ清算所ヲ指シ「借方清算所」トハ債務者所屬國內ノ清算所ヲ謂フ

三

事者ノ費用ヲ以テ且清算所ノ仲介ニ由リ行フ郵便及電信ニ依ル通信ヲ能ク限リ容易ナラシムヘシ  
 貸方清算所ハ申告アリタル一切ノ金錢債務ヲ借方清算所ニ通告スヘク借方清算所ハ承認セラレタル金錢債務及異議アル金錢債務ヲ適當ノ時期ニ貸方清算所ニ知悉セシムヘシ右異議アル場合ニ於テハ借方清算所ハ金錢債務不承認ノ理由ヲ示スヘシ

六

或金錢債務ノ全部又ハ一部承認セラレタルトキハ借方清算所ハ直ニ其ノ承認セラレタル額ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上シ且同時に貸方清算所ニ之ヲ通知スヘシ

七

借方清算所カ通告受領後三月ノ期間内ニ(但シ貸方清算所カ右期間ノ延長ニ同意スル場合ヲ除ク)金錢債務ノ承認セラレサル旨ヲ知悉セシメサル限リ金錢債務ハ全部承認セラレタルモノト看做サルヘク其ノ金額ハ直ニ貸方清算所ノ貸方ニ計上セララルヘシ

八

金錢債務カ全部又ハ一部承認セラレサル場合ニ於テハ兩清算所ハ協同シテ事件ヲ審査スヘク且當事者ヲシテ和解セシムルコトニ力ムヘシ

九

貸方清算所カ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ各個ノ債權者ニ支拂フニハ所屬國政府ヨリ同清算所ノ處分ニ供シタル資金ヲ用井且同政府ノ定ムル條件ニ從フヘク殊ニ危險負擔、費用又ハ手数料ノ爲必要ト認ムル金額ヲ保留スヘシ



敵金錢債務ノ辨濟ヲ請求シタル者ハ其ノ債務額カ全部又ハ一部承認セラレサルトキハ其ノ承認ナキ債務ノ部分ニ付年五分ノ利息ヲ過料トシテ清算所ニ支拂フコトヲ要ス請求ヲ受ケタル金錢債務ノ全部又ハ一部ノ承認ヲ不當ニ拒絕シタル者亦其ノ拒絕ノ理由ナシト認メラレタル額ニ付年五分ノ利息ヲ過料トシテ支拂フコトヲ要ス

右ノ利息ハ七ニ定ムル期間満了ノ日ヨリ請求カ理由ナシト認メラレタル日又ハ金錢債務カ辨濟セラレタル日ニ至ル迄ノ間之ヲ附スヘシ

清算所ハ各自其ノ關スル限リ前記過料ノ取立ヲ勵行スヘク其ノ過料ヲ取立ツルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ責ニ任スヘシ

十一

清算所間ノ貸借勘定ハ毎月之ヲ行ヒ差引殘高ハ一週間以内ニ現金ノ支拂ヲ以テ債務國之ヲ決済スヘシ

尤モ本差引殘高方同盟國又ハ聯合國中ノ一國又ハ數國ノ負擔ト爲リタルトキハ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ對シ戰爭ニ基キ支拂フコトヲ要スル金額ノ完全ナル辨濟アル迄之ヲ保留スヘシ

十二

清算所間ノ協議ヲ容易ナラシムル爲各清算所ハ他ノ一方ノ清算所ノ所在地ニ一名ノ代表者ヲ置クヘシ

十三

理由アル例外ノ場合ヲ除キ事件ノ協議ハ能リ限リ借方清算所ノ事務所ニ

於テ之ヲ行フヘシ

十四

第二百四十八條(口號)ニ依リ締約國ハ其ノ國民ノ負擔スル敵金錢債務ノ辨濟ニ付其ノ責ニ任ス

從テ借方清算所ハ承認セラレタル一切ノ金錢債務ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上スルコトヲ要ス各個ノ債務者ヨリ金錢債務ヲ取立ツルコト能ハサル場合ト雖異ルコトナシ尤モ關係國政府ハ承認セラレタル金錢債務ノ取立ヲ勵行スルニ付必要ナル一切ノ權能ヲ自國清算所ニ付與スルコトヲ要ス

十五

各國政府ハ其ノ版圖内ニ設置シタル清算所ノ費用(職員ノ俸給ヲ含ム)ヲ支辨スヘシ

十六

兩清算所間ニ金錢債務ノ存否ニ關スル意見ノ相違アルトキ又ハ敵債務者敵債權者間若ハ清算所間ニ爭アルトキハ其ノ爭議ハ(當事者ノ同意アルトキ且當事者間ノ合意ニ依リ定メラルル條件ニ從ヒ)之ヲ仲裁ニ付シ又ハ之ヲ本編第六款ノ混合仲裁裁判所ノ審理ニ付スヘシ

尤モ右ノ爭議ハ貸方清算所ノ請求ニ依リ債務者住所地ノ通常裁判所ヲ以テ之ヲ管轄セシムルコトヲ得

十七

混合仲裁裁判所、通常裁判所又ハ仲裁裁判所カ正當ト認メタル金額ハ借方清算所ノ承認シタル負擔額ト同様ニ兩清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ取立ツ

十八

本規定ニ依リ支拂ハルヘキ金額ハ勝訴者ノ屬スル清算所ノ貸方ニ之ヲ計上シ且別勘定ト爲スヘシ

二十一

事件ノ進行ヲ迅速ナラシムル爲清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ職員ノ任命ニ付テハ關係對手國ノ言語ニ關スル本人ノ智識ヲ參酌スヘシ

清算所ハ相互間ニ自由ニ通信シ且互ニ自國語ノ文書ヲ送付スルコトヲ得

二十二

當該國政府間ニ反對ノ取極アル場合ヲ除クノ外金錢債務ニハ左ノ條件ニ依リ利息ヲ附スヘシ

配當金、利息其ノ他元本ノ利息タル定期支拂金トシテ支拂フヘキ金額ニ對シテハ何等ノ利息ヲ附セス

利率ハ年五分トス但シ契約、法令又ハ地方慣習ニ基キ債權者カ別段ノ率ニ依リ利息ヲ受取ルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ右別段ノ利率ヲ適用スヘシ

利息ハ敵對行為開始ノ日又ハ取立ツヘキ金錢債務ノ辨濟期限カ戰時中到來シタルトキハ其ノ期限到來ノ日ヨリ該金錢債務額カ貸方清算所ノ貸方ニ計上セラレル日ニ至ル迄ノ間之ヲ附スヘシ

二十三

利息トシテ支拂ヲ要スル金額ハ清算所ノ承認シタル金錢債務ト看做シ同一ノ條件ニ於テ貸方清算所ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ判定ニ依リ請求カ第二百四十八條ノ場合ニ該當セサルモノト認メラレタルトキハ債權者ハ通常裁判所ニ出訴スルカ又ハ他ノ法律上ノ手續ニ依リ自己ノ債權ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

當該國政府ハ自國清算所ノ爲ニ混合仲裁裁判所ニ出訴スルノ任務ヲ有スル代理人ヲ任命スヘシ右代理人ハ自國民ノ受任者又ハ辯護人ニ對シ一般監督ヲ行フヘシ

同裁判所ハ書證ニ基キテ判定ス尤モ同裁判所ハ出廷スル當事者本人ノ陳述ヲ聽取シ又ハ當事者ノ希望ニ依リ或ハ當該兩國政府ノ同意スル受任者或ハ前項ノ代理人ノ陳述ヲ聽取スルコトヲ得該代理人ハ當事者側ニ立チテ事件ニ參加シ又ハ當事者ノ拋棄シタル請求ヲ繼續シ且支持スルノ權限ヲ有ス

十九

當該清算所ハ混合仲裁裁判所ヲシテ其ノ繫屬事件ノ判定ヲ迅速ナラシムル爲其ノ所持スル一切ノ參考資料及文書ヲ同裁判所ニ提供スヘシ

二十

當事者ノ一方カ兩清算所ノ合同判定ニ對シ上訴ヲ爲ストキハ上訴人ニ於テ供託金ヲ負擔スヘシ右供託金ハ原判定カ上訴人ニ有利ニ變更セラレタル場合ニ限リ且其ノ勝訴ノ程度ニ應ジ之ヲ返還スヘク右ノ場合ニハ相手方ハ相當ノ割合ニ於テ損害及諸費用ヲ負擔セシメラルヘシ供託金ハ混合仲裁裁判所ノ同意スル保證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

混合仲裁裁判所ニ提起セラレル一切ノ事件ニ付テハ係爭金額ノ百分ノ五ノ手数料ヲ課ス右手数料ハ該裁判所カ別段ノ判定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外敗訴者ノ負擔タルヘシ此ノ手数料ハ前記供託金ト併セ課セラルヘク又保證トモ關係ナキモノトス

混合仲裁裁判所ハ訴訟費用ヲ限度トシテ損害賠償ヲ當事者ノ一方ニ與フルコトヲ得



清算所ニ對スル請求ノ申立ハ時效ヲ中斷ス

二十四

締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ確定的ノモノト認メ且其ノ國民ニ對シ  
拘束力ヲ有スルモノト爲スコトニ同意ス

二十五

貸方清算所カ借方清算所ニ請求ヲ通告スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ正當  
ノ申告ヲ受ケタル請求ヲ全部又ハ一部有效ナラシムル爲メ本附屬書ノ手  
續ヲ執ルコトヲ拒ミタルトキハ貸方清算所ハ請求金額ヲ記載スル證明書  
ヲ債權者ニ交付スルコトヲ要ス該債權者ハ通常裁判所ニ出訴スルカ又ハ  
他ノ法律上ノ手續ニ依リ自己ノ債權ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

第四款 財産、權利及利益

第二百四十九條

敵國內ニ於ケル私人ノ財産、權利及利益ニ關シテハ本款ニ定ムル原則及  
本款附屬書ノ規定ニ準據シテ處理セラルヘシ

(イ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者ト  
スル會社及組合ヲ含ム)ニ關シテ舊奧地利帝國ノ版圖内ニ於テ執リタ  
ル本款附屬書三ノ戰時非常措置及移轉措置ハ其ノ清算ノ未タ完了セ  
サル場合ニ於テハ直ニ之ヲ中止シ又ハ停止スヘキ且前記ノ財産、權  
利及利益ハ其ノ權利者ニ之ヲ返還スヘシ

(ロ) 本條約中反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合國ハ本條  
約實施ノ日ニ於テ舊奧地利帝國國民又ハ其ノ管理スル會社ニ屬スル一  
切ノ財産、權利及利益ニシテ同盟國若ハ聯合國ノ版圖、殖民地、屬  
地及保護國(本條約ニ依リ讓受ケタル地域ヲ含ム)内ニ存在シ又ハ

求ノ審査及賠償額ノ決定ハ第六款ノ混合仲裁裁判所又ハ該裁判所ノ  
選任スル一名ノ仲裁人之ヲ爲スヘシ右賠償額ハ奧地利國之ヲ負擔ス  
ヘキ且(ロ)號ニ規定スル如キ舊奧地利帝國國民ノ財産又ハ其ノ管理スル  
會社ノ財産ニシテ賠償請求者所屬國ノ版圖内ニ存在シ又ハ其ノ國ノ  
管理ノ下ニ在ルモノヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得右ノ財産ハ本款附  
屬書四ニ定ムル條件ニ從ヒ敵債務ノ擔保ト爲スコトヲ得右賠償額ノ  
支拂ハ同盟國又ハ聯合國之ヲ爲スコトヲ得ヘキ其ノ金額ハ奧地利國  
ノ借方ニ之ヲ計上スヘシ

(ハ) 舊奧地利帝國ノ版圖内ニ於テ移轉措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權  
利又ハ利益ノ所有者タル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ還付ノ希望  
ヲ表示スル一切ノ場合ニ於テハ財産カ尙現物ノ儘存在スルトキハ右  
財産ノ還付ニ依リ(ホ)號ノ請求ヲ満足セシムヘシ

右ノ場合ニ於テ奧地利國ハ財産ノ占有ヲ奪ハレタル所有者ヲシテ其  
ノ財産上ニ清算後設定セラレタルコトアルヘキ一切ノ負擔又ハ役權  
ノ拘束ナク右ノ占有ヲ回復セシムル爲メ且其ノ還付ニ依リ損害ヲ受ケ  
タル第三者ニ賠償スル爲メ必要ナル一切ノ手段ヲ執ルコトヲ要ス

本款ニ定ムル還付ヲ實行シ得サルトキハ關係諸國又ハ第三款附屬書  
ノ清算所ノ仲介ニ由リ個人間ノ取極ヲ爲シ以テ同盟國又ハ聯合國ノ  
國民カ其ノ奪ハレタル財産、權利又ハ利益ノ代物トシテ受ケルコト  
ヲ同意スル便宜又ハ其ノ相當物ノ許與ニ依リ該國民ニ於テ(ホ)號ニ定  
ムル損害ノ賠償ヲ受ケルコトヲ確保スルコトヲ得  
本條ニ依リ還付ノ行ハレタルトキハ(ロ)號ニ依リ決定セララルル代金又  
ハ賠償額ノ中ヨリ右還付財産ノ實價額ヲ控除スヘシ尤モ用益阻止又

右諸國ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ留置シ及清算スルノ權利ヲ留保ス  
右清算ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ從ヒ之ヲ執行スヘキ所有者  
ハ當該國ノ同意ナクシテ此等ノ財産、權利及利益ヲ處分シ又ハ其ノ  
上ニ何等ノ負擔ヲ設定スルコトヲ得ス

本條約ノ規定ニ依リ或同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ當然取得シタルコ  
トヲ本條約實施後六月以内ニ證明スル者ハ之ヲ本號ノ奧地利國民ト  
看做ササルヘシ

第七十二條若ハ第七十六條ニ依リ當該官憲ノ同意ヲ得テ右國籍ヲ取  
得スル者又ハ第七十四條若ハ第七十七條ニ依リ從前ノ住民資格(「  
ルテイオンザ」)ニ基キ右國籍ヲ取得スル者亦同シ

(ロ) 號ニ規定スル權利ノ行使ヨリ生スル代金又ハ賠償額ハ該財産ノ  
留置又ハ清算ヲ爲シタル國ノ法令ノ定ムル評價及清算ノ方法ニ依リ  
決定セラルヘシ

(二) 一方同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ト他方舊奧地利帝國國民トノ間  
竝一方奧地利國ト他方同盟及聯合國國民トノ間ノ關係ニ於テ  
ハ本款附屬書一及三ニ定ムル一切ノ戰時非常措置若ハ移轉措置又  
ハ右ノ措置ニ基キ爲シ若ハ爲スヘキ行爲ハ本條約ニ定ムル留保ノ場  
合ヲ除クノ外確定的ニシテ且何人ニモ對抗シ得ヘキモノト看做サル  
ヘシ

(ホ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ハ舊奧地利帝國ノ版圖内ニ在ル各自ノ財  
産、權利又ハ利益(右國民ヲ當事者トスル會社又ハ組合ヲ含ム)ニ  
付本款附屬書一及三ニ定ムル戰時非常措置又ハ移轉措置ニ因リ受  
ケタル損害ニ關シ賠償請求ノ權利ヲ有ス此等ノ國民ノ之カ爲行フ請

(外別版)

ハ減損ニ對スル賠償額ヲ參酌スヘシ

(ハ) 號ノ權利ハ敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ一般的清算ヲ規定スル  
立法的手段ヲ休戰條約署名前自國版圖内ニ適用スルニ至ラザリシ同  
盟國又ハ聯合國ノ國民タル所有者ノミ之ヲ有ス

(ヘ) 號ニ依リ現物還付ノ行ハレタル場合ヲ除クノ外戰時非常法令ニ  
基キ又ハ本條約ニ依リ敵人ノ財産、權利及利益ヲ清算シタルトキハ右  
財産、權利及利益ノ所在地ノ如何ヲ問ハス其ノ清算純殘高及一般ニ  
敵人ノ一切ノ現金資産ハ左ノ方法ニ依リ處理セラルヘシ但シ(ロ)號末  
項ニ定ムル者ニ屬スル同盟國又ハ聯合國内ノ財産ノ清算殘高又ハ現  
金資産ハ之ヲ除ク

(一) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用スル諸國ニ付テハ前記ノ殘高及資産  
ハ同款及同附屬書ニ依リ設置セララルル清算所ノ仲介ニ由リ所有者  
所屬國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ但シ之カ爲奧地利國ノ受取勘定ト  
爲ルヘキ貸方殘高ハ第八編(賠償)第百八十九條ニ從ヒ之ヲ處理ス  
ヘシ

(二) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用セザル諸國ニ付テハ奧地利國ニ依リ  
留置セラレタル同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益ノ清算  
殘高及現金資産ハ直ニ權利者又ハ其ノ所屬國政府ニ支拂フヘキ同  
盟國又ハ聯合國ノ差押ヘタル財産、權利及利益ノ清算殘高並現金  
資産ニシテ舊奧地利帝國國民又ハ其ノ管理スル會社ニ屬シタル(ロ)號  
所定ノ如キモノハ各同盟國又ハ聯合國其ノ法令ニ依リ之ヲ處分シ  
且本條又ハ本款附屬書四ニ定ムル請求及金錢債權ノ支拂ニ之ヲ充  
當スルコトヲ得上記ノ方法ニ依リ處分セラレザリシ財産、權利及



利益若ハ右財産ノ清算殘高又ハ現金資産ハ該同盟國又ハ聯合國ニ於テ留置スルコトヲ得ヘク右ノ場合ニ於テハ其ノ現金價額ハ第八編(賠償)第百八十九條ニ從ヒ之ヲ處理スヘシ

(V) 第二百六十七條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國トシテ本條約ニ署名スル諸新國力清算ヲ行ヒタル場合又ハ奧地利國ノ支拂フヘキ賠償金ノ分配ニ與ル權利ヲ有セサル諸國力清算ヲ行ヒタル場合ニ於テハ其ノ清算ノ殘高ハ直接所有者ニ之ヲ支拂フヘシ但シ本條約殊ニ第八編(賠償)第百八十一條及第九編(財政條項)第百一十一條ニ依ル賠償委員會ノ權利ヲ留保ス前記所有者方本編第六款ノ混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ選任スル一名ノ仲裁人ニ對シ賣却ノ條件又ハ當該國政府ニ於テ其ノ一般法令ノ範圍外ニテ執リタル措置方代金ニ不當ニ惡影響ヲ及ホシタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ當該國ナシテ權利者ニ公平ナル賠償ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

(X) 奧地利國ハ同盟國又ハ聯合國内ニ於ケル奧地利國民ノ財産、權利又ハ利益ノ清算又ハ留置ニ基キ其ノ國民ニ賠償ヲ爲スコトヲ約スル 千九百十八年十一月三日ヨリ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄ノ間ニ又戰時非常措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權利若ハ利益ニ付テハ本條約ノ規定ニ據ル還付ノ行ハル迄ノ間ニ同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益ニ對シ奧地利國力徵收シ又ハ徵收スルコトアルヘキ元本上ノ租稅及賦課ノ額ハ權利者ニ之ヲ還付スヘシ

奧地利國ハ第二四十九條ノイ號又ハヘ號ニ依リ同盟及聯合國國民ニ還付セラレタル財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ニ關シ左ノ事項ヲ約ス

附屬書

敵國ノ財産、權利又ハ利益ニ關スル戰時法令ニ基キ締約國中ノ一國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ又ハ爲シタル(發シ又ハ爲シタルモノト看做サルルモノヲ含ム)所有權移轉措置、企業若ハ會社ノ清算ニ關スル命令其ノ他ノ命令、規則、決定又ハ訓令ハ何レモ第百四十九條(ニ號)ノ規定ニ依リ有效ナルモノトシテ之ヲ確認ス各人ノ利益ハ當該利益ヲ包含スル財産ニ關スル命令、規則、決定又ハ訓令中ニ特ニ該利益ヲ明記スルト否トヲ問ハス右ノ規則、命令、決定又ハ訓令ノ實際ノ上ノ目的物タリシモノト看做スコトヲ要ス前記規則、命令、決定又ハ訓令ニ基キ行ハレタル財産、權利又ハ利益ノ移轉方適法ナリヤ否ヤニ關シテハ何等ノ爭議ヲ提起スルコトヲ得サルヘシ敵國ノ財産、權利又ハ利益ニ關スル戰時非常法令ニ基キ締約國中ノ一國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ、爲シ又ハ執行シタル(發シ、爲シ又ハ執行シタルモノト看做サルルモノヲ含ム)命令、規則、決

定又ハ訓令ニ基キ財産、企業又ハ會計ニ付行ハレタル一切ノ措置ハ財産、權利及利益ノ調査、保管、強制管理、利用、徵發、監視若ハ清算、賣却又ハ管理タルト金錢債務ノ取立及辨濟又ハ經費諸掛若ハ諸費用ノ支拂タルト其ノ他如何ナル措置タルトハ均シク有效ナルモノトシテ之ヲ確認ス但シ本規定ハ同盟及聯合國國民力財産所在地ノ法令ニ從ヒ善意ニ且正當價格ヲ以テ既ニ取得シタル財産權ヲ害セサルモノトス

二

奧地利國民ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ戰時中又ハ戰爭準備ノ爲行ハレタル一切ノ作爲又ハ不作爲ニ付テハ奧地利國民若ハ奧地利國民ニ於テ又ハ舊奧地利帝國國民若ハ其ノ名ニ於テ其ノ居住地ノ如何ヲ問ハス或同盟國若ハ聯合國ヲ相手方トシ又ハ同盟國ノ司法官廳若ハ行政官廳ノ名ニ於テ又ハ其ノ命令ノ下ニ行動シタル者ヲ相手方トシテ何等ノ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス同盟國又ハ聯合國ノ戰時非常措置、法令又ハ規則ヨリ生スル一切ノ作爲又ハ不作爲ニ關シテモ相手方ノ何人タルヲ問ハス均シク請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

三

第二百四十九條及本附屬書「戰時非常措置」トハ敵財産ニ關シテ既ニ執リ又ハ將來執ルコトアルヘキ立派上、行政上、司法上其ノ他各種ノ措置ニシテ所有權ニ變更ヲ加フルコトナキモ所有者ノ財産處分權ヲ奪フノ結果ヲ生シ又ハ生スヘキモ殊ニ監視、強制管理及保管ノ措置並理由、形

式又ハ場所ノ如何ヲ問ハス敵資産ノ差押、利用又ハ侵害ヲ目的トシ又ハ目的トスヘキ措置ヲ謂フ此等措置ノ實行ノ爲ノ行爲ハ敵財産ニ對シ此等ノ措置ヲ通用スル行政官廳又ハ裁判所ノ一切ノ決定、訓令、命令又ハ處分例ヘハ敵財産ノ管理又ハ監視ニ任シタル者ノ爲シタル一切ノ行爲即チ金錢債務ノ辨濟、金錢債權ノ取立、經費諸掛又ハ諸費用ノ支拂、報酬ノ取立ノ如キ行爲ナリトス

四

同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ於ケル舊奧地利帝國國民ノ財産、權利及利益ニ付並其ノ賣却、精算其ノ他ノ處分ヨリ生スル純殘高ニ付テハ第一次ニ當該同盟國又ハ聯合國ハ舊奧地利帝國ノ版圖内ニ於ケル自國民ノ財産、權利及利益(自國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ニ關スル請求ニ基キ又ハ右自國民力奧地利國民ニ對シテ有スル金錢債權ニ基キ賠償額ノ支拂並千九百十四年七月二十八日以後當該同盟國又ハ聯合國ノ戰爭參加前ニ舊奧地利洪牙利國政府又ハ奧地利國官憲ノ爲シタル行爲ニ因リ生シタル請求ノ支拂ニ之ヲ充當スルコトヲ得ヘシ此ノ種請求ノ額ハ「ギユスタール」請求「アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ノ選任ニ係リ若シ其ノ承諾ナキ場合ニ於テハ第六款ノ混合仲裁裁判所ノ選任ニ係ル一名ノ仲裁人ナシテ之ヲ決定セシムルコトヲ得ヘシ前記ノ財産、權利及利益並純殘高ニ付テハ第二次ニ他ノ敵國版圖内ニ於ケル當該同盟國又ハ聯合國



民ノ財産、權利及利益ニ關スル右國民ノ請求ニ基テ賠償額中他ノ方法ニ依リ履行濟ト爲リタル以外ノモノノ支拂ニ之ヲ充當スルコトヲ得ヘシ

五

第二百四十九條ノ規定ニ拘ラス同盟國又ハ聯合國内ニ於テ認メラレタル甲會社カ其ノ勢力ノ下ニ置カレ且境地利國内ニ於テ認メラレタル乙會社ト共同ニ別國ニ於テ製造標又ハ商標ノ使用權ヲ戰爭開始ノ直前ニ有シタルトキ又ハ別國ニ於ケル販賣ニ供スル貨物又ハ物品ノ獨占的製造方法ノ利益ヲ乙會社ト共ニ享受シタルトキハ甲會社ハ乙會社ヲ排除シ別國內ニ於テ右製造標ヲ使用スルノ權利ヲ專有スヘク此ノ共同製造方法ハ境地利國ノ利益ヲ君主國內ニ於テ行ハルル戰時法令ニ依リ乙會社ト關シ又ハ其ノ利益、營業財産又ハ株式ニ關シテ執ラレタル措置ノ如何ニ拘ラス甲會社ニ引渡サルヘシ尤モ甲會社ハ請求ヲ受ケタルトキハ乙會社ヲシテ境地利國內ニ於テ消費セラルヘキ貨物ノ製造ヲ繼續セシムルニ足ル難形ヲ之ニ交付スヘキモノトス

六

第二百四十九條ニ依リ還付ノ實行セララルル時期ニ至ル迄ノ間境地利國ハ同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ニシテ同盟國力戰時非常措置ニ付シタルモノノ保全ニ付其ノ責ニ任ス

七

同盟國又ハ聯合國ハ財産、權利及利益ニシテ其ノ上ニ第二百四十九條(ハ)號ノ權利ヲ行使セムトスルモノヲ本條約實施後一年ノ期間内ニ知悉セシムルコトヲ要ス

八

第二百四十九條ニ定ムル還付ハ境地利國政府又ハ之ニ代ル官憲ノ命令ニ依リ實行セララルヘシ境地利國官憲ハ本條約實施後爲サレ得ル請求ニ基キ管理行爲ニ關スル詳細ノ報告ヲ利害關係人ニ供スヘシ

九

第二百四十九條(口)號ニ定ムル者ノ財産、權利及利益ハ之ニ關シテ執リ又ハ執ルコトアルヘキ戰時非常措置ニ同號所定ノ清算ノ結了ニ至ル迄引續キ之ヲ付スヘシ

十

境地利國ハ自國民ノ所持ニ係ル一切ノ契約書、證明書、證書及他ノ權原證書ニシテ各同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル財産、權利及利益ニ關スルモノ(右同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ認メラレタル會社ノ株式、社債券其ノ他ノ有價證券ヲ含ム)ヲ本條約實施後六月ノ期間内ニ右同盟國又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

境地利國ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ請求アルトキハ何時タリトモ右同盟國又ハ聯合國内ニ於ケル境地利國民ノ財産、權利及利益ニ關スル資料並右財産、權利及利益ニ付千九百十四年七月一日以後行ハレタル取引ニ關スル資料ヲ供スヘシ

十一

「現金資産」トハ戰爭狀態成立ノ前又ハ後ニ設ケラレタル一切ノ預金又ハ資金並管理人、保管人其ノ他ノ者カ銀行預金其ノ他ノ財源ヨリ受入レタル預金、收入金又ハ利潤ニ基ク一切ノ資産ヲ謂フ但シ同盟國若ハ聯合國又ハ同盟國若ハ聯合國内ノ各邦、州若ハ都市ニ屬スル金額ハ之ヲ包含セ

(外初版)

ス

十二

敵財産管理ノ責ニ任シ若ハ右管理ヲ監督スル者ニ依リ又ハ此等ノ者若ハ官憲ノ命令ニ依リ締約國民(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ノ現金資産ヲ以テ爲サレタル投資ハ其ノ何レノ地ニ於テ爲サレタルナ間ハ之ヲ無効トス右現金資産ノ處理ニ付テハ此等ノ投資ヲ參酌スルコトナカラルヘシ

十三

本條約實施ノ日ヨリ一月ノ期間内ニ又ハ其ノ後請求アルトキハ何時タリトモ境地利國ハ舊境地利帝國ノ版圖内又ハ舊境地利帝國若ハ其ノ同盟國ノ占領地域内ニ於テ戰時非常措置又ハ移轉措置ニ付セラレタル同盟及聯合國國民ノ財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ニ關スル一切ノ勘定書、記録、書類其ノ他ノ資料ニシテ境地利國ノ版圖内ニ存在スルモノヲ夫々同盟國又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

監督人、監視人、支配人、管理人、保管人、清算人及管財人ハ前記勘定書及書類ノ即時且全部ノ引渡ニ付並此等書類ノ正確ナルコトニ付境地利國政府ノ保證ノ下ニ各自其ノ責ニ任スヘシ

敵國內ニ在ル財産、權利及利益並其ノ清算殘高ニ關スル第二百四十九條及本附屬書ノ規定ハ金錢債務、金錢債權及勘定ニ之ヲ適用ス第三款ノ規定ハ支拂ノ方法ヲ定ムルニ過キサルモノトス

境地利國ト同盟及聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國ノ一自治領若ハ印度ニシテ之ニ付第三款ヲ採用スル旨ノ宣言ノ爲サレサリシモノトノ

間並雙方ノ國民相互間ニ生スル第二百四十九條規定事項ノ處理ニ關シテハ支拂ニ用キルヘキ通貨並爲替相場及利率ニ關スル第三款ノ規定ヲ適用スヘシ但シ當該同盟國又ハ聯合國ノ政府力此等規定ノ一條項又ハ數條項ノ適用ナカラルヘキ旨ヲ本條約實施ノ日ヨリ六月内ニ境地利國ニ通告スルトキハ此ノ限ニ在ラス

十五

第二百四十九條及本附屬書ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ニ於ケル戰時非常法令ニ依リ又ハ第二百四十九條(口)號ノ規定ニ依リテ行ハレタル財産、權利、利益、會社又ハ企業ノ清算ノ中ニ加ヘ又ハ加ヘラルヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ之ニ適用ス

第五款 契約、時効、判決

第二百五十一條

(イ) 敵人間ノ契約ハ之ヲ當事者中ノ何レカノ二人カ敵人ト爲リタル時ヨリ效力ヲ失ヒタルモノト看做スヘシ但シ其ノ契約ニ基キ行爲ヲ爲シ又ハ金錢ノ支拂ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス尙或契約又ハ或種類ノ契約ニ付本款又ハ本款附屬書ニ掲ケル除外例又ハ特別規則アル場合ヲ除ク

(ロ) 當事者ノ一方ノ屬スル同盟國又ハ聯合國ノ政府カ公益ノ爲本條約實施ノ日ヨリ六月ノ期間内ニ履行ヲ請求スル契約ハ本條ニ依リ效力ヲ失フノ限リニ在ラス

斯ク有效ニ存續スル契約ノ履行カ通商狀態ノ變更ノ結果著シキ損害ヲ當事者ノ一方ニ與フル場合ニ於テハ第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ衡平ナル賠償ヲ與フルコトヲ得ヘシ



(ハ) 亞米利加合衆國、伯刺西爾國及日本國ノ憲法及法律ノ規定ニ順ミ本條並第二百五十二條及本款附屬書ハ此等諸國ノ國民カ舊奧地利帝國國民ト締結セル契約ニ之ヲ適用セヌ又第二百五十七條ハ亞米利加合衆國又ハ其ノ國民ニ之ヲ適用セヌ

(ニ) 當事者ノ一方カ主權ノ變更アル一地方ノ住民タルノ故ヲ以テ當事者カ敵人ト爲リシ契約ニ付テハ右當事者カ同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ本條約ニ依リ取得スルトキハ本條及本款附屬書ハ之ヲ適用セヌ當事者ノ一方カ敵ノ占領ニ係ル同盟國又ハ聯合國ノ一地方内ニ在ルノ故ヲ以テ相互間ノ通商ヲ禁止セラレタル同盟國又ハ聯合國ノ國民間ノ契約ニ付亦同シ

(ホ) 本條及本款附屬書ノ何レノ規定モ交戰國ノ一方ノ認許ヲ得テ締結シタル敵人間ノ契約ニ依リ適法ニ行ハレタル取引ヲ失効セシムルモノト看做スコトヲ得ス

第二百五十二條

(イ) 締約國ノ版圖内ニ於テ一切ノ時効期間又ハ出訴期間ハ敵人間ノ關係ニ付テハ其ノ進行ノ開始カ開戰前ナルト開戰後ナルト中間ハ戰時中其ノ進行ヲ停止スヘシ右ノ期間ハ本條約實施後早クトモ三月ヲ經過シタル時ヨリ再ヒ其ノ進行ヲ始ムヘシ右ノ規定ハ利札若ハ配當證ノ呈示期間又ハ當籤セル有價證券若ハ他ノ事由ニ因リ償還セラレヘキ有價證券ノ拂戻ヲ受ケル爲メ呈示期間ニ之ヲ適用スヘシ

(ロ) 戰時中或行爲ヲ爲スコト又ハ或形式ヲ履ムコトヲ怠リタルカ爲舊奧地利帝國ノ版圖内ニ於テ執行處分行ハレ同盟國又ハ聯合國ノ國民ハ損害

敵人間ノ關係ニ於テハ戰前ニ作成シタル流通證券ハ所要ノ期間内ニ引受若ハ支拂ノ爲ニスル其ノ呈示ヲ爲サス、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲サス又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲サス其ノ他戰時中或形式ヲ履行セザリシ故ノミヲ以テ失効シタルモノト看做サルルコトヲナルヘシ

引受若ハ支拂ノ爲ニスル流通證券ノ呈示、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲スコトヲ要スル期間カ戰時中經過シ且同證券ノ呈示、拒絕證書ノ作成又ハ引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲スコトヲ要スル當事者カ戰時中之ヲ爲サザリシ場合ニ於テハ同證券ノ呈示、引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲ス爲本條約實施後三月ヲ下ラサル期間ヲ當事者ニ付與スヘシ

第二百五十四條

同盟國又ハ聯合國ノ裁判所カ本條約ニ依リ管轄權ヲ有スル事件ニ付爲シタル判決ハ之ヲ奧地利國內ニ於テ確定判決ノ效力アルモノト看做スヘク且同國內ニ於テ執行ノ裁判ヲ須非スシテ之ヲ執行スヘシ  
同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ國民カ當事者トスル會社若ハ組合カ防禦ヲ爲スコト能ハザリシ事件ニ於テ舊奧地利帝國司法官憲カ戰時中該國民又ハ會社若ハ組合ニ不利益ノ判決又ハ執行處分ヲ爲シタルトキハ右ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民ハ右ノ判決又ハ執行處分カ如何ナル事項ニ關シテ爲サレタル中間ハ第六款ノ混合仲裁裁判所ノ定ムル賠償ヲ受ケルコトヲ得ヘシ  
同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求ニ因リ右ノ賠償ハ混合仲裁裁判所ノ命令ニ基キ且實行可能ナルトキハ當事者ニ奧地利國裁判所ノ判決前ノ地位ヲ

チ受ケタル場合ニ若シ右ノ事件カ同盟國又ハ聯合國ノ裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ該國民ハ其ノ請求ニ付第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ヲ求ムルコトヲ得ヘシ  
(ハ) 同盟國又ハ聯合國ノ當該國民ノ請求ニ基キ混合仲裁裁判所ハ口號ニ掲クル執行處分ニ因リ侵害セラレタル權利ノ原狀回復カ當該事件ノ特殊ノ事情ニ照シ衡平ニシテ且可能ナリト認メタルトキハ右原狀回復ヲ命スヘシ  
若シ右原狀回復カ不正ナルカ又ハ不可能ナルトキハ混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ奧地利國政府ノ負擔ニ歸スヘキ賠償ヲ與フルコトヲ得ヘシ  
(ニ) 敵人間ノ契約カ或ハ當事者ノ一方ニ於テ其ノ契約ノ條項ヲ履行セザル事實ニ基キ或ハ契約中ニ定ムル權利ノ行使ニ基キ失効シタルトキハ被害當事者ハ賠償ヲ得ル爲メ混合仲裁裁判所ニ申出ツルコトヲ得ヘシ同裁判所ハ此ノ場合ニ於テハ(ハ)號ニ定ムル權能ヲ有スヘシ  
(ホ) 本條前諸號ノ規定ハ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ舊奧地利國政府ノ官憲ノ執リタル前記ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケザリシ場合ニ該國民ニ之ヲ適用ス  
(ハ) 奧地利國ハ本條前諸號ノ規定ニ從ヒ混合仲裁裁判所ノ宣告シタル現物還付又ハ原狀回復ニ因リ損害ヲ受ケタル第三者ニ賠償スヘシ  
(ト) 流通證券ニ付テハ(イ)號ニ定ムル三月ノ期間ハ關係國ノ版圖内ニ於テ流通證券ニ關シテ適用セラレタル非常措置ノ確定ニ終了シタル日ヨリ之ヲ起算スヘシ

第二百五十三條

回復セシムルコトニ依リテ之ヲ實行スルコトヲ得ヘシ  
前記ノ賠償ハ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ執ラレタル司法上ノ措置ニ因リテ損害ヲ受ケタル同盟及聯合國國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケザリシ場合ニハ該國民ハ又混合仲裁裁判所ニ就キテ之ヲ受ケルコトヲ得ヘシ

第二百五十五條

本編第三款乃至第五款及第七款ノ「戰時中」トハ各同盟國又ハ聯合國ニ付該國ト舊奧地利國同主國トノ間ニ戰爭狀態ノ存在シタル時ヨリ本條約實施ニ至ル迄ノ期間ヲ謂フ

附屬書

第一 一般規定

契約當事者間ノ取引カ其ノ當事者ノ一方ノ服スル法律、命令又ハ規則ニ依リ禁止セラレ又ハ不法ト爲リタルトキハ其ノ契約當事者ハ右取引カ禁止セラレ又ハ不法ト爲リタル日ヨリ之ヲ第二百五十一條乃至第二百五十三條ノ敵人ト看做ス

左ニ掲グルモノハ第二百五十一條ニ定ムル失効ノ例外トシテ有效ニ存續ス但シ第四款第二百四十九條(ロ)號ニ定ムル權利ヲ害スルコトナシ尙同盟國又ハ聯合國ノ戰時中制定シタル國內ノ法律、命令又ハ規則ノ適用及契約條項ヲ留保ス  
(イ) 動産又ハ不動産ノ所有權ノ移轉ヲ目的トスル契約ニシテ當事者カ敵人ト爲ルニ先チ右所有權ノ移轉又ハ目的物ノ引渡ヲ了シタルモノ



- (イ) 質貸借、質貸契約及質貸契約ノ約束
- (ロ) 低當權、質權其ノ他ノ擔保ノ契約
- (ハ) 鑛山、採石場又ハ埋藏礦物ニ關スル特許契約
- (ニ) 個人ト國、州、都市又ハ他ノ類似ノ行政法人トノ間ノ契約及右ノ國、州、都市又ハ他ノ類似ノ行政法人ノ許與シタル特許

三

契約ノ條項カ第二百五十一條ニ依リ一部效力ヲ失ヒタル場合ニ若シ其ノ條項カ分割シ得ヘキモノナルトキハ殘餘ノ條項ハ其ノ效力ヲ存續スヘシ尤モ前記ニ定ムル國內ノ法律、命令及規則ノ適用ヲ留保ス若シ又分割シ得サルモノナルトキハ其ノ契約ハ之ヲ全部效力ヲ失ヒタルモノト看做スヘシ

第二 特種ノ契約ニ關スル特別規定

株式取引所及商品取引所ノ契約

四

- (イ) 公認ノ株式取引所又ハ商品取引所カ職時中制定シタル規則ニシテ戰爭前ニ敵人ノ締結シタル取引所ノ契約ノ清算ヲ規定スルモノ及右規則ニ依リ執リタル措置ハ締結國之ヲ確認ス尤モ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
  - (一) 取引カ右取引所ノ規則ニ準據スヘキコトヲ特ニ定メタルコト
  - (二) 右規則カ一切ノ者ニ付拘束力ヲ有セシモノナルコト
  - (三) 清算ノ條件カ公正且妥當ナリシコト

八

保險契約ニシテ當事者ノ一方カ後ニ至リ敵人ト爲リタル他方ト締結シタルモノハ左ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

火災保險

九

財産ニ關スル火災保險契約ニシテ該財産ニ付利害關係ヲ有スル者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ戰爭ノ開始ニ因リ、當事者カ敵人ト爲リタルノ事實ニ因リ又ハ戰時中若ハ戰爭後三月ノ期間内ニ當事者ノ一方カ契約ノ或條項ヲ履行セサルニ因リ失效シタルモノト看做サルコトナシ尤モ本條約實施後三月ノ期間滿了後ニ於ケル年分保險料ノ最初ノ支拂期日カ到來シタルトキヨリ該契約ハ失效スヘキモノトス

戰時中ニ支拂期日ノ到來シタル未拂保險料又ハ戰時中ニ生シタル損害ノ賠償請求權ハ決済セラレヘシ

十

戰爭前ニ成立シタル火災保險カ行政行為又ハ立法行為ニ基キ戰時中原保險者ヨリ他ノ保險者ニ移轉シタル場合ニ於テハ該移轉ハ之ヲ有效トシ原保險者ノ責任ハ移轉ノ日ヨリ消滅シタルモノト看做スヘシ尤モ原保險者ハ自己ノ請求ニ因リ移轉ノ條件ニ關シ詳細ナル報告ヲ受クルコトヲ得ヘク且其ノ條件衡平ナラサルコト明ナルトキハ之ヲ衡平ナラシムル爲必要ナル程度ニ於テ該條件ハ修正セラレヘシ

被保險者ハ又原保險者ノ同意アルトキハ請求ノ日ヨリ原保險者ニ契約ノ再移轉ヲ爲スコトヲ得

- (ロ) 前號ノ規定ハ敵ノ占領シタル地域内ノ取引所カ占領中ニ執リタル措置ニ之ヲ適用セス
- (ハ) 「リヴァプール」棉花協會ノ決議ニ依リ千九百十四年七月三十一日ニ行ハレタル棉花定期取引ノ清算ハ之ヲ確認ス

擔保物

五

敵人ノ金錢債務ノ保證タル擔保物ノ賣却ハ支拂ナキ場合ニ於テ債權者カ善意ニ且相當ノ注意ヲ以テ行ヒタルモノナルトキハ所有者ニ豫メ之ヲ通知シ得サリシトキト雖尙有效ナルモノト看做スヘシ此ノ場合ニ於テハ所有者ハ擔保物ノ賣却ヲ理由トシテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルヘシ右ノ規定ハ敵ノ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ占領中ニ敵ノ行ヒタル擔保物ノ賣却ニ之ヲ適用セス

流通證券

六

敵人間ニ存スル金錢上ノ債務ニシテ流通證券ノ發行ヨリ生シタルモノハ本編第三款及其ノ附屬書ヲ採用シタル諸國ニ付テハ該附屬書ニ從ヒ清算所ノ仲介ニ由リテ處理セラレヘシ清算所ハ所持人ノ有スル諸種ノ救済ニ關シ該所持人ノ權利ニ付代位ス

七

戰爭前又ハ戰時中甲者カ敵人ト爲リタル乙者ノ擔保約束アリシニ因リテ流通證券支拂ノ債務ヲ負擔シタルトキハ甲者ノ債務ノ結果ニ付甲者ニ賠償スル乙者ノ責任ハ戰爭開始ニ拘ラス存續ス

第三 保險契約

生命保險

十一

生命保險契約ニシテ保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ宣戰ニ因リ又ハ右ノ者カ敵人ト爲リタルノ事實ニ因リ失效シタルモノト看做サルコトナカルヘシ

前項ニ依リ失效シタルモノト看做サレサル契約ノ條項ニ基キ戰時中支拂ヲ請求シ得ルニ至リタル金額ハ戰爭後之ヲ取立ツルコトヲ得ヘク右ノ金額ニハ支拂ヲ請求シ得ルニ至リタル日ヨリ支拂當日ニ至ル迄年五分ノ利息ヲ附スヘシ

契約カ保險料不拂ノ爲戰時中消滅シタルトキ又ハ契約條項不履行ノ爲其ノ效力ナキニ至リタルトキハ被保險者又ハ其ノ代理人若ハ承繼人ハ本條約實施ノ日ヨリ十二月以内何時ニテモ保險者ニ對シ契約ノ消滅又ハ失效ノ日ニ於ケル保證證券ノ價額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

戰時措置ニ因リ保險料不拂ノ結果契約カ戰時中消滅シタルトキハ被保險者又ハ其ノ代理人若ハ承繼人ハ拂込期限ノ到來シタル保險料二年五分ノ利息ヲ附シタル金額ヲ支拂ヒテ本條約實施後三月以内ニ契約ヲ復活スルコトヲ得

十二

生命保險契約ニシテ後ニ至リ敵國ト爲リタル國ニ在ル保險會社支店ノ締結シタルモノナルトキハ該契約ハ同契約中ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ所在地法ニ據ルコトヲ要ス尤モ契約ノ條項又ハ契約締結當時ノ法令若ハ條約ニ違反シテ戰時中ノ措置ニ基キ爲サレ又ハ強制セラレタル請求ニ依リ支拂ハレタル金額ハ保險者ニ於テ被保險者又ハ其ノ代理人ニ



其ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

十三

被保險者ニ契約解除ノ通知ヲ爲ス迄ハ保險料ノ不拂ニ拘ラス保險者カ該契約ニ適用スヘキ法令ニ基キ引續キ契約ニ依リ拘束セラルヘキ一切ノ場合ニ於テ保險者カ戰爭ノ爲其ノ通知ヲ爲スコト能ハサリシトキハ保險者ハ不拂保險料二年五分ノ利息ヲ附シタル金額ヲ被保險者ヨリ取立ツルコトヲ得ヘシ

十四

當事者相互間ノ約定ニ於ケル計算ニ付人命ノ推算ト利率トヲ基礎トスル保險契約ハ十一乃至十三ノ適用上之ヲ生命保險契約ト看做スヘシ

海上保險

十五

海上保險契約(定期保險及航海保險ヲ含ム)ニシテ保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ右ノ者カ敵人ト爲リタル時ニ於テ失効シタルモノト看做サルヘシ但シ契約ニ定メタル保險者ノ責任カ右ノ時以前ニ始マリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

保險者ノ責任カ始マラサリシ場合ニ於テハ支拂濟ノ保險料其ノ他ノ金額ハ保險者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

保險者ノ責任カ始マリタル場合ニ於テハ當事者カ敵人ト爲リタルト拘ラズ契約ハ之ヲ有效ト看做シ右契約ノ條項ニ從ヒ保險料トシテ又ハ損害トシテ支拂ハルヘキ金額ハ本條約實施後之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

戰爭前交戰國ノ國民カ支拂フコトヲ要シ又ハ支拂ヲ請求シ得ル金額ニシテ戰爭後取立テラレタルモノニ付利息ヲ支拂フヘキ合意成立シタル場合

金額ヲ戰爭後取立ツルノ權利ヲ害スルコトナシ

尤モ敵軍侵入ノ爲再保險契約者カ他ノ再保險者ヲ得ルコト能ハサリシ場合ニ於テハ再保險契約ハ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄其ノ效力ヲ存續ス

再保險契約カ本規定ニ依リ失効シタルトキハ既拂及未拂ノ保險料ニ關シ竝戰爭前責任ノ始マリタル生命又ハ海上ノ危險ニ付受ケタル損害ニ對スル責任ニ關シ併セテ當事者間ニ計算ヲ爲スヘシ十一乃至十七ニ掲グルモノ以外ノ危險ニ付テハ當事者カ敵人ト爲リタル日ヲ以テ計算ノ決濟ヲ爲スヘキ其ノ日以後ニ受ケタル損害ニ對スル請求ハ之ヲ參酌スルコトナカルヘシ

二十

十九ノ規定ハ當事者カ敵人ト爲リタル日ニ存在シタル再保險ニシテ保險契約ニ因リ保險者カ引受ケタル特殊ノ危險(生命又ハ海上ノ危險ヲ除ケ)ニ關スルモノニ均シク之ヲ擴張ス

二十一

特殊契約ニ依リテ成立シ再保險ノ一般契約ニ包含セラレサル生命保險契約ノ再保險ハ其ノ效力ヲ存續ス

二十二

海上保險契約ノ再保險カ戰爭前ニ成立シタル場合ニ再保險者ニ移轉セラレタル責任カ敵對行爲開始前ニ始マリタルトキハ右責任ノ移轉ハ有效ニ存續スヘキ契約ハ敵對行爲ノ開始ニ拘ラス有效ニ存續スヘシ再保險契約ニ基キ支拂フヘキ金額ニシテ保險料又ハ損害ニ關スルモノノ戰爭後之ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

二十三

ニ於テハ該利息ハ海上保險契約ニ基キ填補シ得ヘキ損害ニ付テハ其ノ損害ノ日ヨリ起算シテ一年ノ期間滿了ノトキヨリ之ヲ附スヘシ

十六

後ニ至リ敵人ト爲リタル被保險者トノ海上保險契約ハ保險者ノ屬スル國又ハ其ノ同盟國若ハ聯合國ノ戰爭行爲ニ基キ損害ヲ擔保スルモノト看做スコトヲ得サルヘシ

十七

後ニ至リ敵人ト爲リタル保險者ト戰爭前海上保險契約ヲ締結シタル者カ敵對行爲ノ開始後同一ノ危險ヲ目的トスル新契約ヲ敵人ニ非サル保險者ト締結シタルコト明ナルトキハ右新契約ハ成立ノ日ヨリ原契約ニ代リタルモノト看做サルヘキ拂込期間到來ノ保險料ハ契約ニ依ル原保險者カ新契約成立ノ時ニ至ル迄ヲ限度トシテ責任アリトスルノ原則ニ基キテ處理セラルヘシ

其ノ他ノ保險

十八

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ戰爭前成立シタル保險契約ニシテ九乃至十七ニ規定シタル契約以外ノモノハ同一當事者間ノ火災保險力前記ノ規定ニ依リ取扱ハルルト全然同様ニ取扱ハルヘシ

再保險

十九

敵人ト爲リタル者ト締結シタル一切ノ再保險契約ハ其ノ者カ敵人ト爲リタルノ事實ニ因リ失効シタルモノト看做サルヘシ尤モ生命又ハ海上ノ危險ノ責任カ戰爭前始マリタル場合ニ於テハ其ノ危險ニ基キ支拂ハルヘキ

外初版

十六、十七及十五末項ノ規定ハ海上危險ノ再保險契約ニ之ヲ適用スヘシ

第六款 混合仲裁裁判所

第二百五十六條

(イ) 本條約實施ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ一方同盟國又ハ聯合國ノ各國ト他方塊地利國トノ間ニ一箇ノ混合仲裁裁判所ヲ設置ス該裁判所ハ各三名ノ審判員ヲ以テ之ヲ構成ス各關係國政府ハ右審判員中ノ一名ヲ任命スヘキ審判員ハ兩關係國政府ノ合意ニ依リ之ヲ選任スヘシ

右合意ノ成立セサルトキハ審判員長及必要ノ場合ニ之ニ代ルヘキ他ノ二名ノ者ハ國際聯盟理事會ニ依リ選任セラレヘキ同理事會ノ設立セラレル迄ハ「ギユスターグ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ニ依リ選任セラレヘシ右ノ三者ハ何レモ戰爭中ノ中立國ノ國民ナルコトヲ要ス

審判員關員ノ場合ニ政府カ一月ノ期間内ニ前記任命ノ手續ヲ爲ササルトキハ補關審判員ハ審判員長以外ノ前記二名中ヨリ他方政府之ヲ選任スヘシ

混合仲裁裁判所ノ判定ハ審判員ノ過半數ノ決定ニ依ルヘシ

(ロ) (イ)號ニ依リ設置シタル混合仲裁裁判所ハ本編第三款乃至第五款及第七款ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬スル爭議ヲ審判スヘシ

前記ノ外同盟及聯合國ノ國民ト塊地利國國民トノ間ニ本條約實施前ニ成立シタル契約ニ關スル一切ノ爭議ハ其ノ何タルチ間ハ混合仲裁裁判所之ヲ審判スヘシ但シ同盟國、聯合國又ハ中立國ノ法令ニ依リ此等諸國ノ內國裁判所ノ權限ニ屬スル爭議ハ之ヲ審判スルノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ當該內國裁判所ハ混合仲裁裁判所ヲ排除シテ之ヲ審判スル



モ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル當事者ハ自國ノ法令ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外混合仲裁裁判所ニ事件ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

(ハ) 事件數ニ應ジ必要ナルトキハ各混合仲裁裁判所ヲ數部ニ分ツコトヲ得ル爲審判員ノ増員ヲ行フコトヲ要ス各部ハ前記ノ規定ニ依リ之ヲ構成ス

(ニ) 各混合仲裁裁判所ハ本條附屬書ニ規定ナキ限り其ノ審理手續ヲ定ムヘク審理費用ニ付敗訴者ノ支拂フヘキ額ヲ決定スルコトヲ得ヘシ

(ホ) 各國政府ハ其ノ任命ニ係ル混合仲裁裁判所審判員及該裁判所ニ於テ各自國政府ヲ代表セシムル爲任命スル代理人ノ報酬ヲ支辨ス審判員ノ報酬ハ關係國政府間ノ特別取極ニ依リテ之ヲ決定スヘク右審判員ノ報酬及各混合仲裁裁判所ノ共同費用ハ兩國政府折半シテ之ヲ支辨スヘシ

(ヘ) 締約國ハ各自ノ裁判所及官憲ヲシテ通知書ノ送達及證據ノ蒐集其ノ他權限内ノ一切ノ助力ヲ直接ニ混合仲裁裁判所ニ與ヘシムルコトヲ約ス

(ト) 締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ確定的ノモノト看做シ且各自ノ國民ニ對シ拘束力アルモノト爲スコトヲ約ス

附屬書

混合仲裁裁判所ノ審判員カ死亡シ退職シ又ハ何等カノ理由ニ因リ執務不能ト爲リタルトキハ審判員ノ任命ニ付執リタル手續ニ依リ之カ補闕ヲ爲スヘシ

混合仲裁裁判所ハ正義及衡平ニ適合スル審理手續ノ準則ヲ採用シ各當事者

者ノ辯論ヲ爲スヘキ順序及期限ヲ定メ且證據調ニ必要ナル手續ヲ定ムヘシ

三 當事者雙方ノ辯護人及代理人ハ其ノ申立ヲ支持シ又ハ防禦スル爲口頭及書面ニ依リ混合仲裁裁判所ニ陳述ヲ爲スコトヲ得ヘシ

四 混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

五 各關係國ハ事務官一名ヲ任命スルコトヲ得右ノ事務官ハ混合仲裁裁判所ノ混合書記局ヲ構成シ該裁判所ノ指揮ヲ受クヘシ混合仲裁裁判所ハ其ノ任務ノ遂行ヲ援助セシムル爲必要ナル一名又ハ數名ノ職員ヲ任命及使用スルコトヲ得

六 混合仲裁裁判所ハ當事者ノ提出スル證據及參考資料ニ依リ付託ノ事件及事項ヲ判定スヘシ

七 締約國ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ審理ニ必要ナル一切ノ便宜及參考資料ヲ供與スルコトヲ約ス

八 別段ノ合意アル場合ヲ除クノ外審理上ノ用語ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ定ムル所ニ從ヒ英吉利語、佛蘭西語、伊太利語又ハ日本語トス

(外初版)

各混合仲裁裁判所ノ開廷ノ場所及日ハ該裁判所ノ審判長之ヲ定ムヘシ

第二百五十七條

本編第三款乃至第五款又ハ第七款ニ掲グル事件ニ關シ權限アル裁判所カ判決ヲ既ニ與ヘ又ハ與フル場合ニ於テ其ノ判決方右諸款ノ規定ニ適合セサルトキハ之カ爲損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ノ決定スル賠償ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求アルトキハ右ノ賠償ハ實行可能ナル限り各當事者ニ舊奧地利帝國裁判所ノ判決前ノ地位ヲ回復セシムルコトニ依リ混合仲裁裁判所之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第七款 工業所有權

第二百五十八條

第二百三十七條及第二百三十九條ニ掲グル巴里同盟條約及「ベルヌ」條約ニ規定シタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ハ戰爭狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノトキヨリ各締約國ノ版圖内ニ於テ之ヲ回復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス若シ戰爭ナカリセハ工業所有權保護ノ出願ニ基キ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果トシテ戰時中取得シ得ヘカリシ權利ハ權利者タルヘカリシ者ノ爲ニ均シク本條約實施ノトキヨリ承認設定セラルヘシ

尤モ舊奧地利帝國國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國又ハ聯合國ノ立法機關又ハ執行若ハ行政官廳ノ執リタル特別措置ニ基ク行爲ハ依然有效ニシテ其ノ完全ナル效力ヲ存續スヘキモノトス

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

國防上若ハ公益上ノ爲、同盟國若ハ聯合國ノ國民カ奧地利國ノ版圖内ニ於テ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付奧地利國ノ衡平ナル取扱ヲ確保スル爲又ハ本條約ニ依リ奧地利國ノ約定シタル一切ノ義務ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲各同盟國又ハ聯合國ハ自國ノ法令ニ從ヒ奧地利國國民カ戰時中ニ取得シ又ハ其ノ後取得スルコトアルヘキ工業所有權(製造標又ハ商標ノ權利ヲ除ク)又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ヲ實施シ、之カ實施ヲ免許シ、之カ實施ニ付監督權ヲ行使スル等必要ト認メラルヘキ期限、條件又ハ制限ヲ之ニ附スルノ權能ヲ留保ス本條約實施後取得セラルヘキ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付テハ同盟及聯合國ノ爲ニ留保シタ



ル右ノ權能ハ上記ノ期限、條件又ハ制限カ國防上又ハ公益上必要ト認メ  
ラルヘキ場合ニ限リ之ヲ行使スルコトヲ得  
同盟及聯合國方前記ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ相當ノ補償金又ハ使  
用料ヲ支拂フコトヲ要ス右ノ補償金又ハ使用料ハ本條約ノ規定ニ依リ奧  
地利國氏ニ支拂ハルヘキ他ノ一切ノ金額ト同様ノ取扱ヲ受クヘシ  
千九百十四年七月二十八日以後ニ行ハレ又ハ將來行ハルルコトアルヘキ  
工業所有權又ハ文學的著作物ニ關スル權利ノ全部又ハ一部ノ  
移轉及右權利ノ讓與ニシテ本條規定ノ適用ニ對シ障礙ト爲ルヘキモノハ  
各同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ無効ト看做スノ權能ヲ留保ス  
本條ノ規定ハ同盟國若ハ聯合國ニ依リ戰時非常法令ニ從ヒテ行ハレタル  
又ハ第二百四十九條(口)號ニ基キテ行ハルヘキ會社又ハ企業ノ清算ニ屬ス  
ル工業所有權又ハ文學的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用セス

第二百五十九條

各締約國國民ハ千九百十四年七月二十八日ニ於ケル其ノ既得ノ工業所有  
權若ハ戰爭ナカリセハ戰爭前若ハ戰時中ノ出願ニ基キ同日以後ニ其ノ取  
得シ得ヘカリシ工業所有權ヲ保存若ハ取得スル爲メ又ハ右ニ付異議ヲ申立  
ツル爲本條約實施ノトキヨリ一年ヲ下ラサル期間内ハ何等ノ附加金又ハ  
適意金ヲ徵收セラルルコトナク一切ノ行爲ヲ追完シ、手續ヲ履行シ、料金  
ヲ納付シ其ノ他當該國ノ法令規則ノ定ムル一切ノ義務ヲ履行スルコトヲ  
得但シ本條ハ亞米利加合衆國ニ於テ最終ノ審問ヲ終リタル抵觸審判ノ再  
開ヲ請求スルノ權利ヲ與フルコトナカルヘシ  
工業所有權ニシテ其ノ行爲ヲ追完、手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ怠リタ  
ルノ結果一旦失効シタルモノハ其ノ效力ヲ回復スヘシ但シ特許及意匠ニ

第二百六十一條

一方ニ於テ舊奧地利帝國ノ國民又ハ同國版圖内ニ居住シ若ハ營業ニ從事  
スル者及他方ニ於テ同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ同國版圖内ニ居住シ若  
ハ營業ニ從事スル者並戰時中此等ノ者ヨリ其ノ權利ヲ讓受ケタル第三者  
ハ戰爭狀態成立ノ日ト本條約實施ノ日トノ間ニ他ノ一方ノ版圖内ニ生ス  
ルコトアルヘキ事實ニシテ戰時中或時ニ存在シタル又ハ前記第二百五十  
九條及第二百六十條ニ依リ回復セラルヘキ工業所有權又ハ文學的著作物  
術的著作物ニ關スル權利ノ侵害ト看做サルコトアルヘキモノヲ理由ト  
シテ何等ノ訴訟又ハ請求ヲ爲スコトヲ得サルヘシ  
戰爭狀態成立ノ日ト本條約署名ノ日トノ間ニ於テ製造セラレタル生産物  
若ハ物品又ハ同期間内ニ公ニセラレタル文學的著作物若ハ美術的著作物ニ關シ  
一方同盟國又ハ聯合國ノ版圖内、他方奧地利國版圖内ニ於テ本條約署名  
後一年内ニ爲ス販賣又ハ販賣ノ提供ニ付テハ工業所有權又ハ文學的著作物  
美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害トシテ前記ノ者カ提起スル訴訟ハ如何  
ナル時ニ於テモ亦之ヲ受理セサルヘシ前記ノ物ノ取得又ハ使用ニ付亦同  
シ尤モ本規定ハ右權利者カ戰時中奧地利軍ノ占領シタル地方ニ於  
テ其ノ住所又ハ工場若ハ商館ヲ有シタル場合ニ之ヲ適用セサルモノト  
ス

第二百六十二條

工業所有權ノ實施許諾又ハ文學的著作物ノ複製許諾ニ關シ一  
方ニ於テ同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ同國版圖内ニ居住シ若ハ營業ニ從  
事スル者ト他方ニ於テ舊奧地利帝國國民トノ間ニ戰爭狀態成立前ニ締結セ

關シテハ其ノ失効シタルシ期間内ニ右ノ特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用  
シタル第三者ノ權利ヲ保護スルカ爲各同盟國又ハ聯合國ハ衡平ノ見地ヨ  
リ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ルモノトス尙奧地利國國民ノ有スル發  
明特許又ハ意匠ニシテ斯ク效力ヲ回復シタルモノハ實施ノ許諾ニ付テハ  
戰時中ニ適用スヘカリシ規定及本條約ノ一切ノ規定ニ從フヘシ  
千九百十四年七月二十八日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ  
實施ニ付テハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間ニ之  
ヲ算入セス尙千九百十四年七月二十八日ニ於テ有効ナリシ特許、製造標  
若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了前ハ單ニ其ノ不實施又  
ハ不使用ノ事由ノミニ依リ失効シ又ハ取消サルルコトナカルヘシ

第二百六十條

發明ノ特許出願又ハ實用新案、製造標若ハ商標並意匠及雛形ノ登録出願  
ニ關シ千九百十一年華盛頓ニ於テ改正セラレタル千八百八十三年三月二  
日ノ巴里同盟條約第四條其ノ他ノ條約又ハ法律ニ規定シタル優先期間ニ  
シテ千九百十四年七月二十八日ニ未タ滿了ニ至ラザリシモノ及戰時中進  
行ヲ開始シタルモノ又ハ若シ戰爭ナカリセハ之ヲ開始シ得ヘカリシモノ  
ハ各締約國ニ於テ他ノ締約國ノ一切ノ國民ノ爲本條約實施後六月ノ期間  
滿了ニ至ル迄ニ延長スヘシ  
尤モ前項期間ノ延長ハ優先期間ヲ援用シテ出願スル工業所有權ト抵觸ス  
ル工業所有權ヲ本條約實施ノ際善意ニ占有中ナル各締約國又ハ其ノ國民  
ノ權利ヲ害スルコトナカルヘク該國又ハ該國民ハ權利侵害者トシテ訴追  
セラレサルハ勿論其ノ他何等ノ煩累ヲ受クルコトナク或ハ自國若ハ本人  
自身ニ於テ或ハ本條約實施前ニ權利ヲ讓與セラレタル代理人若ハ實施權  
者ニ由リ其ノ權利ノ享有ヲ繼續スヘシ

(外初版)

ラレタル契約ハ舊奧地利洪牙利君主國ト同盟國又ハ聯合國トノ間ニ於ケ  
ル戰爭狀態成立ノ日ヨリ解除セラレタルモノト看做スヘシ尤モ何レノ場  
合ニ於テモ此ノ種ノ契約ニ依リ從前ノ受益者ハ本條約實施ノ日ヨリ六月  
ノ期間内ニ當該權利者ニ對シ右ノ實施又ハ複製ノ新許諾ヲ請求スルノ權  
利ヲ有ス右新許諾ノ條件ニ關シ當事者間ニ協議調ハサルトキハ上記ノ權  
利ヲ取得スルニ至リタル準據法令ヲ定ムル國ノ管轄裁判所ニ之ヲ決定スヘ  
シ但シ舊奧地利帝國ノ法令ノ下ニ取得シタル權利ニ基キ許諾ニ關シテハ  
此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ本編第六款ノ混合仲裁裁判所其  
ノ條件ヲ決定スヘシ若シ必要アルトキハ該裁判所ハ戰時中ニ於ケル上記  
ノ權利ノ利用ニ基キ其ノ相當ト認ムル補償金額ヲ定ムルコトヲ得  
工業所有權又ハ文學的著作物ニ關スル權利ニ付同盟國又ハ聯  
合國ノ戰時特別法令ニ依リ與ヘラレタル實施免許ハ戰爭前ニ存在セシ許  
諾ノ繼續ニ依リ障礙ヲ受クルコトナク依然有效ニシテ其ノ完全ナル效力  
ヲ存續スヘシ戰爭前ノ締結ニ係ル許諾契約ニ依リ從前ノ受益者ニ右ノ  
免許ヲ與ヘタル場合ニ於テハ該免許ハ右ノ契約ニ代リタルモノト看做  
ス

工業所有權ノ實施又ハ文學的著作物若ハ演劇脚本ノ複製若ハ興行  
ニ關スル戰爭前ノ契約又ハ許諾ニ付第二百四十九條(口)號ニ定ムル者ノ權  
利ニ關シ戰時中支拂ヒタル金額アルトキハ該金額ハ本條約ノ規定ニ從ヒ  
右ノ者ノ他ノ金錢債務又ハ金錢債權ト同様ノ取扱ヲ受クヘシ

第八款 讓渡地域ニ關スル特別規定

第二百六十三條

本條ハ一方亞米利加合衆國ト他方奧地利國トノ間ニ之ヲ適用セサルヘシ



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

二百九十八

從前舊奧地利帝國ノ國民(「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」ノ州民ヲ含ム)タリシ自然人及法人中本條約ニ依リ當然或同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スル者ハ次條以下ノ規定ニ於テ之ヲ「舊奧地利帝國國民」ト稱シ爾餘ノ者ハ之ヲ「奧地利國民」ト稱ス

第二百六十四條

本條約ニ依リ讓渡セララルル地域内ノ住民ハ右地域ノ讓渡及其ノ結果タル國籍ノ變更ニ拘ラス讓渡當時ノ法令ニ依リ其ノ有シタル一切ノ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ奧地利國內ニ於テ引續キ完全ニ享有スヘシ

第二百六十五條

舊奧地利帝國國民及奧地利國民並其ノ權利、特權及財産ニ關スル問題ニシテ本條約中ニ其ノ規定ナク又舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル諸國若ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル諸國ノ間ノ直接關係ヲ處理スル條約中ニモ其ノ規定ナキモハ關係諸國(奧地利國ヲ含ム)間ノ特別條約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ尤モ右ノ特別條約ハ何等本條約ノ規定ト牴觸スルコトヲ得サルモノトス

此ノ目的ノ爲ニ本條約實施ヨリ三月内ニ關係諸國委員ノ會議ヲ開催スヘキコトヲ約ス

第二百六十六條

奧地利國政府ハ自國版圖内ニ存在スル舊奧地利帝國國民ノ財産、權利及利益ヲ遲滞ナク該國民ニ還付スヘシ

舊奧地利帝國國民ノ財産、權利及利益ニ付千九百十八年十一月三日以後徵收シ若ハ増徴セラレタル元本上ノ租税及賦課又ハ本條約ノ規定ニ從ヒ其

ノ還付セララルルニ至ル迄ノ間ニ徵收シ若ハ増徴セララルヘキ元本上ノ租税及賦課ハ其ノ總額ヲ權利者ニ下戻スヘシ戰時非常措置ノ適用ヲ受ケザリシ財産、權利及利益ニ關シテハ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄ノ間ニ徵收シ若ハ増徴セララルヘキ右ノ租税及賦課ニ付亦同シ

還付セララルル財産、權利及利益ニ付テハ奧地利國ヨリ右財産ヲ引取リタルトキ以後又ハ同國ニ於テ其ノ事業ヲ中止スルニ至リタルトキ以後ハ同一人ニ屬スル他ノ財産又ハ他ノ事業ニ關シ徵收スル何等ノ租税ヲ課セラルコトナカルヘシ

奧地利國ヨリ引取リタル財産、權利及利益ニ付各種ノ租税ヲ前納シアリタルトキハ既納租税額中該財産、權利及利益引取後ノ期間ニ對スル部分ハ權利者ニ之ヲ下戻スヘシ

支拂ニ用井ルヘキ通貨及爲替相場ニ關スル第二百四十八條(二)號及第二百七十一條ノ規定ハ本條第一項ニ定ムル資産ノ償還ニ付夫々之ヲ適用ス

舊奧地利洪牙利君主國內ニ於テ爲シ又ハ設ケラレタル遺贈、贈與、給費其ノ他各種ノ財團ニシテ舊奧地利帝國國民ノ利益ヲ目的トスルモノハ奧地利國ノ版圖内ニ存在スル限リ該財團ノ目的ノ爲適當ニ爲サレタル支拂ヲ參酌シテ千九百十四年七月二十八日現在ノ狀態ニ於テ同國ニ依リ右舊奧地利帝國國民ノ現所屬國タル同盟國又ハ聯合國ノ任意處分ニ委セラルヘシ

第二百六十七條

第二百四十九條及第四款附屬書ノ規定ニ拘ラス奧地利國民又ハ其ノ管理スル會社ノ財産、權利及利益ニシテ舊奧地利洪牙利君主國ノ版圖内ニ存在スルモノハ右ノ規定ニ依リ留置又ハ清算セララルコトナカルヘシ

(外初版)

至ル迄ノ間ニ執リタル此ノ種ノ措置又ハ他ノ移轉、強制管理若ハ保管ノ措置ヲ解除シ權利者ニ之ヲ還付スヘシ右ノ還付ハ當該措置ノ適用前ノ狀態ニ於テ爲サルヘキモノトス

本條ニ定ムル財産、權利及利益中ニハ第九編(財政條項)第二百八條ノ適用ヲ受ケヘキ財産ヲ包含セス

本條ノ規定ハ奧地利國民ノ船舶上ノ所有權ニ關スル第八編(賠償)第一款第三附屬書ノ規定ニ何等影響スルコトナシ

第二百六十八條

海上運送ニ依ル貨物賣却ノ契約ニシテ一方舊奧地利帝國國民ト他方舊奧地利洪牙利君主國、奧地利國若ハ「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」ノ行政官廳又ハ奧地利國民トノ間ニ千九百十七年一月一日前ニ締結セラレタルモノハ其ノ契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關スルモノヲ除キ其ノ效力ヲ失フヘシ千九百十八年十一月一日前ノ締結ニ係リ同日ニ於テ其ノ效力ヲ有シタル同一當事者間ノ他ノ契約ハ一切其ノ效力ヲ存續スヘシ

第二百六十九條

讓渡地域内ニ於ケル時効、出訴期間及失效ニ關シテハ第二百五十二條及第二百五十三條ノ規定ヲ適用ス但シ「開戦」ノ語ハ「當事者間ノ關係カ事實上又ハ法律上不能ト爲リシ日」ニシテ各同盟及聯合國ノ行政處分ニ依リ決定セララルヘキ日「戰時中」ノ語ハ「右ノ日」ト本條約實施ノ日トノ間ノ期間」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘキモノトス

第二百七十條

奧地利國ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ法律ニ從ヒ設立セラレ同盟國又ハ聯

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

二百九十九

合國ノ國民ヲ當事者トスル會社ニ屬スル財産、權利及利益カ他ノ國ノ法律ニ從ヒ設立セラレタル會社ニ讓渡セララルコトニ關シテハ何等之ヲ阻礙セサルコト、其ノ讓渡ノ實行ニ必要ナル一切ノ措置ヲ容易ナラシムルコト並同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ右ノ國民ヲ當事者トスル會社ニ奧地利國又ハ讓渡地域内ニ存在スル其ノ財産、權利及利益ヲ還付スル爲請求セララルコトアルヘキ助力ヲ與フルコトヲ約ス

第二百七十一條

第二百四十八條(二)號ヲ除キ本編第三款ハ奧地利國民ト舊奧地利帝國國民トノ間ニ契約セラレタル金錢債務ニ之ヲ適用セララルヘシ

第二百七十二條

從前舊奧地利洪牙利君主國ノ一部分ヲリシ地域内ニ主タル營業所ヲ有スル保險會社ハ從來享有シタル法律上ノ地位ニ付其ノ國籍變更ノ結果何等ノ影響ヲ受ケルコトナク本條約實施後十年間ハ奧地利國版圖内ニ於テ其ノ營業ニ從事スルノ權利ヲ有スヘシ

奧地利國ハ前項ノ期間内此等ノ會社ノ業務ニ對シ内國會社ノ業務ニ課スルモノヨリ高キ何等ノ租税又ハ課金ヲ課スルコトヲ得ス右會社ノ財産權ニ損害ヲ與フヘキ措置ハ内國保險會社ノ財産、權利又ハ利益ニ均シク適用セララル限リ之ヲ執ルコトヲ得ス此ノ如キ措置ヲ執リタル場合ニハ適當ノ賠償ヲ支拂フヘキモノトス



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

本規定ハ讓渡地域内ニ於テ業務ヲ從前執行シタル奧地利保險會社カ其ノ主タル營業所チ右地域ノ外ニ有スルモ右地域ノ内ニ於テ其ノ營業ニ從事スルニ付同様ノ權利チ享有スルコトヲ相互的ニ許容セララルル場合ニ限り之ヲ適用スヘシ

同盟及聯合國ノ國籍ヲ有スル前記保險會社ハ前掲十年ノ期間後ハ第二百二十八條ニ定ムル制度ノ利益ヲ享受スヘシ

第二百七十三條

本條約ノ結果分割セラレタル地域内ニ於テ其ノ事務ニ從事スル團體又ハ公的法人ニ屬スル財産ノ配分ハ特別條約ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二百七十四條

舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國及該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國ハ此等地域カ當該國ノ主權ノ下ニ移リタル際其ノ地域内ニ於テ有效ナル又ハ第二百五十八條ノ規定ニ依リ回復スヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ承認スヘシ此等ノ權利ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ法令ニ依リテ與ヘラルヘキ期間内其ノ效力ヲ保有スヘシ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ノ保護ニ關スル記錄、登錄簿及圖面ニ關係アル一切ノ事項並舊奧地利洪牙利君主國ノ官廳カ該君主國ノ諸地方ヲ讓受ケタル國ノ官廳又ハ新ニ成立シタル國ノ官廳ニ對シテ爲スコトアルヘキ右書類ノ移送ハ特別條約ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二百七十五條

奧地利國政府ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ政府若ハ行政官廳又ハ其ノ監督ノ下ニ在ル公私ノ機關ヲ讓渡地域内ニ於テ社會保險又ハ官營保險ノ經營ニ充ツル爲積立テタル準備金ノ部分ヲ舊奧地利洪牙利君主國ノ諸地方チ均シク適用セララルヘキモノニ當ニ準據スルモノトス

第二百七十八條

奧地利國內ニ設ケラレ内國公共交通ノ爲開放セラレタル飛行場ハ同盟及聯合國ノ航空機ノ爲之ヲ開放スヘシ同盟及聯合國ノ航空機ハ右飛行場ニ於テ著陸手續料、設備使用料其ノ他一切ノ料金ニ關シ奧地利國ノ航空機ト同等ノ待遇ヲ受ケヘシ

第二百七十九條

第二百七十六條乃至第二百七十八條ニ定ムル飛行、通過及著陸ノ權利ニ付テハ本諸規定ニ依ルノ外奧地利國ノ必要ト認メテ制定スル法規ヲ遵守スルコトヲ要ス尤モ右ノ法規ハ奧地利國ノ航空機並同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ差別ナク適用セララルヘキモノトス

第二百八十條

同盟國又ハ聯合國中ノ一國カ下付シ又ハ有效ト認ムル國籍證明書、堪航證明書、技術證明書及諸免狀ハ奧地利國ニ於テ有效ト認メラレ且奧地利國ノ下付スル諸證明書及諸免狀ト均シキモノト認メララルヘシ

第二百八十一條

商業上ノ内國空中交通ニ關シ同盟及聯合國ノ航空機ハ奧地利國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ受ケヘシ

第二百八十二條

奧地利國ハ其ノ版圖上チ飛行スル奧地利國ノ航空機カ同盟及聯合國間ニ締結セララルル航空條約中ニ規定スル燈火及信號ニ關スル規則、飛行ニ關スル規則並飛行場ニ於ケル及其ノ近傍ニ於ケル空中交通ニ關スル規則ヲ遵守スヘキコトヲ保障スル爲適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國ニ引渡スコトチ其ノ關スル限リ約ス但シ本條約ノ他ノ規定チ害スルコトナシ此等基金ノ引渡ヲ受ケタル國ハ其ノ基金ヲ該保險ヨリ生スル義務ノ履行ニ充當スルコトヲ要ス

右引渡ノ條件ハ奧地利國政府ト關係國政府トノ間ニ締結スル特別條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ

右ノ特別條約カ前項ノ規定ニ基キ本條約實施後三月以内ニ締結セラレサル場合ニ於テハ引渡ノ條件ハ各場合ニ付五名ノ委員ヨリ成ル委員會ノ議ニ付セララルヘシ右ノ委員五名中一名ハ奧地利國政府ニ於テ、一名ハ他方ノ關係國政府ニ於テ任命シ三名ハ國際勞務事務局勞務理事會ニ於テ爾餘ノ諸國ノ國民中ヨリ之ヲ任命スヘシ同委員會ハ國際聯盟理事會ノ議ニ付スヘキ勸告ヲ委員任命後三月以内ニ過半數ニ依リ決定スヘキ聯盟理事會ノ決定ハ奧地利國及他方ノ關係國政府ニ於テ直ニ之ヲ確定的ノモノト看做スコトヲ得

第十一編 航空

第二百七十六條

同盟國又ハ聯合國ノ航空機ハ奧地利國版圖上チ飛行シ又之ニ著陸スルノ完全ナル自由ヲ有スヘシ且奧地利國ノ航空機ト同一ノ便益ヲ享受スヘク遭難ノ場合ニ於テ殊ニ然リトス

第二百七十七條

同盟國又ハ聯合國ノ航空機ニシテ何レカノ外國ニ向ヒ通過中ノモノハ奧地利國版圖上チ著陸スルコトナク飛行スルノ權利ヲ享有ス尤モ奧地利國ノ制定スル法規ニシテ奧地利國ノ航空機並同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ

〔外切版〕

第二百八十三條

前諸規定ニ依リテ課セララルル義務ハ千九百二十三年一月一日迄存續スヘシ但シ該期日ニ先チ奧地利國カ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラレ又ハ同盟及聯合國ノ同意ニ依リ右諸國間締結ノ航空條約ニ加入スルコトヲ認許セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二編 港、水路及鐵道

第一款 一般規定

第二百八十四條

奧地利國ハ鐵道、航行可能水路又ハ運河ニ由ル國際交通上最適當ナル通路ヲ經テ同國ノ版圖ヲ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國(其ノ奧地利國ニ隣接スルト否トチ問ハス)中ノ一國ノ版圖ヨリ來リ又ハ其ノ版圖ニ向フ人、貨物、船舶、舟艇、車輛及郵便ニ許與スルコトヲ約ス

前項ノ人、貨物、船舶、舟艇、車輛及郵便ハ何等通過稅ヲ課セラレ又ハ無用ニ遲延セシメラレ若ハ制限セララルコトナカルヘク且料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ奧地利國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ

通過貨物ハ一切ノ關稅其ノ他類似ノ税金ヲ免除セララルヘシ通過運送ニ課スル一切ノ料金ハ運送ノ條件ニ應シ相當ノモノタルコトヲ要ス全道程中ノ或一部分ニ付用井ラレ又ハ用井ラルヘキ船舶其ノ他ノ運輸機關ノ所有者又ハ國籍ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ノ差別ヲ設ケルコトナカルヘシ

第二百八十五條

奧地利國版圖ヲ通過スル移出民ノ往復運送ノ業務ニ對シ奧地利國ハ旅客ノ眞實通過者タルコトヲ確マル爲必要ナル措置ヲ講スルノ外何等ノ取締



ヲ設ケス又ハ之ヲ持續セサルコトヲ約シ、地地利國ハ船舶會社其ノ他右ノ運送ニ關係アル私團體、私法人又ハ私人カ右目的ノ爲設ケラルル行政組織ニ何等關係スルコトヲ許サズ又此等ノ者カ右ニ付直接又ハ間接ニ其ノ勢力ヲ及ホスコトヲ許ササルヘシ

第二百八十六條

地地利國ハ其ノ版圖ヘノ輸入又ハ其ノ版圖ヨリノ輸出ニ關スル關稅、料金及禁止ニ付出入シタル國境ノ如何、運送(空中運送ヲ含ム)ニ用井ラルル運輸機關ノ種類、所有者若ハ國籍ノ如何、船舶若ハ舟艇、車輛、航空機兵ノ他ノ運輸機關ノ最初若ハ最後ノ出發地若ハ其ノ最終若ハ中間ノ到達地ノ如何、運送ノ道筋若ハ積換ノ場所ノ如何、貨物カ地地利國ヨリ直接ニ若ハ外國港ヨリ間接ニ輸入若ハ輸出セララルカノ事實ノ如何又ハ貨物ノ輸入若ハ輸出カ陸路ニ由ルカ若ハ空中路ニ由ルカノ事實ノ如何又ハ因リ直接又ハ間接ノ差別又ハ優先權ヲ設定スヘカラス地地利國ノ版圖ニ向ヒ又ハ其ノ版圖ヨリ出ツル貨物又ハ人ノ運送ニ對スル條件及料金ニ付テハ本條約中ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外亦同シ

地地利國ハ殊ニ同盟及聯合國中ノ一國ノ港、船舶又ハ舟艇ニ對シ不利益ナル何等ノ附加稅、地地利國又ハ別國ノ港又ハ船舶若ハ舟艇ニ依ル輸出又ハ輸入ニ對シ直接又ハ間接ノ何等ノ獎勵金(殊ニ聯絡貨率)ヲ設ケヘカラス地地利國又ハ同盟及聯合國中ノ一國ノ港ヲ經由シ又ハ其ノ船舶若ハ舟艇ニ依ル人又ハ貨物カ地地利國ノ港若ハ別國ノ港ヲ經由シ又ハ地地利國ノ船舶若ハ舟艇若ハ別國ノ船舶若ハ舟艇ニ依ル場合ニ於テハ必要トセサルヘキ何等ノ手續ヲ履マシメ又ハ何等ノ遲延ヲ生セシムヘカラス

第二百八十七條

貨物カ同盟國若ハ聯合國ノ版圖ヨリ地地利國ニ來リ又ハ地地利國ヨリ同盟國若ハ聯合國ノ版圖ニ向フモノナルト同盟國若ハ聯合國ノ版圖ヨリ來リテ地地利國ヲ通過シ又ハ同盟國若ハ聯合國ノ版圖ニ向ヒテ地地利國ヲ通過スルモノナルト間フコトナク同様ノ運送條件ノ下ニ地地利國版圖内ヲ運送セララルル同種ノ貨物ノ享受スル實質上ノ條件ト(殊ニ速度及運送中ノ注意ニ付)同一ノ條件ニ於テ右貨物ノ地地利國境通過ヲ成ルヘク簡便ニスル爲且其ノ地地利國境ヨリ發送及運送セララルコトヲ確保スル爲有用ナル管理上及技術上ノ一切ノ措置ヲ執ルヘシ

第二百八十八條

殊ニ損敗シ易キ貨物ノ運送ハ迅速ニ且規則正シク行ハルヘク又關稅手續ハ聯絡列車ニ依ル貨物ノ直送ヲ妨グルコトナク爲サルヘシ

第二百八十九條

同盟及聯合國ノ海港ハ別國ノ或港ノ利益ノ爲地地利國ノ鐵道又ハ航行可能水路ニ於テ付與スル一切ノ恩典及低減貨率ノ利益ヲ受ケヘシ

第二章 航行ノ自由

第二百九十條

地地利國ハ別國ノ港ニ付與スルト同様ノ便宜ヲ同盟及聯合國中ノ一國ノ港ニ確保スルコトヲ目的トスル貨率又ハ聯絡貨率ヘノ加入ヲ拒絕スルコトヲ得サルヘシ

(外利版)

ノ待遇ヲ享受スヘシ

殊ニ同盟及聯合國中ノ一國ノ船舶及舟艇ハ地地利國ノ船舶及舟艇ノ到ルコトヲ得ヘキ地地利國版圖内ノ港若ハ地ニ向ヒ又ハ之ヨリ來ル各種貨物及旅客ヲ内國ノ船舶及舟艇ノ場合ニ適用セララルル條件ヨリ重カラサル條件ノ下ニ運送スルコトヲ許サルヘキ港及埠頭ニ於ケル各種ノ便宜及料金(碇泊及貨物ノ積卸ニ關スル便宜並政府、公務員、私人又ハ各種ノ社團若ハ財團ノ名義ヲ以テ及其ノ利益ノ爲ニ徵收スル噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ニ類似スル各種ノ稅金及料金ヲ含ム)ニ關シテ内國ノ船舶及舟艇ト同等ノ待遇ヲ受ケヘシ

地地利國カ同盟及聯合國中ノ一國ニ對シ又ハ別國ニ對シテ特惠待遇ヲ許與スル場合ニ於テハ右ノ待遇ハ即時且無條件ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ之ヲ擴張スヘシ

人並船舶及舟艇ノ移動ニ付テハ稅關、警察、衛生、移出民及移人民並禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ同一ナルヘキ濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコトヲ要ス

第二章 「ダニユーア」河ニ關スル條項

一 國際河川ニ關スル一般規定

第二百九十一條

「ウルム」ヨリ下流ノ「ダニユーア」河ハ之ヲ國際河川ト聲明ス右河系中ニハ其ノ航行可能ナル部分ニシテ一ノ舟艇ヨリ他ノ舟艇ニ積換ヲ行フト否トチ間ハス海洋ニ到ル自然的通路ヲ二國以上ニ供スルモノ並「モラーヴア」及「ダヤ」兩河河流ノ「チエッコ、スロツアキア」國ト地地利國トノ國境

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ヲ構成スル部分及右河系ノ自然的ニ航行可能ナル區域ヲ擴張シ若ハ改良スル爲又ハ右水流ノ自然的ニ航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿シタル傍系ノ運河及水道ヲ含ム

第三百八條ニ定ムル條件ノ下ニ萊因河「ダニユーア」河間ノ航行可能水路カ開鑿セララル場合ニ於テハ該水路ハ亦國際河川タルヘシ

前記河系中一般定議ニ包括セラレサル部分ハ沿河國ノ締結スル取極ニ依リ之ヲ國際河川ト爲スコトヲ得

第二百九十二條

前條ニ依リ國際河川ト聲明セラレタル水路ニ於テハ一切ノ國ノ國民、財產又ハ船舶ハ完全ナル均等待遇ヲ受ケヘク何レノ國ノ國民、財產又ハ船舶ニ對シテモ沿河國自身ノ又ハ最惠國ノ國民、財產又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設ケルコトヲ得ス

第二百九十三條

地地利國ハ同盟及聯合國ノ一國ノ數港間ニ於テハ其ノ國ノ特別ノ許可ナキ限り定期線ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ヲ行フトコトヲ得サルヘシ

第二百九十四條

現行條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外航行可能水路又ハ其ノ入口ヲ使用スル舟艇ニ付テハ河川ノ區域ニ依リテ其ノ額ヲ異ニスル料金ヲ取立ツルコトヲ得右料金ハ河川及其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ河川及其ノ入口ヲ改良スル爲ノ經費ヲ平衡スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル費用ニ充當スルノ目的ニ供セラルルモノナルコトヲ要ス其ノ料金率ハ右ノ費用ヲ基礎トシテ算出シ且各港ニ之ヲ揭示スヘシ此ノ料金ハ密輸入又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外載貨ノ締密ナル











第三百十四條

奧地利國ノ版圖ヲ通過シテ行ハルル同盟及聯合國相互間及此等諸國ト他ノ諸國トノ間ノ鐵道交通ヲ確實ナラシムル爲同盟及聯合國ノ一國又ハ數國ノ請求アルトキハ奧地利國ハ旅客及手荷物ノ直通切符ニ依ル運送ヲ設クルコトニ協力スルノ義務ヲ有ス之カ爲奧地利國ハ殊ニ同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來ル列車及車輛ヲ受繼キ且當該鐵道線ニ於ケル自國ノ最良長距離列車ト少クトモ同等ノ速力ヲ以テ之ヲ運轉スルコトヲ要ス右ノ直通運送ニ適用セラルヘキ運賃ハ速力及設備ニ付同一條件ニ於テ行ハルル奧地利國內ノ同一通路ノ運送ニ對シテ取立ツル運賃ヨリ決シテ高カラサルヘシ

第三百十五條

同盟及聯合國ノ諸港ニ向ヒ又ハ同盟及聯合國ノ諸港ヨリ來ル移出民ヲ奧地利國內ノ鐵道ニテ運送スル場合ニ適用セラルヘキ運賃ハ他ノ諸港ニ向ヒ又ハ他ノ諸港ヨリ來ル移出民力速力及設備ニ付同一條件ノ下ニ同盟鐵道ニ於テ享受スル最惠運賃率(割引及割戻ヲ含ム)ヨリ高キ吉米率ナルコトヲ得ス

第三百十六條

一部ハ鐵道ニ由リ一部ハ内地水路ニ由ル運送ナルトキハ直通運送狀ニ依ルモノタルト否トニ拘ラス其ノ鐵道ニ由ル部分ニ付テハ前記諸規定ヲ適用ス

三 專屬車輛ヲ有セサル鐵道線ニ付テハ其ノ鐵道線ノ屬スル鐵道系統上ニ存在スル車輛ノ分配ハ同盟及聯合國ノ指名ニ係ル專門家ノ委員會ニ於テ奧地利國代表者ヲモ加ヘテ之ヲ行フヘク此等ノ委員會ハ千九百十八年十一月三日ノ最終財産目錄ニ當該鐵道線所屬トシテノ記入濟車輛ノ數量、軌道ノ延長(側線ヲ含ム)並運送ノ種類及數量ヲ考量スルコトヲ要ス同委員會ハ又各個ノ場合ニ付引渡サルヘキ機關車、客車及貨車ヲ指定スヘク、車輛受領ニ關スル條件ヲ決定シ且奧地利工場ニ於テ車輛ノ修繕ヲ爲シ得ルコトヲ確保スルニ必要ナル暫定協定ヲ爲スヘシ

四 備品、附屬品及機械類ハ車輛ト同一ノ條件ノ下ニ之ヲ引渡スヘシ前露領波蘭ノ鐵道線ニシテ奧地利洪牙利國官憲カ普通軌間ニ改築シタルモノハ之ヲ奧地利及洪牙利國有鐵道系統ノ支派ト看做シ前記第三號及第四號ノ規定ヲ適用スヘシ

第五章 特定ノ鐵道線ニ關スル規定 第三百十九條

新國境劃定ノ結果同一國內ノ二地方ヲ連絡スル鐵道線カ他國ヲ過ル場合又ハ一國內ニ起點ヲ有スル支線カ其ノ終點ヲ他國內ニ有スル場合ニ於テハ其ノ作業條件ハ本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外當該鐵道間ノ協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ前記協定ノ條件ニ付當該鐵道間ノ協議調ハサルトキハ前條ノ規定ニ依リ組織シタル專門家委員會紛爭ヲ解決スヘシ奧地利國ト其ノ隣接スル同盟及聯合國トノ間ノ一切ノ新國境停車場ノ設置並此等停車場間ノ鐵道作業ハ右ト同一條件ノ下ニ締結セラルル協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

用スヘシ

第三章 車輛

第三百十七條

奧地利國ハ自國ノ車輛ニ左記ノ取扱ニ適スル裝置ヲ備付クルコトヲ約ス一 千九百十七年五月十八日改正セラレタル千八百八十六年五月十五日ノ「ベルヌ」條約ノ當事國タル同盟及聯合國ノ鐵道線ニ運轉スル貨物列車ニ連結シ得ヘキモノト爲スコト尤モ本條約實施後十年以内ニ此等諸國ニ於テ採用スルコトアルヘキ貫通制動機ノ作用ヲ妨ケサルモノナルコトヲ要ス

二 奧地利國ノ鐵道線ニ運轉スル一切ノ貨物列車ニ前記諸國ノ車輛ヲ連結シ得ヘキモノト爲スコト

同盟及聯合國ノ車輛ハ運轉、保存及修繕ニ關シ奧地利國ノ鐵道線ニ於テ奧地利國ノ車輛ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ

第四章 鐵道線ノ讓渡

第三百十八條

鐵道ノ讓渡ハ左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ但シ本條約ニ依リ讓渡セラルル地域内ニ在ル港、水路及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定並特許權利者及職員退職恩給ノ支給ニ關スル財政上ノ規定ヲ留保ス

一 一切ノ鐵道ノ工作物及設備ハ良好ノ狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ  
二 自線所屬ノ車輛ヲ有スル一鐵道系統全體カ奧地利國ヨリ同盟及聯合國中ノ一國ニ讓渡セラルル場合ニ於テハ其ノ車輛ハ千九百十八年十一月三日ノ最終財産目錄ニ從ヒ普通ノ保存狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ

第三百二十條

私設會社ニ特許セラレタル舊奧地利洪牙利君主國ノ鐵道系統ニシテ本條約規定ノ實施ノ結果數國ノ版圖ニ跨ルニ至ルヘキモノニ付テハ之カ作業ノ規則正シク行ハルルコトヲ確實ナラシムル爲此等鐵道系統ノ管理上及技術上ノ組織變更ハ各鐵道系統ニ付特許會社ト版圖關係國トノ間ノ取極ニ依リ之ヲ定ムヘシ  
爭議(鐵道買戻契約ノ解釋ニ關スル問題ヲ含ム)ニ關シ協議調ハサルトキハ國際聯盟理事會ノ指名スル數名ノ仲裁委員ニ付託スヘシ  
南奧地利鐵道會社ニ關シテハ前項ノ仲裁ハ同會社ノ重役會又ハ債券所持人代表委員會ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第三百二十一條

一 本條約實施後五年ノ期間内ニ伊太利國ハ「アルプス」嶺斷ノ新鐵道線タル「レフシエン」峠線及「アレテイル」山峽線ノ奧地利國版圖内ニ於ケル敷設又ハ改良ヲ請求スルコトヲ得ヘシ奧地利國カ工事費ヲ自ラ支拂フコトニ同意セサルトキハ敷設費又ハ改良費ハ伊太利國ノ之立替支辨スヘシ該敷設費又ハ改良費中右工事ノ結果奧地利鐵道系統作業ノ收入ヲ增加スルノ理由ニ因リ奧地利國カ伊太利國ニ償還スヘキ部分ハ國際聯盟理事會ノ指名スル一名ノ仲裁委員ニ於テ右理事會ノ定ムルコトアルヘキ期間滿了後之ヲ評定スヘシ

二 奧地利國ハ左記鐵道ノ敷設ニ關スル設計及其ノ附屬物ヲ無償ニテ伊太利國ニ讓渡スルコトヲ要ス

「タルヴィス」ヨリ「ライブル」  
「プレツツォ」  
「カボレット」  
「カナール」  
「ゴリツィア」ヲ經テ「トリエスト」ニ至ル鐵道



「サンタ、ルチア、デイ、トルミーン」ヨリ「カボレット」ニ至ル地方鐵道

「タルヴィス」「プレツツオ」鐵道(新計畫線)  
「レツシエン」鐵道(「ランデック」「マルス」連絡線)

第三百二十二條

「チェッコ、スロヴァキア」國ト「アドリアティック」海トノ間ノ自由交通ハ同國ノ爲重要ナルニ因リ奧地利國ハ「チェッコ、スロヴァキア」國方其ノ列車ヲシテ左記諸線ノ奧地利國版圖内ニ於ケル區間ヲ通行セシムルノ權利アルコトヲ承認ス

一 「アラティスラヴァ」(「ブレスブール」ヨリ「ソブロン」)「ツオムバテリ」及「ムラ、ケレストウール」ヲ經テ「フィウメ」ニ向フ線並「ムラ、ケレストウール」ヨリ「ブラーゲルホフ」ニ至ル支線

二 「アデジョヴィック」(「アドヴァイス」ヨリ「リンツ」)「セント、ミハエル」(「グララゲンフルト」及「アウスリンガ」ヲ經テ「トリエスト」ニ向フ線並「クララゲンフルト」ヨリ「タルヴィシオ」ニ向フ支線

當事者ノ一方又ハ他方ノ請求アルトキハ通行權ノ行使ヲ受クヘキ鐵道線ハ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ鐵道ト通行權ノ行使ヲ受クヘキ鐵道トノ間ノ取極ニ依リ一時的又ハ確定的ニ之ヲ變更スルコトヲ得ヘシ

第三百二十三條

通行權ニ依リテ運行スル列車ハ通過國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ間ノ取極ニ依ルノ外地方的運送ヲ行フコトヲ得サルヘシ

前記通行權ニハ殊ニ機關車庫及車輛小修繕工場ヲ設置スルノ權利並「チェッコ、スロヴァキア」國ノ列車ノ業務ヲ監督スル代表者ヲ指名スルノ權利

國中ノ一國ニ向フ電報通信及電話通信ニ許與スルコトヲ約ス上記ノ通信ハ無用ニ遲延セシメラレ又ハ制限セララルコトナカルヘク各種ノ便益ニ關シ及殊ニ通信ノ速達ニ關シ奧地利國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ發信人又ハ受信人ノ國籍ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ニ關シ差別ヲ設クルコトナカルヘシ

第三百二十七條

奧地利國ハ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ地理上ノ位置ニ鑑ミ第十編(經濟條項)第二百三十五條ニ掲グル萬國電信電話條約ニ付左記修正ヲ受諾ス

- 一 「チェッコ、スロヴァキア」國ノ請求アルトキハ奧地利國ハ其ノ版圖ヲ横斷スル電信直通線ヲ建設シ且維持スヘシ
- 二 前號ノ各線ニ對シ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ支拂フヘキ料金年額ハ前記條約ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定スヘク且別段ノ條約ナキトキハ里斯本ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約第二十三條第五號ニ規定シタル低減料金率ヲ基礎トシ且新直通線建設ノ請求ヲ含ムモノトシテ前記條約ニ定メタル通信數ニ對シ該條約ニ依リ支拂フヘキ金額ヨリ少カラサルヘシ
- 三 「チェッコ、スロヴァキア」國カ一直通線ニ付定ムル前記ノ最低料金年額ヲ支拂フ限リ

(イ) 右直通線ハ「チェッコ、スロヴァキア」國ニ向ヒ又ハ「チェッコ、スロヴァキア」國ヨリ來ル通信ノ爲ニ之ヲ專用スヘシ

(ロ) 千八百七十五年七月二十二日ノ萬國電信條約第八條ニ依リ奧地利國ノ取得シタル萬國電信業務ヲ停止スルノ權ハ右直通線ニ之ヲ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

利ヲ包含スヘシ

第三百二十四條

「チェッコ、スロヴァキア」國カ其ノ通行權ヲ行使スヘキ技術上、管理上及財政上ノ條件ハ同國ノ鐵道ト其ノ奧地利國內ニ於テ使用スル鐵道トノ間ノ條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ右條約ノ條項ニ付當該鐵道間ニ協議調ハサルトキハ英國政府ノ任命スル一名ノ仲裁委員ニ於テ意見ノ一致セサル諸點ヲ決裁スヘク其ノ判定ハ當事者雙方ヲ拘束スルモノトス

右條約ノ解釋ニ關シ意見ノ一致セサル場合又ハ該條約ノ豫見セザリシ紛議ヲ生シタル場合ニハ國際聯盟ニ於テ他ノ措置ヲ執ラサル限リ右同一方法ノ仲裁ニ依リテ之ヲ決裁スヘシ

第六章 經過規定

第三百二十五條

奧地利國ハ同盟及聯合國ノ名ニ於テ行動スル官憲力左記運送上ノ事項ニ付奧地利國ニ與フヘキ指令ヲ實行スヘシ

- 一 本條約ニ依リテ行ハルル軍隊ノ運送並軍用ノ材料、彈藥及糧秣等ノ運搬
- 二 一時的措置トシテ特定地方ヘノ供給品ノ運送、平時運送狀態ノ成ルヘク迅速ナル回復及郵便電信業務ノ整備

第七章 電信及電話

第三百二十六條

現行ノ諸條約ニ別段ノ規定アル場合ニ於テモ奧地利國ハ國際交通上最適當ナル線ヲ經且現行料金率ニ依リテ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國中ノ一國(其ノ奧地利國ニ隣接スルト否トテ問ハス)ヨリ來リ又ハ同盟及聯合

〔外務版〕

適用セズ

- 四 直通電話回線ニ對シ「チェッコ、スロヴァキア」國ノ支拂フヘキ料金ハ別段ノ條約ナキトキハ一直通電信線ニ對シテ支拂フヘキ料金ノ倍額タルヘシ
- 五 現行ノ國際諸條約又ハ本條ニ規定ナキ必要ナル管理上、技術上及財政上ノ諸條件ト共ニ定ムヘキ特別線ハ關係諸國間ニ於テ將來締結スヘキ條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ右條約ニ付協議調ハサルトキハ國際聯盟理事會ニ於テ指名スル一名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ
- 六 本條ノ規定ハ奧地利及「チェッコ、スロヴァキア」兩國間ノ取極ニ依リ何時タリトモ之ヲ變更スルコトヲ得本條約實施ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後「チェッコ、スロヴァキア」國カ本條ニ依リ許與セララル權利ヲ享有スヘキ條件ハ當事國間ニ協議調ハサルトキハ當事國ノ一方ノ請求ニ基キ國際聯盟理事會ニ於テ指名スル一名ノ仲裁委員之ヲ變更スルコトヲ得ヘシ
- 七 本條ノ解釋又ハ本條第五號ニ掲グル條約ノ解釋ニ付當事國間ニ爭議生シタルトキハ右爭議ハ國際聯盟ノ設置スヘキ常設國際司法裁判所ノ決裁ニ依ルヘシ

第四款 紛争ノ處理及永久條項ノ改正

第三百二十八條

本編ノ解釋及適用ニ關シ關係國間ニ生スルコトアルヘキ爭議ハ國際聯盟ノ定ムル所ニ依リ解決セララルヘシ

第三百二十九條



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

國際聯盟ハ何時タリトモ前記諸條中永久的管理制度ニ關スル規定ノ改正ヲ提議スルコトヲ得ヘシ

第三百二十條

第二百八十四條乃至第二百九十條、第二百九十三條、第三百十二條、第三百十四條乃至第三百十六條及第三百二十六條ノ規定ハ本條約實施ノ日ヨリ三年ノ期間滿了ノ上ハ何時タリトモ國際聯盟理事會ニ於テ之ヲ改正スルコトヲ得ヘシ

改正ナキ場合ニ於テハ右列記ノ各條ニ規定スル利益ハ前項ノ期間滿了ノ後ハ同盟及聯合國中ノ一國ニ於テ其ノ版圖内ノ一地方ニシテ相互待遇ヲ許與セサルモノノ爲ニ之ヲ請求スルコトヲ得サルヘシ相互待遇ヲ請求シ得サル右三年ノ期間ハ國際聯盟理事會之ヲ延長スルコトヲ得ヘシ  
舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國ハ前記各條ニ規定スル利益ヲ主張スルコトヲ得サルヘシ但シ右諸國カ本條約ニ依リ其ノ主權ノ下ニ移ル地方ニ付奧地利國ニ對シ相互待遇ヲ保障スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五款 特別規定

第三百三十一條

奧地利國ハ同盟及聯合國間ニ國際聯盟ノ承認ニ得テ本條約實施ノ日ヨリ五年ノ期間内ニ締結セラルヘキ通過、航行可能水路、港及鐵道ノ國際制度ニ關スル一般條約ニ加入スルコトヲ約ス但シ同盟及聯合國ノ利益ノ爲ニ本條約ニ定ムル奧地利國ノ特殊義務ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第十三編 勞動

第一款 勞動機關

國際聯盟ハ世界平和ノ確立ヲ目的トシ而シテ世界平和ハ社會正義ヲ基礎トスル場合ニ於テノミ之ヲ確立シ得ヘキモノナルニ因リ  
多數ノ人民ニ對スル不正、困苦及窮乏ヲ伴フ現今ノ勞動狀態ハ大ナル不安ヲ醸生シ惹テ世界ノ平和協調ヲ危殆ナラシムヘキニ因リ彼ノ勞動時間ノ制定殊ニ一日又ハ一週ノ最長勞動時間ノ限定、勞動供給ノ調節、失業ノ防止、相應ノ生活ヲ支フルニ足ル賃銀ノ制定、勞務傷害及疾病ニ對スル勞動者ノ保護、兒童年少者及婦人ノ保護、老年及廢疾ニ對スル施設、自國外ニ於テ使用セラルル勞動者ノ利益ノ保護、結社自由ノ原則ノ承認、職業及技術教育ノ組織等ノ如キ手段ヲ以テ前記勞動狀態ヲ改善スルコトハ刻下ノ急務ナルニ因リ  
一國ニ於テ人道的勞動條件ヲ採用セサルトキハ他ノ諸國ノ之ヲ改善テ企圖スルモノニ對シ障礙ト爲ルヘキニ因リ  
茲ニ締約國ハ正義人道ヲ旨トシ世界恆久ノ平和ヲ確保スルノ冀望ヲ以テ左ノ諸條ヲ協定ス

第一章 機關

第三百三十二條

前文記載ノ目的ヲ達セムカ爲茲ニ常設機關ヲ設置ス  
國際聯盟ノ原聯盟國ハ右常設機關ノ原聯盟國タルヘク今後國際聯盟ノ聯盟國ト爲ルモノハ同時ニ右常設機關ノ聯盟國タルヘキモノトス

第三百三十三條

常設機關ハ(一)縮盟國代表者ノ勞動總會及(二)第三百三十八條ニ規定スル勞動理事會ノ管理ニ屬スル國際勞動事務局ヨリ成ル

第三百三十四條

縮盟國代表者ノ勞動總會ノ會議ハ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開クヘシ勞動總會ハ各縮盟國四名ツツノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス内ニ二名ハ政府ノ代表委員、他ノ二名ハ當該國ニ於ケル使用者及勞動者ヲ各代表スル代表委員タルヘシ

各代表委員ハ顧問ヲ同伴スルコトヲ得但シ會議事項ノ各項目ニ付二名ヲ超ユルコトヲ得ス勞動總會ニ於テ特ニ婦人ニ關スル問題ヲ議スル場合ニ於テハ顧問中少クトモ一名ハ婦人タルコトヲ要ス

縮盟國ハ其ノ國ニ於テ使用者又ハ勞動者ヲ最能ク代表スル産業上ノ團體カ存在スル場合ニ於テハ該團體トノ協議ニ依リ各民間代表委員及其ノ顧問ヲ任命スルコトヲ約ス

顧問ハ之ヲ同伴スル代表委員ノ請求及總會ノ議長ノ特別ノ許可アル場合ヲ除クノ外發言スルコトヲ得ス又顧問ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

代表委員ハ議長宛ノ通告書ニ依リ其ノ顧問ノ一名ヲ自己ノ代理者トシテ指名スルコトヲ得顧問ハ右代理中發言シ及表決ヲ爲スコトヲ得  
代表委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各縮盟國政府之ヲ國際勞動事務局ニ通知スヘシ

代表委員及其ノ顧問ノ委任狀ハ之ヲ勞動總會ノ審查ニ付スヘシ勞動總會ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ本條ニ依リ任命セラレタル者ニ非スト認ムル代表委員又ハ顧問ノ列席ヲ拒絕スルコトヲ得

第三百三十五條

各代表委員ハ勞動總會ニ付議セラレタル一切ノ事項ニ付各別ニ表決ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

(外初版)

縮盟國任命權ヲ有スルニ拘ラス民間代表委員中ノ一名ヲ任命セサルトキハ他ノ民間代表委員ハ勞動總會ニ出席シ發言スルコトヲ得ルモ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十六條

第三百三十四條ニ依リ勞動總會カ縮盟國ノ一代表委員ノ列席ヲ拒絕シタルトキハ該代表委員ノ任命ナカリシモノト看做シ本條ノ規定ヲ適用ス  
勞動總會ノ會議ハ國際聯盟本部所在地又ハ前會議ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ總會カ議決シタル他ノ地ニ於テ之ヲ開ク

第三百三十七條

國際勞動事務局ハ聯盟機關ノ一部トシテ國際聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス

第三百三十八條

國際勞動事務局ハ左ノ規定ニ依リ選任シタル二十四名ヲ以テ組織スル勞動理事會ノ管理ニ屬ス  
勞動理事會ノ組織ハ左ノ如シ  
政府ヲ代表スル者十二名  
使用者ヲ代表スル勞動總會代表委員ノ選舉シタル者六名  
勞動者ヲ代表スル勞動總會代表委員ノ選舉シタル者六名

政府ヲ代表スル十二名ノ中八名ハ主要産業國タル縮盟國之ヲ任命シ他ノ四名ハ右八國以外ノ縮盟國ノ勞動總會政府代表委員ニ於テ之カ爲選定シタル縮盟國之ヲ任命スヘシ  
主要産業國カ何レナルカノ問題ハ國際聯盟ノ聯盟理事會之ヲ決定スヘシ



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

三百十四

勞働理事會員ノ任期ハ三年トス 閣員ノ補充方法其ノ他ニ類スル事項ハ  
勞働總會ノ承認ヲ條件トシテ勞働理事會之ヲ定ムルコトヲ得  
勞働理事會ハ會員中ノ一名ヲ隨時ニ會長ニ選舉シ 議事規則ヲ設ケ及其ノ  
會議ノ期日ヲ定ム 臨時會議ハ會員十名以上ノ書面請求アリタルトキハ之  
ヲ開クヘシ

第三百三十九條

國際勞働事務局ニ局長ヲ置キ 勞働理事會之ヲ任命ス 局長ハ 勞働理事會ノ  
指揮ヲ受ケ 國際勞働事務局ノ事務及他ノ委託事務ノ遂行ニ付其ノ責ニ任  
ス  
局長又ハ其ノ代理者ハ 勞働理事會ノ一切ノ會議ニ列席スヘシ

第三百四十條

國際勞働事務局ノ職員ハ 局長之ヲ任命ス 右職員ハ 國際勞働事務局事務ノ  
成績ヲ擧クルニ差支ナキ限リ成ルヘク 國籍ヲ異ニスル諸國人中ヨリ之ヲ  
選任スヘク 且其ノ若干名ハ 婦人タルコトヲ要ス

第三百四十一條

國際勞働事務局ノ職能ニハ 勞働者ノ生活狀態及勞働條件ノ國際的調節ニ  
關スル一切ノ情報ノ蒐集配布、殊ニ國際條約締結ノ目的ヲ以テ 勞働總會  
ニ提出セムトスル事項ノ審査並 勞働總會ノ命ニ依ル特別調査ノ遂行ヲ含  
ムモノトス

國際勞働事務局ハ 勞働總會ノ會議事項ヲ準備ス

國際勞働事務局ハ 國際紛争ニ關シ 本編ノ規定ニ依リ其ノ任務ヲ行フ

國際勞働事務局ハ 國際利害關係アル産業及勞務ノ問題ニ付 佛文、英文其  
ノ他 勞働理事會力適當ト認ムル言語ヲ以テ 定期刊行物ヲ編輯發行スヘシ

ニ之ヲ各締盟國ニ送達スヘシ 民間代表委員ノ選任アリタル場合ニ於テハ  
當該締盟國ヲ經由シテ之ニ送達スヘシ

第三百四十七條

締盟國政府ハ 勞働總會ノ會議事項中或項目ノ存置ニ對シ 反對ヲ述フルノ  
權ヲ有ス 右反對ノ理由ハ 局長宛ノ説明書ニ之ヲ記載スヘク 局長ハ之ヲ本  
常設機關ノ各締盟國ニ送付スヘシ  
尤モ前記ノ反對アリタル項目ト雖 勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタ  
ル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ 審議スヘキモノト 議決シタルトキハ之ヲ  
會議事項中ヨリ削除スルコトヲ得ス

前項ノ外 勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數  
ヲ以テ或事項ヲ審議スヘキ旨ヲ 議決シタルトキハ 該事項ハ之ヲ次期會議  
ノ事項中ニ加フヘシ

第三百四十八條

勞働總會ハ 自ら會議手續ヲ定メ及議長ヲ選舉スヘシ 又各種ノ事項ニ付 審  
査報告ヲ爲サシムル爲メ 委員會ヲ組織スルコトヲ得  
本編ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外 一切ノ事項ハ 出席代表委員ノ爲シ  
タル表決ノ單純多數ニ依リ之ヲ決ス

爲サレタル表決ノ總數力 勞働總會出席代表委員ノ半數ニ達セサルトキハ  
採決ハ之ヲ無効トス

第三百四十九條

勞働總會ハ 其ノ組織シタル各委員會ニ 專門委員ヲ 附屬セシムルコトヲ得  
專門委員ハ 審議ニ參加シ 表決權ヲ有セス

第三百五十條

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

本條ニ定メタル職能ノ外 尙國際勞働事務局ハ 勞働總會ノ委託ニ係ル一切  
ノ權能及任務ヲ有スルモノトス

第三百四十二條

産業及勞務ノ問題ヲ 管掌スル 締盟國政府ノ各省ハ 勞働理事會ニ於ケル當  
該政府ノ代表者、代表者ナキ場合ニ於テハ之カ爲政府ノ任命シタル當該  
官吏ヲ經由シテ 直接ニ局長ト通信スルコトヲ得

第三百四十三條

國際勞働事務局ハ 國際聯盟事務總長ノ助力ヲ受クルコトヲ得ヘキ事項ニ  
付 右助力ヲ請求スルコトヲ得

第三百四十四條

勞働總會又ハ 勞働理事會ノ會議ニ 出席スル代表者、代表委員及其ノ顧問  
ノ旅費及手當ハ 各締盟國之ヲ支辨ス 國際勞働事務局並 勞働總會及 勞働理  
事會ノ會議ニ關スル他ノ一切ノ費用ハ 國際聯盟事務總長聯盟ノ一般資金  
中ヨリ之ヲ局長ニ交付ス

局長ハ 本條ニ依リ 交付ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付 國際聯盟事務總長ニ對  
シ其ノ責ニ任スヘシ

第二章 手續

第三百四十五條

勞働總會ノ一切ノ會議ノ會議事項ハ 勞働理事會之ヲ決定ス 勞働理事會ハ  
締盟國ノ政府又ハ 第三百三十四條ノ目的ノ爲承認セラレタル代表團體ノ  
提出スル會議事項ノ案ヲ 審議スヘシ

第三百四十六條

局長ハ 勞働總會ノ幹事トシテ 行動ス會議事項ハ 勞働總會ノ開催前四月迄  
勞働總會ニ於テ會議事項中或項目ニ關シ 提案ヲ可決シタルトキハ 勞働  
總會ハ 該提案ニ付 (イ) 締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之カ實現ヲ爲  
サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲該締盟國ニ送付スル勸告又ハ (ロ) 締盟  
國ニ依リ批准セラレヘキ國際條約案ノ執レノ形式ニ依ルヘキカヲ決定ス

勞働總會ニ於テ前項ノ勸告又ハ條約案ヲ可決確定スル爲ニハ 執レノ場合  
ニ於テモ 出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ要ス

締盟國一般ニ適用スヘキ勸告又ハ條約案ヲ立案スル場合ニ於テハ 勞働總  
會ハ 氣候ノ狀態、産業組織ノ不充分ナル發達其ノ他特殊ノ事情ニ因リ 産  
業狀態著シキ差異アル國ニ關シ 相當斟酌ヲ加フヘク 且斯ノ如キ國ノ事情  
ニ適應セシムル爲必要ト認ムルモノアルトキハ 右勸告又ハ條約案ニ加フ  
ヘキ變更ヲ提示スヘシ

勸告又ハ條約案ハ 勞働總會ノ議長及局長其ノ一通ニ署名シテ之ヲ 確認シ  
國際聯盟事務總長ニ寄託スヘク 事務總長ハ 其ノ勸告又ハ條約案ノ 認證書  
本ヲ各締盟國ニ送付スヘシ

締盟各國ハ 勞働總會閉會後一年以内ニ立法其ノ他ノ措置ヲ執ルカ爲右ノ  
勸告又ハ條約案ヲ其ノ事項ニ付 權限アル機關ノ議ニ付スヘキコトヲ約ス

但シ 已ムテ得サル事情ノ爲右期間内ニ其ノ議ニ付スルコト能ハサルトキ  
ハ 成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ 勞働總會閉會後十八月ヲ超エサ  
ル期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

勸告ニ付テハ 締盟國ハ之ニ關シ 執リタル措置ヲ事務總長ニ通知スヘシ

條約案ニ付テハ 締盟國ニ於テ其ノ事項ニ關シ 權限アル機關ノ同意ヲ得タ  
ル場合ニ於テハ 右條約ノ正式批准ヲ事務總長ニ通告シ 且右條約ノ規定ノ  
實施ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

〔外初版〕

三百十五



勸告ニ付其ノ實現ニ必要ナル立法其ノ他ノ措置ヲ執ルコトナカリシ場合  
又ハ條約案ニ付其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得サリシ場合ニ於  
テハ締盟國ハ他ノ何等ノ義務ヲ負フコトナシ  
労働事項ニ關スル條約ニ加盟スルノ權能ニ制限アル聯邦國ニ在リテハ當  
該國政府ハ其ノ裁量ニ依リ右制限ノ適用アル條約案ヲ單ニ勸告ト認ムル  
コトヲ得此ノ場合ニハ勸告ニ關スル本條ノ規定ヲ準用ス  
本條ハ左ノ原則ニ從ヒ之ヲ解釋スヘシ  
締盟國ハ如何ナル場合ニ於テモ労働總會カ或勸告又ハ條約案ヲ採用シタ  
ル結果トシテ其ノ國ノ現行法制上當該労働者ニ與ヘタル保護ノ減殺ヲ要  
求セラルルコトナカルヘシ

第三百五十一條

右ニ依リ批准セラレタル一切ノ條約ハ國際聯盟事務總長之ヲ登錄スヘシ  
該條約ハ之ヲ批准シタル締盟國ノミチ拘束スヘシ

第三百五十二條

條約案カ労働總會ノ最終審議ニ付セラレタル場合ニ於テ出席代表委員ノ  
爲シタル表決ノ三分ノ二ノ同意ヲ得サリシトキト雖本常設機關ノ締盟國  
ハ右條約案ヲ希望スル各國間ニ於テノ之ヲ採用スルノ權ヲ有ス  
右ニ依リ採用シタル條約ハ當該國政府國際聯盟事務總長ニ之ヲ通知シ事  
務總長ハ之ヲ登錄スヘシ

第三百五十三條

各締盟國ハ其ノ締結シタル條約ノ規定實施ノ爲執リタル措置ニ關スル年  
報ヲ國際労働事務局ニ提出スルコトヲ約ス該年報ノ様式及記載事項ハ勞  
働理事會ノ指定スル所ニ依リ局長ハ該年報ノ要領ヲ労働總會ノ次期會議

ノ手續ヲ爲スコトヲ得

労働理事會第三百五十五條又ハ第三百五十六條ノ適用ヨリ生スル問題ヲ  
審議スルニ當リ申告又ハ異議ノ相手國政府カ労働理事會ニ其ノ代表者ヲ  
有セサル場合ニ於テハ該政府ハ其ノ審議中労働理事會ノ議事ニ參加セシ  
ムル爲代表者ヲ出スノ權ヲ有ス審議ノ期日ハ該國政府ニ對シ適當ノ時期  
ニ之ヲ通知スヘシ

第三百五十七條

労働審理委員會ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス

各締盟國ハ本條約實施後六月以内ニ産業上ノ經驗アル者三名ヲ任命スル  
コトヲ約ス内一名ハ使用者ノ代表者、一名ハ労働者ノ代表者、他ノ一名ハ  
中立ノ地位ニ在ル者タルヘシ労働審理委員會ノ委員ハ右任命セラレタル  
者ノ名簿中ヨリ之ヲ選定スヘシ  
右任命セラレタル者ノ資格ハ労働理事會之ヲ審査ス労働理事會ハ資格カ  
本條ノ要件ニ適合セスト認ムル者ノ任命ニ對シ出席代表者ノ爲シタル表  
決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ承認ヲ拒ムコトヲ得  
労働理事會ノ請求アリタルトキハ國際聯盟事務總長ハ労働審理委員會ヲ  
組織セシムル爲前記名簿ノ各部ヨリ一名ツツ三名ヲ選定シ内一名ヲシテ  
之カ議長ヲラシムヘシ右三名ハ何レモ直接ニ異議ニ關係アル締盟國ノ任  
命シタル者ナラサルコトヲ要ス

第三百五十八條

第三百五十六條ニ依リ異議カ労働審理委員會ニ付セラレタル場合ニ於テ  
ハ各締盟國ハ直接之ニ關係アルト否トニ拘ラス該異議事項ニ付其ノ有ス  
ル一切ノ資料ヲ労働審理委員會ニ提供スルコトヲ約ス

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ニ報告スヘシ

第三百五十四條

使用者又ハ労働者ノ組織スル産業上ノ團體ヨリ國際労働事務局ニ對シ締  
盟國ノ一國カ其ノ締結シタル條約ニ付其ノ管轄内ニ於テ確實ナル履行ヲ  
爲ササルコトヲ申告シタル場合ニ於テハ労働理事會ハ其ノ申告ヲ當該國  
政府ニ移牒シ且右ニ付其ノ相當ト認ムル辯明書ノ提出ヲ勸誘スルコトヲ  
得

第三百五十五條

労働理事會ハ當該國政府ヨリ相當期間内ニ辯明書ヲ接受セス又ハ其ノ接  
受シタル辯明書ヲ不充分ト認ムル場合ニ於テハ右申告書及之ニ對スル辯  
明書アルトキハ其ノ辯明書ヲ公表スルノ權ヲ有ス

第三百五十六條

各締盟國ハ他ノ締盟國カ前數條ニ依リ共ニ批准シタル條約ノ確實ナル履  
行ヲ爲サスト認ムル場合ニ於テハ國際労働事務局ニ對シ異議ヲ提起スル  
ノ權ヲ有ス  
労働理事會ハ以下規定スル所ニ從ヒテ右ノ異議ヲ労働審理委員會ニ付ス  
ルニ先チ其ノ裁量ニ依リ第三百五十四條ノ定ムル方法ニ準シ右異議ノ相  
手國政府ニ之ヲ移牒スルコトヲ得

労働理事會ハ右異議ヲ相手國政府ニ移牒スルノ必要ヲ認メサルトキ又ハ  
右移牒ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ充分ト認ムル辯明書ヲ相當期間内ニ接  
受セサルトキハ該異議ノ審査及之ニ關スル報告ヲ爲サシムル爲労働審理  
委員會ノ設置ヲ求ムルコトヲ得  
労働理事會ハ其ノ發意ニ依リ又ハ労働總會ノ代表委員ノ異議ニ基キ同一

〔外初版〕

第三百五十九條

労働審理委員會異議ニ付充分ナル審査ヲ了シタルトキハ之ニ關スル報告  
書ヲ作成スヘシ報告書ニハ係争問題ノ決定ニ關係アル一切ノ事實ノ認定  
並該異議ニ對シ執ルヘキ處置及之カ實行期限ニ關シ適當ト認ムル勸告ヲ  
記載スルモノトス

労働審理委員會ハ又勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁  
手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テ  
ハ之ヲ其ノ報告書中ニ指示スヘシ

第三百六十條

國際聯盟事務總長ハ労働審理委員會ノ報告書ヲ異議ニ關係アル各國政府  
ニ送付シ又之ヲ公表セシムヘシ  
前項ノ送付ヲ受ケタル各國政府ハ労働審理委員會ノ報告書ニ記載スル勸  
告ヲ採用スルヤ否ヤ、若シ之ヲ採用セストセハ當該異議ニ付國際聯盟ノ  
常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ意思アリヤ否ヤチ一月以内ニ國際  
聯盟事務總長ニ通告スヘシ

第三百六十一條

締盟國中勸告又ハ條約案ニ關シ第三百五十條ニ依リ措置ヲ執ラサル者ア  
ル場合ニ於テハ他ノ締盟國ハ右ニ付常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムル  
ノ權ヲ有ス

第三百六十二條

第三百六十條又ハ第三百六十一條ニ依リ常設國際司法裁判所カ裁判ヲ求  
メラレタル異議又ハ他ノ事項ニ付其ノ爲シタル判決ハ終結トス

第三百六十三條



常設國際司法裁判所ハ労働審理委員會ノ爲シタル事實ノ認定又ハ勸告アル場合ニ於テハ之ヲ確認シ、變更シ又ハ廢棄スルコトヲ得勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ該判決中ニ指示スヘシ

第三百六十四條

労働審理委員會ノ報告書又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ニ勸告ノ記載アル場合ニ於テ締盟國カ其ノ勸告ヲ所定ノ期間内ニ實行セザルトキハ他ノ各締盟國ハ右勸告ヲ實行セザル國ニ對シ前記ノ報告書又ハ判決中ニ適當ナリトシテ指示シタル經濟的制裁手段ヲ執ルコトヲ得

第三百六十五條

勸告ヲ實行セザル政府ハ労働審理委員會ノ勸告又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ノ勸告ニ違由スルニ必要ナル處置ヲ執リタル旨何時タリトモ労働理事會ニ通知シ且其ノ通知ノ内容ヲ確ムル爲労働審理委員會ノ開設ヲ國際聯盟事務總長ニ申立ツルコトヲ労働理事會ニ請求スルコトヲ得第三百五十七條乃至第三百六十條、第三百六十二條及第三百六十三條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス労働審理委員會又ハ常設國際司法裁判所カ當該政府ニ對シ有利ナル報告又ハ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ諸政府ハ直ニ之ニ對スル經濟的制裁手段ヲ停止スヘシ

第三章 一般規定

第三百六十六條

締盟國ハ本編ノ規定ニ依リ批准シタル諸條約ヲ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セザルモノニ左ノ條件ノ下ニ適用スルコトヲ得

第三百七十條

本款ノ規定ニ依リ國際聯盟事務總長ニ提出スヘキ一切ノ書類ハ國際聯盟ノ組織セラルル迄ノ間國際労働事務局長之ヲ保管シテ追テ國際聯盟事務總長ニ之ヲ引續クヘシ

第三百七十一條

本編ノ規定ニ依リ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘキ紛争ハ該裁判所ノ開設ニ至ル迄ノ間國際聯盟理事會選定ノ三名ヲ以テ組織スル裁判所ニ之ヲ付託スヘシ

附屬書

千九百十九年第一回労働總會會議

會議ノ地ハ華盛頓トス

會議ノ召集ハ亞米利加合衆國政府ニ之ヲ委囑ス

國際準備委員會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及瑞西國ノ任命スル七名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス右委員會ハ必要ト認ムルトキハ前記以外ノ締盟國ニ對シ代表者ノ任命ヲ求ムルコトヲ得

會議事項

一 一日八時間又ハ一週四十八時間ノ原則ノ適用ノ件

二 失業ニ對スル豫防又ハ救済ノ件

三 婦人使用ノ件

(イ) 産前産後(産婦ニ對スル手當問題ヲ含ム)

(ロ) 夜間

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

一 條約カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト  
二 土地ノ狀況ニ適應セシムル爲條約ニ必要ナル變更ヲ加フルコト  
締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セザルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際労働事務局ニ通告スヘシ

第三百六十七條

本編ノ改正ハ労働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ之ヲ可決シ國際聯盟理事會ヲ組織スル代表者ノ屬スル各國及總數四分ノ三ノ締盟國之ヲ批准シタル場合ニ於テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三百六十八條

本編ノ解釋又ハ締盟國間ニ於テ將來本編ノ規定ニ基キ締結スル條約ノ解釋ニ關スル疑義又ハ紛争ハ之ヲ常設國際司法裁判所ノ裁判ニ付スヘキモノトス

第四章 經過規定

第三百六十九條

労働總會ノ第一回會議ハ千九百十九年十月之ヲ開クヘシ會議ノ地及會議事項ハ附屬書ニ之ヲ定ム  
第一回會議ノ召集及組織ハ右附屬書ニ指定スル政府之ヲ準備ス該政府ハ労働總會ニ提出スヘキ書類ノ作成ニ付同附屬書ニ依リ組織シタル國際準備委員會ノ助力ヲ受ケヘシ

第一回會議ノ經費及國際聯盟カ一般資金ヲ設定シ得ルニ至ル迄ニ開催スル爾後ノ會議ノ經費ハ代表委員及其ノ顧問ノ經費ヲ除クノ外萬國郵便聯合總局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ締盟國之ヲ負擔ス

(外初版)

(ハ) 健康上有害ナル作業

四 兒童使用ノ件

(イ) 使用ノ最低年齢

(ロ) 夜間

(ハ) 健康上有害ナル作業

五 産業ニ使用セラルル婦人ノ夜業ノ禁止及燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百十六年「ベルヌ」國際條約ノ擴張及適用ノ件

第二款 一般原則

第三百七十二條

締約國ハ産業ニ従事スル賃銀生活者ノ身體上道德上及智能上ノ福祉ハ最重要ナル國際事項ナリト認メ此ノ大ナル目的ノ爲茲ニ國際聯盟ノ機關ト相待テ第一款ニ規定スル常設機關ヲ組織シタリ

締約國ハ氣候、慣行及習俗、經濟上ノ機會並産業上ノ困難ノ相異ハ労働條件ノ劃一ヲ急速ニ實現スルコトヲ困難ナラシムルモノト認ム然レトモ

締約國ハ現ニ労働力單ナル商品ト看做サルヘキモノニ非スト認ムルカ故ニ労働條件ヲ規律スル方法及原則ニシテ一切ノ産業國カ各自ノ特殊事情

ノ許ス限リ之ヲ適用チカムヘキモノノ存スルヲ認ム

締約國ニ於テハ右方法及原則中左ニ掲グルモノヲ以テ特別且緊急ノ必要アルモノト認ム

一 労働ハ單ニ貨物又ハ商品ト認ムヘキモノニ非ストノ前記ノ基本原則

二 使用者又ハ被用者カ一切ノ適法ナル目的ノ爲結社スルノ權利



- 三 其ノ時及其ノ國ニ於テ相當ト認メラルル生活程度ヲ維持スルニ足ル貨銀ヲ被用者ニ支拂フヘキコト
- 四 一日八時間又ハ一週四十八時間ノ制ヲ實行スルニ至ラサル諸國ニ於テハ之ヲ其ノ到達ノ目標トシテ採用スヘキコト
- 五 日曜日ヲ成ルヘク包含シ二十四時間ヲ下ラサル毎週一回ノ休息ヲ與フルノ制ヲ採用スヘキコト
- 六 兒童勞動ヲ廢止スヘキコト及年少者ノ勞動ニ對シ其ノ教育ヲ繼續スルコトヲ得且身體ノ正當ナル發達ヲ確保スヘキ制限ヲ設クヘキコト
- 七 同一價值ノ勞動ニ對シテハ男女同額ノ報酬ヲ受クヘキ原則
- 八 各國方其ノ法令ニ依リ定ムル勞動條件ニ關スル標準ハ適法ニ其ノ國ニ居住スル一切ノ勞動者ニ對スル平衡ナル經濟上ノ待遇ヲ確保スヘキコト
- 九 各國ハ被用者ノ保護ヲ目的トスル法令ヲ勵行スル爲監督ノ制度ヲ設ケ婦人ヲシテ之ニ參加セシムヘキコト

第十四編 雜則

第三百七十三條

奧地利國ハ武器及火酒類ノ取引ニ關シ並千八百八十五年二月二十六日ノ

伯林一般議定書、千八百九十年七月二日ノ「ブリュッセル」一般議定書及右兩議定書ヲ補足シ又ハ變更スル條約ニ規定スル他ノ事項ニ關シ同盟及聯合國又ハ其ノ或數國カ他國ト締結シタル又ハ締結スルコトアルヘキ條約ヲ認諾スルコトヲ約ス

第三百七十四條

締約國ハ千九百十八年七月十七日佛蘭西共和國政府及「モナコ」公殿下ノ署名シタル佛蘭西國及「モナコ」公國間ノ關係ヲ定ムル條約ヲ領承シタルコト及記錄ニ留ムルコトヲ承認ス

第三百七十五條

締約國ハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ議定書ニ依リ佛蘭西國ノ爲ニ規定セラレタル保障ニシテ平和維持ニ關スル國際義務ヲ設定シタルモノヲ承認スト雖維納會議最終議定書第九十二條第一項及千八百十五年十一月二十日ノ巴黎條約第三條第二項ニ定メタル「サヴォア」縣ノ中立地帯ニ關スル條約、宣言其ノ他追加議定書ノ條約ハ現時ノ狀態ニ適合セザルニ至レルコトヲ聲明ス因テ締約國ハ該地帯ニ關スル條約ノ廢止ニ佛蘭西及瑞西兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ領承ス右ノ條約ハ消滅ノ後復活スルコトナシ

附屬書

第一

(外稱版)

瑞西聯邦政府ハ佛蘭西國政府ト同様友好ノ精神ヲ以テ同盟及聯合國カ獨逸國ニ提示シタル平和條件第四百三十五條ノ規定ヲ審查シ左ノ條件及保留ノ下ニ之ヲ同意シ得ルコトニ決定シタルヲ欣幸トスル旨千九百十九年五月五日佛蘭西國政府ニ通告シタリ

一 「サヴォア」縣中立地帯

- (イ) 「サヴォア」縣中立地帯ニ關スル條約ノ廢止ニ關シ兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ聯邦議會ニ於テ批准セザル間ハ本件ニ關シテハ當事國ノ執レノ一方ニ於テモ何等確定セザルモノト認メラルヘシ
- (ロ) 瑞西國政府カ前記條約ノ廢止ニ對シ同意ヲ與フルハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ設ケラレタル保障ヲ所定正文ニ從ヒ承認スルコトヲ條件トス

(ハ) 前記條約ノ廢止ニ關スル佛蘭西國及瑞西國政府間ノ取極ハ本條力其ノ字句通平和條約中ニ挿入セラレルトキニ於テノミ之ヲ有效ト認ム尙平和條約締結國ハ千八百十五年ノ諸條約及千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ノ署名國ニシテ本平和條約ノ署名國ニ非サル諸國ノ同意ヲ得ルコトニ力ムヘキモノトス

二 「サヴォア」縣及「ジエック」郡ノ自由地帯

- (イ) 聯邦政府ハ平和條約中ニ挿入スヘキ「上」サヴォア「縣」及「ジエック」郡ノ自由地帯ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條約カ現時ノ狀態ニ適合セザルニ至レルコトヲ規定スル前記條文未項ノ記述ノ解釋ニ關シ最明確ナル留保ヲ爲ス聯邦政府ハ前記ノ條句ヲ承諾シタル爲隣接地域ニ對シ地理上及經濟上ノ位置

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ニ適應スル特殊制度ヲ便益ヲ供與スヘキ組織ニシテ既ニ試練ヲ經タルモノノ廢止ヲ承諾シタルモノト推斷セラレルコトヲ認メス聯邦政府ノ意見ニ依レハ問題ハ前記諸條約ニ依リ設定セラレタル同地帯關稅制度ノ修正ニハ非スシテ單ニ該地方間ノ貨物交易ノ條件ニ付今日ノ經濟狀態ニ一層適應スル樣規定ヲ設ケムトスルニ在リ聯邦政府ハ佛蘭西國政府ノ四月二十六日附公文ニ附屬スル該地帯將來ノ組織ニ關スル條約案ヲ詳閱シタル結果以上ノ見解ヲ有スルニ至レリ尤モ聯邦政府ハ前記ノ留保ヲ爲スト同時ニ佛蘭西國政府ニ於テ本問題ニ關シ發議スルヲ便宜ト認ムル提案アラハ最友好ノ精神ヲ以テ之ヲ考慮スルニ躊躇セザルコトヲ聲明ス

第二

佛蘭西國政府ハ前記ノ通告ニ對スル回答トシテ千九百十九年五月十八日瑞西國政府ニ對シ左ノ公文ヲ送付シタリ  
在巴里瑞西國公使館ハ五月五日附公文ヲ以テ佛蘭西共和國政府ニ對シ聯邦政府ハ提案セラレタル條約同盟及聯合國政府ト獨逸國トノ間ノ平和條約中ニ挿入スルコトニ同意シタル旨ヲ通告シタリ  
佛蘭西國政府ハ斯ク成立シタル取極ヲ欣然領承シタリ而シテ該提案條項ハ同盟及聯合國政府ニ於テ既ニ承諾濟ナリシヲ以テ獨逸國全體委員ニ提示シタル平和條件中ニ第四百三十五條トシテ之ヲ挿入シタリ  
本問題ニ關スル瑞西國政府ノ五月五日附公文ハ種種ノ意見及留保ヲ表明



シタリ  
上「サヴォア」縣及「ジニククス」郡ノ自由地帯ニ關スル見解ニ付佛蘭西國政府ハ第四百三十五條末項規定ノ趣旨ハ明瞭ニシテ誤解ノ餘地ナク殊ニ佛蘭西國及瑞西國以外ノ諸國カ該問題ニ將來利害關係ヲ有セサルヘキコトヲ暗示スルニ於テ然ルモノアルコトヲ言明スルノ光榮ヲ有ス  
共和國政府ノ關スル限リ同政府ハ佛蘭西國ノ當該地方ノ利益ヲ保護セムコトヲ切望シ右地方ノ特殊ノ地位ニ鑑ミ該地方ノ爲ニ適當ナル關稅制度ヲ確立シ且同地方ト隣接瑞西國地方トノ間ノ相互ノ利益ヲ參酌シテ現時ノ狀態ニ一層適合スル様交易ニ關スル制度ヲ決定スルノ望マシキコトニ留意ス

以上ハ佛蘭西國政治上ノ國境ニ從ヒ此ノ地方ニ於テ其ノ關稅線ヲ整理スヘキ佛蘭西國ノ權利ヲ何等妨ケサルモノトス此ノ如キ整理ハ佛蘭西國ニ於テハ其ノ境界ノ他ノ部分ニ付之ヲ行ヒ又瑞西國モ久シキ以前ニ此ノ地方ニ於ケル自國境界ニ付行ヒタル所ナリ  
共和國政府ハ本問題ニ關シ瑞西國政府カ前記自由地帯ニ於ケル現行制度ニ代フヘキ制度ニ關スル佛蘭西國ノ何レノ提案ヲモ友好ノ態度ヲ以テ欣然考慮スヘキコトヲ茲ニ聲明シタル本懷トシ佛蘭西國政府亦同様友好ノ精神ヲ以テ右提案ヲ作成セムト欲ス

尙五月五日附瑞西國公使館ノ公文申ノ前記條項ニ記述シタル自由地帯ニ關スル千八百十五年ノ制度ノ一時ノ維持ハ現行制度ヨリ協定制ニ至ル道程ニシテ之カ爲兩國政府ノ必要ト認メタル新地位ノ設定ヲ遲滯セシメサルヘキハ共和國政府ノ信シテ疑ハサル所ナリ以上ノ注意ハ五月五日附瑞西國公文第一項(イ)號「上」サヴォア」縣中立地帯」ナル標題ノ下ニ記載セ

ル一切ノ判決及命令カ有效ニシテ且拘束力アルコトヲ認諾ス又奧地利國ハ自國民ノ名ニ於テ右ノ判決又ハ命令ニ關スル何等ノ請求ヲ提出セザルコトヲ約ス  
同盟及聯合國ハ奧地利國捕獲審檢所ノ判決及命令方同盟及聯合國國民ノ財產權ニ關スル中立國國民ノ財產權ニ關スルトナ間ハ其ノ自ラ決定スル條件ニ從ヒ之ヲ審査スルノ權利ヲ留保ス奧地利國ハ事件ノ一件記録ヲ構成スル一切ノ文書(判決及命令ヲ含ム)ノ謄本ヲ提供スルコト並事件ノ右審査後與フル勸告ヲ承諾シ且之ヲ實行スルコトヲ約ス

第三百七十九條  
締約國ハ今後ノ別段ノ規定ナキ限リ本條約ノ定ムル委員會ノ議長カ可否同數ノ場合ニ於テ第二ノ表決權ヲ有スルコトニ同意ス

第三百八十條  
締約國ハ本條約ニ別段ノ規定ナキ限リ本條約カ特ニ或數國ニノミ關スル問題ヲ關係國間ニ締結セラルヘキ特別條約ニ依リテ處理スヘキ旨ヲ定ムル一切ノ場合ニ於テ右ニ關シテ生スルコトアルヘキ紛議ハ奧地利國カ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラルル迄主タル同盟及聯合國ニ依リテ處理セラルヘキモノナルコトニ同意ス

第三百八十一條  
本條約ノ「舊奧地利帝國」トハ本文中ニ別段ノ意議ヲ指示セザル限リ「ボスニア」及「ヘルツェゴヴィナ」ヲ包含ス本規定ハ右兩地方ニ關スル佛蘭西國ノ權利義務ヲ害スルコトナシ  
本條約ハ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ之ヲ作成シ批准ヲ要ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル但シ第一編(國際聯盟規約)及

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ラレタル聯邦議會ノ批准ニ亦之ヲ適用ス

第三百七十六條  
同盟及聯合國ニ屬スル諸地方又ハ本條約ニ依リ其ノ施政ニ委託セララル諸地方ニ於テ奧地利國ノ會社又ハ個人カ基督教傳道事業ヲ維持シタルトキハ該同盟及聯合國ハ此等ノ教會又ハ傳道會社ノ財產(傳道事業維持ノ爲收益ヲ提供スル商會社ノ財產ヲ含ム)カ引續キ傳道ノ用ニ供セラルヘキコトヲ約ス右約定ノ實行ヲ確保スル爲同盟及聯合國政府ハ其ノ任命又ハ承認ニ係リ且當該財產ヲ所有スル傳道會ノ宗派ニ屬スル者ヨリ成ル管財委員會ニ右財產ヲ引渡スヘシ

同盟及聯合國政府ハ傳道會ヲ支配スル個人ニ對シ引續キ完全ナル監督權ヲ行使スルト共ニ該傳道會ノ利益ヲ擁護スヘシ  
奧地利國ハ右約定ニ鑑ミ前記ノ傳道會又ハ商會社ノ事業遂行ニ關シ當該同盟及聯合國政府ノ爲シ又ハ爲スヘキ協定ヲ受諾スルコトヲ聲明ス且前記ノ傳道會又ハ商會社ノ爲一切ノ請求權ヲ拋棄ス

第三百七十七條  
本條約ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外奧地利國ハ本條約實施前ノ事實ニ基キ本條約ノ署名國タル同盟及聯合國ニ對シテ何等金錢上ノ請求ヲ直接又ハ間接ニ提出セザルコトヲ約ス  
本規定ハ此ノ種一切ノ請求權ヲ完全且確定的ニ拋棄セシメタルモノニシテ右請求權ハ其ノ利害關係人ノ何人タルヲ問ハス爾後消滅スヘシ

第三百七十八條  
奧地利國ハ同盟及聯合國ノ或捕獲審檢所ノ下シタル奧地利國捕獲審檢所ノ貨物ニ關スル一切ノ判決及命令並訴訟費用ノ支拂ニ關ス

第十三編(勞働)ニ於テハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ハ同一ノ價值ヲ有スルモノトス  
批准書ノ寄託ハ成ルヘク速ニ巴里ニ於テ之ヲ爲スヘシ  
政府カ歐羅巴以外ノ地ニ在ル國ハ巴里ニ於ケル自國ノ外交代表者ニ由リ佛蘭西共和國政府ニ對シ單ニ其ノ批准書ノ旨ヲ通報スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ成ルヘク速ニ批准書ヲ送付スルコトヲ要ス  
批准書寄託ノ第一回調書ハ一方ニ於テ奧地利國、他ノ一方ニ於テ主タル同盟及聯合國中ノ三國カ本條約ヲ批准シタル後直ニ之ヲ作成スヘシ  
本條約ハ之ヲ批准シタル締約國間ニ於テハ前記第一回調書ノ日ヨリ之ヲ實施ス本條約ニ規定スル期間ノ算定ニ付テハ總テ此ノ日ヲ以テ本條約實施ノ日トス  
他ノ一切ノ關係ニ於テハ本條約ハ各締約國ノ批准書寄託ノ日ヨリ該國ニ對シ之ヲ實施ス

佛蘭西國政府ハ批准書寄託調書ノ認證謄本ヲ各署名國ニ送付スヘシ  
右證據トシテ前記各全權委員ハ本條約ニ署名ス  
千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ本書一通ヲ作成シ之ヲ佛蘭西共和國政府ノ記録ニ寄託保存ス本書ノ認證謄本ハ之ヲ各署名國ニ交付スヘシ

- フランク、エル、ボーグ (印)
- ヘンリー、ボワイト (印)
- タスカ、エッチ、プリス (印)
- アーサー、ジエームス、バルフォア (印)
- ミルナー (印)



- ジョーシ、エヌ、バーンス (印)
- エー、イー、ケムプ (印)
- ジー、エフ、ピアス (印)
- ミルナー (印)
- トーマス、マッケンジー (印)
- シンハ、オヴ、ライプルー (印)
- シエー、クレマンソー (印)
- エス、ピション (印)
- エル、エル、クロツツ (印)
- アンドレ、タルテュー (印)
- ジュール、カムボン (印)
- トムマソ、テイトーニ (印)
- グイットリオ、シアローヤ (印)
- マツジョリーノ、フェラーリス (印)
- グイエルモ、マルコーニ (印)
- 珍田捨巳 (印)
- 松井慶四郎 (印)
- 伊集院彦吉 (印)
- イーマンズ (印)
- シエー、ヴァン、デン、ユーヴェル (印)
- エー、ヴァンデルヴェルト (印)
- 陸徵祥 (印)
- 王正廷 (印)

- アントニオ、エス、デ、プスタマンテ (印)
- エヌ、ボリテイス (印)
- アー、ロマンノス (印)
- サルヴァドル、チアモーロ (印)
- アントニオ、ブルゴス (印)
- イー、シエー、パデレフスキー (印)
- ロマン、ドゥモフスキー (印)
- アフオンソ、コスタ (印)
- アウガスト、ソアレス (印)
- シャルレーン (印)
- トライドス、プラバンドウ (印)
- デー、カール、クラマール (印)
- ドクトル、エドゥアルド、ベネシユ (印)
- レンネル (印)

(地圖略ス)

議定書

本日附テ以テ署名ノ條約中或條項ノ履行條件ヲ明確ナラシムル爲締約國ハ左ノ通約定ス

- 一 奧地利國カ第七十三條第二項ニ依リ同盟及聯合國ニ引渡テ要スル人員ノ名簿ハ本條約實施後一月以内ニ之ヲ奧地利國政府ニ送付スヘシ
- 二 第八十六條及第四附屬書中ノ二乃至四ニ掲グル賠償委員會並第百七十九條ニ定ムル特別分科會ハ製造上ノ祕密其ノ他ノ祕密事項ノ公示ヲ求ムルコトヲ得ス

(外初版)

三 平和條約署名後直ニ且四月以内ニ奧地利國ハ賠償ニ關スル事務ノ進捗ニ資シ以テ調査ノ簡捷及決定ノ迅速ヲ期スル爲書類及提案ヲ同盟及聯合國ノ審査ニ付スルコトヲ得

四 奧地利國ノ清算ニ關シ犯罪行為ヲ爲ス者ハ之ヲ訴追スヘシ同盟及聯合國ハ右犯罪行為ニ關シ奧地利國政府ノ提供シ得ヘキ資料及證據ヲ受領スヘシ

千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ本書ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

- レンネル
- フランク、エル、ホーグ
- ヘンリー、ホワイト
- タスカー、エッチ、プリス
- アーサー、シエームス、バルフォア
- ミルナー
- シエー、エヌ、バトンス
- エー、イー、ケムプ
- ジー、エフ、ピアス
- ミルナー
- トーマス、マッケンジー
- シンハ、オヴ、ライプルー
- シエー、クレマンソー
- エス、ピション



アウグスト、ソアレス  
シアルーン  
トライドス、ブラバンドウ  
デー、カール、クラマール  
ドクトル、エドゥアルド、ベネシユ

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
朕大正八年九月十日佛蘭西國「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員並埃地利國全權委員ト共ニ署名調印シ「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國全權委員ノ同年十二月五日ノ宣言書ニ依リテ加入シ羅馬尼亞國全權委員ノ同年九月九日ノ宣言書ニ依リテ加入シタル平和條約及附屬議定書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス神武天皇即位紀元二千五百八十年大正九年十月十三日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 伯爵内田康哉

宣言書

戰爭中ノ船舶及載貨ノ沈没ヨリ生シタル損失ヲ最少ナラシムル爲且救助シ得ヘキ船舶及載貨ノ回復並之ニ關スル私的請求權ノ處理ヲ容易ナラシムル爲埃地利國政府ハ敵對行爲ノ繼續中埃地利國海軍ニ依リ撃沈セラレ又ハ損害ヲ加ヘラレタル船舶ニ關シ同國政府ノ所持ニ係ル一切ノ參考資料ニシテ同盟及聯合國ノ政府又ハ國民ニ有用ナルモノヲ提供スルコトヲ約ス

本宣言書ハ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ之ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ルル千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ之ニ署名ス

フランク、エル、ポーク  
ヘンリー、ホワイト  
タスカ、エッチ、プリス  
アイサー、ジエームス、バルフォア  
ミルナー  
ジョーシ、エヌ、バインス  
エー、イー、ケムプ  
ジョー、エフ、ピアス  
トーマス、マッケンジー  
シンハ、オヴ、ライプール  
ジョー、クレマンソー  
エス、ピション  
エル、エル、クロツツ  
アンドレ、タルデュー  
ジュール、カムボン  
トムマ、テイットーニ  
グイットリカ、シアローヤ  
マツジョリノ、フエラーリス  
ガイエルモ、マルコーニ  
珍田捨巳

(外初版)

國、巴拿馬國、波蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國間ノ協定下名ハ各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定第一條ニ於テ伊太利國ノ爲シタル聲明ヲ領承シ左ノ如ク協定セリ

第一條

伊太利國ハ舊埃地利洪牙利君主國ニ從屬シ居リタル伊太利國領土ノ解放ト同盟及聯合國ノ他ノ高尙ナル目的ト爲ニ行ヒタル戰爭ニ於テ最大ノ犠牲ヲ拂ヒ且財政上最重ノ負擔ヲ爲シタルコト  
又伊太利國ニ讓渡セラレタル諸地方ハ埃地利國トノ平和條約ノ結果トシテ廣汎ナル範圍ニ於テ其ノ富チ犠牲トシ且斯ク慘害ヲ被リタル同地方カ戰爭ノ損害ニ付既ニ他ノ方法ニ於テ賠償ヲ負擔スル所アリタルコト  
然レトモ伊太利國ハ埃地利國ノ解體ニ因リ生シタル諸國又ハ舊君主國ノ諸地方ヲ讓受ケタル諸國ノ間ニ舊埃地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ解放費ノ釀出ニ關スル及賠償勘定ニ關スル取極ヲ可能ナラシムルノ目的ヲ以テ本協定ノ條件ニ於テ之ニ參加スルコトヲ受諾スルコトヲ伊太利國並ニ聲明ス

第二條

舊埃地利洪牙利君主國ノ一部分タル諸地方ヲ讓受ケタル國トシテ伊太利國ハ獨逸國、埃地利國及其ノ與國トシテ戰ヒタル諸國ト締結シタル平和條約ニ基ク自國ノ賠償勘定ニ付右諸條約ニ依リ承認アリタル後左記第三條ノ規定ニ依リテ算出セラルル「法」金貨額ヲ其ノ借方ニ計上スルコトヲ右讓受國トシテ受諾ス「法」金貨ハ千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ有スヘキモノトス

松井慶四郎  
伊集院彦吉  
イーマンス  
ジョー、ヴァン、デン、ユートヴェル  
ヴァンデルヴェル  
陸徵祥  
王正廷  
アントニオ、エス、デ、プスタマンテ  
エヌ、ボリテイス  
アー、ロマノス  
サルヴァドル、チアモロー  
アントニオ、アルゴス  
イー、ジニー、パデルフスキー  
ロマン、ドゥモフスキー  
アフオンソ、コスタ  
アウグスト、ソアレス  
シアルーン  
トライドス、ブラバンドウ  
デー、カール、クラマール  
ドクトル、エドゥアルド、ベネシユ  
レンネル

伊太利國ノ賠償勘定ニ關スル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、玖馬國、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、日本國、「ニカラグア」



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第三條

前條ニ依リ伊太利國ノ借方ニ計上スヘキ金額ト十五億「法」金貨額トノ割合(又ハ波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國及「チエッコ、スロヴァキア」國カ本協定ノ締約國間ニ本日附テ以テ締結シタル協定ニ從ヒ釀出スヘキ總金額カ十五億「法」金貨額ニ達セザルトキハ前記金額ト右總金額トノ割合)ハ、地地利國及洪牙利國トノ平和條約ニ依リ伊太利國ニ讓渡セラルル諸地方ノ千九百十一年、千九百十二年、千九百十三年ノ三會計年度ニ於ケル歳入ノ平均額ト伊太利國又ハ他ノ上記諸國ニ讓渡セラルル舊地地利洪牙利君主國ノ諸地方全部ノ同一諸年度ニ於ケル歳入ノ平均額トノ割合ト同一ナルヘシ尤モ「ボスニア」及「ヘルツェゴヴィーナ」兩州ノ歳入ハ本計算ヨリ除外セラルルモノトス

第四條

斯ク計算セラレタル金額並舊地地利洪牙利君主國ノ財產及所有物ニシテ伊太利國ニ讓渡セラレ地地利國トノ平和條約第九編(財政條項)第二百七條ニ依リ評價セラルルモノノ價格ノ金額ハ伊太利國ノ請求ニ係ル承認濟賠償總額ト差引計算セラルヘシ右ニ金額ノ總計ハ之ヲ賠償名義ノ一部支拂トシテ受諾セラルヘク賠償ヲ受クヘキ他ノ諸國カ其ノ承認濟賠償總額中相當部分ヲ一部支拂トシテ受領セザル限リ賠償名義ノ何等ノ支拂モ伊太利國ニ爲サルルコトナカルヘシ

語英吉利語及伊太利語ヲ以テ本書ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

- フランク、エル、ポーク
- ヘンリー、ホワイト
- ダスカ、ツチ、プリス
- イーマンス
- ジエー、ヴァン、デン、ユーヴェル
- エー、ヴァンデルヴェルト
- アーサー、ジエームス、バルフォア
- ミルナー
- ジョージ、エヌ、バーンス
- エー、イー、ケムプ
- ジエー、エフ、ロアス
- ミルナー
- トーマス、マッケンジー
- シンハ、オヴ、ライプルー
- 陸徴祥
- 王正廷
- アントニオ、エス、デ、アスタマンテ
- ジエー、クレマンソー
- エス、ビション
- エル、エル、クロツツ
- アンドレ、タルデュト

- ジュール、カムボン
- エヌ、ポリテイス
- アー、ロマンノス
- トムマソ、テイトーニ
- ヴィットリオ、シアローヤ
- マツジョリーノ、フェラーリス
- グイニルモ、マルコーニ
- 珍田捨巳
- 松井慶四郎
- 伊集院彦吉
- サルヴァドル、チアモロー
- アントニオ、アルゴス
- イー、ジエー、パデレフスキ
- ロマン、ドゥモフスキ
- アフオンソ、コスタ
- アウグスト、ソアレス
- シアルーン
- トライドス、アラバンドウ
- デー、カール、クラマル
- ドクトル、エドゥアルド、ベネシユ

伊太利國ノ賠償勘定ニ關シ千九百十九年九月十日同盟及聯合國間ニ締結シタル協定ノ修正宣言書  
伊太利國ノ賠償勘定ニ關シ千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

アン、レイイ」ニ於テ締結シタル協定ノ署名國タル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、波蘭國、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、日本國、「ニカラガ」國、巴拿馬國、波蘭國、葡萄牙國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國並千九百十九年十二月五日ノ宣言書ニ依リ本宣言書ノ目的トスル修正ヲ留保シテ右ノ協定ニ加入シタル「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國ハ右ノ協定ニ修正ヲ加フル爲左ノ如ク協定セリ

第四條

斯ク計算セラレタル金額並舊地地利洪牙利君主國ノ財產及所有物ニシテ伊太利國ニ讓渡セラレ地地利國トノ平和條約第九編(財政條項)第二百八條ニ依リ評價セラルルモノノ價格ノ金額ハ伊太利國ノ請求ニ係ル承認濟賠償總額ト差引計算セラルヘシ  
伊太利國ハ賠償委員會ノ請求アリタル時ヨリ三月ノ期間内ニ右ニ金額ノ總計ニ等シキ額ニ相當スル債券ヲ發行シ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ諸政府ノ指定スルコトアルヘキ個人又ハ團體ニ之ヲ交付スヘシ  
右債券ハ無記名トシ元本及利子ハ伊太利國カ課シ又ハ同國ノ與ヘタル權限ニ基キテ課スル何等ノ税金又ハ料金ヲ控除スルコトナク同國ノ支拂フヘシ右債券ハ年五分ノ利子ヲ附シ千九百二十六年一月一日以後半年毎ニ之ヲ支拂フヘシ該債券ハ千九百三十一年一月一日以後二十五年間ニ毎年同額抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ但シ亞米利加合衆國、英帝國及佛蘭西國ノ諸政府ニ對シ九十日前ノ豫告ヲ與フルトキハ伊太利國ハ何時ニテモ額面金額ニテ且其ノ時迄ノ利子ヲ支拂ヒテ右債券ノ全部又ハ一部ヲ償還



スルコトヲ得ヘシ  
賠償委員會ハ右債券ノ支拂期限ノ到來ニ應シ其ノ利子支拂及償還ニ必要ナル金額ヲ「賠償」ノ名義ニ於テ伊太利國ニ支拂フヘキ金額ヨリ控除スヘシ

全權委員中一時巴里ヲ離レタル爲本宣言書ニ署名スルコト能ハサリシ者ハ十二月二十日迄ニ之ニ署名スルコトヲ得  
千九百十九年十二月八日巴里ニ於テ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ本書ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

- フランク、エル、ポーク
- ローラン、シアックマン
- エーア、エー、クロ
- ジョーシ、エッチ、パレー
- アンドリュ、フィッシャー
- トーマス、マッケンジー
- アール、エー、ブランクンバーク
- エーア、エー、クロ
- 顧維鈞
- ラファエル、マルティネス、オルティス
- シエー、クレマンソー
- エス、ビション
- エル、エル、クロツツ
- アンドレ、タルデュー
- シエール、カムボン

第一條ニ掲ケル釀出金ノ總額ハ前記諸國カ舊境地利洪牙利君主國ヨリ讓受ケタル諸地方ノ千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ三會計年度ニ於ケル釀入ノ平均額ノ割合ニ從ヒテ右諸國間ニ之ヲ割當ツヘシ尤モ「ボスニア」及「ヘルツェゴヴィナ」兩州ノ釀入ハ本計算ヨリ除外セラ

ルモノトス  
本計算ノ基礎タル釀入ハ賠償委員會カ舊境地利洪牙利君主國ノ平和條約第九編(財政條項)第二百三條ノ規定ニ從ヒ夫々當該地方ノ財力ヲ表示スルニ最適當ト認ムルモノタルヘシ尤モ「チエッコ、スロヴァキア」國ノ支拂額ハ如何ナル場合ニ於テモ七億五千萬「法」ヲ超過スヘカラス若シ「チエッコ、スロヴァキア」國ニ割當テラルル釀出金額カ右七億五千萬「法」ノ額ヲ超過スヘキ場合ニ於テハ該釀出金額ト七億五千萬「法」トノ差額ハ總額十五億「法」中ヨリ之ヲ控除スヘク他國ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得サルモノトス

第二條  
解放ニ關スル前記各國ノ負擔額並舊境地利洪牙利君主國ノ財產及所有物ニシテ右各國ニ讓渡セラレ地地利國トノ平和條約第九編(財政條項)第二百七條ニ依リ評價セララルモノノ價額ハ右諸國ノ請求ニ係ル査定濟賠償額アル場合ニ於テハ之ト差引計算セララルヘシ

第四條  
解放ニ關スル前記諸國中ノ一國ノ負擔額並其ノ讓受財產及所有物ノ價格カ同國ノ査定濟賠償請求額ヲ超過スル場合ニ於テハ該國ハ賠償委員會ヨリ自國ノ査定濟請求額ノ通知アリタル時ヨリ三月ノ期間内ニ該超過額ニ相當スル債券ヲ發行シ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ

アリ、ロマンノス  
ジョー、デー、マルティノ  
松井慶四郎  
エル、アー、アマドール  
アフオンソ、コスタ  
シアルーン  
ニコラス、ビー、パチツチ  
ドクトル、アント、トルンビツ  
ドクトル、イヴァン、ゾルゲル  
舊境地利洪牙利君主國ノ諸地方ヲ解放費釀出ニ關スル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、玖馬國、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、日本國、「ニカラガア」國、巴奈馬國、波蘭國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國間ノ協定  
下名ハ各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ左ノ如ク協定セリ

第一條  
舊境地利洪牙利君主國ノ諸地方ヲ讓受ケタル國トシテ又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國トシテ波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國及「チエッコ、スロヴァキア」國ハ該諸地方ノ解放ニ要シタル經費ニ對スル釀出金トシテ總計十五億「法」金貨額ヲ超過セサル金額ヲ支拂フコトヲ各自國ノ關スル限り受諾ス右「法」金貨ハ千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ有スヘキモノトス

(外利版)

諸政府ノ指定スルコトアルヘキ個人又ハ團體ニ之ヲ交付スヘシ  
右債券ハ無記名トシ元本及利子ハ發行國カ課シ又ハ發行國ノ與ヘタル權限ニ基キテ課スル何等ノ税金又ハ料金ヲ控除スルコトナク發行國ノ支拂フヘシ右債券ニハ年五分ノ利子ヲ附シ千九百二十六年一月一日以後半年毎ニ之ヲ支拂フヘシ該債券ハ千九百三十一年一月一日以後二十五年間ニ毎年同額抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ但シ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ諸政府ニ對シ九十日前ノ豫告ヲ與フルトキハ發行國ハ何時ニテモ額面金額ニテ且其ノ時迄ノ利子ヲ支拂ヒテ右債券ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得ヘシ

第五條  
前記諸國ノ承認濟賠償請求額カ解放ニ關スル負擔額並讓受財產及所有物ノ價額ヲ超過スル場合ニ於テハ前記第三條ニ依リ當該諸國ノ負擔額ヘキ額ハ賠償金支拂ノ一部支拂トシテ之ヲ認ムヘク賠償ヲ受ケル權利アル他ノ諸國カ其ノ承認濟請求額中相當部分ヲ一部支拂トシテ受領セサル限リ當該諸國ハ賠償名義ニ於ケル何等金額ノ支拂ヲ受ケサルヘシ  
千九百十九年九月十日「サン、シエルマン、アン、レイ」ニ於テ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ本書ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

- フランク、エル、ポーク
- ヘンリー、ホワイト
- タスカ、エッチ、プリス
- イーマンス
- シエー、ヴァン、デン、ユーヴェル



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

エー、ヴァンデルヴェルト  
 アーサー、シエームス、バルフォア  
 ミルナー  
 ジョージ、エヌ、パインズ  
 エー、イー、ケムブ  
 ジー、エフ、ピアス  
 ミルナー  
 トーマス、マッケンジー  
 シンハ、オヴ、ライプルー  
 陸徴祥  
 王正廷  
 アントニオ、エヌ、デ、プスタマンテ  
 ジェー、クレマンソー  
 エヌ、ピション  
 エル、エル、クロウツ  
 アンドレ、タルテュー  
 ジュール、カムボン  
 エヌ、ポリテイス  
 アー、ロマンヌ  
 トムマツ、テイットーニ  
 ヴィットリカ、シアローヤ  
 マッジョリノ、フェラーリス  
 ガイエルモ、マルコトニ

珍田捨巳  
 松井慶四郎  
 伊集院彦吉  
 サルヴァドル、チアモロー  
 アントニオ、ブルゴス  
 イー、ジェー、パデレフスキー  
 ロマン、ドゥモフスキー  
 アフォンソ、コスタ  
 アウグスト、ソアレス  
 シアルー  
 トライドス、プラバドゥ  
 デー、カレル、クラマール  
 ドクトル、エドゥアルド、ベネシエ  
 舊奧地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ解放費釀出ニ關シ千九百十九年九月十日同盟及聯合國間ニ締結シタル協定ノ修正宣言書  
 舊奧地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ解放費釀出ニ關シ千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ締結シタル協定ノ署名國タル亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、玖馬國、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、日本國、「ニカラガア」國、巴奈馬國、波蘭國、葡萄牙國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國並千九百十九年十二月五日ノ宣言書ニ依リ本宣言書ノ目的トスル修正ヲ留保シテ右ノ協定ニ加入シタル「セルブ、クロアチア、スロヴェニア」國ハ右ノ協定ニ修正ヲ加フル爲左ノ如ク協定セリ

第四條及第五條ハ次ノ規定ヲ以テ之ニ代フ

第四條

前記各國ハ賠償委員會ノ請求アリタル時ヨリ三月ノ期間内ニ其ノ解放ニ關スル當該國ノ負擔額ニ讓受財産及所有物ノ價額ヲ加算シタル額ニ相當スル債券ヲ發行シ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ諸政府ノ指定スルコトアルヘキ個人又ハ團體ニ之ヲ交付スヘシ

右債券ハ無記名トシ元本及利子ハ發行國力課シ又ハ發行國ノ與ヘタル權限ニ基キテ課スル何等ノ税金又ハ料金ヲ控除スルコトナク發行國之ヲ支拂フヘシ右債券ハ年五分ノ利子ヲ附シ千九百二十六年一月一日以後半年毎ニ之ヲ支拂フヘシ該債券ハ千九百三十一年一月一日以後二十五年間ニ毎年同額抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ但シ亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ諸政府ニ對シ九十日前ノ豫告ヲ與フルトキハ發行國ハ何時ニテモ額面金額ニテ且其ノ時迄ノ利子ヲ支拂ヒテ右債券ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得ヘシ

賠償委員會ハ右債券ノ支拂期限ノ到來ニ應ジ其ノ利子支拂及償還ニ必要ナル金額ヲ「賠償」ノ名義ニ於テ各當事國ニ支拂フヘキ金額ヨリ控除スヘシ

全權委員中一時巴里ヲ離レタル爲本宣言書ニ署名スルコト能ハサリシ者ハ千九百十九年十二月二十日迄ニ之ニ署名スルコトヲ得

千九百十九年十二月八日巴里ニ於テ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ本書ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

フランク、エル、ポーク  
 ローラン、ジァックマン

ローア、エー、クロ  
 ジョージ、エッチ、パルレー  
 アンドリュウ、フィッシャー  
 トーマス、マッケンジー  
 アール、エー、ランケンバーグ  
 エーア、エー、クロ  
 願維鈞  
 ラファエル、マルテイトネス、オルテイス  
 ジェー、クレマンソー  
 エヌ、ピション  
 エル、エル、クロウツ  
 アンドレ、タルテュー  
 ジュール、カムボン  
 アー、ロマンヌ  
 ジェー、デー、マルテイトノ  
 松井慶四郎  
 エル、アー、アマドール  
 アフォンソ、コスタ  
 シアルー  
 ニコラス、ビー、パチツチ  
 ドクトル、アント、トルンビツク  
 ドクトル、イヴァン、ズルゲル  
 羅馬尼亞國皇帝陛下ノ全權委員タル下名ハ良好且有效ナルコトヲ正式ニ



認メラレタル其ノ全權委任狀ニ依リ羅馬尼亞國皇帝陛下カ羅馬尼亞國ノ名ニ於テ何等ノ條件及何等ノ留保ナク左記ノ條約、協定等ニ加入スルコトヲ聲明ス

一 一方ニ於テ主タル同盟及聯合國タル亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、同盟及聯合國タル白耳義國、支那國、羅馬國、希臘國、「ニカラガア」國、巴奈馬國、波蘭國、葡萄牙國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國ト他ノ一方ニ於テ塊地利國トカ千九百十九年九月十日「サン、シエルマン、アン、レイイ」ニ於テ署名シタル平和條約、議定書及宣言書即チ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國カ千九百十九年十二月五日附ノ同盟宣言書ニ依リテ加入シタル文書

二 亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、羅馬國、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、日本國、「ニカラガア」國、巴奈馬國、波蘭國、葡萄牙國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國カ千九百十九年九月十日「サン、シエルマン、アン、レイイ」ニ於テ署名シタル伊太利國ノ賠償協定ニ關スル協定即チ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國カ千九百十九年十二月五日附ノ同盟宣言書ニ依リテ加入シタル協定並千九百十九年十二月八日附ノ修正宣言書

三 亞米利加合衆國、白耳義國、英帝國、支那國、羅馬國、佛蘭西國、希臘國、伊太利國、日本國、「ニカラガア」國、巴奈馬國、波蘭國、葡萄牙國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國カ千九百十九年九月十日「サン、シエルマン、アン、レイイ」ニ於テ署名シタル舊塊地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ解放費釀出ニ關スル協定即チ「セルブ、クロ

アイト、スロヴェニア」國カ千九百十九年十二月五日附ノ同盟宣言書ニ依リテ加入シタル協定並千九百十九年十二月八日附ノ修正宣言書

四 一方ニ於テ主タル同盟及聯合國タル亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、同盟及聯合國タル白耳義國、支那國、羅馬國、希臘國、「ヘザアーズ」國、波蘭國、葡萄牙國、「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國ト他ノ一方ニ於テ勃爾牙利國トカ千九百十九年十一月二十七日「マイイー、シュール、セーヌ」ニ於テ署名シタル平和條約及議定書右證據トシテ下名ハ本加入宣言書ニ署名調印ス

千九百十九年十二月九日巴里ニ於テ本書ヲ作ル

陸軍大將カバ、コアンダ (印)

ジョン、シー、ペリグアン (印)

### 同上條約等ノ批准書寄託ニ關スル通告等ノ件

(大正十年二月二日) (外務省告示第五號)

本年一月二十五日在佛石井大使ハ同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約、主タル同盟及聯合國ト「チエッコ、スロヴァキア」國トノ條約、主タル同盟及聯合國ト「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國トノ條約並主タル同盟及聯合國ト羅馬尼亞國トノ條約ニ付各其ノ末文第三項ノ規定ニ基キ前記各條約ノ御批准書ヲ佛蘭西共和國政府ニ寄託シタル旨今般同大使ヨリ電報アリタリ

(大正十年四月十三日) (外務省告示第十四號)

本年四月八日附佛國官報告示ニ依レハ「ニカラガア」共和國ハ同一月二十九日同盟及聯合國ト塊地利國トノ平和條約ヲ批准寄託シタル旨在佛石井大使ヨリ電報アリタリ

(大正十年五月二十五日) (外務省告示第十九號)

本年五月十五日附佛國官報ニ依レハ「チエッコ、スロヴァキア」共和國ハ今般同盟及聯合國ト勃爾牙利國トノ平和條約ヲ批准寄託シタル旨在佛石井大使ヨリ電報アリタリ

### 第三款 洪牙利

#### 同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約及附屬議定書

(大正十年七月二十六日) (條約 第三號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正九年六月四日佛蘭西國「トリアノン」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員並洪牙利國全權委員ト共ニ署名調印シタル平和條約及附屬議定書ヲ批准シ茲ニ同平和條約附屬ノ宣言書ト共ニ之ヲ公布セシム

亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國、伊太利國及日本國右諸國ヲ以テ本條約ニ謂フ主タル同盟及聯合國トス

白耳義國、支那國、羅馬國、希臘國、「ニカラガア」國、巴奈馬國、波蘭

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

(外務省告示)

國、葡萄牙國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國、暹羅國及「チエッコ、スロヴァキア」國

右諸國ハ前記ノ主タル諸國ト共ニ同盟及聯合國ヲ構成ス

以上チ一方トシ

洪牙利國

之ヲ他ノ一方トス

此等諸國ハ主タル同盟及聯合國カ舊塊地利帝國洪牙利王國政府ノ請求ニ基キ平和條約ヲ締結セムカ爲千九百十八年十一月三日塊地利洪牙利國ニ對シ休戰ヲ許諾シ且洪牙利國ニ關シテハ千九百十八年十一月十三日ノ軍事條約ニ依リ之ヲ補足シタルコトヲ思ヒ

同盟及聯合國ハ其ノ或モノカ塊地利洪牙利國ニ對シ相次キテ直接又ハ間接ニ參加スルニ至リタル戰爭即チ千九百十四年七月二十八日塞爾比亞國ニ對スル舊塊地利帝國洪牙利王國政府ノ宣戰及塊地利洪牙利國ノ同盟國タル獨逸國ノ敵對行爲ニ依リテ開始セラレタル戰爭ニ代フルニ鞏固公正且恆久ノ平和ヲ以テセムコトヲ均シク希望シ

舊塊地利洪牙利君主國政府ハ今ヤ存在セサルニ至リ洪牙利國ニ於テハ洪牙利民國政府之ニ代リタルコトヲ思ヒ

之カ爲締約國ハ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領

佛蘭西國駐劄亞米利加合衆國特命全權大使「ヒュー、キアムブル、ウオレンス」

大不列顛愛爾蘭聯合王國及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

佛蘭西國駐劄英帝國特命全權大使「ダービー」伯「エドワード、ジョ

三百三十五



「シ、ヰリアリス」

加奈陀

聯合王國駐在加奈陀辨務長官「サー、ジョージ、ハルシー、パーレー」

濠太利聯邦

聯合王國駐在濠太利辨務長官「アンドリュウ、フィッシャー」

新西蘭

聯合王國駐在新西蘭辨務長官「サー、トーマス、マッケンジー」

南阿弗利加聯邦

聯合王國駐在南阿弗利加聯邦辨務長官「レシナルド、アンドリュウ、ブランケンバーグ」

印度

佛蘭西國駐劄英帝國特命全權大使「ダービー」伯「エドワード、ジョージ、ヰリアリス」

佛蘭西共和國大統領

内閣議長外務大臣「アレキサンデル、ミルラン」

大蔵大臣「フレデリック、フランソア、マルサル」

商工務大臣「オーギュスト、ポール、ルイ、イザーク」

特命全權大使「ジュール、カムボン」

特命全權大使外務總務長官「ジョルジュ、モリス、パレオローク」

伊太利國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄伊太利國特命全權大使參議院議員伯爵「レリオ、ボニン、ロンガール」

葡萄牙共和國大統領

前内閣議長「ドクトル、アフォンソ、アウグスト、ダ、コスタ」

佛蘭西國駐劄葡萄牙共和國特命全權公使「ジョアウ、シアガス」

羅馬尼亞國皇帝陛下

國務大臣「ドクトル、イオン、カンタクツィノ」

前國務大臣「ニコラエ、テイトゥーレンク」

「セルプ、クローアト、スロヴェニア」國皇帝陛下

前内閣議長「ニコラス、ピー、バチッチ」

外務大臣「アント、トルンビック」

法學博士「イヴァン、ゾルゲル」

暹羅國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄暹羅國特命全權公使「シッルーン」

「アエッコ、スロヴァキア」共和國大統領

外務大臣「エドヴァルド、ベネシユ」

英國駐劄「アエッコ、スロヴァキア」共和國特命全權公使「ステファン、オストスキー」

洪牙利國

勞働及社會保險大臣「ガストン、ドゥ、ベナール」

特命全權公使「アルフレッド、ドラッシェ、ラーザール、ドゥ、トルダ」

右各員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

海軍少將「マリオ、ケラッシ」

日本國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄日本國特命全權大使松井慶四郎

白耳義國皇帝陛下

特命全權公使國務大臣「ジュール、ヴァン、デン、ユーズル」

白耳義國全權委員書記官長國際私法學會會員「ローラン、ジャックマン」

支那共和國大統領

顧維鈞

施肇基

政馬共和國大統領

佛蘭西國駐劄政馬共和國特命全權公使「ドクトル、ラファエル、マルティネス、オルティス」

希臘國皇帝陛下

佛蘭西國駐劄希臘國特命全權公使「アトス、ロマンヌ」

「ニカラガ」共和國大統領

佛蘭西國駐劄「ニカラガ」共和國代理公使「カルロス、アー、ヰヤヌエゾア」

巴奈馬共和國大統領

佛蘭西國駐劄巴奈馬共和國代理公使「ラウール、アー、アマドール」

波蘭共和國大統領

英國駐劄波蘭共和國特命全權公使「ユースターシユ、サビエ」

〔外初版〕

戰爭狀態ハ本條約實施ノ時ヨリ終了スヘシ

同盟及聯合國ト洪牙利國トノ公關係ハ其ノ時以後且本條約ノ規定ニ依リ恢復セラルヘシ

第一編 國際聯盟規約

締約國ハ

戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ

各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ

各國政府間ノ行為ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ

組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ

以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲

茲ニ國際聯盟規約ヲ協定ス

第一條

本規約附屬書列記ノ署名國及留保ナクシテ本規約ニ加盟スル該附屬書列記ノ附屬諸國ヲ以テ國際聯盟ノ原聯盟國トス右加盟ハ本規約實施後二月

以內ニ宣言書ヲ聯盟事務局ニ寄託シテ之ヲ爲スヘシ右ニ關シテハ一切ノ他ノ聯盟國ニ通告スヘキモノトス

附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト

爲ルコトヲ得但シ其ノ國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有效ナル保障ヲ與ヘ且其ノ陸海及空軍ノ兵力其ノ他ノ軍備ニ關シ聯盟ノ定ムルコトアル

ヘキ準則ヲ受諾スルコトヲ要ス

聯盟國ハ二年ノ豫告ヲ以テ聯盟ヲ脫退スルコトヲ得但シ脫退ノ時迄ニ其

協定セリ



ノ一切ノ國際上及本規約上ノ義務ハ履行セラレタルコトヲ要ス

第二條

本規約ニ依ル聯盟ノ行動ハ聯盟總會及聯盟理事會並附屬ノ常設聯盟事務局ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノトス

第三條

聯盟總會ハ聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

聯盟總會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ定期ニ及必要ニ應シ隨時ニ之ヲ開ク

聯盟總會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟國ハ聯盟總會ノ會議ニ於テ各一箇ノ表決權ヲ有スヘク且三名ヲ超エサル代表者ヲ出スコトヲ得

聯盟理事會ハ主タル同盟及聯合國ノ代表者並他ノ四聯盟國ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス該四聯盟國ハ聯盟總會其ノ裁量ニ依リ隨時ニ之ヲ選定ス聯盟總會力第一ニ選定スル四聯盟國ニ於テ其ノ代表者ヲ任命スル迄ハ白耳義國、伯刺西爾國、西班牙國及希臘國ノ代表者ヲ以テ聯盟理事會員トス

聯盟理事會ハ聯盟總會ノ過半数ノ同意アルトキハ聯盟理事會ニ常ニ代表者ヲ出スヘキ聯盟國ヲ追加指定スルコトヲ得聯盟理事會ハ同會ニ代表セシムル爲聯盟總會ノ選定スヘキ聯盟國ノ數ヲ前同様ノ同意ヲ以テ増加スルコトヲ得

聯盟理事會ハ聯盟本部所在地又ハ別ニ定ムルコトアルヘキ地ニ於テ必要

第四條

聯盟事務局ノ事務官及職員ハ聯盟理事會ノ同意ヲ以テ事務總長之ヲ任命ス  
事務總長ハ聯盟總會及聯盟理事會ノ一切ノ會議ニ於テ其ノ資格ニテ行動ス  
聯盟事務局ノ經費ハ萬國郵便聯合總局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ聯盟國之ヲ負擔ス

聯盟本部所在地ハ「ジュネーグ」トス

聯盟理事會ハ何時タリトモ其ノ議決ニ依リ他ノ地ヲ以テ聯盟本部所在地ト爲スコトヲ得

聯盟ニ關シ又ハ之ニ附帶スル一切ノ地位ハ聯盟事務局ノ地位ト共ニ男女均シク之ニ就クコトヲ得

聯盟國代表者及聯盟職員ハ聯盟ノ事務ニ從事スル間外交官ノ特權及免除ヲ享有ス

聯盟、聯盟職員又ハ聯盟會議參列代表者ノ使用スル建物其ノ他ノ財産ハ之ヲ不可侵トス

聯盟國ハ平和維持ノ爲ニハ其ノ軍備ヲ國ノ安全及國際義務ヲ協同動作ヲ以テスル強制ニ支障ナキ最低限度迄縮小スルノ必要アルコトヲ承認ス

聯盟理事會ハ各國政府ノ審議及決定ニ資スル爲各國ノ地理的地位及諸般ノ事情ヲ參酌シテ軍備縮小ニ關スル案ヲ作成スヘシ

該案ハ少クトモ十年毎ニ再審議ニ付セラルヘク且更正セラルヘキモノトス

第八條

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開ク

聯盟理事會ハ聯盟ノ行動範圍ニ屬シ又ハ世界ノ平和ニ影響スル一切ノ事項ヲ其ノ會議ニ於テ處理ス

聯盟理事會ニ代表セラレサル聯盟各國ハ特ニ其ノ利益ニ影響スル事項ノ審議中聯盟理事會會議ニ理事會員トシテ列席スル代表者一名ノ派遣ヲ招請セララルヘシ

聯盟理事會ニ代表セララル聯盟各國ハ聯盟理事會會議ニ於テ一箇ノ表決權ヲ有スヘク且一名ノ代表者ヲ出スコトヲ得

本規約中又ハ本條約ノ條項中別段ノ明文アル場合ヲ除クノ外聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ノ議決ハ其ノ會議ニ代表セララル聯盟國全部ノ同意ヲ要ス

聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ會議ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ事項ハ特殊事項調査委員ノ任命ト共ニ聯盟總會又ハ聯盟理事會之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其ノ會議ニ代表セララル聯盟國ノ過半数ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得

聯盟總會ノ第一回會議及聯盟理事會ノ第一回會議ハ亞米利加合衆國大統領之ヲ召集スヘシ

常設聯盟事務局ハ聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス聯盟事務局ニハ事務總長一名並必要ナル事務官及職員ヲ置ク

第一次ノ事務總長ハ附屬書ニ之ヲ指定シ爾後ノ事務總長ハ聯盟總會過半数ノ同意ヲ以テ聯盟理事會之ヲ任命ス

各國政府前記ノ案ヲ採用シタルトキハ聯盟理事會ノ同意アルニ非サレハ該案所定ノ軍備ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ス

聯盟國ハ民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造力重大ナル非議ヲ免レサルモノナルコトヲ認ム仍テ聯盟理事會ハ該製造ニ伴フ弊害ヲ防遏シ得ヘキ方法ヲ具申スヘシ尤モ聯盟國中其ノ安全ニ必要ナル兵器彈藥及軍用器材ヲ製造シ得サルモノノ需要ニ關シテハ相當斟酌スヘキモノトス

聯盟國ハ其ノ軍備ノ規模、陸海及空軍ノ企畫並軍事上ノ目的ニ供用シ得ヘキ工業ノ狀況ニ關シ充分ニシテ隔意ナキ報道ヲ交換スヘキコトヲ約ス

第一條及第八條ノ規定ノ實行並陸海及空軍問題全般ニ關シテハ聯盟理事會ニ意見ヲ具申スヘキ常設委員會ヲ設置スヘシ

聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トテ間ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ玆ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適當且有效ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此ノ種ノ事變發生シタルトキハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理

事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其ノ基礎タル各國間ノ良好ナル了解ヲ攪亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理



事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條

聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生スルトキハ當該事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ハ判決後又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間内ニ、聯盟理事會ノ報告ハ紛争事件付託後六月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條

聯盟國ハ聯盟國間ニ仲裁裁判ニ付シ得ト認ムル紛争ヲ生シ其ノ紛争力外交手段ニ依リテ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハサルトキハ當該事件全部ヲ仲裁裁判ニ付スヘキコトヲ約ス

條約ノ解釋、國際法上ノ問題、國際義務ノ違反ト爲ルヘキ事實ノ存否並該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛争ハ一般ニ仲裁裁判ニ付シ得ル事項ニ屬スルモノナルコトヲ聲明ス

第十四條

聯盟理事會ハ常設國際司法裁判所設置案ヲ作成シ之ヲ聯盟國ノ採擇ニ付

聯盟理事會ニ於テ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意アル報告書ヲ得ルニ至ラサルトキハ聯盟國ハ正義公道ヲ維持スル爲必要ト認ムル處置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

紛争當事國ノ一國ニ於テ紛争力國際法上專ラ該當事國ノ管轄ニ屬スル事項ニ付生シタルモノナルコトヲ主張シ聯盟理事會ニ之ヲ認シタルトキハ聯盟理事會ハ其ノ旨ヲ報告シ且之ヲ解決ニ關シ何等ノ報告ヲモ爲ササルモノトス

聯盟理事會ハ本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ紛争ヲ聯盟總會ニ移スコトヲ得紛争當事國一方ノ請求アリタルトキハ亦之ヲ聯盟總會ニ移スヘシ但シ右請求ハ紛争ヲ聯盟理事會ニ付託シタル後十四日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

聯盟理事會ノ行動及權限ニ關スル本條及第十二條ノ規定ハ聯盟總會ニ移シタル事件ニ關シ總テ之ヲ聯盟總會ノ行動及權限ニ適用ス但シ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ聯盟理事會ニ代表セラレル聯盟各國代表者及爾餘過半數聯盟國ノ代表者ノ同意ヲ得タル聯盟總會ノ報告書ハ紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タル聯盟理事會ノ報告書ト同一ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第十六條

第十二條、第十三條又ハ第十五條ニ依ル約束ヲ無視シテ戰爭ニ訴ヘタル聯盟國ハ當然他ノ總テノ聯盟國ニ對シ戰爭行為ヲ爲シタルモノト看做ス他ノ總テノ聯盟國ハ之ニ對シ直ニ一切ノ通商上又ハ金融上ノ關係ヲ斷絶シ自國民ト違約國國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且聯盟國タルト否トナ間ハス他ノ總テノ國ノ國民ト違約國國民トノ間ノ一切ノ金融上通商上又ハ

スヘシ該裁判所ハ國際的性質ヲ有スル一切ノ紛争ニシテ其ノ當事國ノ付託ニ係ルモノヲ裁判スルノ權限ヲ有ス尙該裁判所ハ聯盟理事會又ハ聯盟總會ノ諮問スル一切ノ紛争又ハ問題ニ關シ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十五條

聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判ニ付セラレサルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スヘキコトヲ約ス何レノ紛争當事國モ紛争ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之ヲ充分ナル取調及審理ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス

此ノ目的ノ爲紛争當事國ハ成ルヘク速ニ當該事件ニ關スル陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スヘク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得

聯盟理事會ハ紛争ノ解決ニ力ムヘク其ノ努力效ヲ奏シタルトキハ其ノ適當ト認ムル所ニ依リ當該紛争ニ關スル事實及説明並其ノ解決條件ヲ記載セル調書ヲ公表スヘシ

紛争解決ニ至ラサルトキハ聯盟理事會ハ全會一致又ハ過半數ノ表決ニ基キ當該紛争ノ事實ヲ述ヘ公正且適當ト認ムル勸告ヲ載セタル報告書ヲ作成シ之ヲ公表スヘシ

聯盟理事會ニ代表セラレル聯盟國ハ何レモ當該紛争ノ事實及之ニ關スル自國ノ決定ニ付陳述書ヲ公表スルコトヲ得

聯盟理事會ノ報告書力紛争當事國ノ代表者ヲ除キ他ノ聯盟理事會員全部ノ同意ヲ得タルモノナルトキハ聯盟國ハ該報告書ノ勸告ニ應スル紛争當事國ニ對シ戰爭ニ訴ヘサルヘキコトヲ約ス

〔外初版〕

個人的交通ヲ防遏スヘキコトヲ約ス

聯盟理事會ハ前項ノ場合ニ於テ聯盟ノ約束擁護ノ爲使用スヘキ兵力ニ對スル聯盟各國ノ陸海又ハ空軍ノ分擔程度ヲ關係各國政府ニ提案スルノ義務アルモノトス

聯盟國ハ本條ニ依リ金融上及經濟上ノ措置ヲ執リタル場合ニ於テ之ニ基ク損失及不便ヲ最少限度ニ止ムル爲相互ニ支持スヘキコト、聯盟ノ一國ニ對スル違約國ノ特殊ノ措置ヲ抗拒スル爲相互ニ支持スヘキコト並聯盟ノ約束擁護ノ爲協力スル聯盟國軍隊ノ版圖内通過ニ付必要ナル處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

第十七條

聯盟ノ約束ニ違反シタル聯盟國ニ付テハ聯盟理事會ニ代表セラレル他ノ一切ノ聯盟國代表者ノ聯盟理事會ニ於ケル一致ノ表決ヲ以テ聯盟ヨリ之ヲ除名スル旨ヲ聲明スルコトヲ得

聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互ノ間ニ紛争ヲ生シタルトキハ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ責フヘキ義務ヲ該非聯盟國カ聯盟理事會ノ正當ト認ムル條件ヲ以テ受諾スルコトヲ之ニ勸誘スヘシ勸誘ノ受諾アリタル場合ニ於テハ第十二條乃至第十六條ノ規定ハ聯盟理事會ニ於テ必要ト認ムル修正ヲ加ヘテ之ヲ適用ス

前項ノ勸誘ヲ爲シタルトキハ聯盟理事會ハ直ニ紛争事情ノ審査ヲ開始シ當該事情ノ下ニ於テ最善且最有效ト認ムル行動ヲ勸告スヘシ

勸誘ヲ受ケタル國カ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ責フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ミ聯盟國ニ對シ戰爭ニ訴フル場合ニ於テハ第十六條ノ規定ハ該行動ヲ執ル國ニ之ヲ適用ス



勸誘ヲ受ケタル紛争當事國ノ雙方カ此ノ種紛争解決ノ爲聯盟國ノ負フヘキ義務ノ受諾ヲ拒ム場合ニ於テハ聯盟理事會ハ敵對行爲ヲ防止シ紛争ヲ解決スヘキ措置及勸告ヲ爲スコトヲ得

第十八條

聯盟國カ將來締結スヘキ一切ノ條約又ハ國際約定ハ直ニ之ヲ聯盟事務局ニ登錄シ聯盟事務局ハ成ルヘク速ニ之ヲ公表スヘシ右條約又ハ國際約定ハ前記ノ登錄ヲ了スル迄其ノ拘束力ナ生スルコトナカルヘシ

第十九條

聯盟總會ハ適用不能ト爲リタル條約ノ再審議又ハ繼續ノ結果世界ノ平和ヲ危殆ナラシムヘキ國際狀態ノ審議ヲ隨時聯盟國ニ差遣スルコトヲ得

第二十條

聯盟國ハ本規約ノ條項ト兩立セサル聯盟國相互間ノ義務又ハ了解力各自國ノ關スル限リ總テ本條約ニ依リ廢棄セラルヘキモノナルコトヲ承認シ且今後本規約ノ條項ト兩立セサル一切ノ約定ヲ締結セサルヘキコトヲ誓約ス

第二十一條

本規約ハ仲裁裁判條約ノ如キ國際約定又ハ「モンロー」主義ノ如キ一定ノ地域ニ關スル了解ニシテ平和ノ確保ヲ目的トスルモノノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス

第二十二條

今次ノ戰爭ノ結果從前支配セタル國ノ統治ヲ離レタル殖民地及領土ニシ

ス但シ受任國ハ土著人民ノ利益ノ爲前記ノ保障ヲ與フルコトヲ要ス  
各委任ノ場合ニ於テ受任國ハ其ノ委託地域ニ關スル年報ヲ聯盟理事會ニ提出スヘシ  
受任國ノ行フ權限、監理又ハ施政ノ程度ニ關シ豫メ聯盟國間ニ合意ナキトキハ聯盟理事會ハ各場合ニ付之ヲ明定スヘシ  
受任國ノ年報ヲ受理審査セシメ且委任ノ實行ニ關スル一切ノ事項ニ付聯盟理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲常設委員會ヲ設置スヘシ

第二十三條

聯盟國ハ現行又ハ將來協定セラルヘキ國際條約ノ規定ニ遵由シ

- (イ) 自國內ニ於テ及其ノ通商產業關係ノ及フ一切ノ國ニ於テ男女及兒童ノ爲ニ公平ニシテ人道的ナル勞動條件ヲ確保スルニ力メ且之カ爲必要ナル國際機關ヲ設立維持スヘシ
- (ロ) 自國ノ監理ニ屬スル地域内ノ土著住民ニ對シ公正ナル待遇ヲ確保スルコトヲ約ス
- (ハ) 婦人及兒童ノ賣買並阿片其ノ他ノ有害藥物ノ取引ニ關スル取極ノ實行ニ付一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ
- (ニ) 武器及彈藥ノ取引ヲ共通ノ利益上取締ルノ必要アル諸國トノ間ニ於ケル該取引ノ一般監視ヲ聯盟ニ委託スヘシ
- (ホ) 交通及通過ノ自由並一切ノ聯盟國ノ通商ニ對スル衡平ナル待遇ヲ確保スル爲方法ヲ講スヘシ右ニ關シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戰役中荒廢ニ歸シタル地方ノ特殊ノ事情ヲ考慮スヘシ
- (ヘ) 疾病ノ豫防及撲滅ノ爲國際利害關係事項ニ付措置ヲ執ルニ力ムヘシ

テ近代世界ノ激甚ナル生存競争狀態ノ下ニ未ダ自立シ得サル人民ノ居住スルモノニ對シテハ該人民ノ福祉及發達ヲ計ルハ文明ノ神聖ナル使命ナルコト及其ノ使命遂行ノ保障ハ本規約中ニ之ヲ包容スルコトノ主義ヲ適用ス

此ノ主義ヲ實現スル最善ノ方法ハ該人民ニ對スル後見ノ任務ヲ先進國ニシテ資源、經驗又ハ地理的位置ニ因リ最此ノ責任ヲ引受ケルニ適シ且之ヲ受諾スルモノニ委任シ之ヲシテ聯盟ニ代リ受任國トシテ右後見ノ任務ヲ行ハシムルニ在リ

委任ノ性質ニ付テハ人民發達ノ程度、領土ノ地理的地位、經濟狀態其ノ他類似ノ事情ニ從ヒ差異ヲ設ケルコトヲ要ス

從前土耳其帝國ニ屬シタル或部族ハ獨立國トシテ假承認ヲ受ケ得ル發達ノ程度ニ達シタリ尤モ其ノ自立シ得ル時期ニ至ル迄施政上受任國ノ助言及援助ヲ受ケヘキモノトス前記受任國ノ選定ニ付テハ主トシテ當該部族ノ希望ヲ考慮スルコトヲ要ス

他ノ人民殊ニ中央阿弗利加ノ人民ハ受任國ニ於テ其ノ地域ノ施政ノ責任スヘキ程度ニ在リ尤モ受任國ハ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサル限リ良心及信教ノ自由ヲ許與シ、奴隸ノ賣買又ハ武器若ハ火酒類ノ取引ノ如キ弊習ヲ禁止シ並築城又ハ陸海軍根據地ノ建設及警察又ハ地域防衛以外ノ爲ニスル土民ノ軍事教育ヲ禁遏スヘキコトヲ保障シ且他ノ聯盟國ノ通商貿易ニ對シ均等ノ機會ヲ確保スルコトヲ要ス

〔外初版〕

第二十四條

一般條約ニ依リ既設ノ國際事務局ハ當該條約當事國ノ承諾アルニ於テハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮 下ニ屬セシムヘシ國際利害關係事項處理ノ爲今後設ケラルヘキ國際事務局及委員會ハ總テ之ヲ聯盟ノ指揮下ニ屬セシムヘキモノトス

一般條約ニ依リ規定セラレタル國際利害關係事項ニシテ國際事務局又ハ委員會ノ管理ニ屬セサルモノニ關シテハ聯盟事務局ハ當事國ノ請求ニ基キ聯盟理事會ノ同意ヲ得テ其ノ一切ノ關係情報ヲ蒐集頒布シ其ノ他必要又ハ望マシキ一切ノ援助ヲ與フヘシ

第二十五條

聯盟理事會ハ聯盟ノ指揮ニ屬セシメタル事務局又ハ委員會ノ經費ヲ聯盟事務局ノ經費中ニ編入スルコトヲ得

第二十六條

聯盟國ハ全世界ニ互リ健康ノ増進、疾病ノ豫防及苦痛ノ輕減ヲ目的トスル公認ノ國民赤十字黨志機關ノ設立及協力ヲ獎勵促進スルコトヲ約ス

附屬書

一 國際聯盟原聯盟國  
亞米利加合衆國



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

- 白耳義國
- 「ボリヰア」國
- 伯刺西爾國
- 英帝國
- 加奈陀
- 濠太利
- 南阿弗利加
- 新西蘭
- 印度
- 支那國
- 玖馬國
- 「エクアドル」國
- 佛蘭西國
- 希臘國
- 「グアテマラ」國
- 「ハイチ」國
- 「ヘチアーズ」國
- 「ホンヂュラス」國
- 伊太利國
- 日本國
- 「リベリア」國
- 「ニカラガア」國
- 巴奈馬國

二 國際聯盟第一次事務總長

- 秘露國
- 波蘭國
- 葡萄牙國
- 羅馬尼亞國
- 「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國
- 暹羅國
- 「チエッコ、スロヴァキア」國
- 「ウルグアイ」國
- 聯盟規約ニ加盟ヲ招請セラレタル國
- 亞爾然丁國
- 智利國
- 哥倫比亞國
- 丁抹國
- 和蘭國
- 諾威國
- 「パラグアイ」國
- 波斯國
- 「サルヴァドル」國
- 西班牙國
- 瑞典國
- 瑞西國
- 「ヴェネズエラ」國

第二編 洪牙利國ノ境界

第二十七條 洪牙利國ノ境界ハ左ノ通之ヲ決定ス(附屬地圖參照)

- 一 奧地利國トノ境界
- 「アントニエンホーフ」(「キットゼー」ノ東方)ノ西方約一吉米ニ於テ選定スヘキ洪牙利、奧地利及「チエッコ、スロヴァキア」三國國境ノ交會點ヨリ南方ニ向ヒ「サント・ヨハン」ノ南西方約八吉米ニ位スル標高一五ニ至ルノ間
  - 「カールブルグ」(「チオルナ」鐵道ヲ全然洪牙利國ノ版圖ニ屬セシメ「クロアチエシユ、ヤールンドルフ」及「ウニス・ソムメライン」ノ西方竝「キットゼー」ドイッチュ、ヤールンドルフ「ニツケルスドルフ」及「アングダウ」ノ東方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム
  - 次テ西方ニ向ヒ「ノイジードレル、ゼー」ノ南岸ニ於テ「ホーリング」ト「ヒテグシニツケ」トノ間ニ選定スヘキ地點ニ至ルノ間
  - 「バムハーゲン」ノ南方ヲ過キ「アインゼール」運河ノ全部及「メキシコ」停車場ヨリ北西方ニ通スル鐵道支線ヲ洪牙利國ニ屬セシメ「ノイジードレル、ゼー」ヲ横斷シ標高一七ノ存在スル島ノ南方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム
  - 次テ南方ニ向ヒ「ニキツチュ」ノ南東方約二吉米ニ於ケル標高二六五(「カメニエ」)ニ至ルノ間
  - 「チンケンドルフ」及「ニキツチュ」ノ東方及「ネメト、ベレステック」及「ケヴェシユト」ノ西方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

- 次テ南西方ニ向ヒ「ケセツケ」ノ南西方約九吉米ニ於ケル標高八八三(「トロット、ケー」)ニ至ルノ間
- 「ロチユマン」(「オルモト」及「リーピン」)ノ南東方竝「ケセツケ」ノ及「ケセツケ」ヨリ「サラモンフア」ニ至ル街道ノ北西方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム
- 次テ南方ニ向ヒ「ピンカミントセント」ノ北北東方約七吉米ニ於ケル標高二三四ニ至ルノ間
- 「ロホンツ」及「ナジュナルダ」ノ東方竝「ブツチン」及「ドズマツト」ノ西方ヲ、次ニ標高二七三、二六〇及二四一ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム
- 次テ略南西方ニ進ミ「セント、ゴットハルト」ノ北北東方約六吉米ニ於ケル標高三五三ニ至ルノ間
- 「ナジュシアロシユラック」ト「ピンカミントセント」トノ間ヲ、「カラチユフア」ネメトビユグエーシユ」及「シアマント」諸村落ノ南方ヲ、次ニ標高三二三(「ホツホコーゲル」)ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム
- 次テ南西方ニ向ヒ「トカ」ノ東方約二吉米ニ於ケル「ラバ」(「ラーア」)及「ムール」兩河流域間ノ分水線上ニ選定スヘキ奧地利、洪牙利及「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」三國國境ノ交會點ニ至ルノ間
- 「ラバケレストウール」ネメトラク」及「ナジュアルヴァ」諸村落ノ東方、「ラドケルスブルグ」(「セント、ゴットハルト」街道ノ西方竝標高三五三)「ヤンケ、ベルグ」ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム



二 「セルブ、クロアト、スロヴェニア」國ノ境界

前記ノ交會點ヨリ東方ニ向ヒ「セント、ゴットハルト」ノ南方約十吉  
米ニ於ケル標高三一三ニ至ルノ間

北方ニ於テ「ラバ」、南方ニ於テ「ムール」ノ兩河流域ヲ分ツ線ヲ大  
體ニ於テ迪ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ「ムラソムバット」ノ北方約十六吉米ニ於ケル標  
高二九五ニ至ルノ間

「ナツドランニ」オリホドシユ（其ノ鐵道停車場共）「カボルナツ  
ク」「ドモンコシュフア」及「キシユセルダヘイ」ノ諸地ノ東方、「コト  
ルマニユ」及「ソモロツ」ノ西方並標高三一九及二九一ヲ過ルモノ  
トシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南東方ニ向ヒ「ネメシユネブ」ノ西方約三吉米ニ於ケル標高二〇  
九ニ至ルノ間

北方ニ於テ「ネメシユネビ」、南方ニ於テ「ケベレ」ノ兩河流域ヲ分  
ツ線ヲ大體ニ於テ迪ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南南東方ニ向ヒ標高二六五ノ南方「レンドヴァ」河上ニ選定スヘ  
キ一點ニ至ルノ間

「ケベレセントマルトシ」「ジツトケツツ」「ゲンテルハザ」「ヒドヴェツ  
グ」「チエンテ」「ピンツエ」ノ諸地ノ東方及「レンドヴァヤカプフア」  
「ベデハザ」「ガボリヤンハザ」「デシユ」「レンドヴァ・ウイフアル」ノ  
西方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南東方ニ向ヒ  
「レンドヴァ」河ノ河流ヲ下ル

次テ東北東方ニ向ヒ「バチユマダナシユ」停車場ノ東南東方約三吉米  
ニ於テ「キシユオシユ」河ノ河流上ノ一點ニ至ルノ間

「ヘルツェグサント」及「ベレグ」ノ兩地ノ間ヲ過キ次ニ「キシユオ  
シユ」河ノ河流ニ大體ニ於テ沿フモノトシ（但シ「リジツツア」ノ北方  
ニ迂回スルモノトス）實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ東北東方ニ向ヒ「ホルゴシユ」停車場ノ東北東方約五吉米半ニ於  
テ「ティッサ」河（「タイス」河）ノ湛水派川上ニ選定スヘキ一點ニ至ル  
ノ間

「クン・バヤ」ノ南方ヲ過キ「チケリア」停車場ノ東方約一吉米半ニ  
於テ「サバトカ」ヨリ「バチアルマシユ」ニ至ル鐵道ヲ横斷シ「ケレ  
ビア」停車場ノ南方約三吉米ニ於テ「サバトカ」ヨリ「キシユクンハ  
ラシユ」ニ至ル鐵道ヲ横斷シ「ホルゴシユ」及其ノ停車場ノ北方並  
「レスケ・セントミハイテレツク」ノ南方ヲ過ルモノトシ實查ノ上  
境界線ヲ定ム

次テ南東方ニ向ヒ「ティッサ」河ニ至ルノ間  
右湛水派川ノ中央線ニ依ル

次テ同河チ約五吉米ノ間溯リ實查ノ上選定スヘキ一點ニ至ルノ間  
「ティッサ」河ノ河流ニ依ル

次テ大體ニ於テ東方ニ向ヒ標高八四ノ東南東方及標高八三ノ南南西  
方ニ略當リテ「キノムボル」停車場ノ南西方約四吉米ニ於テ實查ノ上  
選定スヘキ羅馬尼亞、洪牙利及「セルブ、クロアト、スロヴェニア」  
三國國境ノ交會點タル地點ニ至ルノ間

「シアラ」及「オセンティヴァン」ノ兩地間並「オベブ」及「クユベクム  
第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

次ニ「ムール」河ノ河流ヲ下ル

次ニ「ムール」河カ「ジユケニシユ」ヨリ「コプロンツア」ニ至ル鐵道  
ノ橋梁ヨリ上流約一吉米半ニ於テ洪牙利國及「クロアシア・スラヴ  
ニア」間ノ舊境界ト接合スル點ニ至ルノ間

「ドラウ」河ノ河流ヲ下ル  
次テ南東方ニ向ヒ「ミホリヤツドルニイ」ノ東方約九吉米ニ於テ選  
定スヘキ地點ニ至ルノ間

洪牙利國及「クロアシア・スラヴニア」間ノ舊行政境界ニ依ル尤  
モ「ジユケニシユ」ヨリ「バルチ」ニ至ル鐵道線路（「ゴラ」停車場  
ヲ含ム）ハ全然洪牙利國ノ版圖ニ之ヲ屬セシムル様該境界ヲ更正  
ス

次テ東方ニ向ヒ「バラニアヴァル」ノ南西方約三吉米ニ於ケル標高九  
三ニ至ルノ間

「トリヤンツ」「ロイツチ」及「ベンゲ」ノ諸地ノ北方並「カシアット」「ベ  
レメント」（其ノ鐵道停車場共）及「イロチカ」ノ南方ヲ過ルモノト  
シ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ北東方ニ向ヒ標高一六九（「キシユケシエグ」）ノ北方約八吉米ニ  
於テ實查ノ上選定スヘキ「ダニユーア」河ノ河流上ノ一點ニ至ルノ間  
「バラニアヴァル」「フエヘルツェグラツク」（「バラニアヴァル」ノ直北  
方ノ分岐點ニ於テ右ノ二地ヲ連絡スル鐵道ヲ「セルブ、クロア  
ト、スロヴェニア」國ニ屬セシムルモノトス）及「ダリヨツク」ノ西方  
並「イヴァン・ダラダ」「シアロツク」「ウドヴァル」及「イサベラフェル  
ト」（其ノ鐵道共）ノ東方ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

「ザ」間ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム  
三 羅馬尼亞國トノ境界

前記ノ交會點ヨリ東北東方ニ向ヒ「マロシユ」河上ニ「マコー」ヨリ  
「セゲット」ニ至ル鐵道線路ノ橋梁ヨリ上流約三吉米半ニ於テ選定ス  
ヘキ一點ニ至ルノ間

實查ノ上境界線ヲ定ム  
次テ南東方ニ向ヒ次ニ北東方ニ向ヒ「ナツユラツク」停車場ノ南方約  
一吉米ニ於テ選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「マロシユ」河ノ河流ヲ溯ル  
次テ北東方ニ向ヒ「ネメトベレツク」ノ北北西方「チアナッド」及「アラ  
ッド」兩郡間ノ行政境界ノ凸出部ニ至ルノ間

「ナツユラツク」及鐵道停車場間ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ  
定ム  
次テ東北東方ニ向ヒ「バットニア」及「トルニア」ノ兩地間ニ於テ實查ノ  
上選定スヘキ地點ニ至ルノ間

「ネメトベレツク」及「キシユベレツク」ノ北方ヲ過ル右ノ行政境界ニ  
依ル  
次テ洪牙利、羅馬尼亞及「チュッコ、スロヴァキア」（「ルターヌ」地方）  
三國國境ノ交會點タル標高一二三「マゴシユリゲット」ノ東方約一  
吉米十分ノ二ニ至ルノ間

（外初版）







「ヴェガルド」ノ兩地ヲ洪牙利國ニ屬セシムルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南西方ニ向ヒ「ベルシエツ」ノ南南東方約十二吉米ニ於ケル標高三六五ニ至ルノ間

標高六〇一、三八一(「ロジニオ」)「エテレニユ」(街道上)、五五七及五〇ニテ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南南西方ニ向ヒ「ブットノック」ノ北西方約七吉米ニ於ケル標高三〇五ニ至ルノ間

西方ニ於テ「シアヨ」、東方ニ於テ「スハ」及「クレメリ」ノ諸河流域間ノ分水線ニ依ル

次テ南南西方ニ向ヒ「シアヨ」河ト「リマ」河トノ會流點ノ南方ニ於ケル標高二七八ニ至ルノ間

「バンレヴェ」停車場ヲ洪牙利國ニ屬セシムヘク尤モ時宜ニ依リ「ベルシエツ」及「ロシオンツ」ノ兩鐵道線路間ノ接續線ヲ「チエツ

コ、スロヴァキア」國ノ版圖ニ設置スルコトヲ得シムルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南西方ニ向ヒ「シアルゴタリアン」ノ東北東方約十吉米ニ於ケル標高四八五ニ至ルノ間

北方ニ於テ「リマ」、南方ニ於テ「ハンゴニユ」及「タルナ」ノ諸河流域間ノ分水線ヲ大體ニ於テ迪ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ西北西方ニ向ヒ標高七二七ニ至ルノ間

「ザジユヴァ・ロナ」及「シアルゴ」ノ兩地及嶺山ヲ洪牙利國ニ屬セシメ且「シオモシユ・ウイフアル」停車場ノ南方ヲ過ルモノトシ實查ノ

上ニ表示ス本條約ノ本文ト地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

次テ西方ニ向ヒ地勢、洪牙利及「チエツコ、スロヴァキア」三國國境ノ交會點タル「アントニエンホーフ」(「キットゼー」ノ東方)ノ西方約一吉米ニ於テ實查ノ上選定スヘキ地點ニ至ルノ間

實查ノ上境界線ヲ定ム

本條約ニ記載セル境界ハ其ノ決定シタル部分ヲ本條約附屬百萬分一地圖上ニ表示ス本條約ノ本文ト地圖トノ間ニ相違アル場合ニ於テハ本文ニ從フモノトス

第二十八條

本條約ニ依リ其ノ組織ヲ定ムル境界委員會又ハ主タル同盟及聯合國ト關係諸國若ハ其ノ一國トノ條約ニ依リ其ノ組織ヲ定メラルヘキ境界委員會ハ前記境界實查劃定スヘシ

右委員會ハ「實查ノ上境界線ヲ定ム」ト規定セル部分ヲ確定スルノ外關係諸國中ノ一國ノ請求アリ且委員會力適當ト認ムル場合ニ於テハ行政境界ニ依リ決定シタル部分ヲ更正スルノ權能ヲ有スヘシ(但シ千九百十四年八月ニ存在シタル國際境界ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス右ニ關シテハ委員會ノ任務ハ單ニ道標又ハ境界標ノ點檢ニ限定セラルヘキモノトス)右兩種ノ場合ニ於テ委員會ハ行政境界及當該地方ノ經濟上ノ利害ヲ能ク限リ斟酌シ成ルヘク條約ノ決定スル所ニ從フコトニ力ムヘシ

委員會ノ決議ハ表決ノ過半数ニ依リ且當事國ヲ拘束スヘシ

境界委員會ノ經費ハ關係二國折半シテ之ヲ負擔ス

第三十條

水路ヲ以テ境界ヲ決定スル場合ニ於テ本條約ニ使用スル「河流」及「水道」

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

三百五十

上境界線ヲ定ム

次テ北西方ニ向ヒ「リットケ」ノ東方約七吉米ニ於ケル標高三九一ニ至ルノ間

北東方ニ於テ「ドプロダ」ノ流域ヲ劃スル分水嶺ヲ大體ニ於テ迪リ且標高四四六ヲ過ル線ニ依ル

次テ北西方ニ向ヒ「タルノツ」ノ北東方約一吉米半ニ於テ「アイベル」(「イボイ」)河ノ河流上ニ選定スヘキ一點ニ至ルノ間

標高三一二ヲ、「タルノツ」及「カロンド」間ヲ過ルモノトシ實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南西方ニ向ヒ「テシユマツ」ノ南方約一吉米ニ於テ「アイベル」河ノ彎曲部ニ選定スヘキ一點ニ至ルノ間

「アイベル」河ノ河流ヲ下ル

次テ西方ニ向ヒ「テシア」ノ西方約一吉米ニ於テ「アイベル」河ノ河流上ニ選定スヘキ一點ニ至ルノ間

「イボイシテツ」(停車場ノ南方ヲ過キ且「イボイシテツ」ヨリ「チアタ」ニ至ル鐵道線路及「コロボナ」(「カルプフェン」)ニ向フ支線ヲ

全然「チエツコ、スロヴァキア」國ノ版圖ニ屬セシメ「ベルネツツ」及「テシア」ノ兩地ヲ洪牙利國ニ屬セシムル様實查ノ上境界線ヲ定ム

次テ南方ニ向ヒ同河ト「ダニユア」河トノ會流點ニ至ルノ間

「アイベル」河ノ河流ヲ下ル

次テ「ダニユア」河ヲ溯リ「アントニエンホーフ」(「キットゼー」ノ東方)ノ東方約二吉米ニ於テ定ムヘキ一點ニ至ルノ間

「ダニユア」河ノ主要航行水道ニ依ル

ナル語ハ航行不能河川ニ在リテハ水路ノ又ハ其ノ本流ノ中央線、航行可能河川ニ在リテハ主要航行水道ノ中央線ヲ謂フ河流又ハ水道ノ移動ニ從ヒ國境線ノ變更ヲ生スヘキヤ或ハ本條約實施當時ニ於ケル河流又ハ水道ノ位置ニ依リ國境線ヲ確定スヘキヤハ本條約ニ定ムル境界委員會ニ於テ各場合ニ付之ヲ決定ス

第三十一條

關係諸國ハ委員會ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル一切ノ書類ヲ現境界又ハ舊境界ノ劃定圖書ノ認證謄本、一切ノ現在大梯尺地圖、測地諸元、未公表完成測量圖及國境水流ノ移動ニ關スル參考資料ヲ提供スルコトヲ約ス

右關係諸國ハ又委員會ニ一切ノ書類ヲ提供スルコトヲ約ス

付シ且委員會ノ請求アルトキハ財産及現經濟事情ニ關スル一切ノ參考資料並其ノ他ノ必要ナル情報ヲ之ニ提供スヘキ旨ヲ地方官憲ニ命スルコトヲ約ス

第三十二條

關係諸國ハ境界委員會ノ任務遂行上必要ナル運送、宿舎、勞力、材料(道標、境界標)ニ關スル一切ノ事項ニ付直接ニ又ハ地方官憲ヲ經テ同委員會ヲ援助スルコトヲ約ス

第三十三條

關係諸國ハ委員會ノ建設セル三角點規標、標識、道標又ハ境界標ヲ保護スルコトヲ約ス

第三十四條

境界標ハ互ニ望見シ得ル距離ニ之ヲ建設スヘシ右境界標ニハ番號ヲ附シ其ノ位置及番號ハ製圖書類ニ之ヲ記載スヘシ

三百五十一



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第三十五條

境界劃定ノ確定調書、附屬ノ地圖及書類ハ其ノ原本三通ヲ作成シ内二通ハ之ヲ接境國政府ニ、一通ハ之ヲ佛蘭西共和國政府ニ送付スヘシ佛蘭西共和國政府ハ其ノ認證本ヲ本條約署名國ニ交付スヘシ

第三編 歐洲政治條項

第一款 伊太利國

第三十六條

洪牙利國ハ千九百十九年九月十日同盟及聯合國ト壤地利國トノ間ニ締結セラレタル平和條約ノ第三十六條第一項ニ依リ伊太利國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラレタル舊壤地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對シ洪牙利國ノ主張シ得ル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ伊太利國ノ爲ニ拋棄ス

第三十七條

伊太利國ハ羅馬ニ於ケル「バラツツオ、ヴェネツィア」領有ノ件ニ關シ何等金錢上ノ債務ヲ負フコトナカルヘシ

第三十八條

洪牙利國ハ戰爭開始前ニ壤地利國內ニ入込現ニ自國內ニ在ル伊太利國鐵道ニ屬スル一切ノ車輛ヲ三月以内ニ伊太利國ニ還付スヘシ

第三十九條

壤地利國トノ平和條約ノ第三十六條第一項ニ依リ伊太利國ニ讓渡セラレタル舊壤地利洪牙利君主國領土内ニ定住シタル者ニシテ戰時中舊壤地利洪牙利君主國領土外ニ在リ又ハ拘禁、抑留若ハ追放セラレタルモノハ第一編(經濟條項)第二百五十二條ノ規定ニ拘ラス同編第二百三十五條及第二百五十六條ノ規定ノ利益ヲ完全ニ享受スヘシ

「セルブ」國ノ任命スル一名及洪牙利國ノ任命スル一名計七名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以内ニ設置スヘシ

第四十四條

「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ハ其ノ人口ノ多數ト種族、言語又ハ宗教ヲ異ニスル住民ノ利益ヲ同國內ニ於テ保護スル爲及他國民ノ通商ニ關シ通過ノ自由ト制度ノ衡平トヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國ト締結スル條約中ニ設クルコトヲ諾スヘキコトヲ洪牙利國ニ對シテ確認ス

洪牙利國ノ財政上ノ義務ニシテ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國カ其ノ主權ノ下ニ置キタル地域ニ關シ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第八十六條ニ依リ之ヲ決定スヘシ  
前記地域割讓ノ結果生スルコトアルヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リ決定セラレタルモノハ後日ノ取極メヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第三款 羅馬尼亞國

第四十五條

洪牙利國ハ第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條ニ定ムル洪牙利國境ノ外ニ位シ本條約ニ依リ又ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結スル他ノ一切ノ條約ニ依リ羅馬尼亞國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラルル舊壤地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ羅馬尼亞國ノ爲ニ拋棄ス

第四十六條

第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條第三號ノ國境線ヲ實査劃定スル爲主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名、羅馬尼亞國ノ任命スル一名及洪牙利

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第四十條

壤地利國トノ平和條約ノ第三十六條第一項ニ依リ伊太利國ニ讓渡セラレタル地域内ノ裁判所カ該地域ノ住民ト舊洪牙利王國民トノ間ノ民事及商事事件ニ付千九百十四年八月四日以後下シタル判決ハ該地域ニ於ケル當該新裁判所ノ執行ノ命令カ發セラレタル場合ニ於テノミ之ヲ執行スルコトヲ得

伊太利國民ニ對シ又ハ壤地利國トノ平和條約ニ依リテ伊太利國籍ヲ取得スヘキ者ニ對シ政治犯罪ニ付千九百十四年八月四日以後舊壤地利洪牙利君主國司法官憲ノ下シタル一切ノ裁判ハ無効タルヘシ

第二款 「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國

第四十一條

洪牙利國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認ス

第四十二條

洪牙利國ハ第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條ニ掲クル洪牙利國境ノ外ニ位シ本條約ニ依リ又ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結スル他ノ一切ノ條約ニ依リ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラルル舊壤地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ノ爲ニ拋棄ス

第四十三條

第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條第二號ニ掲クル國境線ヲ實査劃定スル爲主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名、「セルブ、クロアイト、スロヴェ

〔外初版〕

國ノ任命スル一名計七名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以内ニ設置スヘシ

第四十七條

羅馬尼亞國ハ其ノ人口ノ多數ト種族、言語又ハ宗教ヲ異ニスル住民ノ利益ヲ同國內ニ於テ保護スル爲及他國民ノ通商ニ關シ通過ノ自由ト制度ノ衡平トヲ保護スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ト認ムル規定ヲ該諸國ト締結スル條約中ニ設クルコトヲ諾スヘキコトヲ洪牙利國ニ對シテ確認ス

洪牙利國ノ財政上ノ義務ニシテ羅馬尼亞國カ其ノ主權ノ下ニ置キタル地域ニ關シ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第八十六條ニ依リ之ヲ決定スヘシ  
前記地域ノ割讓ノ結果生スルコトアルヘキ一切ノ問題ニシテ本條約ニ依リ決定セラレタルモノハ後日ノ取極メヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第四款 「チエッコ、スロヴァキア」國

第四十八條

洪牙利國ハ同盟及聯合國ノ既ニ執リタル措置ニ從ヒ「カルバート」山脈ノ南方ニ於ケル「ルテニア」人ノ自治地域ヲ含ム「チエッコ、スロヴァキア」國ノ完全ナル獨立ヲ承認ス

第四十九條

洪牙利國ハ第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條ニ定ムル洪牙利國境ノ外ニ位シ本條約ニ依リ又ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結スル他ノ一切ノ條約ニ依リ「チエッコ、スロヴァキア」國ノ一部分ヲ爲スモノト認メラルル舊壤地利洪牙利君主國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ「チエッコ、スロヴァキア」國ノ爲ニ拋棄ス



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第五十條

第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條第四號ノ國境線ヲ實査劃定スル爲主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名、「チエッコ、スロヴァキア」國ノ任命スル一名及洪牙利國ノ任命スル一名計七名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以内ニ設置スヘシ

第五十一條

「チエッコ、スロヴァキア」國ハ自國領土中「プラティスラヴァ」(「プレスナール」)ノ南方ニ位スル「ダニユーア」河右岸ノ部分ニ何等ノ軍事工作物ヲ構設セサルコトヲ約ス

第五十二條

洪牙利國ノ財政上ノ義務ニシテ「チエッコ、スロヴァキア」國カ其ノ主權ノ下ニ置キタル地域ニ關シ負擔スヘキモノノ割合及性質ハ第九編(財政條項)第百八十六條ニ依リ之ヲ決定スヘシ

第五十三條 「フイウメ」

洪牙利國ハ舊洪牙利王國ニ屬シ且後日定メラルヘキ境界内ニ在ル「フイウメ」及其ノ接壤地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ拋棄ス

第五十四條

洪牙利國ハ本款ニ掲ケル規定ヲ根本法ト爲スコトヲ承認シ自國ノ法令又

第六款 少數民族ノ保護

ノ集會ニ於テ如何ナル言語ヲ使用スルモ其ノ用語ノ自由ニ付テハ何等ノ制限ヲ課セラルコトナカルヘシ

洪牙利國政府カ公用語ヲ定メタル場合ト雖洪牙利語ニ非サル言語ヲ用井ル洪牙利國民ハ口頭タルト書面タルトナ問ハス法廷ニ於テ其ノ言語ヲ使用スルニ付相當ノ便宜ヲ供與セラルヘシ

種族、宗教又ハ言語上少數ニ屬スル洪牙利國民ハ他ノ洪牙利國民ト法律上及事實上同一ノ待遇及保障ヲ享クヘク殊ニ其ノ費用ヲ以テ慈善的、宗教的及社會的ノ施設並學校其ノ他ノ教育設備ヲ開設、經營及管理シ且右ノ施設及設備ニ於テ自由ニ各自ノ言語ヲ用井及宗教上ノ勤行ヲ爲スニ付均等ノ權利ヲ有スヘシ

第五十九條

學校教育ニ關シテハ洪牙利國政府ハ洪牙利語ニ非サル言語ヲ用井ル洪牙利國民ノ相當ニ多ク居住スル都市及地方ニ於テ右洪牙利國民ノ兒童カ各自ノ言語ヲ以テ小學校ニ於ケル教育ヲ受クヘキコトヲ保障スル爲相當ノ便宜ヲ供與スヘシ但シ洪牙利國政府カ右小學校ニ於テ洪牙利語ヲ必須科目ト爲スコトヲ妨ケス

種族、宗教又ハ言語上少數ニ屬スル洪牙利國民カ相當ニ多ク居住スル都市及地方ニ於テ右洪牙利國民ハ國、都市其ノ他ノ豫算上公共基金中ヨリ教育、宗教又ハ慈善ノ目的ノ爲支出セラルコトアルヘキ金額ノ支給又ハ割當ヲ受ケタルニ付衡平ナル配分ヲ保障セラルヘシ

第六十條

洪牙利國ハ種族、宗教又ハ言語上少數ニ屬スル者ニ關スル限リ本款前諸條ノ規定ヲ以テ國際的利害關係ヲ有スル義務ヲ設定スルモノトシ之ヲ國

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ハ處分行爲カ右規定ニ抵觸又ハ背馳スルコトナカルヘク且右法令又ハ製分行爲ヲ以テ之カ效力ヲ左右スルコトナカルヘキコトヲ約ス

第五十五條

洪牙利國ハ出生、國籍、言語、種族又ハ宗教ノ如何ヲ問ハス洪牙利國內ノ一切ノ住民ニ對シ其ノ生命及自由ニ付充分且安全ナル保護ヲ與フルコトヲ約ス

洪牙利國內ノ一切ノ住民ハ信仰、宗教又ハ信條ニシテ其ノ實行カ公ノ秩序及善良ノ風俗ニ反セサルモノニ限り公タルト私タルトナ問ハス自由ニ之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第五十六條

洪牙利國ハ本條約實施ノ際洪牙利國版圖内ニ於テ住民資格(「ベルティネンザ」)ヲ有スル者ニシテ他國ノ國民ニ非サルモノカ總テ何等ノ方式ヲ要セス當然洪牙利國民タルヘキコトヲ承認ス

第五十七條

洪牙利國ノ版圖内ニ於テ生レタル者ハ生來ノ他國國籍ヲ主張シ得サル限リ總テ當然洪牙利國國籍ヲ取得ス

第五十八條

洪牙利國民ハ總テ法律ノ前ニ平等タルヘク且種族、言語又ハ宗教ノ如何ヲ問ハス同一ノ公權及私權ヲ享有スヘシ

(外初版)

際聯盟ノ保障ノ下ニ置クヘキコトヲ約ス右規定ハ國際聯盟理事會ノ過半数ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス國際聯盟理事會ニ代表セラルル同盟及聯合國ハ聯盟理事會カ過半数ヲ以テ正式ニ同意ヲ與ヘタル右諸條ノ變更ニ對シ何レモ同意ヲ拒マサルコトヲ約ス

洪牙利國ハ前項義務中何レカ一ノ違反又ハ違反ノ虞アルコトヲ國際聯盟理事會ノ一員タル國カ聯盟理事會ニ注意スルノ權利ヲ有スルコト及聯盟理事會カ事宜ニ應シ適當ニシテ有效ナリト認ムル措置ヲ執リ且指示ヲ與ヘ得ヘキコトヲ約ス

洪牙利國政府ト同盟及聯合國中ノ一國又ハ國際聯盟理事會ノ一員タル其ノ他ノ國トノ間ニ於テ右諸條ヨリ生スル法律上又ハ事實上ノ問題ニ關シ意見ノ一致ヲ見サルトキハ洪牙利國ハ之ヲ以テ國際聯盟規約第十四條ニ定ムル國際的性質ヲ有スル紛争ト看做スヘキコトヲ約ス洪牙利國政府ハ對手國ノ要求アルニ於テハ此ノ種ノ紛争ヲ常設國際司法裁判所ニ付託スヘキコトヲ約ス常設國際司法裁判所ノ判決ハ終審タルヘク該判決ハ右規約第十三條ニ據ル判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第七款 國籍ニ關スル條項

第六十一條

從前舊埃地利洪牙利君主國ノ領土ノ一部分タリシ地域内ニ住民資格(「ベルティネンザ」)ヲ有スル一切ノ者ハ該地域ニ主權ヲ行使スル國ノ國籍ヲ當然取得シ洪牙利國國籍ヲ喪失スヘシ

第六十二條

本條約ニ依リ「セルブ、クロアチア、スロヴエーヌ」國又ハ「チエッコ、スロヴエーヌ」國ニ割讓セラルル地域内ニ千九百十年一月一日以後住民



資格ヲ取得シタル者ハ第六十一條ノ規定ニ拘ラス各場合ニ應ジ「セルブ、クロアチヤ、スロヴェニア」國又ハ「チエッコ、スロヴェニア」國ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ「セルブ、クロアチヤ、スロヴェニア」國又ハ「チエッコ、スロヴェニア」國ノ國籍ヲ取得スルコトナカルヘシ

前項ニ定ムル許可ノ申請ヲキトキ又ハ其ノ許可拒否セラレタルトキハ當事者ハ從前其ノ住民資格ヲ有セシ地域ニ主權ヲ行使スル國ノ國籍ヲ當然取得スヘシ

第六十三條

第六十一條ニ依リ洪牙利國ノ國籍ヲ喪失シ當然新國籍ヲ取得スル十八歳以上ノ者ハ讓渡地域内ニ其ノ住民資格ヲ取得スル前ニ其ノ住民資格ヲ有シタル國ノ國籍ヲ本條約實施後一年以内ニ選擇スルノ權利ヲ有スヘシ夫ノ國籍選擇ハ妻ニ、父母ノ國籍選擇ハ十八歳未満ノ子ニ及ブ右選擇權ヲ行使シタル者ハ其ノ選擇シタル國ニ爾後十二月以内ニ其ノ住所ヲ移スコトヲ要ス

第六十四條

舊奧地利洪牙利君主國ノ一部分タル地域内ニ住民資格ヲ有スル者ニシテ該地域ノ人口ノ多數ト種族及言語ヲ異ニスルモノハ本條約實施後六月以内ニ奧地利國、洪牙利國、伊太利國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチヤ、スロヴェニア」國又ハ「チエッコ、スロヴェニア」國ノ國籍ヲ選

洪牙利國ハ盧森堡大公國ノ中立ノ制度ノ廢止ニ自國ノ關スル限リ同意スルコトヲ聲明シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スル一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

三 「シユレスワイヒ」

第六十九條

洪牙利國ハ千八百六十四年十月三十日ノ條約ニ依リ丁抹國ヲシテ拋棄セシメタル地域ニ關シ同盟及聯合國カ獨逸國ト締結スル一切ノ規定ヲ自國ノ關スル限リ承認スルコトヲ聲明ス

四 土耳其國及勃爾牙利國

第七十條

洪牙利國ハ土耳其國又ハ勃爾牙利國ニ於テ洪牙利國又ハ其ノ國民ノ請求スルコトアルヘキ一切ノ權利、利益及特權ニシテ本條約ニ其ノ規定ヲ設ケサルモノニ關シ同盟及聯合國カ土耳其國及勃爾牙利國ト將來締結スルコトアルヘキ又ハ既ニ締結シタル一切ノ協定ヲ自國ノ關スル限リ認諾スヘキコトヲ約ス

五 奧地利國

第七十一條

洪牙利國ハ第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條第一號ニ定ムル洪牙利國境ノ外ニ在ル舊洪牙利王國ノ諸地方ニ對スル一切ノ權利及權原ヲ奧地利國ノ爲ニ拋棄ス

前記國境線ヲ實査劃定スル爲主タル同盟及聯合國ノ任命スル五名、洪牙利國ノ任命スル一名及奧地利國ノ任命スル一名計七名ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ本條約實施後十五日以内ニ設置スヘシ

擇スルコトヲ得但シ當該國ノ人口ノ多數ヲ選擇權行使者ト同一ノ言語ヲ用非且同一ノ種族ニ屬スル場合ニ限レモトス選擇權ノ行使ニ關スル第六十三條ノ規定ハ本條ノ認ムル權利ノ行使ニ付之ヲ適用ス

第六十五條

締約國ハ本條約又ハ同盟及聯合國ト獨逸國、奧地利國若ハ露西亞國トノ間又ハ同盟及聯合國相互間ニ締結セラレル條約ニ依リ規定セラレ當事者ノ他國國籍ノ取得ヲ認容スル選擇權ノ行使ニ對シ何等ノ障礙ヲ加ヘサルコトヲ約ス

第六十六條

本款ノ規定ノ適用アル一切ノ場合ニ於テ妻ハ夫ノ身分ニ、十八歳未満ノ子ハ父母ノ身分ニ從フ

第八款 歐羅巴諸國ニ關スル政治條項

一 白耳義國

第六十七條

洪牙利國ハ戰前白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ事情ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ自國ノ關スル限リ該條約ノ廢止ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フル爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府又ハ和蘭國政府ト締結スヘキ一切ノ條約ヲ茲ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ規定ニ對シ洪牙利國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ洪牙利國ハ茲ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

二 盧森堡國

第六十八條

本條ニ定ムル地方ノ住民ノ國籍ハ第六十一條及第六十三條乃至第六十六條ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

六 露西亞及露西亞諸國

第七十二條

一 洪牙利國ハ千九百十四年八月一日ニ於テ前露西亞帝國ノ一部分タルシ一切ノ地域ノ獨立ヲ承認シ且永久動カスヘカラサルモノトシテ之ヲ尊重スヘキコトヲ約ス

洪牙利國ハ第九編(財政條項)第九十三條及第十編(經濟條項)第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ「アレスト、リトウスク」條約並舊奧地利洪牙利國政府ノ露西亞過激派政府ト締結シタル他ノ一切ノ條約及取極ノ失効ヲ自國ノ關スル限リ認諾ス

同盟及聯合國ハ露西亞國カ本條約ノ原則ニ基ク回復及賠償ヲ洪牙利國ヨリ取得スルノ權利ヲ明確ニ留保ス

二 洪牙利國ハ同盟及聯合國カ千九百十四年八月一日ニ於ケル前露西亞帝國領土ノ全部又ハ一部ニ於テ既ニ成立シ又ハ將來成立スヘキ諸國ト締結スル一切ノ條約又ハ協定ノ完全ナル效力ヲ承認シ且右條約又ハ協定中ニ決定スル此等諸國ノ國境ヲ承認スルコトヲ約ス

第九款 一般規定

第七十三條

洪牙利國ノ獨立ハ國際聯盟理事會ノ同意アル場合ヲ除クノ外動カスヘカラサルモノトス從テ洪牙利國ハ該理事會ノ同意ナクシテ直接又ハ間接ニ且各種ノ手段(殊ニ其ノ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラルル迄他國ノ事項ニ干與スルコト)ニ依リ其獨立ヲ危クスヘキ性質ヲ有スル何等ノ

〔外初版〕



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

行爲ヲ爲ササルコト約ス

第七十四條

洪牙利國ハ主タル同盟及聯合國ノ決定スヘキ境地利國、勃爾牙利國、希臘國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國及「チエッコ、スロヴァキア」國ノ國境ヲ認諾スルコトヲ茲ニ聲明ス

洪牙利國ハ同盟及聯合國ト舊境地利洪牙利君主國ニ與シテ戰ヒタル諸國トノ間ニ既ニ締結セラレ又ハ將來締結セラレヘキ平和條約及追加條約ノ完全ナル效力ヲ承認シ、前獨逸帝國、境地利國、勃爾牙利王國及土耳其帝國ノ領土ニ關シ既ニ執ラレ又ハ將來執ラレヘキ如何ナル措置ヲ承認シ且右條約ノ定ムル國境ヲ有スル諸新國ヲ承認スルコトヲ約ス

第七十五條

洪牙利國ハ從前舊境地利洪牙利君主國ニ屬セシ地域ニシテ第二編(洪牙利國ノ境界)第二十七條ニ掲グル洪牙利國ノ新國境外ニ位シ現ニ他ノ何等ノ規定ナキモノノ上ニ有スル其ノ一切ノ權利及權原ヲ自國ノ關スル限リ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

第七十六條

舊境地利洪牙利君主國領土ノ住民ハ何人ト雖千九百十四年七月二十八日ヨリ該地域ニ對スル主權ノ確定的承認ニ至ル間ノ其ノ政治上ノ態度ニ因リ又ハ本條約ニ依ル其ノ國籍ノ處理ニ因リ窘迫又ハ虐待ヲ受クルコトナ

第七十七條

洪牙利國ハ千九百十六年四月七日「アルヘシラス」一般議定書並千九百九年二月九日及千九百十一年十一月四日ノ佛蘭西獨逸兩國間ノ取極ニ依リ洪牙利國ニ付與セラレタル一切ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス舊境地利洪牙利君主國政府ハ摩洛哥帝國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定又ハ契約ハ千九百十四年八月十二日以後廢止セラレタルモノト看做ス

第八十一條

洪牙利國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記ノ文書ヲ援用スルコトヲ得ス又佛蘭西國ト地ノ諸國トノ間ニ摩洛哥帝國ニ關シテ行ハルルコトアルヘキ商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス

第八十二條

摩洛哥帝國政府ハ摩洛哥帝國ニ於ケル洪牙利國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ

第八十三條

摩洛哥帝國内ニ於ケル舊境地利洪牙利君主國ノ動産及不動産ニ關スル一切ノ權利ハ無償ニテ摩洛哥帝國政府ニ當然歸屬ス

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

洪牙利國ハ割讓地域ノ民政、軍政、財政、司法其ノ他ニ關スル各種ノ記録、登錄簿、圖面、證書及文書ヲ遲滞ナク關係同盟國又ハ聯國政府ニ引渡スヘシ若シ右ノ文書、記録、登錄簿、證書又ハ圖面中他ニ移シタルモノアルトキハ洪牙利國ハ關係同盟國又ハ聯合國政府ノ請求ニ應シテ之ヲ引渡スヘシ

前項ニ掲グル記録、登錄簿、圖面、證書又ハ文書ニシテ軍事的性質ヲ有セサルモノノ中洪牙利國ノ施政ニ均シク關係ヲ有シ從テ之ヲ引渡シ因リ同國ノ施政ニ支障ヲ及ボスモノアル場合ニ於テハ同國ハ相互條件ノ下ニ關係同盟及聯合國政府ニ對シ該書類ニ付通告スヘキコトヲ約ス

第七十八條

住民ノ利益殊ニ其ノ私權、營業及職業ニ關シテハ洪牙利國ト舊洪牙利王國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル各國又ハ舊境地利洪牙利君主國ノ解體ニ因リ生シタル各國トノ間ニ別箇ノ條約ヲ締結スヘシ

第七十九條

本條約ニ定ムル其ノ國境外ニ於テ洪牙利國ハ舊境地利洪牙利君主國又ハ其ノ同盟國ニ屬スルコトアルヘキ歐羅巴以外ノ總テノ地方ニ於ケル又ハ該地方ニ關スル一切ノ權利、權原又ハ特權並洪牙利國カ事由ノ如何ナ間ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スルコトアルヘキ一切ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス

第八十條

洪牙利國ハ前項ノ規定ヲ實行スル爲主タル同盟及聯合國カ必要ノ場合ニハ第三國ト協議シテ執リ又ハ執ルコトアルヘキ措置ヲ認諾スルコトヲ茲ニ約ス

(外初版)

第八十四條

洪牙利國政府ハ摩洛哥立銀行ノ資本金中洪牙利國ノ持分ニ相當スル株券ニ佛蘭西國政府ノ指名スル者ニ讓渡スルコトヲ確保スヘシ右ノ者ハ國立銀行ノ指定スル該株券ノ價額ヲ其ノ權利者ニ辨償スヘシ

第八十五條

摩洛哥帝國ノ貨物ハ洪牙利國ニ輸入ノ際佛蘭西國ノ貨物ニ適用セラレル制度ノ利益ヲ享受スヘシ

第八十六條

洪牙利國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顛國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄スルコトヲ聲明ス

第八十七條



舊埃地利洪牙利君主國政府カ埃及國ト締結シタル一切ノ條約、取極、協定又ハ契約ハ千九百十四年八月十二日以後廢止セラレタルモノト看做ス。洪牙利國ハ如何ナル場合ニ於テモ前記ノ文書ヲ援用スルコトヲ得ス。又大不列顛國ト他ノ諸國トノ間ニ埃及國ニ關シテ行ハルルコトアルヘキ商議ニ何等干渉セサルコトヲ約ス。

第八十八條

一般管轄權ヲ有スル裁判所ノ設置ニ關スル埃及國裁判所構成法ノ施行ニ至ル迄ハ洪牙利國民及其ノ財產ニ對スル裁判權ハ英國領事裁判所ニ於テ之ヲ行使シ得ルノ規定ヲ埃及國王殿下ノ命令ヲ以テ定ムヘシ。

第八十九條

埃及國政府ハ埃及國ニ於ケル洪牙利國民ノ地位及其ノ居住營業ノ條件ヲ定ムルコトニ付行動ノ完全ナル自由ヲ有スヘシ。

第九十條

洪牙利國ハ埃及太守殿下カ埃及國公債委員會ニ關シテ發布シタル千九百十四年十一月二十八日ノ命令ヲ廢止シ又ハ埃及國政府ノ希望スル變更ヲ同命令ニ加フルコトニ自國ノ關スル限リ同意ス。

第九十一條

洪牙利國ハ蘇士運河ノ自由航行ニ付千八百八十八年十二月二十九日「コンスタンティノープル」ニ於テ署名シタル條約ニ依リ土耳其國皇帝陛下ニ付與セラレタル權能ヲ英國政府ニ移轉スルコトニ自國ノ關スル限リ同意ス。

洪牙利國ハ埃及國ノ衛生海事及檢疫委員會ニ干與スル一切ノ權利ヲ拋棄シ且右委員會ノ權能ヲ埃及國官憲ニ移轉スルコトニ自國ノ關スル限リ同意ス。

暹羅國ニ於ケル洪牙利國民ノ財產、所有物及私權ハ第十編(經濟條項)ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ。

第九十六條

洪牙利國ハ洪牙利財產ノ清算又ハ暹羅國ニ於ケル洪牙利國民ノ抑留ニ關シ暹羅國政府ニ對シテ有スル一切ノ請求權ヲ自國又ハ其ノ國民ノ名ニ於テ拋棄ス。但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編(經濟條項)ノ規定ニ依リ處理セラレヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ。

第四款 支那國

第九十七條

洪牙利國ハ千九百一一年九月七日北京ニ於テ署名シタル最終議定書ノ規定並ニ之ヲ補足スル一切ノ附屬書、公文及文書ヨリ生スル特權及利益ヲ自國ノ關スル限リ總テ支那國ノ爲ニ拋棄ス。洪牙利國ハ又該議定書ニ基キ價金請求權ヲ千九百十七年八月十四日以後支那國ノ爲ニ拋棄ス。

第九十八條

本條約實施後各締約國ハ自國ノ關スル限リ左ノ協定ヲ適用スヘシ。  
一 支那新關稅率ニ關スル千九百二年八月二十九日ノ協定  
二 黃浦江ニ關スル千九百五年九月二十七日ノ協定及千九百十二年四月四日ノ追加協定  
但シ支那國ハ前記協定ニ依リ舊埃地利洪牙利君主國ニ許與セシ利益又ハ特權ヲ洪牙利國ニ認ムルノ義務ナカルヘシ。

第九十九條

洪牙利國ハ天津ニ在ル埃地利洪牙利專管居留地又ハ支那國領土ノ他ノ部

意ス

第九十二條

埃及國ニ於ケル舊埃地利洪牙利君主國ノ一切ノ財產及所有物ハ無償ニテ埃及國政府ニ當然歸屬ス。

右ニ關シテハ舊埃地利洪牙利君主國ノ財產及所有物ニハ一切ノ皇室財產及舊埃地利洪牙利元首ノ一家ノ私財產ヲ包含スルモノト認ムヘシ。

埃及國內ニ於ケル洪牙利國民所屬ノ一切ノ動產及不動產ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ニ依リ之ヲ處理スヘシ。

第九十三條

埃及國ノ貨物ハ洪牙利國ニ輸入ノ際英國ノ貨物ニ適用セララルル制度ノ利益ヲ享受スヘシ。

第三款 暹羅國

第九十四條

洪牙利國ハ舊埃地利洪牙利君主國カ暹羅國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極及之ニ基キ一切ノ權利、權原又ハ特權ハ暹羅國ニ於ケル領事裁判ニ關スル一切ノ權利ト共ニ千九百十七年七月二十二日以後消滅シタルコトヲ自國ノ關スル限リ承認ス。

第九十五條

洪牙利國ハ暹羅國內ニ於ケル舊埃地利洪牙利君主國所屬ノ財產及所有物上ノ一切ノ權利ヲ暹羅國ニ自國ノ關スル限リ讓渡ス。但シ外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所トシテ使用スル建物並其ノ内ニ在ル所有品及家具ハ此ノ限ニ在ラス。暹羅國政府ハ無償ニテ前記ノ財產及所有物ヲ當然取得スヘシ。

〔外初版〕

分内ニ存在シ又ハ存在スルコトアルヘキ舊埃地利洪牙利君主國所屬ノ建築物、埠頭及電船、兵營、堡壘、兵器及軍需品、各種艦船、無線電信設備其ノ他ノ公財產上ノ一切ノ權利ヲ支那國ニ自國ノ關スル限リ讓渡ス。外交官又ハ領事官ノ住宅又ハ事務所ニ使用シタル建物並其ノ内ニ在ル所有品及家具ハ之ヲ前記讓渡物件中ニ包含セス。又支那國政府ハ千九百一一年九月七日ノ最終議定書ノ本條約實施當時ノ當事國タル列國ノ外交代表者ノ同意アルニ非サルハ所謂北京公使館區域内ニ在ル舊埃地利洪牙利君主國ノ公私財產ノ處分ニ付何等ノ處置ヲ執ルコトヲ得ス。

第一百條

洪牙利國ハ天津ニ於テ埃地利洪牙利專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル支那國政府トノ契約ノ失效ニ自國ノ關スル限リ同意ス。  
支那國ハ前記地域ニ於テ其ノ主權ノ完全ナル行使ヲ回復スルト共ニ各國人ノ居住及通商ノ爲該地域ヲ開放スルノ意思ヲ聲明ス尙支那國ハ前記專管居留地ヲ現ニ保有スルノ基礎タル契約ノ失效カ其ノ專管居留地内ニ於ケル地區ノ保有者タル同盟及聯合國國民ノ財產權ニ影響ナカルヘキコトヲ聲明ス。

第一百一條

洪牙利國ハ支那國ニ於ケル洪牙利國民ノ抑留及送還ニ因リ生スル支那國政府又ハ同盟國若ハ聯合國政府ニ對スル一切ノ請求權ヲ拋棄ス。洪牙利國ハ千九百十七年八月十四日以後支那國ニ於ケル埃地利洪牙利船舶ノ抑留又ハ同國內ニ於ケル洪牙利ノ財產、權利及利益ニ對スル清算、保管若ハ處分ニ因リ生スル一切ノ請求權ヲ自國ノ關スル限リ均シク拋棄ス。但シ清算殘高ニ對スル利害關係人ノ權利ハ第十編(經濟條項)ノ規定ニ依リ處理セ



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ラルヘキモノニシテ本條ノ規定ハ其ノ權利ニ影響スルコトナカルヘシ

第五編 陸軍海軍及航空條項  
各國軍備ノ一般制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲メ洪牙利國ハ左ニ掲グル陸軍海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

第一款 陸軍條項

第一章 一般條項

第二百二條

洪牙利國陸軍ハ本條約實施後三月以内ニ次ニ掲グル範圍内ニ於テ之ヲ復員スヘシ

第二百三條

洪牙利國ニ於ケル一般義務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ洪牙利國陸軍ハ將來志願兵制度ニ依ルニ非サレハ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得ス

第二章 洪牙利國陸軍ノ兵力及幹部

第二百四條

洪牙利國陸軍ノ總兵員數ハ將校及補充部隊要員ヲ合セテ三萬五千人ヲ超ユルコトヲ得ス

洪牙利國陸軍ヲ組織スル部隊ノ編制ハ同國任意ニ之ヲ定ムヘシ但シ左記ノ制限ヲ受クヘキモノトス

一 各部隊ノ人員數ハ必ス本款第四附屬表ニ掲グル最大限及最小限ノ範圍内タルヘシ

二 將校ノ員數ハ司令部員及特種勤務部員ヲ合セテ現役總兵員數ノ二十分の一、下士ノ員數ハ現役總兵員數ノ十五分の一ヲ超ユルコトヲ得ス

三 機關銃、加農砲及榴彈砲ノ數ハ現役總兵員數ノ每千人ニ付本款第五附屬表ニ掲グル定數ヲ超過スヘカラス

洪牙利國ノ陸軍ハ專ラ其ノ版圖内ノ秩序維持及國境ノ警備ニ之ヲ使用スヘシ

第二百五條

洪牙利國カ編成シ得ル司令部ノ人員及一切ノ部隊ノ人員ノ最大限ハ本款附屬表ニ之ヲ掲ク該數字ハ嚴守スルコトヲ要セサルモ超過スルコトヲ得ス

第二百六條

軍隊統率又ハ戰爭準備ノ爲メ他ノ機關ノ設置ハ總テ之ヲ禁止ス  
動員又ハ之ニ關スル一切ノ措置ハ之ヲ禁止ス  
如何ナル場合ト雖軍隊、官衛及司令部ハ定員外ノ幹部ヲ有スルコトヲ得ス

第二百七條

畜類又ハ他ノ軍用輸送機關ノ徵發ヲ目的トスル準備ノ措置ハ之ヲ行フコトヲ禁止ス  
憲兵、稅關吏、森林看守、地方若ハ都市ノ警察官吏又ハ之ニ類似スル他ノ官吏ノ數ハ本條約ニ定ムル洪牙利國ノ版圖内ニ於テ千九百十三年ニ同様ノ職務ヲ執行セシメシテ現ニ服務スルモノノ數ヲ超ユヘカラス尤モ第三百三十七條ノ監督委員會カ實地檢分ノ上右ノ數ヲ不充分ト認ムル場合ニハ主タル同盟及聯合國ハ該數ヲ增加スルコトヲ得  
右官吏ノ數ハ當該地方又ハ都市ニ於ケル人口増加率ニ相應スル割合内ニ於テスルニ非サレハ將來之ヲ増員スルコトヲ得ス

〔外初版〕

前記ノ備員及官吏並鐵道事務ニ從事スル備員及官吏ハ軍事教育參加ノ爲メ之ヲ召集スルコトヲ得ス

第二百八條

本款附屬表ニ掲載セサル部隊ノ編成ハ總テ之ヲ禁止ス承認セラレタル兵員數三萬五千人以外ニ存スルコトアルヘキ部隊ハ第二百二條ノ期間内ニ之ヲ解散スヘシ

第三章 募兵及軍事教育

第二百九條

將校ハ總テ正規將校ナルコトヲ要ス洪牙利國陸軍ニ引續キ在職スル現ニ服役中ノ將校ハ少クモ四十歳迄ノ服役ヲ約スルコトヲ要ス現ニ服役中ノ將校ニシテ新陸軍ニ入ラサルモノハ軍事上ノ一切ノ義務ヲ免除セラレヘク學理ト實地トヲ問ハス一切ノ軍事教育ニ參加スルコトヲ得ス  
新ニ任命セラレル將校ハ少クモ繼續二十年間ノ現役服務ヲ約スルコトヲ要ス

服役期間滿了前理由ノ如何ヲ問ハス服役ヲ免セラレル將校ノ數ハ毎年第四百四條ノ將校總員定數ノ二十分の一ヲ超ユヘカラス不可抗力ニ因リ此ノ比率ヲ超過スル場合ト雖之カ爲生スル幹部ノ闕員ハ新ナル任命ニ依リ之ヲ補充スルコトヲ得ス

第三百十條

下士及兵卒ノ全服役期間ハ繼續十二年ヲ下ルヲ得サルモノトシ内少クモ六年ハ現役タルヘシ  
服役期間滿了前健康上ノ理由又ハ軍紀上ノ措置其ノ他ノ理由ニ因リ免セラレタル下士卒ノ數ハ毎年第四百四條ノ總兵員定數ノ二十分の一ヲ超ユヘカラス下可抗力ニ因リ此ノ比率ヲ超過スル場合ト雖之カ爲生スル闕員ハ新

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

志願兵ニ依リ之ヲ補充スルコトヲ得ス

第四百一條

陸軍學校ノ課程ヲ修ムルノ許可ヲ得タル學生ノ數ハ將校定員中充足スヘキ闕員ノ數ト殿ニ比例スルコトヲ要ス此等學生及幹部ノ數ハ第四百四條ノ兵員定數中ニ算入スヘキモノトス  
依テ右ノ必要ニ應セサル陸軍學校ハ總テ之ヲ廢止スヘシ

第四百二條

第四百一條ノ規定以外ノ教育機關及一切ノ競技會其ノ他ノ會ハ何等軍事上ノ事項ニ干與スヘカラサルモノトス

第四百三條

本條約實施後三月ノ期間滿了ノ日ニ於テ洪牙利國陸軍ノ兵器ハ每千人ニ付本款第五附屬表ニ掲グル定數ヲ超過スヘカラス  
兵員數トノ關係上過剩ノ兵器ハ補充ノ必要偶發シタル場合ニノミ之ヲ用非ルヘキモノトス

第四百四條

洪牙利國陸軍カ任意ニ處分シ得ヘキ彈藥ノ貯藏量ハ本款第五附屬表ノ定數ヲ超ユルコトヲ得ス  
本條約實施後三月以内ニ洪牙利國政府ハ兵器及彈藥ノ現存過剩額ヲ主タル同盟及聯合國ノ指定スル場所ニ集積スヘシ  
右ノ外彈藥ノ貯藏所、補給廠又ハ豫備彈藥ハ之ヲ存置スルコトヲ得ス

第四百五條



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

兵器、彈藥及軍用材料ハ唯一ノ工場ニ於テノミ之ヲ製造スルコトヲ得右工場ハ之ヲ國有トシ國自ラ之ヲ管理スヘク其ノ製造高ハ第四百四條、第七條、第三百十三條及第三百十四條ニ規定セル陸軍兵力及兵器ニ必要ナルモノニ嚴ニ制限セラレヘシ尤モ第三百三十七條ノ監督委員會ノ同意スヘキ一箇又ハ數箇ノ他ノ工場ニ於テ右ノ製造ヲ爲スコトヲ主タル同盟及聯合國ハ其ノ適當ト認ムル期間内許可スルコトヲ得

獵銃ノ製造ハ之ヲ禁止セス但シ洪牙利國ニ於テ製造セラレ且實彈ヲ使用スル獵銃ハ歐羅巴ニ於ケル如何ナル國ノ陸軍ノ軍用銃トモ同一口径ナラサルコトヲ要ス

兵器、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ製造、準備、貯藏又ハ研究ヲ目的トスル前記以外ノ一切ノ設備ハ本條約實施後三月以内ニ或ハ之ヲ閉鎖シ或ハ純然タル商業上ノ用途ニ供スル爲之ヲ變改スヘシ

承認セラレタル貯藏彈藥ノ補給廠トシテ使用スルモノヲ除クノ外一切ノ軍用工場ハ右同一ノ期間内ニ均シク之ヲ閉鎖シ其ノ人員ハ之ヲ解備スヘシ

第三百十六條

諸設備又ハ諸軍用工場ノ裝置ニシテ承認セラレタル製造上ノ所要ヲ超ユルモノハ第三百三十七條ノ同盟國國際陸軍監督委員會ノ決議ニ遵ヒ或ハ之ヲ廢棄シ或ハ純然タル商業上ノ用途ニ供スル爲之ヲ變改スヘシ

第三百十七條

洪牙利國內ニ在ル一切ノ兵器、彈藥及軍用材料(總テノ對航空機材料ヲ含ム)ニシテ承認セラレタル數量ヲ超ユルモノハ其ノ原產地ノ如何ヲ問ハス本條約實施後三月以内ニ總テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ前項ノ引渡ハ前記諸國ノ指定スル洪牙利國版圖内ノ地點ニ於テ之ヲ實行ス

第三百六十四

スヘシ該諸國ハ又前記材料ノ處分ヲ決スヘキモノトス

第三百十八條

洪牙利國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ明ニ之ヲ禁止ス外國ニ仕向ケラルル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及其ノ輸出ニ付亦同シ

第三百十九條

火砲發射器及窒息性、毒性又ハ類似ノ瓦斯並之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ洪牙利國內ニ於テ其ノ製造又ハ輸入ヲ嚴禁ス

裝甲車、裝甲戰車(「タンク」)又ハ軍用ニ供シ得ル之ニ類似スル他ノ一切ノ機械ノ洪牙利國內ニ於ケル製造及輸入モ亦均シク之ヲ禁止ス

第一附屬表 步兵師團ノ編制及最大人員

部	隊	各部隊ノ最大人員
步兵師團司令部	部	二五
師團司令部	部	五
師團司令部	部	四
步兵聯隊三(註一) (各聯隊ノ人員ハ將校六五及下士卒二、〇〇〇トス)	隊	一九五
騎兵中隊	隊	一六〇
迫擊砲大隊	隊	一四
		五〇〇

(外初版)

工兵大隊	野戰砲兵聯隊	自轉車大隊	通信隊	師團衛隊	諸廠及輜重隊	步兵師團司令部
一四	八〇	一八	一一	二八	一四	一
五〇〇	一、二〇〇	四五〇	三三〇	五五〇	九四〇	四一四一〇、七八〇

(註一) 各聯隊ハ步兵大隊三ヨリ成リ各大隊ハ步兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル

(註二) 各大隊ハ大隊本部一、工兵中隊二、橋船班一及探照燈班一ヨリ成ル

(註三) 各聯隊ハ聯隊本部一、野砲兵又ハ山砲兵ノ大隊三(全中隊數八)ヨリ成リ各中隊ハ野戰用又ハ山地戰用ノ加農砲又ハ榴彈砲四ヲ有ス

(註四) 本通信隊ハ電話電信隊一、聽取班一及軍用鳩班一ヨリ成ル

第二附屬表 騎兵師團ノ編制及最大人員

部	隊	各部隊ノ最大人員
騎兵師團司令部	部	一五
騎兵中隊	隊	五〇

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

騎兵聯隊	野戰砲兵大隊	自動車輛機關銃及自動車輛大隊	諸勤務部	騎兵師團司令部
六	一	一	一	一
七二〇	三〇	四	三〇	二五九五、三八〇

(註一) 各聯隊ハ中隊四ヨリ成ル

(註二) 各大隊ハ戰團車九(各戰團車ハ火砲一、機關銃一及豫備機關銃一ヲ有ス)、通信車四、補給用小自動車二、自動貨車七(工場車一ヲ含ム)、自動自轉車四ヲ有ス

考一騎兵ノ大部隊ハ其ノ聯隊數ヲ不定數ト爲スコトヲ得ルノミナラス上記兵員數ノ範圍内ニ於テ之ヲ獨立旅團ニ編成スルコトヲ得

第三附屬表 混成旅團ノ編制及最大人員

部	隊	各部隊ノ最大人員
旅團司令部	部	一〇
步兵聯隊	隊	一三〇
自轉車大隊	隊	一八
騎兵中隊	隊	五
		一〇〇

第三百六十五



野砲兵又ハ山砲兵ノ大隊一(中隊三)	二〇	四〇〇
迫撃砲中隊一	五	一五〇
諸勤務部	一〇	二〇〇
混成旅團合計	一九八	五、三五〇

(註一) 各聯隊ハ步兵大隊三ヨリ成リ各大隊ハ步兵中隊三及機關銃中隊一ヨリ成ル

第四附屬表 採用セラルル編制ノ如何チ問ハス部隊ノ有スヘキ最少人員(師團、混成旅團等)

部	隊	最大人員(參考)	最小人員
步兵師團	將校一下士卒	四一四〇、七八〇	三〇〇八、〇〇〇
騎兵師團	將校一下士卒	二五九五、三八〇	一八〇三、六五〇
混成旅團	將校一下士卒	一九八五、三五〇	一四〇四、二五〇
步兵聯隊	將校一下士卒	六五二、〇〇〇	五二一、六〇〇
步兵大隊	將校一下士卒	一六六五〇	一五〇〇
步兵中隊又ハ機關銃中隊	將校一下士卒	三三三〇	一一二〇
自轉車大隊	將校一下士卒	一八四五〇	三〇〇〇
騎兵聯隊	將校一下士卒	三〇七二〇	四、五〇〇

第五附屬表 承認セラレタル兵器最大限數及彈藥最大貯藏量

品	目	每千人ニ對スル數量	各兵器(步兵銃、火砲等)ニ對スル彈藥ノ數量
騎兵中隊		六	一六〇
砲兵聯隊		八〇	二〇〇
野戰砲兵中隊		四	一五〇
迫撃砲中隊		三	一五〇
工兵大隊		一四	五〇〇
山砲兵中隊		五	三二〇

品	目	每千人ニ對スル數量	各兵器(步兵銃、火砲等)ニ對スル彈藥ノ數量
步兵銃又ハ騎銃(註一)		一、一五〇	五〇〇
重機關銃又ハ輕機關銃		一五	一〇、〇〇〇
輕迫撃砲		二	一、〇〇〇
中迫撃砲		二	五〇〇
野戰用又ハ山地戰用ノ加農砲又ハ榴彈砲		三	一、〇〇〇

(註一) 自動歩兵銃又ハ自動騎銃ハ之ヲ輕機關銃トシテ計算ス  
備考一重砲即チ口徑百五密米ヲ超ユルモノハ之ヲ承認セス

第二款 海軍條項 第二百十條

〔外初版〕

本條約實施ノ日以後一切ノ奧地利洪牙利國艦艇(潜水艦ヲ含ム)ハ主タル同盟及聯合國ニ確定的ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス  
「ダニューブ」艦隊ノ「モニトル」艦、水雷艇及武裝船ハ總テ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡スヘシ  
尤モ洪牙利國ハ河上警察用ノ爲第百三十八條ノ委員會ノ選定スヘキ巡邏船三隻ヲ「ダニューブ」河上ニ保有スルノ權利ヲ有ス右委員會力實地檢分ノ上右ノ數ヲ不充分ト認ムル場合ニハ主タル同盟及聯合國ハ該數ヲ増加スルコトヲ得

第二百十一條

左ニ列記スル奧地利洪牙利國ノ補助巡洋艦及補助特務船ハ武裝ヲ解除シ商船トシテ之ヲ取扱フヘシ

- 「ボスニア」
- 「ガブロンツ」
- 「カロリナ」
- 「ルツシン」
- 「テオド」
- 「ニクセ」
- 「ヒガンテ」
- 「ダルマート」
- 「ベルシア」
- 「プリンス、ホーヘンローヘ」
- 「ガスマイン」
- 「アフリカ」
- 「テイロール」
- 「アルヘンティナ」
- 「ブルート」
- 「プレシテント、ウイソソ」
- 「舊カイゼル、フランツ、ヨセフ」
- 「トリエスト」
- 「バロン、ブルック」
- 「エリザベート」
- 「メトカヴィッチ」
- 「バロン、カル」

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

洪牙利國又ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ所屬港灣ニ於テ現ニ建造中ノ艦艇(潜水艦ヲ含ム)ハ總テ之ヲ解體スヘシ  
該艦艇ノ解體作業ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ著手スルコトヲ要ス  
尤モ「ボルト・レン」ニ於テ建造中ノ機雷敷設船ハ同盟國國際海軍監督委員會及賠償委員會力經濟上ノ理由ニ依リ其ノ商業上ノ使用ヲ望マシキモノト認ムルトキハ之ヲ存スルコトヲ得右ノ場合ニ於テハ該敷設船ハ賠償委員會ニ之ヲ引渡スヘシ該委員會ハ右敷設船ノ價額ヲ定ムヘク其ノ全部又ハ一部ヲ賠償ノ名義ニ於テ洪牙利國又ハ場合ニ依リ奧地利國ノ貸方ニ計上スヘシ

第二百十三條

水上艦艇タルト潜水艦タルトチ間ハ各種ノ奧地利洪牙利國艦艇ノ解體ニ因リテ生シタル一切ノ物品、機械及材料ハ純然タル産業上又ハ商業上ノ目的外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二百十四條

前項ノ物品、機械及材料ハ外國ニ之ヲ賣却シ又ハ讓渡スルコトヲ得ス



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

一切ノ潜水艦船ノ建造又ハ取得ハ洪牙利國ニ於テ禁止セララルヘシ商業用ノモノト雖異ルコトナシ

第二百二十五條

千九百十八年十一月三日ノ休戰條約ノ署名當時地地利洪牙利國ニ屬シタル一切ノ兵器、彈藥及海軍用材料(機雷及魚雷ヲ含ム)ハ確定的ニ主タル同盟及聯合國ニ之ヲ引渡シタルモノト聲明ス

第二百二十六條

洪牙利國ハ前諸條ノ物件ノ引渡(第二百二十條及第二百二十五條)、武裝解除(第二百二十一條)、解體(第二百二十二條)及取扱(第二百二十一條)又ハ使用(第二百二十三條)ニ關シテハ自國ノ版圖内ニ存在スル物件ニ付テノミ其ノ責ニ任スヘキモノトス

第二百二十七條

本條約實施後三月ノ期間「ブダ・ペスト」ノ洪牙利國大電力無線電信所ハ主タル同盟及聯合國ノ許可アルニ非サレハ洪牙利國又ハ戰時中地地利洪牙利國ノ同盟國タリシ他ノ國ニ利害關係アル海陸軍事上又ハ政治上ノ問題ノ通信ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス該無線電信所ハ主タル同盟及聯合國ノ監視ノ下ニ於テノミ商業上ノ電信ヲ發受スルコトヲ得ヘク使用スル波長ハ右諸國之ヲ決定ス

前項ノ期間洪牙利國ハ其ノ版圖内又ハ境地利國、獨逸國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ノ版圖内ニ大電力無線電信所ヲ建設スルコトヲ得ス

第三款 陸海軍ノ航空ニ關スル條項

第二百二十八條

洪牙利國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含セサルコトヲ要ス

航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

第二百二十九條

現ニ洪牙利國ノ陸海軍軍人名簿ニ錄セララルル航空隊ノ兵員ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ復員スヘシ

第二百三十條

同盟及聯合國ノ航空機ハ同盟及聯合國軍隊ノ洪牙利國版圖内ヨリ完全ニ撤退スルニ至ル迄ノ間洪牙利國內ニ於テ航空ノ自由並通過及著陸ノ自由ヲ有ス

第二百三十一條

航空機、航空機ノ部品、航空機用發動機及航空機用發動機ノ部品ノ製造、輸入及輸出ハ本條約實施後六月間洪牙利國全版圖内ニ於テ之ヲ禁止ス

第二百三十二條

本條約實施ノ際洪牙利國ハ自國ノ費用ヲ以テ主タル同盟及聯合國ニ一切ノ陸海軍用航空材料ヲ引渡スコトヲ要ス  
前項ノ引渡ハ前記諸國ノ政府ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行ヒ且三月以内ニ完了スルコトヲ要ス  
前記ノ材料ニハ軍用ノ目的ヲ以テ使用若ハ準備セララルル又ハ使用若ハ準備セララルル左記各項ノ物件ヲ特ニ包含スルモノトス  
飛行機及水上飛行機ニテ完成シタルモノ並製造、修理及組立中ノモノノ航空船ニシテ飛行ニ堪フルモノ又ハ製造、修理及組立中ノモノノ水素製造装置

航空船格納庫及航空機用各種格納庫  
航空船ハ交付ノ時迄洪牙利國ノ費用ヲ以テ水素ヲ充シ置クヘシ水素製

〔外初版〕

造装置及航空船格納庫ハ前記諸國ノ裁量ニ依リ航空船交付ノ時迄洪牙利國ニ之ヲ存置スルコトヲ得ヘシ

航空機用發動機

航空機ノ機體

武裝(火炮、機關銃、輕機關銃、爆彈投下機、魚雷投下機、同調機、照準機)

彈藥(藥筒、彈丸、填實シタル爆彈、填實セサル爆彈、貯藏爆藥又ハ此等ノ製造ニ用井ル原料)

航空機用器機

航空機用ノ無線電信機及寫真機又ハ活動寫真機

以上列記ノ各品目ニ屬スル部品

右ノ材料ハ前記政府ノ特別ノ許可アルニ非サレハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

第四款 同盟國際監督委員會

第二百三十三條

本條約中ノ陸海軍及航空條項ニシテ其ノ履行ニ付期限ヲ定メタルモノハ總テ主ナル同盟及聯合國ノ之ヲ爲特ニ任命スル同盟國際監督委員會ノ監督ノ下洪牙利國之ヲ履行スヘシ

前記委員會ハ陸海軍及航空條項ノ履行ニ關スル一切ノ事項ニ付洪牙利國政府ニ主タル同盟及聯合國ヲ代表ス右委員會ハ主タル同盟及聯合國カ留保シタル決定又ハ右諸條項ノ履行上必要ト爲ルコトアルヘキ決定ヲ洪牙利國官憲ニ通告スヘシ

第二百三十四條

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

同盟國際監督委員會ハ「ブダ・ペスト」ニ其ノ事務所ヲ設クルコトヲ得ヘク且有用ト認ムルトキハ其ノ都度洪牙利國版圖内ノ何レノ地ニモ赴キ、小委員會ヲ派遣シ又ハ一名若ハ數名ノ委員ヲ出張セシムルコトヲ得ヘシ

第二百三十五條

洪牙利國政府ハ同盟國際監督委員會ニ於テ其ノ任務ノ遂行上必要ト認ムル一切ノ情報及文書並陸海軍又ハ航空條項ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲右委員會ニ於テ必要トスルコトアルヘキ一切ノ勞力及材料ヲ該委員會ニ供與スルコトヲ要ス

洪牙利國政府ハ各同盟國際監督委員會ニ一名ノ資格アル代表者ヲ配屬セシムルコトヲ要ス右代表者ハ該委員會ヨリ洪牙利國政府ニ宛テ發送スル通告ヲ受領シ且請求セララルル一切ノ情報又ハ文書ヲ該委員會ニ供給シ又ハ入手セシムルノ任務ヲ有ス

第二百三十六條

監督委員會ノ維持及經費並其ノ任務ノ爲要スル費用ハ洪牙利國之ヲ負擔スヘシ

第二百三十七條

同盟國際陸軍監督委員會ハ彈藥ノ貯藏所及補給廠ノ位置並兵器彈藥及軍用材料ノ工場又ハ製造場ノ位置及其ノ作業狀態ニ關スル通報ヲ洪牙利國政府ヨリ受領スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

同委員會ハ兵器彈藥軍用材料及軍事製造用裝置ノ引渡ヲ受ケ、右引渡ノ行ハルヘキ地點ヲ指定シ且本條約ニ規定スル破壞廢棄又ハ變改ヲ監視ス

第二百三十八條



同盟國國際海軍監督委員會ハ造船所ニ赴キテ建造中ノ艦艇ノ解體ヲ監督ス、兵器彈藥及海軍軍用材料ノ引渡ヲ受ケ且所定ノ破壞又ハ解體ヲ監督スルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

洪牙利國政府ハ同盟國國際海軍監督委員會ニ於テ海軍條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル一切ノ情報及文書ヲ艦艇ノ設計、其ノ兵器ノ組織、砲彈藥魚雷機雷無線電信機其ノ他一切ノ海軍軍用材料ニ關スル細目及模型並一切ノ立法上若ハ行政上ノ文書又ハ規則書類ヲ該委員會ニ供給スルコトヲ要ス

第三百二十九條

同盟國國際航空監督委員會ハ洪牙利國政府ノ現ニ有スル航空用材料ノ目錄ヲ調製シ、飛行機氣球及航空機用發動機ノ工場並航空機ニ使用シ得ヘキ兵器彈藥及爆藥ノ製造場ヲ檢閲シ、洪牙利國版圖内ニ存在スル一切ノ飛行場格納庫著陸場集積場及補給廠ヲ臨檢シ、必要ノ場合ニハ所定材料ノ移動ヲ許可シ且該材料ノ引渡ヲ受ケルノ任務ヲ特ニ有スヘシ

洪牙利國政府ハ同盟國國際航空監督委員會ニ於テ航空條項ノ完全ナル履行ヲ保障スルニ必要ト認ムル一切ノ情報及立法上行政上其ノ他ノ文書殊ニ洪牙利國航空勤務總人員表、現存材料及製造中又ハ註文中ノ材料ノ目錄並航空ニ關スル一切ノ設備其ノ位置及一切ノ格納庫著陸場ニ關スル完全ナル表ヲ該委員會ニ供給スルコトヲ要ス

第五款 一般條項

第四百十條

洪牙利國ノ法令ハ本條約實施後三月ノ期間滿了迄ニ洪牙利國政府ニ於テ本編ニ遵由シテ之ヲ修正シ且之ヲ維持スルコトヲ要ス

第四百十四條

洪牙利國政府及抑留洪牙利人民ノ送還ハ本條約實施後成ルヘク速ニ之ニ著手シ且最迅速ニ之ヲ實行スヘシ

第四百十五條

洪牙利國政府及抑留洪牙利人民ノ送還ハ一方ニ於テ同盟及聯合國ノ代表者ト他方ニ於テ洪牙利國政府ノ代表者トヲ以テ組織スル委員會第四百十四條ニ定ムル條件ニ從ヒテ其ノ實行ヲ擔任スヘシ

第四百十六條

洪牙利國官憲ハ前記停廢及抑留人民ノ引渡ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ各自ノ郷里ニ歸還セシムルコトヲ要ス

第四百十七條

洪牙利國政府ハ送還ニ要スル出發以後ノ一切ノ費用ヲ負擔シ且第四百四十五條ノ委員會ニ於テ必要ト認ムル輸送機關及職員ヲ供給スルコトヲ要ス

第四百十八條

紀律違反ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ停廢及抑留人民ハ其ノ處罰又ハ取調手續ノ完了スルト否ト問ハス之ヲ送還スヘシ

前項ノ規定ハ千九百二十年一月一日以後ノ犯行ニ付罰ヲ受ケル停廢及抑留人民ニハ之ヲ適用セス

於テ前記期間内ニ之ヲ執ルコトヲ要ス

第四百十一條

千九百十八年十一月三日ノ休戰條約中第一章(陸軍條項)第二條及第三條並附屬議定書第一章(陸軍條項)第二條、第三條及第六條ノ規定ハ前記諸規定ニ反セサル限り引續キ其ノ效力ヲ有ス

第四百十二條

洪牙利國ハ本條約實施後陸軍海軍又ハ航空委員ヲ外國ニ駐劄セシメ且該委員ヲ派遣セス及其ノ出國ヲ容認セサルコトヲ約ス洪牙利國ハ又其ノ國民力外國ノ陸軍若ハ空軍ニ編入セラレル爲又ハ外國ニ於テ陸軍若ハ空軍ノ訓練ヲ援助シ其ノ他一般ニ軍事教育ニ協力スルノ目的ヲ以テ外國ノ陸軍若ハ空軍ニ附屬スル爲洪牙利國領土ヲ離ルルコトヲ防止スヘキ適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

同盟及聯合國ハ本條約實施後其ノ軍事訓練ヲ援助セシムル目的ヲ以テ洪牙利國民ヲ其ノ陸軍又ハ空軍ニ編入シ又ハ附屬セシメ其ノ他一般ニ陸軍又ハ空軍ノ教官トシテ洪牙利國民ヲ雇入レサルコトヲ自國ノ關スル限り約ス

尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國カ佛蘭西國陸軍法令ニ依リ外人聯隊ノ募兵ヲ爲スノ權利ヲ妨ケサルモノトス

第四百十三條

本條約カ效力ヲ有スル限り洪牙利國ハ國際聯盟理事會カ其ノ過半数決ヲ以テ必要ト認ムル一切ノ調査ニ應スヘキコトヲ約ス

第六編 停廢及墳墓

第一款 停廢

〔外初版〕

一切ノ停廢及抑留人民ハ其ノ送還ニ至ル迄ノ間引續キ現行ノ規則殊ニ作業及紀律ニ關スル規則ノ適用ヲ受ケヘシ

第四百十九條

紀律違反以外ノ犯行ニ付取調中又ハ處罰中ノ停廢及抑留人民ハ引續キ之ヲ抑留スルコトヲ得

第四百二十條

洪牙利國政府ハ送還セララルヘキ一切ノ者ニ付差別ヲ設クルコトナク之ヲ自國版圖内ニ入國セシムルコトヲ約ス

停廢其ノ他ノ洪牙利國民ニシテ送還ヲ欲セサル者ハ之ヲ送還セサルコトヲ得

但シ同盟及聯合國政府ハ右ノ者ヲ送還シ、中立國ニ送致シ又ハ自國版圖内ノ居住者ニ之ヲ許可スルノ權利ヲ留保ス

洪牙利國政府ハ右ノ者又ハ其ノ家族ニ對シ何等例外的取扱方法ヲ設ケス又從テ何等抑壓的若ハ煩瑣ナル措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第四百二十一條

同盟及聯合國政府ハ洪牙利國政府ヲシテ同國內ニ本ノ意思ニ反シテ仍留置セララル居ル一切ノ停廢其ノ他ノ同盟及聯合國國民ニ關シ直ニ通告ヲ爲サシメ且直ニ之ヲ解放セシムルコトヲ以テ其ノ權内ニ在ル洪牙利停廢及洪牙利國民ノ送還ノ條件ト爲スノ權利ヲ留保ス

第四百二十二條

洪牙利國政府ハ左ノ事項ヲ約ス

- 一 失踪者調査委員ニ對シ一切ノ便宜ヲ供與シ、有用ナル一切ノ輸送機關ヲ供給シ、收容所監獄病院其ノ他一切ノ場所ニ出入スルコトヲ



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

許容シ及調査ヲ容易ナラシムヘキ公私一切ノ書類ヲ其ノ使用ニ供スルコト

二 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ其ノ所在ヲ知リタル後之ヲ報告ヲ怠リタル洪牙利國ノ官吏又ハ人民ヲ處罰スルコト

第五百五十三條

洪牙利國政府ハ同盟國又ハ聯合國ノ國民ニ屬シタル一切ノ物品、有價證券又ハ書類ニシテ洪牙利國官憲ノ押收シタルモノヲ本條約實施後遲滞ナク返還スルコトヲ約ス

第五百五十四條

締約國ハ各自國版圖内ニ於ケル俘虜收容ニ因ル費用ノ相互ノ償還ヲ爲ササルコトヲ聲明ス

第二款 墳墓

第五百五十五條

同盟及聯合國政府並洪牙利國政府ハ各其ノ版圖内ニ埋葬セラレタル陸海軍軍人ノ墳墓ヲ尊重シ且保存スヘシ

前記諸國政府ハ右墳墓ノ識別、登錄若ハ管理ノ爲又ハ其ノ上ニ適當ナル記念碑ヲ建設スル爲各其ノ任命スル委員ヲ承認シ且其ノ職務執行ニ付便宜ヲ與フルコトヲ約ス

尙前記諸國政府ハ自國法ノ規定上及公共衛生ノ必要上差支ナキ限り陸海軍軍人ノ遺骸ヲ其ノ本國ニ移サントスル要求ヲ満足セシムル爲一切ノ便宜ヲ相互ニ供與スルコトヲ約ス

第五百五十六條

各交戰國國民タル俘虜及抑留人民ニシテ拘束中死亡シタルモノノ墳墓ハ

第五百五十九條

洪牙利國政府ハ犯罪事實ノ知悉、犯罪人ノ搜索及責任ノ適正ナル量定ニ付必要ト認メラルル文書及資料ヲ其ノ種類ノ何タルヲ問ハス總テ供給スルコトヲ約ス

第六十條

第五百五十七條乃至第五百五十九條ノ規定ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ起訴セララルル者ニシテ舊地地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ讓渡ヲ受ケタル諸國ノ版圖内ニ在リ又ハ其ノ處分權内ニ在ルモノニ關スル限り右諸國政府ニモ均シク之ヲ適用ス

前項ノ犯罪人カ右諸國中ノ一國ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ於テハ該國政府ハ關係國ノ要求ニ基キ且之ヲ協議シテ當該犯罪人ノ訴追及處罰ヲ確保スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第八編 賠償

第一款 一般規定

第六十一條

同盟及聯合國政府ハ地地利洪牙利國及其ノ同盟國ノ攻撃ニ因リテ強ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民ノ被リタル損失及損害ヲ生セシメタル責任ノ洪牙利國及其ノ同盟國ニ在ルコトヲ聲明シ洪牙利國ハ之ヲ承認ス

第六十二條

同盟及聯合國政府ハ洪牙利國ノ資源カ本條約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考量シ其ノ前記損失及損害ノ完全ナル賠償ヲ保障スルニ充分ナラサルコトヲ認ム

然レトモ同盟及聯合國政府ハ其ノ各國ト洪牙利國トノ交戰期間内陸上海

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第五百五十五條ノ條件ニ從ヒ適當ニ之ヲ保存スヘシ  
同盟及聯合國政府並洪牙利國政府ハ相互ニ左記ノモノヲ供給スルコトヲ約ス

一 死亡者全表及識別上有用ナル一切ノ情報  
二 識別セラレヌシテ埋葬セラレタル者ノ墳墓ノ數及其ノ位置ニ關スル一切ノ表示

第七編 制裁

第五百五十七條

洪牙利國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ起訴セララルル者ヲ同盟及聯合國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付スルノ自由ヲ同盟及聯合國ニ承認ス有罪ト認メララルル者ハ之ヲ法定ノ刑罰ニ處スヘシ本規定ハ洪牙利國又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ訴追ノ爲其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

洪牙利國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ起訴セララルル者ニシテ或ハ其ノ氏名ヲ明示セラレ或ハ洪牙利國官憲ニ依リテ與ヘラレタル其ノ地位官職ヲ明示セララルルモノヲ總テ同盟及聯合國又ハ之カ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スコトヲ要ス

第五百五十八條

同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シテ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

同盟及聯合國中ノ二國以上ノ國民ニ對シテ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ關係諸國ノ軍事裁判所所屬ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

被告人ハ何レノ場合ニ於テモ自ら其ノ辯護人ヲ指定スルノ權ヲ有ス

〔外初版〕

上及空中ノ前記攻撃ニ因リ同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財產ニ對シ加ヘラレタル損害即チ概要本款第一附屬書ニ掲ケル損害ニ付次條以下ニ定ムル條件ニ從ヒ賠償ヲ要求シ洪牙利國ハ之ニ應スヘキコトヲ約ス

第六十三條

洪牙利國ノ賠償スヘキ前記損害ノ總額ハ同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ハ賠償委員會ト稱シ其ノ組織及權能ハ本條約殊ニ本款第二乃至第五附屬書ノ定ムル所ニ依リ獨逸國トノ條約第二百三十三條ノ委員會ハ本條約ニ基キ變更ヲ除クノ外本委員會ト同一トス委員會ハ本條約ノ適用上生スル特別ノ問題ニ關シ分科會ヲ設置スヘシ該分科會ハ單ニ諮問機關トシテノ權能ヲ有スルモノトス但シ賠償委員會カ便宜ト認ムル權能ヲ之ニ委任スル場合ハ此ノ限りニ在ラス

賠償委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ權利ヲ衡平ニ洪牙利國政府ニ與フヘシ

委員會ハ獨逸國及其ノ同盟國ニ對シテ提出セラレ且委員會ノ査定シタル請求總額ニ付獨逸國カ差引殘高チ支拂ヒ得ルヤ否ヤヲ評定シタル後洪牙利國ノ負擔トセララルヘキ債務ノ部分ヲ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間内ニ洪牙利國カ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ同時ニ調製スヘシ但シ洪牙利國カ右期間内ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リテ其ノ決濟後年ニ延期スルカ又ハ同盟及聯合國政府カ本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ條件ニ依リ別ニ之ヲ處理スルコトヲ得

第六十四條

賠償委員會ハ千九百二十一年五月一日以後隨時洪牙利國ノ資源及能力ヲ



審査スヘク且意見陳述ノ權利ヲ衡平ニ洪牙利國ノ代表者ニ與ヘタル後ニ  
第六十三條ニ依リ定ムル支拂ノ期限ヲ延長シ又ハ其ノ方法ヲ變更スル  
ノ裁量ヲ有ス  
但シ委員會ニ代表セラルル各國政府ノ特定ノ承認アルニ非サレハ如何ナ  
ル額ノ免除ヲモ爲スコトナ得ス

第六十五條

洪牙利國ハ賠償委員會ノ決定スヘキ相當額ヲ前記債權ノ一部支拂トシテ  
右委員會ノ定ムル割賦及方法(金、貨物、船舶、有價證券其ノ他)ヲ以テ  
千九百二十年中及千九百二十一年四月末日迄ニ支拂フヘシ千九百十八年  
十一月三日ノ休戰條約以後ニ於ケル第八十一條所掲ノ占領軍ノ費用ハ  
右ノ額ノ中ヨリ先ツ之ヲ支拂フヘシ洪牙利國チシテ其ノ賠償義務ヲ履行  
セシムル爲主タル同盟及聯合國政府力必要ト認ムル糧食及原料ノ供給量  
ニ對シテモ亦右政府ノ承認ヲ經テ該額中ヨリ之ヲ支拂フヘシトス  
額ハ洪牙利國ノ賠償義務額中ヨリ之ヲ差引クヘキモノトス洪牙利國ハ又  
本款第二附屬書十二ノハ號ニ掲ケル債券ヲ交付スヘシ

第六十六條

洪牙利國ハ尙商船、物質的回復及原料ニ付夫々第三、第四及第五附屬書  
ニ定ムル通其ノ經濟資源ヲ直接ニ賠償ニ充ツルコトニ同意ス但シ右各附  
屬書ニ依リ讓渡財產及財產利用ノ價額ハ同附屬書ニ掲ケル方法ヲ以テ之  
ヲ定メタル後洪牙利國ノ貸方ニ之ヲ計上シ前諸條ノ債務額中ヨリ差引ク  
ヘキモノトス

第六十七條

前記請求ニ應ジテ洪牙利國ノ支拂フ累次ノ割賦(前諸條ニ掲ケルモノヲ

含ム)ハ同盟及聯合國政府ニ於テ衡平及各自ノ權利ヲ基礎トシテ豫メ決  
定スル割合ニ依リ同政府間ニ之ヲ分配スヘシ  
右分配ニ付テハ第六十三條並第三、第四及第五附屬書ニ掲ケル貸方ノ  
價額ハ當該年度ニ於ケル現金支拂ト同様ニ之ヲ計算スヘシ

第六十八條

前記支拂ノ外賠償委員會ノ定ムル手續ニ從ヒ洪牙利國ハ搬去シ差押ヘ又  
ハ保管シタル正金ハ正金ヲ以テ還付スヘク又搬去シ差押ヘ又ハ保管シ  
タル動物、各種物件及有價證券ハ洪牙利國若ハ其ノ同盟國ニ屬スル領土  
内又ハ本條約ノ完全ナル履行ニ至ル迄洪牙利國若ハ其ノ同盟國ノ占有ス  
ル諸地方内ニ於テ之ヲ識別シ得ヘキ場合ニハ之ヲ還付スルコトヲ要ス

第六十九條

洪牙利國政府ハ第六十八條ニ定ムル還付ヲ直ニ實行シ且第六十三條  
乃至第六十六條ニ定ムル支拂及引渡ヲ實行スルコトヲ約ス

第七十條

洪牙利國政府ハ第二附屬書ニ依リ同盟及聯合國政府ノ組織スヘキ第六  
十三條ノ委員會ヲ承認シ該委員會力本條約ニ依リ付與セラルル權利及權  
能ヲ有シ且之ヲ行使スルコトヲ確定的ニ承認ス  
洪牙利國政府ハ金融ノ狀態及作用並洪牙利國及其ノ國民ノ財產及生産  
力、其ノ原料及製造品ノ貯藏額及當時ノ産額ニ關シ賠償委員會ノ必要ト  
スルコトアルヘキ一切ノ資料ヲ之ニ供給スヘシ同政府ハ千九百十四年一  
千九百二十年戰爭ノ軍事行動ニ關スル情報ニシテ該委員會ノ必要ト認  
ムモノヲ之ニ供與スヘシ

洪牙利國政府ハ正式ニ派遣セラレタル友好國ノ外交官力洪牙利國ニ於テ

〔外初版〕

第一 附屬書

補償ハ前記第六十二條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付洪牙利國ニ之ヲ請  
求スルコトヲ得

- 一 場所ノ如何チ間ハス戰爭行為(陸上海上又ハ空中ノ砲撃其ノ他ノ  
攻撃ヲ含ム)ニ因リ及其ノ一切ノ直接ノ結果ニ因リ又ハ交戰國ノ雙  
方ノ行ヘル一切ノ軍事行動ニ因リ普通人民ノ身體又ハ生命ニ及ボシ  
タル損害及右普通人民ノ生殘被扶養者ノ損害
- 二 場所ノ如何チ間ハス洪牙利國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、兇暴又ハ虐  
待ノ行為ノ犠牲ト爲リタル普通人民及其ノ生殘被扶養者ノ損害(監  
禁、追放、拘留、退去命令、海上遺棄又ハ強制勞動ノ結果トシテ生命又  
ハ健康ニ及ボシタル損害ヲ含ム)
- 三 洪牙利國又ハ其ノ同盟國カ其ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ行  
ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル一切ノ行為ノ犠牲ト爲リタル  
普通人民及其ノ生殘被扶養者ノ損害
- 四 俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害
- 五 同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ戰爭ノ犠牲即チ傷病ヲ受  
ケ疾病ニ罹リ又ハ不具癱瘓ト爲リタル軍人(陸海軍及空軍)及其ノ被  
扶養者ニ對スル一切ノ恩給金又ハ同性質ノ補償金但シ同盟及聯合國  
政府ニ支拂フヘキ金額ハ千九百十九年五月一日ニ於ケル佛蘭西國現  
行ノ給與率ヲ基礎トシ本條約實施ノ日ニ於テ右恩給金又ハ補償金ヲ  
一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ
- 六 俘虜又ハ其ノ家族若ハ被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶養  
費

享有スル一切ノ權利及免除ヲ賠償委員會ノ委員及權限アル其ノ事務員ニ  
許與スヘシ  
洪牙利國ハ尙委員會及其ノ使用スル職員ノ俸給及費用ヲ負擔スルコトヲ  
約諾ス

第七十一條

洪牙利國ハ此等諸規定ノ完全ナル實行ニ必要ナル法律命令ヲ制定シ公布  
シ及施行スルコトヲ約ス

第七十二條

本編ノ規定ハ第十編(經濟條項)第三款及第四款ノ規定ニ何等ノ影響ヲ及  
ボスコトナシ

第七十三條

左ニ掲ケルモノハ洪牙利國ノ賠償債務ニ關シ其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ  
(イ) 第十編(經濟條項)第三款及第四款ノ規定ニ依リ洪牙利國ノ受取動  
定ト爲ルヘキ最終殘額  
(ロ) 第九編(財政條項)及第十二編(港、水路及鐵道)ニ依リ讓渡ニ關シ  
洪牙利國ニ支拂フヘキ額  
(ハ) 右ノ外本條約ニ依リ財產、權利、利權其ノ他ノ利益ヲ讓渡シタル  
結果賠償委員會ニ於テ洪牙利國ノ貸方ニ計上スヘシト決定シタル額  
第六十八條ノ規定ニ依リ還付シタル財產ハ如何ナル場合ニ於テモ洪牙  
利國ノ貸方ニ之ヲ計上スルコトナシ

第七十四條

洪牙利海底電信線ノ讓渡ハ本條約ニ別段ノ規定ナキ限り本款第六附屬書  
ノ規定ニ依ル



七 動員セラレタル者又ハ從軍シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ戰時狀態ニ在リタル各曆年ニ付同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ額ハ此ノ種支拂ニ關シ當該曆年ニ於テ佛蘭西國ノ適用シタル平均ノ率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八 洪牙利國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ヲ與ヘスシテ課シタル勞働義務ニ基ク普通人民ノ損害

九 同盟及聯合國ノ中ノ一國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財產(陸海軍ノ工作物及材料ヲ除ク)ニシテ其ノ所在地ノ如何ナクハ陸上海上又ハ空中ニ於ケル洪牙利國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ搬去、差押、毀損又ハ破壊セラレタルモノニ關スル損害及敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十 洪牙利國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル強制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二 附屬書

一 第六十三條ノ委員會ニハ「賠償委員會」ノ名稱ヲ附スヘク以下之ヲ「委員會」ト稱ス

二 委員會ノ委員ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國、希臘國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアイト、スロヴエニア」國及「チエッコ、スロヴァキア」國之ヲ任命スヘシ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國及白耳義國ハ各國一名ノ委員ヲ、爾餘ノ五國ハ左記ノ第三項ニ定ムル條件ニ從ヒ共通ノ委員ニ任命スヘシ

三 委員會ハ其ノ常設事務局本部ヲ巴里ニ設ケ本條約實施後成ルヘク速ニ其ノ第一回會議ヲ巴里ニ開クヘシ爾後ハ其ノ便宜ナリト認メ且其ノ職務ノ最敏活ナル執行ニ必要ナル地及時期ニ於テ開會スヘシ

四 委員會ハ其ノ第一回會議ニ於テ前記委員中ヨリ議長一名及副議長一名ヲ選舉スヘシ議長及副議長ノ任期ハ一年トシ再選ヲ妨ケス任期中議長又ハ副議長ニ關員ヲ生シタルトキハ委員會ハ當該任期ノ殘餘ニ對シ直ニ新選舉ヲ行フヘシ

五 委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員事務員及用人ヲ任命シ其ノ給與額ヲ定メ、委員會ノ委員タルコトヲ要件トセサル委員ヨリ成ル分科會又ハ小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員事務員分科會及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルコトヲ得

六 委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員事務員及用人ヲ任命シ其ノ給與額ヲ定メ、委員會ノ委員タルコトヲ要件トセサル委員ヨリ成ル分科會又ハ小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員事務員分科會及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルコトヲ得

七 委員會ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル一切ノ役員事務員及用人ヲ任命シ其ノ給與額ヲ定メ、委員會ノ委員タルコトヲ要件トセサル委員ヨリ成ル分科會又ハ小委員會ヲ組織シ、任務ノ遂行ニ必要ナル一切ノ執行手段ヲ講シ且役員事務員分科會及小委員會ニ其ノ權限及裁量ヲ委任スルコトヲ得

八 委員會ノ一切ノ議事ハ之ヲ公開セス但シ特殊ノ理由ニ因リ委員會カ特別ノ場合ニ別段ノ決定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

員一名ヲ任命スヘシ各委員ト同時ニ副委員一名ヲ任命スヘシ副委員ハ委員ノ病氣又ハ已ムテ得サル闕席ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘク其ノ他ノ場合ニ於テハ單ニ會議ニ出席スルノ權利ヲ有シ議事ニ參與スルコトヲ得ス如何ナル場合ニ於テモ上記委員中五名以外ノ者ハ委員會ノ議事ニ參與シ且表決ニ加ハルノ權利ヲ有スルコトナシ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ委員ハ每ニ此ノ權利ヲ有ス白耳義國委員ハ以下ノ場合ヲ除ク一切ノ場合ニ此ノ權利ヲ有ス日本國委員ハ海上ニ於ケル損害ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ此ノ權利ヲ有ス上記ノ爾餘五國ノ共通委員ハ埃地利國、洪牙利國又ハ勃爾利牙國ニ關スル問題ヲ審議スル場合ニ此ノ權利ヲ有ス

九 委員會ニ代表セララル各政府ハ委員會ニ對シ十二月前ノ豫告ヲ爲シ且其ノ通告ノ日以後第六月中ニ之カ確認ヲ爲スコトニ依リ委員會ヨリ脱退スルノ權利ヲ有ス

三

同盟及聯合國中利害關係ヲ有スルモノハ各自國ノ請求權及利益ノ審查討論中ニ限り陪席委員トシテ出席シ且行動スル委員一名ヲ任命スルノ權利ヲ有ス該委員ハ表決權ヲ有スルコトナシ

十 委員會カ第六十三條ニ依リ設置スヘキ分科會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、希臘國、波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアイト、スロヴエニア」國及「チエッコ、スロヴァキア」國ノ代表者ヲ包含スヘシ但シ此ノ構成ハ請求ノ認否ヲ何等豫斷スルモノニ非ス分科會ニ於テ表決ヲ爲スニ當リテハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國及伊太利國ノ代表者ハ各二箇ノ表決權ヲ有スヘシ

〔外初版〕

九 委員會ハ洪牙利國政府ノ請求アルトキハ隨時期間ヲ定メ洪牙利國ノ支拂能力ニ關スル問題ニ付其ノ辯論及立證ヲ聽取スルコトヲ要ス

十 委員會ハ請求ヲ審查シ且意見陳述ノ權利ヲ衡平ニ洪牙利國政府ニ與フヘシ尤モ洪牙利國政府ハ委員會ノ決定ニ何等參與セサルモノトス委員會カ洪牙利國ノ同盟國ノ利害關係事項ト認ムルトキハ右ノ權利ヲ該同盟國ニ與フヘシ

十一 委員會ハ何等ノ法令、特定ノ法典又ハ審理若ハ手續ニ關スル何等特別ノ規則ニ拘束セララルコトナク正義衡平及信義ヲ本旨トスヘシ委員會ノ決定ハ其ノ適用シ得ル限り一切ノ場合ヲ通シテ劃一ノ原則及規則ニ準據スルコトヲ要ス委員會ハ請求ノ立證方法ニ關スル規則ヲ設クヘシ委員會ハ一切ノ正當ナル計算方法ヲ用非ルコトヲ得

十二

委員會ハ本條約ニ依リ其ノ付與セララル一切ノ權能ヲ有シ且其ノ付託セララル一切ノ職務ヲ行フヘシ

委員會ハ本編ニ規定スル賠償問題ノ管掌及處理ニ付一般ニ廣汎ナル權能ヲ有シ且本編ノ規定ヲ解釋スル權限ヲ有スヘシ本條約ノ規定ニ依ルノ外委員會ハ本編ノ規定ニ依リテ洪牙利國ノ支拂フヘキ賠償金品ノ受領、賣却、保有及分配ニ付前記二及三ノ同盟及聯合國政府各自ノ唯一ノ代表者トシテ右諸國政府之ヲ組織スルモノトス委員會ハ左記ノ條件及規定ニ準



據スルコトヲ要ス

(イ) 査定請求總額中金ヲ以テ又ハ船舶、有價證券、貨物其ノ他ヲ以テ支拂ハレサル部分ニ付テハ洪牙利國ハ該部分ノ債務ヲ承認スル目的ヲ以テ委員會ノ決定スル條件ニ依リ擔保トシテ同額ノ債券、債務證書其ノ他ヲ交付シ之ニ充ツルコトヲ要ス

(ロ) 委員會ハ洪牙利國ノ支拂能力ヲ定期ニ評定スルニ際シ第一ニ洪牙利國ノ全歲入(内國債ノ利息支拂又ハ償還ニ充ツヘキ歲入ヲ含ム)ヲ先ツ洪牙利國ノ支拂ヘキ賠償額ニ供スル爲メ第二ニ一般ニ洪牙利國ノ租稅制度カ委員會ニ代表セララルル何レノ國ノ制度ト比較スルモ其ノ負擔決シテ輕カラサルコトニ付確信ヲ得ル爲メ洪牙利國ノ租稅制度ヲ検査スヘシ

賠償委員會ハ第一ニ本條約ニ依リ劃定セララルル洪牙利國領土内ノ經濟及金融ノ實狀第二ニ本條約ノ條項ニ基ク洪牙利國領土内ノ資源及支拂能力ノ減小ヲ特ニ考量スヘキ趣旨ノ訓令ヲ接受スヘシ洪牙利國ノ狀態ノ變化セザル限ニ委員會ハ洪牙利國ノ確定債務總額、同國カ債務ヲ辨濟スル爲メ割賦及同國ノ請求スルコトアルヘキ利息支拂延期ヲ決定スルニ付右ノ事項ヲ參酌スヘシ

(ハ) 委員會ハ第六十五條ノ規定ニ從ヒ洪牙利國ヲシテ其ノ債務ノ擔保及承認トシテ金貨無記名債券ヲ交付セシムヘシ該債券ハ洪牙利國政府又ハ之ニ屬スル官憲ノ課シ又ハ課スルコトアルヘキ各種ノ租稅又ハ公課ヲ免除セララルルヘシ右債券ハ委員會ノ適當ト認ムル時期ニ於テ且委員會ノ定ムル各額ニ依リ三回ニ之ヲ交付スヘシ其ノ「冠」金貨ノ支拂ニ付テハ第九編(財政條項)第九十七條ニ依ル

證書其ノ他ノ債務證書カ洪牙利國ノ賠償債務額ノ原債權者タル諸政府ニ非サル者ニ確定(擔保ノ爲ニ非ス)ニ歸屬シタル場合ニ於テハ該賠償債務額ハ斯ク確定(歸屬)シタル債券等ノ券面價額ニ相當スル額ニ付右諸政府ニ關スル限り消滅シタルモノト看做サルヘシ此ノ債券等ニ關スル洪牙利國ノ債務ハ券面記載ノ義務ニ限定セララルヘシ(ホ) 侵入ヲ受ケ荒廢ニ歸シタル諸地方ニ在ル財產ノ修復及再造(家具、機械其ノ他ノ物件ノ再裝置ヲ含ム)ニ要スル費用ハ其ノ作業實行ノ時期ニ於ケル修復及再造ノ費額ニ依リ之ヲ計算スヘシ(ヘ) 洪牙利國ノ査定債務ノ元本又ハ利息ノ全部又ハ一部ノ免除ニ關スル委員會ノ決定ニハ其ノ理由ヲ附スルコトヲ要ス

十三

委員會ハ表決ニ關シ左ノ規則ニ準據スヘシ  
委員會ノ決定ヲ爲スニ當リテハ表決權ヲ有スル各委員ノ表決、副席委員アル場合ニ於テハ其ノ副委員ノ表決ヲ記録スヘシ表決ノ棄權ハ審議中ノ議案ニ反對スル表決ト看做ス陪席委員ハ表決權ヲ有セス  
左記ノ問題ニ關シテハ全會一致ヲ要ス  
(イ) 同盟及聯合國ノ主權ニ關聯スル問題又ハ洪牙利國ノ債務若ハ義務ノ全部若ハ一部ノ免除ニ關スル問題  
(ロ) 洪牙利國政府ノ交付スヘキ債券其ノ他ノ債務證書ノ金額及條件ニ關スル問題並右債券等ノ賣却、流通又ハ分配ノ時期及方法ヲ定ムル問題  
(ハ) 千九百二十一年五月一日以後千九百二十六年末迄ノ間ニ辨濟期ニ達スル支拂ノ全部又ハ一部ヲ千九百三十年終了後ニ延期スルコト  
(ニ) 千九百二十六年終了後ニ辨濟期ニ達スル支拂ノ全部又ハ一部ヲ三

(一) 無記名債券ノ第一回發行ヲ爲スコト 本債券ハ無利息トシ千九百二十一年五月一日前ニ支拂フヘキモノトス洪牙利國カ第六十五條ニ從ヒ履行ヲ約シタル支拂額ハ占領軍隊ノ維持費ノ償還並糧食及原料ノ代金支拂ニ供シタル金額ヲ控除シタル上特ニ之ヲ本債券ノ償却ニ充當スヘシ右債券ニシテ千九百二十一年五月一日前ニ償却セララルモノハ次(十二ノハ)號ノ(二)ニ規定スル債券ト同一様式ノ新債券ヲ以テ之ト引換フヘシ

(二) 無記名債券ノ第二回發行ヲ爲スコト 本債券ニハ千九百二十一年ヨリ千九百二十六年迄ハ年二分五厘(百分ノ二半)、爾後ハ年五分(百分ノ五)ノ利息ヲ附シ更ニ千九百二十六年ヨリ償還ノ爲メ發行總額ニ對シ年一分(百分ノ一)ヲ添加ス

(三) 更ニ新割賦トシテ年五分(百分ノ五)利附無記名債券ヲ發行スヘキ旨ノ約束書ヲ作成スルコト 右ノ發行ハ委員會ニ於テ洪牙利國カ前記ノ利息及償還基金ノ債務ヲ確ニ履行シ得ルコトノ確信ヲ得タル場合ニ限ル本債券ノ元利支拂ノ時期及方法ハ委員會之ヲ決定スヘシ債券ノ利息支拂ノ期日、償還基金ノ使用方法其ノ他類似ノ問題ニシテ發行、管理及債券發行規則ニ關スルモノハ委員會隨時之ヲ決定ス爾後委員會ノ隨時決定スル條件ニ依リ債務ノ承認及擔保タル債券ノ新發行ヲ要求スルコトヲ得

賠償委員會カ同盟及聯合國ノ要求ニ基キ共同負擔額中洪牙利國ノ負擔スヘキ部分ヲ最終確定スル決定シタル場合ニハ委員會ハ該金額ニ超過シテ發行セララルコトアルヘキ一切ノ債券ヲ直ニ無効ナラシムヘシ(ニ) 賠償債務ノ擔保又ハ承認トシテ洪牙利國ノ發行シタル債券、債務

外初版

年ヲ超ユル期間延期スルコト  
(ホ) 特定ノ場合ニ於テ從來同様ノ場合ニ採用シタル損害見積方法ト異ル方法ヲ適用スル問題  
(ハ) 本編ノ規定ノ解釋ニ關スル問題  
右以外ノ一切ノ問題ハ過半數ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス  
一ノ事件カ其ノ決定ニ全會一致ヲ要スルヤ否ヤノ問題ニ付委員會間ニ意見ノ相違アリテ其ノ本國政府ニ請訓スルモ尙解決スルコト能ハサル場合ニ於テハ同盟及聯合國政府ハ直ニ公平ナル人ノ仲裁ニ之ヲ付スヘキコトヲ約シ仲裁人ノ指名ハ當事國間ニ協定セララルヘク同盟及聯合國政府ハ其ノ裁定ヲ承認スルコトヲ約ス

十四

委員會カ其ノ付與セララル權能ニ依リテ下シタル決定ハ即時ニ執行力ヲ有スヘク且他ノ手續ヲ經スシテ直ニ之ヲ實行スルコトヲ得

十五

委員會ハ其ノ定ムル様式ニ依リ關係各國ニ左ノ證明書ヲ交付スヘシ  
一 委員會カ當該國ノ計算ニ於テ前記發行ノ債券ヲ保有スル旨ヲ記載シタル證明書 本證明書ハ當事國ノ請求アルトキハ五箇ヲ超エサル部分ニ之ヲ分割スルコトヲ得  
二 洪牙利國カ其ノ賠償債務ノ一部支拂トシテ引渡シタル他ノ一切ノ財產ヲ委員會カ當該國ノ計算ニ於テ保有スル旨ヲ記載シタル時ノ證明書  
右證明書ハ記名式タルヘク且委員會ニ通知シタル上裏書ヲ以テ之ヲ移轉スルコトヲ得ヘシ



債券カ賣却又ハ流通ノ爲發行セラレタルトキ及財産カ委員會ヨリ引渡サレタルトキハ其ノ價額ニ相當スル證明書ハ之ヲ同收スルコトヲ要ス

十六

委員會ニ於テ決定シタル洪牙利國ノ債務中正金若ハ其ノ相當物又ハ委員會ノ爲ニ發行セラレタル債券ヲ以テスル支拂ニ依リ履行濟ノ割賦額及第百七十三條ノ支拂額ヲ控除シタル殘額ニ對シテハ千九百二十一年五月一日以後ノ利息ヲ洪牙利國政府ノ借方ニ計上スヘシ

前項利息ノ率ハ年五分トス但シ委員會カ將來右ノ率ノ變更ヲ正當トスル事情アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

委員會ハ千九百二十一年五月一日ニ於テ洪牙利國ノ債務總額ヲ決定スルニ當リ物質的損害ノ賠償額ニ對スル千九百十八年十一月十一日又ハ委員會ニ依リ定メラルヘキ右以後ノ他ノ日ヨリ千九百二十一年五月一日前迄ノ利息ヲ算入スルコトヲ得

十七

洪牙利國カ本編規定ノ義務中何レカ一ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テハ委員會ハ直ニ之ヲ關係各國ニ通知シ右不履行ノ爲執ルヘキ措置ニ付其ノ適當ト認ムル提議ヲ該通知ニ添附スヘシ

十八

洪牙利國カ故意ニ履行ヲ怠リタル場合ニ同盟及聯合國カ執ルノ權利ヲ有スル措置ニハ經濟上及金融上ノ禁止及報復其ノ他一般ニ當該國政府カ事情ニ應シ必要ト認ムルコトアルヘキ措置ヲ包含ス洪牙利國ハ右ノ措置ヲ以テ敵對行爲ト認メサルコトヲ約ス

十九

噸數對噸數(總噸數)及等級對等級ノ代價ヲ受ケル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス

尤モ現存ノ洪牙利船舶ノ噸數ハ塊地利洪牙利國及其ノ同盟國ノ攻撃ニ因ル同盟及聯合國ノ喪失噸數ニ比スルハ遙ニ小ナリト雖右承認セラレタル權利ハ次ノ條件ニ依リ該洪牙利船舶ノ上ニ之ヲ行使スヘシ

洪牙利國政府ハ舊洪牙利王國ノ國民ニ屬スル一切ノ商船及漁船ノ所有權ヲ自己ノ名ニ於テ且一切ノ關係者ヲ拘束スルモノトシテ同盟及聯合國政府ニ讓渡ス

二

洪牙利國政府ハ本條約實施後二月ノ期間内ニ一ニ掲クル一切ノ船舶ヲ賠償委員會ニ引渡スヘシ

三

一ニ掲クル船舶中ニハ下記一切ノ船舶ヲ含ム(イ)舊洪牙利王國ノ一港ニ登記セラレタル船舶ニシテ塊地利洪牙利商船旗ヲ掲揚スルモノ又ハ之ヲ掲揚スルノ權利アルモノ(ロ)舊洪牙利王國ノ國民タル個人、組合若ハ會社ニ屬スル船舶又ハ同盟國若ハ聯合國以外ノ國ノ組合若ハ會社ニシテ舊洪牙利王國ノ國民ノ管理若ハ指揮ノ下ニ在ルモノニ屬スル船舶(ハ)現ニ建造中ノ船舶ニシテ(一)舊洪牙利王國內ニ於テ建造中ノモノ(二)舊洪牙利王國ノ國民タル個人、組合又ハ會社ノ計算ヲ以テ同盟國又ハ聯合國以外ノ國ニ於テ建造中ノモノ

四

洪牙利國政府ハ右ノ如ク引渡ス各船舶ニ對スル權原證書ヲ供給スル爲

同盟及聯合國ノ査定濟請求ニ對スル一部支拂トシテ金又ハ其ノ相當物ヲ以テ爲スコトヲ要スル支拂ハ洪牙利國領土ノ内外ニ在ル動産不動産貨物企業權利及利權並船舶債券株券若ハ各種ノ有價證券又ハ洪牙利國若ハ他ノ諸國ノ通貨ヲ以テスルコトヲ委員會ニ於テ何時ニテモ受諾スルコトヲ得此等ノモノノ金ニ對スル交換價額ハ正當且公平ナル率ニ依リ委員會自ラ之ヲ決定スヘシ

二十

委員會ハ特定ノ財産又ハ權利ノ引渡ヲ以テ爲ス支拂ヲ決定シ又ハ受諾スルニ當リ同盟及聯合國又ハ中立國並其ノ國民カ右ノ財産又ハ權利ニ對シテ有スル正當ノ權利及利益ヲ參酌スヘシ

二十一

委員會ノ委員ハ其ノ任務上ノ作爲又ハ不作爲ニ付任命國政府ニ對スルノ外其ノ責ニ任セス各同盟及聯合國政府ハ他ノ政府ノ爲ニ何等ノ責ヲ負フコトナシ

二十二

本條約ノ規定ニ依ルノ外本附屬書ハ委員會ニ代表セララル諸國政府ノ一致ノ決定ヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得

二十三

洪牙利國及其ノ同盟國カ本條約ニ依リ又ハ委員會ノ決定ニ依リ負擔スル債務總額ノ辨濟ヲ了シ且委員會カ其ノ受領シタル一切ノ金額又ハ其ノ相當物ヲ關係諸國ニ分配シタルトキハ委員會ハ解散スヘシ

第三 附屬書

一

洪牙利國ハ戰爭ニ因リ喪失シ又ハ損害ヲ受ケタル一切ノ商船及漁船ニ付

〔外初版〕

(イ) 各船舶ニ付先取特權、抵當權其ノ他何等ノ負擔ナキ完全ナル船舶所有權ヲ賠償委員會ニ移轉シタルコトヲ證明スル賣渡證書其ノ他ノ權原證書ヲ該委員會ノ請求ニ從ヒ之ニ交付スヘシ

(ロ) 右ノ船舶ヲ賠償委員會ノ處分ニ委スルコトヲ確保スル爲同委員會ノ指示スルコトアルヘキ一切ノ措置ヲ執ルヘシ

五

洪牙利國ハ名義ノ如何ヲ問ハス千九百十四年七月二十八日以後自國又ハ自國民中ノ一人ノ占有ニ歸シタル河川航行用ノ一切ノ船舶其ノ他ノ可動具ニシテ之ヲ識別シ得ルモノヲ賠償委員會ノ定ムル手續ニ依リ本條約實施後二月ノ期間内ニ現物ノ儘普通ノ保存狀態ニ於テ同盟及聯合國ニ還付スルコトヲ約ス

戰時中原因ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ノ被リタル河川用船舶噸數ノ喪失ニシテ前項ノ還付ニ依リ賠償スルコト能ハサルモノヲ補償スル爲洪牙利國ハ右喪失ノ總額ニ達スル迄同盟國河川船隊ノ一部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ約ス但シ該讓渡ハ千九百十八年十一月三日現在ノ河川船隊ノ總噸數ノ二割ヲ超ユルコトヲ得ス

右讓渡ノ態様ハ特定河系ノ新國際制度ニ因リ又ハ該河系ニ影響スル領土ノ變更ニ因リ河川用船舶噸數ノ分配ニ關シテ生スヘキ紛争ヲ解決スルノ任務ヲ有スル第十二編(港、水路及鐵道)第二百八十四條ノ數名ノ仲裁委員之ヲ定ムヘシ

六

洪牙利國ハ同盟及聯合國政府ノ同意ナクシテ中立國國籍ニ戰時中移轉シ又ハ現ニ移轉中ニ屬スル一切ノ船舶ノ上ニ完全ナル所有權ヲ取得スル爲



賠償委員會ノ指示スル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

七 洪牙利國ハ一切ノ洪牙利船舶ノ扣留又ハ利用及該船舶ノ喪失又ハ損害ニ付同盟及聯合國政府並其ノ國民ニ對スル各種ノ請求權ヲ放棄ス

八 洪牙利國ハ海軍ノ行動ニ依リ又ハ其ノ結果トシテ沈没シ其ノ後救助セラレタル船舶又ハ載貨ニシテ同盟國若ハ聯合國政府ノ一政府又ハ國民カ所  
有者、備船者、保險者其ノ他トシテ利害關係ヲ有スルモノニ對スル一切  
ノ請求權ヲ放棄ス舊埃地利洪牙利君主國又ハ其ノ同盟國ノ捕獲審檢所ニ  
於テ捕獲ノ宣告アリタル場合ト雖異ルコトナシ

第四 附屬書

一 同盟及聯合國ハ洪牙利國カ本編ニ掲ケル其ノ義務ノ一部履行トシテ以下  
定ムル態様ニ依リ同盟ノ經濟資源ヲ同盟及聯合國ノ決定スル範圍内ニ於  
テ該諸國ノ被侵入地方ノ物質的回復ニ直接充當スルコトヲ要求シ洪牙利  
國ハ之ヲ受諾ス

二 同盟及聯合國政府ハ左記品目表ヲ賠償委員會ニ提出スヘシ

(イ) 洪牙利國カ差押ヘ消費シ若ハ破壊シ又ハ軍事行動ノ直接ノ結果破  
壞セラレタル動物、機械、鐵道材料、設備、器具其ノ他商品ノ性質  
ヲ有スル類以テ物品ニシテ同盟及聯合國政府カ本條約實施ノ當日洪  
牙利國領土内ニ現存スル同種ノ動物又ハ物品ヲ以テ代償セラルルコ  
トヲ即時緊急ノ必要ニ應ズル爲希望スルモノ

合ニ非サレハ洪牙利國ニ之ヲ要求スルコトヲ得ス但シ此ノ種ノ要求額ハ  
同盟ノ一事業所又ハ一企業ニ於ケル各物品ノ使用量ノ三割以內ニ限ルヘ  
シ

委員會ハ前記ノ材料、動物及物件ヲ供給シ得ル洪牙利國政府ノ能力ニ關  
シ一定ノ期間内ニ意見ヲ陳述スルノ權利ヲ同盟國政府ノ代表者ニ與フヘシ  
委員會ノ決定ハ其ノ後成ルヘク速ニ洪牙利國政府及利害關係ヲ有スル各  
同盟及聯合國政府ニ之ヲ通告スヘシ

洪牙利國政府ハ該通告中ニ指定スル材料、物件及動物ヲ交付スヘキコト  
ヲ約シ利害關係ヲ有スル同盟及聯合國政府ハ此等ノ物品カ其ノ提出スル  
明細書ニ該當スル場合又ハ委員會ニ於テ回復作業ニ使用スルニ適セスト  
認メサル場合ニ於テ之ヲ受諾スヘキコトヲ各自國ノ關スル限リ約ス

五

委員會ハ右規定ニ依リ交付セラレヘキ材料、物件及動物ノ價額ヲ決定ス  
ヘシ該物品ヲ受領スル同盟及聯合國政府ハ右ノ價額カ其ノ借方ニ計上セ  
ラルルコトヲ受諾シ其ノ相當額ハ第六十七條ノ規定ニ依リテ分配スヘ  
キ洪牙利國ノ支拂トシテ之ヲ取扱フヘキコトヲ承認ス

右ニ定ムル條件ニ依リ物質的回復ヲ要求スル權利ヲ行使スル場合ニ於テ  
ハ委員會ハ洪牙利國ノ貸方ニ計上セラルヘキ額方同盟國ノ爲シタル役務又  
ハ供給シタル材料ノ普通價額タルヘキコト及右一部ノ賠償アリタル損害  
ニ付關係國ノ爲シタル請求額ハ右ノ既濟賠償額ノ割合ニ於テ減少セラル  
ヘキコトヲ確保スヘシ

六

家畜カ搬去、消費又ハ損壞セラレタル諸國ノ即時ノ需要ニ應ズル爲同盟

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

(ロ) 再築材料(石材、煉瓦、硬質煉瓦、瓦、木材、窓硝子、鋼鐵、石  
灰、「セメント」ノ如キ)、機械、燈房具、家具其ノ他商品ノ性質ヲ有  
スル物品ニシテ同盟及聯合國政府カ被侵入地方ノ回復ノ爲洪牙利國  
内ニ於テ生産又ハ製造セラレ且自國ニ交付セラルルコトヲ希望スル  
モノ

三

(イ) 號ニ掲ケル物品ノ品目表ハ本條約實施後三月以內ニ之ヲ提出ス  
ヘシ  
該品目表ニハ當該物品ニ關シ品種、引渡期限(但シ四年ヲ超ユルコトヲ  
得ス)、引渡ノ場所其ノ他商業契約ノ慣習上ノ一切ノ細目ヲ掲載スヘシ尤  
モ物品ノ價格又ハ評價額ハ左記ノ規定ニ從ヒ委員會之ヲ決定スルコトヲ  
要シ該品目表ニ掲ケヘカラサルモノトス

四

委員會ハ右品目表ヲ接受シタルトキハ直ニ該品目表ニ記載スル材料及動  
物ヲ如何ナル範圍ニ於テ洪牙利國ニ要求シ得ヘキカヲ審査スヘシ  
委員會ハ此ノ決定ヲ爲スニ當リ洪牙利國ノ社會的及經濟的生活ノ維持ニ  
必要ナル限リ同盟國ノ國內ノ需要ヲ參酌スヘク又同盟及聯合國内ニ於テ類  
似ノ物品ヲ取得スルニ要スル價格及期限ヲ考量シ之ヲ洪牙利國ニ付必要  
トナル價格及期限ト比較スヘク最後ニ洪牙利國ノ産業生活カ攪亂セラレ  
之カ爲同盟國ノ他ノ賠償行爲ヲ完了スル能力ヲ害スルニ至ラサルコトニ付  
同盟及聯合國政府ノ有スル一般ノ利益ヲ考量スヘシ  
尤モ現ニ産業ニ使用中ノ機械、鐵道材料、設備、器具及商品ノ性質ヲ有  
スル類似ノ物品ハ此等物品ノ貯藏額ニシテ利用賣却シ得ヘキモノナキ場

[外初版]

及聯合國ハ前記ニ掲ケル動物ノ一部支拂トシテ即時前渡ノ名義ニ於テ  
本條約實施後三月ノ期間内ニ引渡スコトヲ請求スル家畜ノ目錄ヲ本條約  
實施後直ニ賠償委員會ニ提示スルコトヲ得ヘシ

賠償委員會ハ右三月ノ期間内ニ引渡サルヘキ家畜ノ頭數ヲ決定スヘク洪  
牙利國ハ右委員會ノ決議ニ從ヒ此等ノ引渡ヲ履行スルコトヲ約ス  
委員會ハ各關係國ノ即時ノ需要ト一方同盟及聯合國他方埃地利國及勃爾  
牙利國ノ間ニ締結セラレタル條約カ右需要ヲ満足セシメタル程度トヲ參  
酌シ該關係諸國間ニ引渡動物ヲ分配スヘシ

引渡ササル動物ハ普通ノ健康及狀態ヲ有スルモノナルヘシ  
斯ク引渡サル動物ハ搬去セラレ又ハ差押ヘラレタルモノト識別シ  
得サルトキハ該動物ノ價額ハ本附屬書五ノ規定ニ依リ洪牙利國ノ賠償債  
務ニ付其ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第五 附屬書

一 洪牙利國ハ本條約實施後五年間左記原料ノ年年ノ引渡ニ付選擇權ヲ一部  
賠償トシテ各同盟及聯合國政府ニ許與ス該引渡ノ額カ埃地利洪牙利國ヨ  
リ來ル右原料ノ戰前輸入年額ニ對スル割合ハ本條約ノ定ムル國境ヲ有ス  
ル洪牙利國ノ資源カ舊埃地利洪牙利君主國ノ戰前資源ニ對スル割合ニ均  
シキモノナルヘシ

木材及木製品

鐵及其ノ合金

洪牙利國ハ又本條約實施後五年間「ベーチ」炭鑛産出ノ牽引用石炭ノ一定  
量ノ年年ノ引渡ニ對スル選擇權ヲ一部賠償トシテ同盟及聯合國ニ許與ス



右ノ定量ハ賠償委員會定期ニ之ヲ定ムヘク該賠償委員會ハ其ノ定ムル條件ニ依リ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ノ爲ニ之ヲ處分スヘシ

二

右ニ掲ケル生産品ニ對シ支拂フ價格ハ洪牙利國民ノ支拂フモノト同額タルヘク其ノ荷造及洪牙利國境ニ到ル迄ノ運賃ニ關スル一切ノ條件ハ同種生産品ノ引渡ニ付洪牙利國民ニ許容セラルル最有利ナルモノタルヘシ

三

本附屬書ノ選擇權ハ賠償委員會ノ仲介ニ由リ之ヲ行使スヘシ該委員會ハ前記規定ヲ實行スル爲手續、物品ノ品質及數量並引渡及支拂ノ期限及方法ニ關スル一切ノ問題ヲ決定スル權能ヲ有ス要求額ハ千九百二十年七月一日以後ニ於テ行ハルヘキ引渡ニ付テハ履行開始期日ノ百二十日前、本條約實施ノ日ト千九百二十年七月一日トノ間ニ行ハルヘキ引渡ニ付テハ右履行開始期日ノ三十日前ニ有用ナル明細書ヲ添附シテ洪牙利國ニ之ヲ豫告スヘシ委員會ハ右要求ヲ完全ニ満足セシムルコトヲ以テ洪牙利國ノ産業上ノ必要ニ甚シク畢テ及ホスモノト認メタルトキハ該引渡ヲ延期シ又ハ取消シ尙優先ノ順位ヲ決定スルコトヲ得ヘシ

第六 附屬書

洪牙利國ハ伊太利國ノ諸地方(本條約ニ依リ伊太利國ニ歸屬スルコトアルヘキ諸地方ヲ含ム)ヲ連絡スル海底電信線又ハ其ノ部分ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ總テ伊太利國ノ爲ニ拋棄ス

洪牙利國ハ又本條約ニ依リ同國方同盟及聯合國中ノ諸國ニ讓渡スル諸地方ヲ連絡スル海底電信線又ハ其ノ部分ニ關スル各種ノ權利、權原又ハ特權ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ總テ伊太利國ノ爲ニ拋棄ス

夫々還付スヘシ右ノ期間ハ伊太利國ノ關スル限り王國宣言ノ日(千八百六十一年)ニ遡及スヘシ

洪牙利國ハ美術的、考古學的、科學的又ハ歴史的性質ヲ有シ嘗テ舊埃地利洪牙利君主國政府又ハ皇室ノ有タリシ蒐集品ノ一部タル一切ノ物件又ハ文書ニシテ本條約中別段ノ規定ナキモノニ關シ左ノ事項ヲ約ス

(イ) 關係諸國ノ智能的世襲財產ニ屬スヘキ右ノ蒐集品又ハ物件若ハ文書ヲ相互的ニ總テ其ノ本源國ニ送還スルコトヲ定ムル友誼的協定ヲ要求ニ應シ前記諸國ト交渉スルコト

(ロ) 二十年ノ期間滿了前特別協定ノ成立セサル限り同期間内右蒐集品ノ何レヲモ讓渡セス若ハ散逸セシメス又右物件ノ何レヲモ處分セスシテ其ノ安全及保存ヲ確保シ右蒐集品ノ管理ニ關スル品目、目錄及文書ト共ニ各同盟及聯合國國民タル研究者ヲシテ之ヲ利用セシムルコト

右ニ對シ洪牙利國ハ(口)號ノ保障ヲ受クル前記ノ蒐集品、文書及物件ヲ洪牙利國ニ還付セシムルニ付必要ナル協定ヲ右ト同一ノ條件ニ於テ商議スル爲前記諸國殊ニ埃地利國ニ申出ツルノ權利ヲ有スヘシ

第七十八條

舊埃地利洪牙利君主國ヨリ生スル諸新國及該君主國領土ノ一部分ヲ讓受クル諸國ハ洪牙利國領土ノ歴史又ハ施政ニ直接ノ關係ヲ有スル記錄、文書及覺書ニシテ偶讓渡諸地方内ニ存在スルモノカ二十年ヲ超エテ遡及セサル限り洪牙利國政府ニ之ヲ還付スルコトヲ約ス

第七十九條

洪牙利國ハ伊太利國ト埃地利洪牙利國トノ間ニ締結セラレタル千八百五

權ヲ自國及其ノ國民ノ名ニ於テ總テ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス關係諸國ハ前記海底電信線ノ陸揚及運用ヲ維持スルコトヲ要ス

伊太利國政府ハ「トリエスト」-「コルフ」間ノ海底電信線ニ付該線ノ所有者タル會社トノ關係ニ於テ埃地利洪牙利國政府ノ享有セシ所ト同一ノ地位ヲ享有スヘシ

本附屬書第一項及第二項ニ記載スル海底電信線又ハ其ノ部分ニ對スル價額ハ敷設費ヲ基礎トシテ計算シ相當ナル減價率ニ依リ控除ヲ爲シタル上賠償名義ニ於テ洪牙利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第二款 特別規定

第七十五條

第六十八條ノ規定ノ適用トシテ洪牙利國ハ其ノ侵入地方ヨリ搬去シタル記錄、文書、考古品及美術品並科學及書目ニ關スル一切ノ材料カ國ニ屬スルト又ハ州、市町村、慈善若ハ宗教上ノ設備其ノ他公私ノ施設ニ屬スルトハ同同盟及聯合國ノ各國ニ夫々之ヲ還付スルコトヲ約ス

第七十六條

洪牙利國ハ第七十五條ノ物品ト同種ノモノニシテ讓渡諸地方ヨリ千九百十四年六月一日以後搬去セルモノヲ亦還付スヘシ但シ私人タル所有者ヨリ買取リタル物品ハ此ノ限ニ在ラス

賠償委員會ハ此等ノ物品ニ付第九編(財政條項)第九十一條ノ規定ヲ必要ニ應シ適用スヘシ

第七十七條

洪牙利國ハ讓渡諸地方ノ歴史ニ直接ノ關係ヲ有スル一切ノ記錄、文書及歴史的覺書ニシテ千八百六十八年一月一日以後ニ右諸地方ヨリ搬出セラレ且同國公共施設ノ占有ニ係ルモノヲ同盟國又ハ聯合國ノ各關係政府ニ

(外初版)

十九年十一月十日ノ「トリリッヒ」條約第十五條、千八百六十六年十月三日ノ維納條約第十八條及千八百六十八年七月十四日ノ「フローレンス」條約ニ規定シタル義務ヲ伊太利國ニ對シ履行スヘキ義務カ右ニ掲ケル諸條項ノ完全ニ履行セラレサル限り且本件ノ文書及物件ノ洪牙利國又ハ其ノ同盟國ノ版圖内ニ存在スル限り存續スルコトヲ承認ス

第九編 財政條約

第八十條

賠償委員會ノ許容スルコトアルヘキ例外ノ場合ヲ除クノ外本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ並千九百十八年十一月三日署名ノ休戰條約ノ休戰中洪牙利國ト同盟及聯合國トノ間ニ締結セラレタル諸協定ニ依リ生シタル賠償其ノ他ノ負擔ヲ處理スル爲洪牙利國ノ一切ノ財產及資源ノ上ニ第一順位ノ優先權ヲ設定ス

洪牙利國政府ハ千九百二十一年五月一日前ニ至ル迄ハ賠償委員會ニ依リテ代表セラレル同盟及聯合國ノ事前ノ許諾アルニ非サレハ金ヲ輸出シ又ハ之ヲ處分スルコトヲ得サルヘク又金ノ輸出セラレ又ハ其ノ處分セラレルコトヲ禁止スヘシ

第八十一條

本條約ニ依リ境界ノ確定セル洪牙利國內ノ占領地ニ在ル同盟及聯合國ノ一切ノ軍隊ノ經費ハ本條第五項ノ規定ヲ留保シ千九百十八年十一月三日ノ休戰條約署名ノトキヨリ總テ洪牙利國ノ負擔タルヘシ右經費中ニハ兵員及軍用動物ノ給養、宿舍及廠舎、給料及手當、俸給及賃銀、寢具、煖房、燈火、被服、裝具、馬具、兵器及車輛、航空勤務、傷病者手當、獸醫勤務及軍用動物補充勤務、各種輸送勤務(鐵道、河海、自動貨車)ニ依ルモ



ノ等)、交通及通信其ノ他一般部隊ヲ訓練シ其ノ兵力及其ノ軍事上ノ能率ヲ維持スル爲必要ナル行政上及専門事項上ノ一切ノ勤務ニ要スルモノヲ包含ス

前項ニ掲クル各種ノ經費ニシテ占領地ニ於ケル同盟及聯合國政府ノ買入又ハ徵發ニ關スルモノハ「冠」又ハ「冠」ニ代ルヘキ洪牙利國ノ法貨ヲ以テ洪牙利國政府ヨリ同盟及聯合國政府ニ之ヲ支拂フヘシ

他ノ一切ノ前記經費ハ債權國ノ通貨ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ  
前記諸規定ハ千九百十八年十一月三日以後行ハレタル軍事行動ニ付賠償委員會力必要ト認ムル程度ニ於テ之ヲ適用ス該委員會ハ右軍事行動ニ關スル限リ一切ノ問題殊ニ左記ニ關スルモノヲ決定スルノ完全ナル權限ヲ有スル

- (イ) 軍事行動ヲ爲シタル軍隊ノ經費殊ニ其ノ細目及金額、該經費中洪牙利國ニ負擔セシムヘキ部分、該部分ノ支拂ノ方法及貨幣並該支拂ニ關シ設ケラルルコトアルヘキ特權又ハ優先權ノ規定
- (ロ) 軍事行動中行ハレタル各種ノ財產及有價證券ノ徵發殊ニ右ノ財產又ハ有價證券ノ或部分ニシテ戰利品タルコトアルヘキモノノ分類、右ノ財產又ハ有價證券ノ評價、還付命令、未還付ノ財產及有價證券ニ該當スル額ヲ賠償勘定上其ノ所持者タル諸國ノ借方ニ計上スルコト、斯ク借方ニ計上セラレタル額ノ正金ニ依ル又ハ賠償勘定上ノ相

ヲ履行シ得シムル爲必要ナリト認メタル程度ニ屬スルモノハ右諸國ノ政府ノ定メタル又ハ定ムルコトアルヘキ程度及條件ニ於テ優先順位ヲ有スヘシ

千九百十八年十一月三日以後行ハレタル軍事行動ニ從事セル軍隊ノ經費ノ支拂ハ第百八十一條ノ規定ニ依リ賠償委員會ノ決定スヘキ程度及條件ニ於テ優先權ヲ有スヘシ

第百八十四條

前諸條ノ規定ハ同盟及聯合國ノ國カ本條約實施ノ際其ノ法權内ニ在ル敵ノ資産及財產ヲ處分スルノ權利ヲ害スルコトナシ

第百八十五條

前諸條ノ規定ハ舊洪牙利國政府又ハ舊洪牙利王國民カ同盟及聯合國又ハ其ノ國民ノ爲自己ノ所有財產及收入ノ上ニ適法ニ設定シタル擔保權ニシテ地地利洪牙利國ト當該各國トノ間ニ戰爭狀態ノ成立スルニ先チ其ノ設定アリタルモノニ何等影響スルコトナシ但シ本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ特ニ該擔保權ノ變更ヲ定ムルトキハ其ノ變更ノ範圍内ニ於テ此ノ限ニ在ラス

第百八十六條

一 舊地地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケル各國及該君主國ノ解體ニ因リ生スル各國(洪牙利國ヲ含ム)ハ鐵道其ノ他ノ財產ヲ特別擔保物トシタル舊洪牙利國政府ノ千九百十四年七月二十八日現在ノ金錢債務ノ一部分ニ對シ本條約ニ依リ承認セラレタル諸地方ニ關スル限リ責任ヲ負擔スルコトヲ要ス右各國ノ負擔スヘキ部分ハ本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ當該國力讓受ケタル鐵道其ノ他ノ財產ヲ擔保トシタル金錢

殺ニ依ル支拂ノ方法、支拂又ハ相殺ノ期限  
第百八十二條

洪牙利國ハ千九百十八年十一月三日署名ノ休戰條約及一切ノ附屬諸條約ニ依リ同盟及聯合國ニ引渡シタル又ハ引渡スヘキ一切ノ物資ノ讓渡ヲ確認シ且該物資ニ對スル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス  
前項ノ物資ニシテ賠償委員會カ軍事上ノ價值ナキ爲其ノ價額ヲ洪牙利國ノ貸方ニ計上スヘシト認メタルモノニ付テハ同委員會ハ其ノ評定セル價額ヲ同盟及聯合國ニ對スル賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ洪牙利國ノ貸方ニ計上スヘシ

第百八十三條

第百八十三條ニ依リ設定セル優先權ハ本條未項ノ特例ヲ除ク外左ノ順位ニ於テ之ヲ行使スヘシ  
(イ) 第百八十一條ニ定ムル占領軍ノ經費ニシテ休戰中ノモノ  
(ロ) 第百八十一條ニ定ムル占領軍ノ經費ニシテ本條約實施後ノモノ  
(ハ) 本條約又ハ附屬諸條約ニ依リ生スル賠償總額  
(ニ) 休戰諸條約、本條約又ハ附屬諸條約ニ依ル洪牙利國ノ他ノ一切ノ

負擔

食料品及原料品ノ洪牙利國ヘノ供給ニ對スル支拂並同國ノ爲スヘキ他ノ一切ノ支拂ニシテ主タル同盟及聯合國カ洪牙利國ヲシテ其ノ賠償ノ債務

(外利收)

債務ノ部分ヲ表示スルモノト賠償委員會ニ於テ認ムルモノタルヘシ  
洪牙利國以外ノ各國カ負擔スル擔保附金錢債務ニ關スル引受額ハ賠償委員會ニ於テ其ノ衡平ト認ムル原則ニ從ヒ評價セラレヘシ右ニ依リ定メラルル價額ハ當該國カ其ノ讓受領土ト共ニ取得シタル新舊洪牙利國政府ノ財產及所有物ニ付洪牙利國ニ支拂フヘキ金額中ヨリ之ヲ控除スヘシ各國ハ本條ニ依リ自國ノ負擔ニ歸シタル擔保附金錢債務ノ部分ニ關シテノミ其ノ責任ニ任スヘク領土讓受國ノ引受ケタル擔保附公債ノ部分ノ所持人ハ該引受國以外ノ何レノ國ニ對シテモ請求權ヲ有スルコトナカルヘシ

本條ニ掲クル金錢債務ノ特別擔保物タル財產ハ依然新金錢債務ノ特別擔保物タルヘシ但シ本條約ノ結果右ノ擔保財產カ數國間ニ分屬スルニ至ルヘキ場合ニ於テハ其ノ一國ノ版圖内ニ在ル財產ノ部分ハ單ニ同國ノ引受ケタル當該金錢債務ノ部分ノミノ擔保物タルヘク其ノ他ノ部分ニ及ハサルモノトス

鐵道線又ハ同種ノ財產ノ買收ニ關シ舊洪牙利國政府ノ爲シタル支拂ノ約定ハ本條ノ適用上之ヲ擔保附金錢債務ト看做スヘシ右ノ約定ヨリ生スル擔保ノ割當ハ擔保附金錢債務ノ場合ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ賠償委員會ニ決定スヘシ

本條ノ規定ニ依リ負擔ノ移轉スル金錢債務ハ其ノ原金錢債務カ地地利洪牙利國紙幣ヲ以テ表示セラレタルトキハ債務引受國ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ右換貨ニ用ヰル換算率ハ債務引受國カ自國通貨ト地地利洪牙利國「冠」紙幣トノ最初引換ヘタル場合ノ換算率ト同一ナルヘシ證券面ニ表示スヘキ通貨ニ地地利洪牙利國「冠」紙幣ヲ換貨スル基礎ハ賠



債委員會ノ同意ヲ經ヘテ該委員會ハ若シ適當ト認ムルトキハ換貨國ニ對シテ換貨條件ノ變更ヲ求ムルコトヲ得右條件ノ變更ハ舊證券ニ表示セラレタル通貨ニ代ルヘキ一通貨又ハ數通貨ノ外國爲替上ノ價格力換貨當時ニ於テ原通貨ノ外國爲替上ノ價格ヨリモ著シク小ナリト賠償委員會カ認ムル場合ニ於テノミ之ヲ請求スヘキモノトス

洪牙利國ノ原金錢債務カ一種又ハ數種ノ外國通貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新金錢債務ハ同一ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

洪牙利國ノ原金錢債務カ塊地利洪牙利國金貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新金錢債務ハ「磅」金貨又ハ亞米利加合衆國「弗」金貨ノ相當額ヲ以テ之ヲ表示スヘシ該相當額ノ計算ハ右三金貨ノ千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ基礎トス

舊證券面ニ明示的又ハ默示的ニ外國爲替ノ一定相場ノ選擇又ハ爲替ノ他ノ選擇權ヲ定メタルトキハ新證券ニ付テモ同一ノ便宜ヲ許與スルコトヲ要ス

二 舊塊地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受クル各國及該君主國ノ解體ニ因リ生スル各國(洪牙利國ヲ含ム)ハ千九百十四年七月二十八日現在ノ洪牙利國無擔保公債ニシテ證券ニ依リ表示セラレタルモノノ一部分ニ對シ責任ヲ負擔スルコトヲ要ス右ノ負擔部分ハ本條約ニ依リ分屬地域ノ或種目ノ歳入額及舊洪牙利國全版圖ノ同種目ノ歳入額ニシテ賠償委員會ニ於テ此等地域ノ各分擔能力ヲ正確ニ量定スルニ最適當ナリト認メタルモノノ割合ニ從ヒ千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ三會計年度ノ平均ヲ基礎トシテ之ヲ算出スヘシ「ボスニア」及「ヘルツェゴヴィーナ」ノ歳入ハ右ノ算出ヲ爲スニ當リ計算外トス尤モ

千九百十四年七月二十八日以前ニ於テ洪牙利國無擔保公債ニシテ證券ニ依リ表示セラレタルモノニ關スル財政協定アリタルトキハ賠償委員會ハ前記諸國ノ間ニ右公債ノ割當ヲ爲スニ付右ノ協定ヲ參酌スルコトヲ得ヘシ

金錢債務證券ニ關シ本條ニ定ムル義務ハ左記附屬書ニ定ムル條件ニ從ヒ之ヲ履行スヘシ

舊洪牙利國政府カ千九百十四年七月二十八日以前ニ締結シタル一切ノ約定ニ對シテハ洪牙利國政府ノミ其ノ責任スヘシ但シ特ニ本條約ニ規定スル年金證書、債券、債務證書、有價證券及銀行券ニ依リ表示セラレタル約定ヲ除ク

本條及本條附屬書ノ規定ハ塊地利洪牙利銀行發行ノ銀行券ニ對スル保證トシテ同銀行ニ寄託セラレタル舊洪牙利國政府ノ證券ニ之ヲ適用セ

附屬書

第百八十六條ニ依リ分擔セラレヘキ金錢債務ハ千九百十四年七月二十八日現在ノ舊洪牙利國無擔保公債ニシテ證券ニ依リ表示セラレタルモノタルヘシ

舊洪牙利國無擔保公債ノ負擔ヲ引受クル諸國ハ夫々自國版圖内ニ存在スル一切ノ前記公債證券ニ若シ捺印未済ノトキハ本條約實施後三月ノ期間内ニ各自國特有ノ印章ヲ捺印スヘシ捺印済證券ノ番號ハ之ヲ記録シ捺印ニ關スル其ノ他ノ書類ト共ニ賠償委員會ニ之ヲ送付スヘシ

本附屬書ノ規定ニ依リ證券ニ捺印スルコトヲ要スル國ノ版圖内ニ保有セラレタル證券ノ所持人ハ本條約實施ノ日ヨリ右證券ノ額面價格ニ付該國ノ

(外初版)

債券者ト爲ルヘク他ノ何レノ國ニ對シテモ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

或一國ノ版圖内ニ保有セラレタル舊洪牙利國無擔保公債ノ發行濟證券ノ總額カ賠償委員會ニ於テ同國ニ負擔セシメタル右發行濟證券ノ部分ヨリ小ナルコト捺印ニ依リ明白ナルニ至リタルトキハ其ノ明白ト爲リタル差額ト同額ノ新證券ヲ該國ヨリ同委員會ニ引渡スヘシ賠償委員會ハ右新證券ノ樣式及額面金額ヲ定ムヘシ新證券ハ利子及償還ニ關シテハ舊證券ト同一ノ權利ヲ許與スヘク其ノ他ノ事項ニ付テハ賠償委員會ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

原證券カ塊地利洪牙利國紙幣ヲ以テ表示セラレタルトキハ之ニ代ルヘキ新證券ハ發行國ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ右換貨ニ用非ル換算率ハ發行國方自國通貨ト塊地利洪牙利國「冠」紙幣ト最初引換ヘタル場合ノ換算率ト同一ナルヘシ證券面ニ表示スヘキ通貨ニ塊地利洪牙利國「冠」紙幣ヲ換貨スル基礎ハ賠償委員會ノ同意ヲ經ヘテ該委員會ハ若シ適當ト認ムルトキハ換貨國ニ對シテ換貨條件ノ變更ヲ求ムルコトヲ得右條件ノ變更ハ舊證券ニ表示セラレタル通貨ニ代ルヘキ一通貨又ハ數通貨ノ外國爲替上ノ價格力換貨當時ニ於テ原通貨ノ外國爲替上ノ價格ヨリ著シク小ナリト賠償委員會カ認ムル場合ニ於テノミ之ヲ請求スヘキモノトス

原證券カ一種又ハ數種ノ外國通貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新證券モ亦同一ノ通貨ヲ以テ之ヲ表示スヘシ原證券カ塊地利洪牙利國金貨ヲ以テ表示セラレタルトキハ新證券ハ「磅」金貨又ハ亞米利加合衆國「弗」金貨ノ相當額ヲ以テ之ヲ表示スヘシ該相當額ノ計算ハ右三金貨ノ千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ基礎トス

舊證券面ニ明示的又ハ默示的ニ外國爲替ノ一定相場ノ選擇又ハ爲替ノ他ノ選擇權ヲ定メタルトキハ新證券ニ付テモ同一ノ便宜ヲ許與スルコトヲ要ス

或一國ノ版圖内ニ保有セラレタル舊洪牙利國無擔保公債ノ發行濟證券ノ總額カ賠償委員會ニ於テ同國ニ負擔セシメタル右發行濟證券ノ部分ヨリ大ナルコト捺印ニ依リ明白ナルニ至リタルトキハ該國ハ本附屬書ノ規定ニ從ヒテ新ニ發行スル證券中其ノ相當部分ヲ該證券發行毎ニ同委員會ヨリ受領スヘシ

舊塊地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル諸國及該君主國ノ解體ニ因リ生シタル諸國(洪牙利國ヲ含ム)ノ版圖外ニ保有セラレタル舊洪牙利國無擔保公債證券ノ所持人ハ其ノ所持ニ係ル證券ヲ各自國政府ノ仲介ニ由リ賠償委員會ニ引渡スヘシ同委員會ハ之ト引換ニ其ノ引渡ヲ受ケタル當該證券ト交換スル爲本附屬書ノ規定ニ從ヒテ新ニ發行スル證券中其ノ相當部分ニ付該證券發行毎ニ權利ヲ與フヘキ證明書ヲ右所持人ニ交付スヘシ

本附屬書ノ規定ニ從ヒテ新ニ發行スル證券ノ一部分ニ付權利ヲ有スヘキ國又ハ所持人ハ該證券發行毎ニ其ノ總額中ノ一部分ヲ受領スヘシ右受領部分ハ其ノ保有セシ舊證券額ト本附屬書ニ依リ交換ノ爲賠償委員會ニ提出シタル舊證券ノ總額トノ間ニ存スル割合ニ從ヒ之ヲ計算スヘシ

賠償委員會ハ若シ適當ト認ムルトキハ本附屬書ニ依リ發行スル新證券ノ所持人ト各債務國ニ於ケル整理公債ノ發行ニ付協定スルコトヲ得右ノ整理公債證券ト本附屬書ニ依リ發行スル證券トノ引換ハ同委員會ト所人トノ取極ヲ以テ定ムル條件ニ依ルヘシ



舊洪牙利國政府ノ證券ニ付責任ヲ引受クル國ハ該證券ノ利札又ハ償還年額ニシテ本條約實施後辨濟期限到來スルモノノ支拂未濟部分ヲモ均シク負擔スヘシ

第八十六條ニ依リ分擔セラルヘキ金錢債務ハ前記ノ舊洪牙利國無擔保公債ノ外千九百十七年十二月三十日ノ奧地利洪牙利國法律(帝國法令彙報、法令第二百七十八號)ヲ以テ承認セラレタル追加條約ニ依リ舊洪牙利王國政府ノ負擔ニ歸シタル奧地利國金錢債務ノ部分ニシテ奧地利洪牙利國ノ一般的金錢債務ニ對スル神聖洪牙利王室所屬領地ノ分擔割合ヲ表示スルモノヲ包含ス

本條約ニ依リ前項ノ奧地利國金錢債務ノ一部分ヲ負擔スル各國ハ前記奧地利國金錢債務ノ部分ニシテ右諸國ノ負擔ニ歸スルモノト同額ナル新證券ヲ賠償委員會ニ引渡スコトヲ要ス

右證券ノ記載事項ハ賠償委員會之ヲ定ムヘシ該記載事項ハ右證券ヲ以テ代フヘキ舊奧地利國證券ノ記載事項ヲ能ク限リ正確ニ示スヘキ新證券ハ奧地利國トノ條約ノ第二百三條附屬書ノ規定ニ從ヒテ爲ス證券ノ各新發行ノ部分ニ付權利ヲ有スルノ國又ハ奧地利國證券所持人ニ之ヲ引渡スヘシ

第八十七條

一 適法ニ成立シタル自己ノ公債ノ負擔ヲ有セシ一行政區劃カ本條約ノ定ムル新境界ニ依リ分割セララルニ至ルトキハ該行政區劃ノ各新部分ハ第八十六條ノ定ムル國債分擔ノ原則ニ從ヒ賠償委員會ニ於テ定ムヘキ右公債ノ一部分ヲ分擔スヘシ賠償委員會ハ之カ實行方法ヲ定ムヘシ

國民又ハ政府カ本條約署名以前ニ所有セシ舊洪牙利國政府ノ戰時公債ノ部分ハ洪牙利國政府ニ於テ專ラ之ヲ負擔スヘキ右讓受國以外ノ諸國ハ該戰時公債ノ部分ニ付何等ノ責任ヲ負フコトナカルヘシ

本條ノ規定ハ奧地利洪牙利銀行發行ノ銀行券ニ對スル保證トシテ舊洪牙利國政府カ同銀行ニ寄託シタル同政府ノ證券ニ之ヲ適用セス

舊洪牙利國政府ノ戰時中締結シタル一切ノ約定ニ對シテハ洪牙利國政府ノミ其ノ責任スヘシ但シ特ニ本條約ニ規定スル年金證書、債券、債務證書、有價證券及銀行券ニ依リ表示セララル約定ヲ除ク

第八十九條

一 舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國(奧地利國及洪牙利國ヲ含ム)ハ各自國版圖内ニ保有セララル奧地利洪牙利銀行券ニ若シ捺印未濟ノトキハ奧地利國トノ條約實施後二月ノ期間内ニ各自國特有ノ印章ヲ捺捺スヘシ

二 舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國(奧地利國及洪牙利國ヲ含ム)ハ各自國ノ定ムル條件ニ依リ奧地利國トノ條約實施後十二月ノ期間内ニ前記捺印濟銀行券ヲ自國通貨又ハ新通貨ニ引換フルコトヲ要ス

三 捺印ニ依リ又ハ自國通貨若ハ新通貨ノ發行ニ依リ奧地利洪牙利銀行券ノ切替ヲシ右切替ノ實行中該銀行券ノ一部又ハ全部ニ捺印セス之ヲ回收シテ其ノ流通ヲ止メタル諸國政府ハ其ノ回收シタル銀行券、捺印スルカ又ハ之カ處分ヲ賠償委員會ニ委スルコトヲ要ス

四 本條ノ規定ニ依リ奧地利洪牙利銀行券ヲ自國通貨又ハ新通貨ニ引換ヘタル諸國政府ハ捺印濟又ハ捺印未濟ノ奧地利洪牙利銀行券ニシテ引換

一 「ボスニア」及「ヘルツェゴヴィナ」ノ公債ハ行政區劃ノ金錢債務ト看做サルヘキ舊奧地利洪牙利君主國ノ公債ト看做サルコトナカルヘシ

第八十八條

本條約ニ依リ舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル各國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル各國(洪牙利國ヲ含ム)ハ千九百十八年十月三十一日以前ニ適法ニ發行セラレタル舊洪牙利國政府ノ戰時公債證券ニシテ夫々自國版圖内ニ保有セララルモノノ部分ニ相當スル諸證券ニ若シ捺印未濟ノトキハ本條約實施後二月ノ期間内ニ各自國特有ノ印章ヲ捺捺スヘシ

右捺印濟證券ハ證明書ト引換ニ之ヲ回收シテ其ノ流通ヲ止ムヘキ其ノ番號ヲ記錄シ且引換實行ニ關スル一切ノ書類ト共ニ該證券ヲ賠償委員會ニ送付スヘシ

一 國カ本條約ニ定メタル條件ニ從ヒテ證券ニ捺印シ及之ヲ證明書ト引換ヘタルノ事實ハ當該國ヲシテ之ニ付何等ノ負擔ヲ引受ケ又ハ承認スルノ義務ヲ負ハシムルモノニ非ス但シ當該國カ捺印及引換ノ實行ニ付上記ノ意味ヲ的確ニ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

洪牙利國ヲ除ク前記諸國ハ舊洪牙利國政府ノ戰時公債ニ關シテハ其ノ證券ノ存在スル處所ノ如何ヲ問ハス何等ノ義務ヲ負擔スルコトナカルヘシ尤モ右諸國ノ政府又ハ國民ハ其ノ所有スル戰時公債證券ニ關シテ他國(洪牙利國ヲ含ム)ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

〔外初版〕

中間收シテ其ノ流通ヲ止メタル一切ノモノヲ奧地利國トノ條約實施後十四月ノ期間内ニ賠償委員會ニ引渡スコトヲ要ス

五 賠償委員會ハ本條ノ規定ニ依リ同委員會ニ引渡サレタル一切ノ銀行券ヲ本條附屬書ノ條件ニ從ヒテ處分スヘシ

六 奧地利洪牙利銀行ノ清算ハ奧地利國トノ條約署名ノ翌日ヨリ之ヲ開始スヘシ

七 清算ハ賠償委員會ノ之カ爲選任シタル數名ノ委員之ヲ行フヘシ委員ハ右清算ヲ爲スニ當リ定款ノ規定其ノ他一般ニ同銀行ノ業務ニ關スル現行ノ規則ニ準據スルコトヲ要ス但シ本條ノ規定ノ適用ヲ妨ケズ本諸條及諸附屬書ヲ以テ又ハ奧地利洪牙利銀行定款ヲ以テ一定ムル同銀行ノ清算ニ關スル規則ノ解釋ニ付疑義ヲ生シタルトキハ其ノ紛議ヲ賠償委員會又ハ其ノ選任スル一名ノ仲裁委員ニ付託スヘシ其ノ決定ハ之ヲ終

八 千九百十八年十月二十七日ノ後ニ同銀行ノ發行シタル銀行券ハ新舊ノ奧地利國政府及洪牙利國政府ノ發行シタル證券ニシテ右銀行券ノ發行ニ對スル保證トシテ同銀行ニ寄託セラレタルモノヲ其ノ唯一ノ擔保トスヘシ從テ右銀行券ノ所持人ハ該銀行ノ他ノ資産上ニ何等ノ權利ヲ有セサルヘシ

九 同銀行カ千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行シタル銀行券ノ所持人ハ右銀行券カ本條ノ規定ニ依リ清算組入ノ必要條件ヲ具備スルトキハ該銀行ノ全資産上ニ同等ノ權利ヲ有スヘシ但シ新舊ノ奧地利國政府及洪牙利國政府ノ發行シタル證券ニシテ銀行券ノ累次ノ發行ノ保證トシテ該銀行ニ寄託セラレタルモノハ右資産ノ一部分ヲ爲スモノ



ト看做サルコトナシ  
 十 新舊ノ塊地利國政府及洪牙利國政府カ千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル銀行券ノ保證トシテ同銀行ニ寄託シタル證券ニシテ舊塊地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ讓渡ヲ受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リテ生シタル國(塊地利國及洪牙利國ヲ含ム)カ千九百十四年七月二十八日現在ノ該君主國版圖内ニ於テ引換ヘタル銀行券ニ相當スルモノハ之ヲ廢棄スヘシ

十一 新舊ノ塊地利國政府及洪牙利國政府カ千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル銀行券ノ保證トシテ寄託シタル證券ニシテ本條第十號ノ適用ニ依リ廢棄セラレサルモノハ其ノ券面價額ヲ限度トシ舊塊地利洪牙利君主國外ニ千九百十九年六月十五日保有シタル前記銀行券ノ擔保トシテ存續スヘシ右銀行券ニハ一領土讓受各國カ自國版圖中右舊君主國外ノ地域ニ於テ蒐集シタル銀行券ニシテ第四號ニ依リ賠償委員會ニ引渡サルヘキモノニ他ノ一切ノ國カ蒐集シタル銀行券ニシテ本條附屬書ノ規定ニ從ヒ銀行清算委員ニ提出セラレルヘキモノヲ包含シ其ノ他ノモノヲ包含セス

十二 千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル他ノ一切ノ銀行券ノ所持人ハ新舊ノ塊地利國政府及洪牙利國政府カ銀行券發行ノ保證トシテ寄託シタル證券又ハ一般ニ同銀行ノ資産ノ上ニ何等ノ權利ヲ有セサルヘシ第十號及第十一號ノ條件ニ從ヒ破毀セラレヌ又ハ擔保ニ供用セラレサル證券ハ之ヲ廢棄スヘシ

十三 塊地利國政府及洪牙利國政府ハ新舊ノ塊地利國政府及洪牙利國政府カ銀行券發行ノ保證トシテ同銀行ニ寄託シタル一切ノ證券ニシテ廢

有セラレシ國ノ政府ヨリ提出ナキ限リ同銀行ノ資産ニ對スル何等ノ權利ヲ生スルコトナシ

第九十條

舊塊地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル各國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル各國(洪牙利國ヲ含ム)ハ各自國版圖内ニ存在スル舊塊地利洪牙利君主國ノ補助貨幣ニ關シ完全ナル自由處分權ヲ有スヘシ右諸國ハ其ノ保有スル補助貨幣ニ付自國又ハ其ノ國民ノ計算ニ於テ他ノ諸國ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

第九十一條

舊塊地利洪牙利君主國ノ一地方ノ讓渡ヲ受ケタル諸國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル諸國ハ各自國版圖内ニ存スル新舊洪牙利國政府所屬ノ一切ノ財產及所有物ヲ取得スヘシ  
 本條ノ新舊洪牙利國政府ノ財產及所有物ニハ舊洪牙利王國ノ財產及塊地利洪牙利君主國ノ共有財產ニ付同王國ノ有スル持分並一切ノ王室財產及舊塊地利洪牙利元首ノ一家ノ私財產ヲ包含スルモノト認ムヘシ  
 尤モ右ノ諸國ハ各自國版圖外ニ存スル新舊洪牙利國政府ノ財產及所有物ニ對シ何等ノ主張ヲ爲スコトヲ得サルヘシ

洪牙利國以外ノ諸國カ取得シタル財產及所有物ノ價額ハ賠償委員會ニ於テ之ヲ評定シ賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ財產取得國 借方、洪牙利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ賠償委員會ハ斯ク取得セラレタル公財產ノ價額中ヨリ州、市町村其ノ他ノ自治地方廳カ右財產ノ爲正金、土地又ハ物資ヲ以テ直接ニ爲シタル出捐ニ相當スル金額ヲ控除スヘシ本條ニ依ル財產取得國ニ付テハ該取得國ノ借方、洪牙利國ノ貸方トシテ

棄セラレサルモノニ付夫々自國ノ負擔部分ニ對シ單獨ニ責任ヲ負フヘク他ノ諸國ハ何等其ノ責任ヲセサルヘシ

十四 塊地利洪牙利銀行券ノ所持人ハ同銀行清算ノ結果其ノ受クルコトアルヘキ損害ニ關シ塊地利國政府及洪牙利國政府其ノ他如何ナル政府ニ對シテモ何等請求權ヲ有セサルヘシ

十五 本條約署名ノ日附ニ因リ適用ノ困難ヲ生スル場合ニ於テハ賠償委員會ハ本條ノ期間ヲ變更スルノ權能ヲ有スヘシ

附屬書

一 當該政府ハ第九十九條ニ依リ其ノ回收シテ流通ヲ止メタル一切ノ塊地利洪牙利銀行券ヲ賠償委員會ニ交付スルニ當リ其ノ實行シタル引換ノ性質及總額ヲ證明スヘキ一切ノ書類ヲ均シク委員會ニ引渡スヘシ

二

賠償委員會ハ此等ノ書類ヲ審查シタル後前記政府カ左ノ場所ニ於テ引換ヘタル銀行券ノ總額ヲ各別ニ證明スル證明書ヲ同政府ニ交付スヘシ

(イ) 千九百十四年七月二十八日現在ノ舊塊地利洪牙利君主國境界内

(ロ) 其ノ他ノ一切ノ場所

右證明書ノ所持人ハ引換濟銀行券カ銀行資産ノ分配ヲ受クルニ付表示スル權利ヲ銀行清算委員ニ對シテ主張スルコトヲ得ヘシ

三

銀行ノ清算終了シタルトキハ賠償委員會ハ回收濟銀行券ヲ破毀スヘシ

四

千九百十八年十月二十七日又ハ其ノ前ニ發行セラレタル銀行券ハ其ノ

〔外初版〕

計上セラレタル價額中ヨリ第九十六條ニ依リ財產取得國ノ負擔ニ歸スヘキ舊洪牙利國政府無擔保金錢債務ノ部分ニシテ賠償委員會カ取得財產及所有物ニ付要シタル費用ニ該當スト認メタルモノヲ控除スヘシ但シ擔保附金錢債務ニ關スル右第九十六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス控除スヘキ價額ハ賠償委員會ニ於テ其ノ衡平ト認ムル原則ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ  
 新舊洪牙利國政府ノ財產及所有物中ニハ「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」ニ在ル各種不動産ニシテ舊塊地利洪牙利君主國政府カ千九百九年二月二十六日ノ條約第五條ニ依リ土耳其國政府ニ土耳其貨二百五十萬「磅」ヲ支拂ヒタルモノノ一部分ヲ包含スルモノトス右不動産ノ部分ハ前記支拂金額中舊洪牙利王國ノ負擔額ノ割合ニ相當スルモノタルヘク其ノ價額ハ賠償委員會ニ對シテ賠償名義ニ於テ洪牙利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ  
 上記規定ノ例外トシテ左記ノモノハ無償ニテ之ヲ讓渡スヘシ

一 舊塊地利洪牙利君主國ノ州、市町村其ノ他ノ地方自治團體ノ財產及所有物並「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」ニ存シ舊塊地利洪牙利君主國ニ屬セザリシ財產及所有物

二 舊塊地利洪牙利君主國ノ財產タル學校及病院  
 第一項ニ掲グル領土讓受國ハ右ノ外尙右ノ地方内ニ存シ且當テ「ボヘミア」王國、「クロアシア、スラヴォニア、ダルマシア」王國、「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」、「ラグーザ」共和國、「ヴェネツィア」共和國又ハ「トリエンツ」及「アレッサノーネ」ノ司教管區ニ屬シタリシ一切ノ不動産其ノ他ノ財產ニシテ其ノ主タル價值カ當該地域ニ關スル歴史的記念物タルニ在ルモノヲ賠償委員會ノ承認ヲ經タル上無償ニテ取得スルコトヲ得ヘシ

第九十二條



洪牙利國ハ同盟及聯合國中ノ一國、獨逸國、埃地利國、勃爾牙利國、土耳其國、右諸國ノ領地若ハ屬地又ハ前露西亞帝國内ニ於テ行動スル委員會、代表機關及國立銀行ノ管理及取締其ノ他國際的性質ヲ有スル金融上又ハ經濟上ノ監督機關又ハ管理機關ニ付各種ノ條約又ハ取極力洪牙利國又ハ其ノ國民ニ保障セル一切ノ代表權又ハ參加權ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス

第百九十三條

- 一 洪牙利國ハ土耳其國政府紙幣第一回發行ノ保證トシテ土耳其國公債管理委員會ノ名ニ於テ埃地利銀行ニ寄託シタル額ノ金ヲ埃地利國トノ條約第二百十條ノ條件ニ於テ引渡スコトヲ承認スルコトヲ約ス
- 二 洪牙利國ハ「アカレスト」條約及「プレスト、リトウスク」條約並附屬諸條約中ニ存スル一切ノ規定ノ利益ヲ自國ノ關スル限リ拋棄ス但シ第十編(經濟條項)第二百二十七條ノ適用ヲ妨ケス
- 三 洪牙利國ハ前記諸條約ニ依リ其ノ收受シタル一切ノ金錢證書、正金、有價證券及流通證券又ハ物品ヲ羅馬尼亞國又ハ主タル同盟及聯合國ニ夫々引渡スコトヲ約ス
- 三 本條ノ規定ニ依リ支拂フコトヲ要スル正金ノ額並交付シ又ハ引渡スコトヲ要スル一切ノ金錢證書、有價證券及物品ハ主タル同盟國又ハ聯合國ノ後日決定スヘキ方法ニ依リ右諸國之ヲ使用スヘシ
- 四 洪牙利國ハ同盟及聯合國並獨逸國カ千九百十九年六月二十八日「ヴエルサイユ」ニ於テ締結シタル平和條約ノ第二百五十九條第五號ニ定メタル金ノ引渡並同條約第二百六十一條ニ掲グル請求權ノ讓渡ヲ承認スルコトヲ約ス

ル獨逸國、埃地利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ國民ノ權利及利益ヲ此等諸國ノ政府ニ於テ取得スルコトニ付何等之ヲ阻礙セサルコトヲ約ス

第百九十六條

洪牙利國ハ新舊洪牙利國政府カ獨逸國、埃地利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ニ對シテ有スル一切ノ債權又ハ賠償請求權殊ニ千九百十四年七月二十八日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ爲シタル約定ノ履行ニ依リ現ニ生シ又ハ將來生スルコトアルヘキ一切ノ債權又ハ賠償請求權ヲ同盟及聯合國ニ讓渡スルコトヲ約ス

賠償委員會ハ前記ノ債權又ハ賠償請求權ノ價額ヲ評定シ賠償負擔額中ヨリ差引クヘキモノトシテ洪牙利國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

第百九十七條

本條約ニ依リ正金ヲ以テ支拂フヘキ債務ニシテ埃地利洪牙利國「冠」金貨ニテ表示セララルモノハ債權者ノ選擇ニ從ヒ倫敦拂「磅」金貨、紐查拂亞米利加合衆國「弗」金貨、巴里拂「法」金貨又ハ羅馬馬拂「利」金貨ニテ之ヲ支拂フヘシ但シ本條約又ハ附屬諸條約中ニ反對ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ諸金貨ハ本條ノ適用上夫々千九百十四年一月一日現在ノ法定量目及法定品位ヲ有スヘキモノトス

第百九十八條

舊埃地利洪牙利君主國ノ解體ニ因リ並前諸條ノ條件ニ從フ公債及貨幣制度ノ改革ニ因リ必要ト爲リタル財政上ノ一切ノ整理ハ各當事者ニ最良且最公平ナル待遇ヲ保障スルコトヲ得ル様關係諸政府間ノ取極力以テ之ヲ定ムヘシ右財政上ノ整理ハ殊ニ舊埃地利洪牙利君主國版圖内ニ於テ經營

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第百九十四條

本條約實施後一年ノ期間内ニ賠償委員會ハ露西亞國、土耳其國、獨逸國、埃地利國若ハ勃爾牙利國ニ於テ、右諸國ノ領地若ハ屬地ニ於テ又ハ洪牙利國若ハ其ノ同盟國ニ屬セシ一地方ニシテ同盟及聯合國トノ條約ニ從ヒ該諸國ヨリ讓渡セラレ若ハ別國ノ委任統治ニ付セララルヘキモノニ於テ經營セラルル公益企業又ハ特許事業ニ關スル洪牙利國民ノ權利又ハ利益ヲ洪牙利國政府ニ於テ取得スルコトヲ要求スルコトヲ得ヘシ但シ右ノ規定ハ洪牙利國カ自國又ハ自國民ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ定メタル本條約中ノ他ノ規定ノ適用ヲ妨ケサルモノトス尙右要求ノ日ヨリ起算シ六月ノ期間内ニ洪牙利國ハ前記ノ權利及利益並新舊洪牙利國政府自身有スルコトアルヘキ同種ノ權利及利益ノ全部ヲ賠償委員會ニ讓渡スルコトヲ要ス

第百九十五條

洪牙利國ハ同盟及聯合國ト獨逸國、埃地利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ノ政府ト入間ニ夫々締結セララル平和條約又ハ附屬諸條約ニ依リ賠償委員會カ要求スルコトアルヘキ洪牙利國內ノ公益企業又ハ特許事業ニ關ス

〔外初版〕

セララル銀行、保險會社、貯蓄銀行、郵便貯金局、不動産抵當銀行、抵當貸付會社其ノ他同種ノ施設ニ關スルモノトス此等財政上ノ問題ニ關シ右諸政府間ニ協議調ハサル場合又ハ或國ノ政府カ自國民ノ受クル待遇公平ナラスト認ムル場合ニ於テハ賠償委員會ハ關係諸政府中ノ或政府ノ請求ニ基キ一名又ハ數名ノ仲裁委員ヲ選任スヘシ右仲裁委員ノ決定ハ之ヲ終審トス

第百九十九條

舊洪牙利王國ノ文官恩給金又ハ軍人恩給金ノ受給者ニシテ本條約ニ依リ洪牙利國以外ノ國ノ國民ト認メラレ又ハ其ノ國民ト爲ルモノハ自己ノ給金ニ付洪牙利國政府ニ對シテ何等請求權ヲ行使スルコトヲ得サルヘシ

第十編 經濟條項

第一章 通商關係

第一節 稅關ノ規則、税金及制限

第二百條

洪牙利國ハ其ノ版圖内ニ輸入セララル同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ天產物又ハ製造品タル貨物ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルチ間ハ其他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ノ天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ニ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ税金又ハ課金(内國課税金ヲ含ム)ヲ課セサルコトヲ約ス

洪牙利國ハ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ版圖内ノ天產物又ハ製造品タル貨物ノ洪牙利國版圖内ヘノ輸入ニ對シ其ノ何レノ地ヨリ來ルチ間ハ其他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ノ天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ノ輸入ニ均シク及ホササル何等ノ禁止又ハ制限ヲ存續又ハ設定スルコト



ナカルヘシ

第二百一條

洪牙利國ハ又輸入制度ニ關シ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ通商ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ノ通商ニ比シ何等不利ナル差別ヲ設ケサルコトヲ約ス右ノ差別ハ稅關ノ規則若ハ手續、檢定若ハ分析ノ方法、稅金納付ノ條件、稅率表ノ分類若ハ解釋ノ方法又ハ專賣制ノ運用ノ如キ間接ノ手段ニ依リテモ之ヲ設ケルコトナカルヘシ

第二百二條

輸出ニ關シ洪牙利國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ版圖ニ向テ輸出セラルル天產物又ハ製造品タル貨物ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ニ向テ輸出セラルル同種ノ貨物ニ課スルト異ルカ又ハ之ヨリ高キ稅金又ハ課金(內國課稅金ヲ含ム)ヲ課セサルコトヲ約ス

洪牙利國ハ其ノ版圖ヨリ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ仕向ケラルル貨物ノ輸出ニ對シ他ノ同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ニ仕向ケラルル天產物又ハ製造品タル同種ノ貨物ノ輸出ニ均シク及ボササル何等ノ禁止又ハ制限ヲ存續又ハ設定スルコトナカルヘシ

第二百三條

貨物ノ輸入、輸出又ハ通貨ニ關シ洪牙利國方同盟國若ハ聯合國又ハ爾餘ノ外國ニ許與スル一切ノ恩典、免除又ハ特權ヲ請求又ハ報償ヲ要スルコトナク同時且無條件ニテ一切ノ同盟國又ハ聯合國ニ及ボサルヘシ

第二百四條

第十二編(港、水路及鐵道)第二百七十條ノ規定ニ拘ラス本條約實施後三年間ハ戰爭前舊地地利洪牙利君主國ノ版圖内ニ在リシ港ヲ通過スル生産

第二百五條

品ハ其ノ洪牙利國ヘノ輸入ニ際シ同種ノ生産品カ前記ノ港ヨリ輸入セラ

ルニ當リ千九百十六年ノ地地利洪牙利國關稅率表ニ從ヒ適用セラレシ稅率ノ輕減ニ相當スル割合ニ於テ稅金輕減ノ利益ヲ享受スヘシ

第二百五條

第二百條乃至第二百三條ノ規定ニ拘ラス同盟及聯合國ハ地地利國又ハ「チエッコ、スロヴァキア」國ニ原産シ且右兩國ヨリ來ル或種ノ天產物又ハ製造品ニ關シテ特別關稅制度ヲ設定スル目的ヲ以テ洪牙利國政府カ將來右兩國政府ト締結スルコトアルヘキ特別協定ノ利益ヲ確保スル爲前記ノ諸規定ヲ援用セサルコトニ同意ス但シ右天產物又ハ製造品ノ品目ハ該協定中ニ之ヲ列記スヘク該協定ノ存續期間ハ本條約實施後五年ヲ超エサルモノトス

第二百六條

本條約實施後六月ノ期間内ハ同盟及聯合國ヨリノ輸入品ニ洪牙利國ノ課稅金ハ舊地地利洪牙利君主國ヘノ輸入品ニ千九百十四年七月二十八日ニ於テ適用セラレシ最惠稅金ヨリ高カルヘカラス

前項ノ規定ハ最初ノ六月ノ期間滿了後更ニ三十日間生果及乾果、青物、「オリヅ」油、卵、豚肉及其ノ製品並ニ生禽ノ輸入ニノミ引續キ之ヲ適用スヘシ但シ此等ノ生産品カ同盟又ハ聯合國トノ條約ニ依リ協定稅率ノ利益ヲ前記ノ期日(千九百十四年七月二十八日)ニ於テ受ケタル範圍内ニ限

第二百七條

一 波蘭國及「チエッコ、スロヴァキア」國並洪牙利國ハ石炭(褐炭ヲ含ム)、食料品原料品ノ相互供給ニ關スル特別協定ヲ締結スヘシ

第二百八條

一 洪牙利國及地地利國ハ食料品、原料品及製造品ノ相互供給ニ關スル特別協定ヲ締結スヘシ

(外初版)

二 右協定ノ締結ニ至ル迄ノ間但シ如何ナル場合ニ於テモ本條約實施後

五年ヲ超エサル間「チエッコ、スロヴァキア」國及波蘭國ハ洪牙利國ニ向テ輸出スル一定量以内ノ石炭又ハ褐炭ニ對シ何等ノ輸出稅又ハ制限ヲ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス課セサルコトヲ約ス右ノ一定量ニ付關係諸國

間ニ一致ヲ見サルトキハ賠償委員會之ヲ決定スヘシ該委員會カ右ノ數量ヲ決定スルニ當リテハ一方洪牙利國ノ現領土ト他方「シレツア」並平

和諸條約ニ依リ「チエッコ、スロヴァキア」國及波蘭國ニ課渡セララルル舊地地利帝國ノ諸地方トノ間ニ戰爭前交換セラレタル石炭及褐炭ノ數量

並此等ノ諸國ヨリ現ニ輸出シ得ル數量其ノ他一切ノ事項ヲ考量スヘシ

右ノ代償トシテ洪牙利國ハ「チエッコ、スロヴァキア」國及波蘭國ニ對シ

賠償委員會ノ決定ニ從ヒ第一號ニ掲ケル褐炭、食料品及原料品ヲ供給

スルコトヲ要ス

三 前記ノ期間内「チエッコ、スロヴァキア」國及波蘭國又ハ洪牙利國居住

ノ購買者カ石炭(褐炭ヲ含ム)ヲ取得スルニ付「チエッコ、スロヴァキア」

國又ハ波蘭國居住ノ購買者カ類似ノ狀態ニ在ル同種ノ生産品ヲ各自國

又ハ別國ニ於テ取得スルト同様ノ有利ナル條件ニ依ルヲ得ルコトヲ保

障スル爲必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

四 輸出ニ對スル稅金又ハ制限ヲ禁止シ且販賣ノ條件ヲ決定スル第二號

及第三號ノ規定ハ波蘭國及「チエッコ、スロヴァキア」國ニ對シ洪牙利國

ノ爲ス褐炭ノ供給ニ均シク之ヲ適用スヘシ

五 前記諸規定ノ實行又ハ解釋ニ關シ紛議アルトキハ賠償委員會之ヲ決

定スヘシ

六 波蘭國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアチア、スロヴァキア」國、「チ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

三百九十七

品ハ其ノ洪牙利國ヘノ輸入ニ際シ同種ノ生産品カ前記ノ港ヨリ輸入セラ

ルニ當リ千九百十六年ノ地地利洪牙利國關稅率表ニ從ヒ適用セラレシ稅

率ノ輕減ニ相當スル割合ニ於テ稅金輕減ノ利益ヲ享受スヘシ

第二百條乃至第二百三條ノ規定ニ拘ラス同盟及聯合國ハ地地利國又ハ

「チエッコ、スロヴァキア」國ニ原産シ且右兩國ヨリ來ル或種ノ天產物又ハ

製造品ニ關シテ特別關稅制度ヲ設定スル目的ヲ以テ洪牙利國政府カ將來

右兩國政府ト締結スルコトアルヘキ特別協定ノ利益ヲ確保スル爲前記ノ

諸規定ヲ援用セサルコトニ同意ス但シ右天產物又ハ製造品ノ品目ハ該協

定中ニ之ヲ列記スヘク該協定ノ存續期間ハ本條約實施後五年ヲ超エサル

モノトス

本條約實施後六月ノ期間内ハ同盟及聯合國ヨリノ輸入品ニ洪牙利國ノ課

稅金ハ舊地地利洪牙利君主國ヘノ輸入品ニ千九百十四年七月二十八

日ニ於テ適用セラレシ最惠稅金ヨリ高カルヘカラス

前項ノ規定ハ最初ノ六月ノ期間滿了後更ニ三十日間生果及乾果、青物、

「オリヅ」油、卵、豚肉及其ノ製品並ニ生禽ノ輸入ニノミ引續キ之ヲ適用



四、前記諸規定ノ實行又ハ解釋ニ關シ紛議アルトキハ賠償委員會之ヲ決定スヘシ

第二章 海運

第二百九條

海岸ヲ有セサル締約國ノ船舶カ同國版圖内ノ或一定ノ地ニ登録セラレタルモノナルトキハ締約國ハ該船舶ノ國旗ヲ承認スルコトニ同意ス右ノ地ハ之ヲ該船舶ノ船籍港ト看做ス

第三章 不正競争

第二百十條

一、洪牙利國ハ商業取引ニ於ケル各形式ノ不正競争ニ對シ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ原産スル天産物又ハ製造品ヲ保護スル爲必要ナル立法上及行政上一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

洪牙利國ハ一切ノ生産品又ハ商品ニシテ其ノ自體又ハ外觀若ハ包装上ニ其ノ原産地、種類、性質又ハ特色ニ關シ直接又ハ間接ニ虚偽ノ表示ト爲ルヘキ各種ノ標章、名稱、記入又ハ符牒ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ輸入及輸出並國內ニ於ケル製造、分配、販賣及販賣ノ提供ヲ差押其ノ他ノ適當ナル一切ノ制裁ニ依リ防遏及禁止スルコトヲ約ス

二、同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ生産セラレル葡萄酒又ハ火酒ニ同國內ノ一地方ノ名稱ヲ附スルノ權利又ハ一地方ノ名稱ノ使用ヲ許スニ付テハ條件ヲ定ムル同國法令及其ノ法令ニ依リ行フ行政上若ハ司法上ノ裁決ニシテ現ニ效力ヲ有シ且當該官憲ヨリ正式ニ洪牙利國ニ通告セラレタルモノハ此ノ事項ニ關シ相互待遇ヲ許與セララルコトヲ條件トシテ洪牙利國ニ準據スヘキコトヲ約ス右ノ法令又ハ裁決ニ違反シテ地方

第二百十三條

洪牙利國ハ同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ及右諸國ノ當該官憲ノ裁決ニ從ヒ或ハ歸化ノ手續ニ依リ或ハ條約ノ結果トシテ自國民力取得シ又ハ取得スルコトアルヘキ新國籍ヲ承認シ該國民ヲシテ新國籍取得ノ結果其ノ原國籍國ニ對スル忠誠ノ義務ヨリ一切離脱セシムルコトヲ約ス

第二百十四條

同盟及聯合國ハ洪牙利國ノ都市及港ニ駐在スル總領事、領事、副領事及領事事務官ヲ任命スルコトヲ得右總領事、領事、副領事及領事事務官ノ氏名ハ洪牙利國ニ之ヲ通知スヘク洪牙利國ハ其ノ任命ヲ承認シ且常規及慣例ニ依リ其ノ職務ノ執行ヲ許容スルコトヲ約ス

第五章 一般條項

第二百十五條

本款第一章ニ依リ洪牙利國ニ課セラルル義務ハ本條約實施ノ日以後五年ヲ以テ消滅スヘシ但シ本條約中別段ノ規定アルカ又ハ國際聯盟理事會カ右ノ義務ヲ修正シ又ハ修正セシテ更ニ一定ノ期間存續スヘキコトヲ前記期間滿了ノ少クトモ十二月前ニ決シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百條乃至第二百三條ニ依リ洪牙利國ニ課セラルル義務ハ本條約實施ノ日ヨリ三年ノ期間滿了ノ後ハ洪牙利國ニ對シテ相互待遇ヲ與ヘサル同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ援用スルコトヲ得ス但シ國際聯盟カ別段ノ決定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百十一條ハ前記五年ノ期間滿了後國際聯盟理事會ノ過半数カ決定スルコトアルヘキ五年ヲ超エサル一定ノ期間之ヲ修正シ又ハ修正セシテ效力ヲ存續スヘシ

名ヲ附シタル生産品又ハ商品ノ輸入、輸出又ハ製造、分配、販賣若ハ販賣ノ提供ハ洪牙利國之ヲ禁止シ且本條第一號ニ規定スル措置ニ依リテ之ヲ防遏スヘシ

第四章 同盟及聯合國ノ國民ノ待遇

第二百十一條

洪牙利國ハ左ノ事項ヲ約ス  
(イ) 生業、職業、商業及産業ニ從事スルコトニ關シ同盟及聯合國ノ國民ニ對シ一切ノ外國人ニ例外ナク均シク適用セラレサル何等ノ禁止ヲ加ヘサルコト

(ロ) (イ)號ノ權利ニ關シ同號ノ規定ニ直接間接違反スルノ虞アリ又ハ最惠國國民タル外國人ニ適用スルモノト異ルカ若ハ之ヨリ不利益ナル規則又ハ制限ヲ以テ同盟及聯合國ノ國民ヲ律セサルコト  
(ハ) 同盟及聯合國ノ國民又ハ其ノ財產、權利若ハ利益(其ノ國民ヲ當事トスル會社又ハ組合ヲ含ム)ニ對シ洪牙利國民又ハ其ノ財產、權利若ハ利益ニ課シ又ハ課スルコトアルヘキモノト異ルカ又ハ之ヨリ高キ直接又ハ間接ノ課金又ハ税金ヲ課セサルコト

(ニ) 千九百十四年七月一日ニ於テ同盟及聯合國ノ國民ニ適用シ得ヘカラザリシ制限ハ洪牙利國民ニ均シク之ヲ加フルニ非サレハ此等諸國中ノ一國ノ國民ニ之ヲ加ヘサルコト

第二百十二條

同盟及聯合國ノ國民ハ洪牙利國版圖内ニ於テ其ノ身體、財產、權利及利益ノ間斷ナキ保護ヲ享受スヘク且自由ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

第二百十六條

洪牙利國政府ハ其ノ國際貿易ニ從事スル場合ト雖之ニ付主權ニ屬スル何等ノ權利、特權及免除ヲ有スルコトナク又右ノ看做サルコトナカルヘシ

第二款 條約

第二百十七條

本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外舊奧地利洪牙利君主國ノ締結シタル經濟上又ハ技術上ノ性質ヲ有スル多數國間ノ條約及取極ニシテ本條以下數條ニ列記シタルモノニ限リ洪牙利國ト同條約及取極ノ當事國タル同盟及聯合國ト間ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ適用スヘシ

- 一 海底電信線ノ保護ニ關スル千八百八十四年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約並千八百八十七年七月七日ノ最終議定書
- 二 自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一日ノ條約
- 三 千八百八十六年五月十五日ノ稅關ノ檢査ヲ受クヘキ鐵道貨車ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書
- 四 鐵道ノ技術上ノ規格一定ニ關スル千八百八十六年五月十五日ノ取極
- 五 萬國關稅誌ノ刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲ノ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約
- 六 土耳其國關稅率引上ニ關スル千九百七年四月二十五日ノ條約
- 七 「ズンド」海峽及「ベルト」海峽ノ通航稅ノ免除ニ關スル千八百五十七年三月十四日ノ條約

〔外初版〕



- 八 「エルベ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十一年六月二十二日ノ條約
- 九 「エスコ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十三年七月十六日ノ條約
- 十 蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル確定制度ノ設定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約
- 十一 海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約
- 十二 病院船ノ港内ニ於ケル稅金及課金ノ免除ニ關スル千九百四年十月二十一日ノ條約
- 十三 婦人ノ夜業禁止ニ關スル千九百六年九月二十六日ノ條約
- 十四 醜業ヲ行ハシムル爲メ婦女賣買ノ禁止ニ關スル千九百四年五月十八日及千九百十年五月四日ノ條約
- 十五 猥褻出版物禁止ニ關スル千九百十年五月四日ノ條約
- 十六 千八百九十二年一月三十日、千八百九十三年四月十五日、千八百九十四年四月三日、千八百九十七年三月十九日及千九百三年十二月三日ノ衛生條約
- 十七 「メートル」法ノ統一及改良ニ關スル千八百七十五年五月二十日ノ條約
- 十八 有效藥ノ藥局方統一ニ關スル千九百六年十一月二十九日ノ條約
- 十九 模範音ノ制定ニ關スル千八百八十五年十一月十六日及十九日ノ條約
- 二十 羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百五年六月七日

- ノ條約
- 二十一 「フィロクセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十一年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約
- 二十二 農業ニ有益ナル鳥類ノ保護ニ關スル千九百二年三月十九日ノ條約
- 二十三 未成年者保護ニ關スル千九百二年六月十二日ノ條約
- 第二百十八條
- 締約國ハ洪牙利國カ本條中ノ特別規定ヲ遵守スルコトヲ約スルニ依リ本條約實施ノ時ヨリ左記ノ條約及取極ヲ其ノ自國ニ關スル限リ更ニ適用スヘシ
- 郵便條約
- 千八百九十一年七月四日維納ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千八百九十七年六月十五日華盛頓ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千九百六年五月二十六日羅馬ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 電信條約
- 千八百七十五年七月二十二日(舊曆十日)聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約
- 千九百八年六月十一日里斯本ノ萬國電信會議ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約書附屬國際業務規則及國際料金表
- 洪牙利國ハ新國カ加入シ又ハ加入スルコトアルヘキ萬國郵便聯合及萬國

〔外初版〕

電信聯合ニ關スル條約及取極中ニ規定シタル特別協定ヲ該新國ト締結スルコトヲ拒マサルコトヲ約ス

第二百十九條

締約國ハ洪牙利國カ同盟及聯合國ノ指示スヘキ暫定規則ヲ遵守スルコトヲ約スルニ依リ本條約實施ノ時ヨリ千九百十二年七月五日ノ國際無線電信條約ヲ其ノ自國ニ關スル限リ更ニ適用スヘシ

第二百二十條

千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約並製造標及商標ノ國際登錄ニ關スル千八百九十一年四月十四日ノ協定ハ本條約ニ基ク例外及制限ノ爲影響セラレ又ハ變更セラレサル範圍内ニ於テ本條約實施ノ時ヨリ適用セラレヘシ

第二百二十一條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ民事訴訟手續ニ關スル千九百五年七月十七日ノ海牙條約ヲ其ノ自國ニ關スル限リ適用スヘシ尤モ本條ノ規定ハ佛蘭西國、葡萄牙國及羅馬尼亞國ニ對シテハ其ノ效力ナカルヘシ

第二百二十二條

洪牙利國ハ千九百八年十一月十三日柏林ニ於テ改正セラレ且千九百十四

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名ノ追加議定書ニ依リ補足セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日「ベルヌ」條約ニ所定ノ形式ニ依リ本條約實施後十二月ノ期間滿了前ニ加入スルコトヲ約ス

前項ノ條約ニ加入スルニ至ル迄ノ間洪牙利國ハ同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ文學的及美術的著作物ヲ右條約ノ原則ニ從ヒテ執ル有效ナル措置ニ依リ承認シ且保護スルコトヲ約ス

第二百二十三條

洪牙利國ハ左ノ條約ニ加入スルコトヲ約ス

第二百二十四條

本條約ノ一般原則又ハ特別規定ノ趣旨ニ從ヒ同盟國又ハ聯合國ハ各自其ノ警テ舊境地利洪牙利君主國ト締結セシ各種ノ二國條約ニシテ洪牙利國ヲシテ之ヲ遵守セシムコトヲ欲スルモノヲ同盟國ニ通告スヘシ

四百一



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

同盟國又ハ聯合國ハ本條約ノ條項ト趣旨ヲ同シケル條約ニ非サレハ洪牙利國ニ對シテ適用セラルコトヲ相互ニ約ス

第一項ニ依リ通告セラルル條約中ノ規定ニシテ本條約ノ條項ト趣旨ヲ同シクセサルニ依リ適用シ難シト看做サルルモノアルトキハ該通告ニ之ヲ掲記スヘシ

意見ノ相違アル場合ニ於テハ國際聯盟ノ決定ヲ求ムヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ本條約實施後六月ノ期間内ニ前記ノ通告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條

洪牙利國ハ同盟國又ハ舊奧地利洪牙利君主國カ千九百十四年八月一日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ獨逸國、奧地利國、勃爾牙利國又ハ土耳其國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極チ效力ナキモノト承認スルコトヲ聲明ス

第二百二十六條

洪牙利國ハ同盟國又ハ舊奧地利洪牙利君主國カ千九百十四年八月一日前ニ締結シタル條約又ハ取極ニ依リ獨逸國、奧地利國、勃爾牙利國若ハ土耳其國ニ又ハ右諸國ノ官吏及國民ニ許與シタル一切ノ權利及便宜チ其ノ種類ノ如何チ問ハス右ノ條約又ハ取極チ效力ナキモノト承認スルコトヲ聲明ス其ノ官吏及國民カ當然享受スルコトヲ保障スルコトヲ約ス

第二百三十條

締約國中千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名ノ阿片條約ニ未ダ署名セサル國及署名後未ダ之ヲ批准セサル國ハ該條約ヲ實施スルコト及之カ爲成ルヘク速ニ日遅クトモ本條約實施後十二月内ニ必要ナル法令ヲ制定スルコトニ同意ス

締約國ハ又本條約ノ批准方阿片條約未ダ批准セサル國ニ付テハ該條約ノ批准ト及千九百十四年該條約實施ノ爲開カレタル第三回阿片會議ノ決議ニ從ヒ海牙ニ於テ公開セラレタル特別議定書ノ署名ト全然均シキモノト看做スコトニ同意ス

佛蘭西共和國政府ハ本條約批准書ノ寄託調書ノ認證體本チ和蘭國政府ニ送致シ且該認證體本チ千九百十二年一月二十三日ノ條約ノ批准書ノ寄託及千九百十四年ノ追加議定書ノ署名トシテ受諾領收スルコトヲ同盟國政府ニ申入ルヘシ

第三款 金錢債務

第二百三十一條

左ノ種類ノ金錢上ノ債務ハ左記(ホ)號ニ定ムル通告ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ各締約國ノ設置スヘキ清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ決済ス

一 締約國中ノ一國ノ版圖内ニ居住スル該國ノ國民カ敵對國側ノ一國ノ版圖内ニ居住スル同國ノ國民ニ對シテ負擔スル金錢債務ニシテ戰爭前辨濟期限到來シタルモノ

二 締約國中ノ一國ノ版圖内ニ居住スル該國ノ國民ニ支拂フヘキ金錢債務中右ノ國民カ敵對國側ノ一國ノ版圖内ニ居住スル同國ノ國民ト締結シ戰爭狀態ノ爲全部又ハ一部ノ履行ノ停止セラレタル取引又ハ契

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

同盟及聯合國ハ右ノ權利及便宜ノ享受ヲ承諾スルト否トノ權利ヲ留保ス

第二百二十七條

洪牙利國ハ同盟國又ハ舊奧地利洪牙利君主國カ千九百十四年七月二十八日以前ニ又ハ同日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ露西亞國、從前ノ露西亞國ノ一部分チ以テ版圖トスル國若ハ政府又ハ羅馬尼亞國ト締結シタル一切ノ條約又ハ取極チ效力ナキモノト承認スルコトヲ聲明ス

第二百二十八條

同盟國又ハ聯合國、露西亞國又ハ從前ノ露西亞國ノ一部分チ以テ版圖トスル國若ハ政府カ千九百十四年七月二十八日以後軍事占領ノ結果又ハ其ノ他ノ方法若ハ事由ニ因リ洪牙利國、舊奧地利洪牙利君主國又ハ洪牙利國民ニ對シテ權利、特權及恩典チ或官公署ノ行爲ニ依リ許與スルコト又ハ其ノ許與チ認容スルコトノ已ムチ得サルニ至リタルトキハ右ノ權利、特權及恩典ハ其ノ種類ノ如何チ問ハス本條約ニ依リ當然失效シタルモノトス

第二百二十九條

洪牙利國ハ千九百十四年七月二十八日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ洪牙利國又ハ舊奧地利洪牙利君主國ニ於テ條約又ハ取極ニ依リ非交戰國又ハ其ノ國民ニ許與シタル各種ノ權利及便宜チ右ノ條約又ハ取極チ洪牙利國ニ對シテ效力ナキモノト承認スルコトヲ同盟及聯合國並其ノ國民ニ當然享受セシムルコトヲ本條約實施ノ時ヨリ自國ニ關スル限リ約ス

〔外初版〕

約ヨリ生スル債務ニシテ戰時中辨濟期限到來シタルモノ

三 敵對國側ノ一國カ發行シ又ハ引受ケタル有價證券ヨリ生シ且締約國中ノ一國ノ國民ニ支拂ハルヘキ利子ニシテ戰時前又ハ戰時中支拂期限到來シタルモノ尤モ戰時中右敵對國側ノ一國又ハ中立國ノ國民ニ該證券ノ利子支拂ノ停止セラレサリシモノニ限ル

四 敵對國側ノ一國ノ發行ニ係ル有價證券記載ノ元金ニシテ戰前又ハ戰時中償還期限到來シ且締約國中ノ一國ノ國民ニ支拂ハルヘカリシモノ尤モ戰時中右敵對國側ノ一國又ハ中立國ノ國民ニ該元金償還ノ停止セラレサリシモノニ限ル

舊奧地利洪牙利君主國政府ノ發行シ又ハ引受ケタル證券ニ付支拂ハルヘキ利子又ハ元金ニ在リテハ洪牙利國ニ依リ貸方ニ計上シテ辨濟セラルヘキ金額ハ第九編(財政條項)ノ規定及賠償委員會ノ定ムル原則ニ從ヒ洪牙利國カ履行ノ義務チ有スル金錢債務ニ相當スル利子ハ元金ニ限ル

第四款及其ノ附屬書ニ掲ケル敵人ノ財產、權利及利益ノ清算殘高ハ清算所ニ於テ左記(ニ)號ノ通貨及爲替相場チ以テ之ヲ計上シ且同款及同附屬書條件ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

本條ニ定ムル事項ノ實行ハ左ノ原則ニ從ヒ且本款附屬書ニ準據シテ之ヲ爲スヘシ

(イ) 各締約國ハ本條約實施ノ時ヨリ一切ノ辨濟、辨濟ノ受領其ノ他一般ノ右金錢債務ノ決済ニ關スル當事者間ノ一切ノ通信ニシテ前記清算所ノ仲介ニ由ラサルモノヲ禁止スヘシ



支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金債債務力戰時非常法令ニ依リテ戰時中事業ノ清算ヲ受ケタル會社ノ負擔ニ係ル場合ヲ除ク  
〔ハ〕 締約國中ノ一國ノ國民ニ對シ敵對國側ノ一國ノ國民力負擔スル金額ハ債務者所屬國清算所ノ借方ニ之ヲ計上スヘク且債權者所屬國清算所ニ依リテ債權者ニ之ヲ支拂フヘシ

〔ニ〕 金債債務ハ利害關係アル同盟及聯合國(同盟國ノ殖民地及保護國、英國自治領並印度ヲ含ム)ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ金債債務力右以外ノ通貨ヲ以テ決濟スルコトヲ要スル場合ニ於テモ其ノ金債債務ハ當該同盟國又ハ聯合國(殖民地、保護國、英國自治領又ハ印度)ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ換算ハ戰爭前ノ爲替相場ニ依ル

右規定ノ適用上戰爭前ノ爲替相場トハ當該同盟國又ハ聯合國ト塊地利洪牙利國トノ間ニ於ケル敵對行為開始ノ直前月中ノ右同盟國又ハ聯合國ノ電信爲替相場ノ平均ヲ謂フ  
債務ヲ表示スル通貨ヲ當該同盟國又ハ聯合國ノ通貨ニ換算スルニ付一定ノ爲替相場ニ依ルヘキ旨特ニ契約中ニ規定シタル場合ニ於テハ爲替相場ニ關スル前記ノ規定ヲ適用セス

〔ホ〕 本條及左記附屬書ノ規定ハ一方ニ於テ洪牙利國ト他方ニ於テ同盟國若ハ聯合國中ノ一國、其ノ殖民地及保護國又ハ英國ノ或自治領若  
新ニ建設セラレタル波蘭國及「チェッコ、スロヴァキア」國ニ關シテハ金債債務ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ計上スル爲用井ルヘキ通貨及爲替相場ハ第八編ノ賠償委員會之ヲ定ムヘシ但シ右ノ問題解決ノ爲當事國間ニ豫メ取極メ存スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔イ〕 締約國ハ第二三十一條ノ規定ノ違反ニ對シ對敵通商ニ關シテ自國法令中ニ現ニ規定スル刑罰ノ制裁ヲ加フヘシ對敵通商ヲ禁止セザリシ締約國ハ嚴刑ヲ以テ右ノ違反ヲ罰スル法令ヲ公布スヘシ締約國又ハ本附屬書ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ版圖内ニ於テ敵金債債務ノ辨濟ニ關スル一切ノ訴訟ヲ禁止スヘシ

〔ロ〕 第二三十一條ノ規定スル政府ノ保證ハ理由ノ如何ニ拘ラス金債債務ノ辨濟ヲ得サルトキニ適用アルモノトス但シ金債債務力債務者所屬國ノ法令ニ依リ宣戰ノ際時効ニ罹リタルトキ、債務者其ノ當時破産者ハ身代限ノ狀態ニ在リ若ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタルトキ又ハ金債債務力戰時非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ノ負擔ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス右但書ノ場合ニ於テハ本附屬書ニ定ムル手續ハ適當金ノ支拂ニ之ヲ適用スヘシ

〔ハ〕 「破産」及「身代限」トハ此等ノ法律上ノ狀態ヲ規定スル法令ノ適用セラルル事態ヲ指シ又「支拂不能ノ正式ノ表示」トハ英國法ニ於ケルト同一ノ意義ヲ有スルモノトス

債權者ハ其ノ有スル金債債務ヲ貸方清算所設置ノ日ヨリ六月ノ期間内ニ同清算所ニ申告シ且其ノ請求ヲ受ケタル一切ノ文書及參考資料ヲ該清算所ニ提出スヘシ  
締約國ハ敵債權者及敵債務者間ニ行ハルルコトアルヘキ通謀ノ訴追及處罰ニ有用ナル一切ノ措置ヲ執ルヘシ清算所ハ此ノ種通謀ノ發見及處罰ニ資スルコトアルヘキ一切ノ證據及參考資料ヲ相互ニ通報スヘシ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ハ印度トノ間ニ右ノ同盟國又ハ聯合國ニ於テ自國ノ爲又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ノ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月ノ期間内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ政府ヨリ洪牙利國ニ其ノ適用ノ通告ヲ爲スニ非サレハ適用ナキモノトス

〔ヘ〕 本條及左記附屬書ヲ採用スル同盟及聯合國ハ相互間ノ約定ニ依リ其ノ版圖内居住ノ各對手國ノ國民ニ對シ該國民ト洪牙利國民トノ間ノ事項ニ關スル限リ本條及左記附屬書ヲ適用スルコトヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本條ノ規定ニ依リ行ハルル辨濟ハ當該同盟及聯合國清算所間ニ處理セラルヘキモノトス

〔ホ〕 各締約國ハ第二三十一條ノ規定ニ定ムル通告ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ敵金債債務ノ辨濟及取立ノ爲「清算所」ヲ設置スベシ  
締約國版圖内ノ或地方ニ付地方清算所ヲ設置スルコトヲ得右地方清算所ノ職務ハ當該地方ニ於テハ中央清算所ト同様タルヘシ但シ敵對國側ニ設ケル清算所トノ一切ノ交渉ハ中央清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ行フヘシ

〔イ〕 本附屬書ニ於テ「敵金債債務」トハ第二三十一條第一項ニ定ムル金債債務上ノ債務ヲ、「敵債權者」トハ右債務ノ負擔者ヲ、「敵債權者」トハ右債務ノ支拂ハルヘキ相手方ヲ謂ヒ「貸方清算所」トハ債權者所屬國內ノ清算所ヲ、「借方清算所」トハ債務者所屬國內ノ清算所ヲ謂フ

〔ロ〕 締約國ハ金債債務ノ額ニ付取極メ爲サムト欲スル債務者及債權者間ニ當事者ノ費用ヲ以テ且清算所ノ仲介ニ由リ行フ郵便及電信ニ依ル通信ヲ能ク限リ容易ナラシムヘシ  
貸方清算所ハ申告アリタル一切ノ金債債務ヲ借方清算所ニ通告スヘク借方清算所ハ承認セラレタル金債債務及異議アル金債債務ヲ適當ノ時期ニ貸方清算所ニ知悉セシムヘシ右異議アル場合ニ於テハ借方清算所ハ金債債務不承認ノ理由ヲ示スヘシ

〔ハ〕 或金債債務ノ全部又ハ一部カ承認セラレタルトキハ借方清算所ハ直ニ其ノ承認セラレタル額ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上シ且同時ニ貸方清算所ニ之ヲ通知スヘシ  
借方清算所カ通告受領後三月ノ期間内ニ(但シ貸方清算所カ右期間ノ延長ニ同意スル場合ヲ除ク)金債債務ノ承認セラレサル旨ヲ知悉セシメサル限リ金債債務ハ全部承認セラレタルモノト看做サルヘク其ノ金額ハ直ニ貸方清算所ノ貸方ニ計上セラルヘシ

〔ニ〕 金債債務カ全部又ハ一部承認セラレサル場合ニ於テハ兩清算所ハ協同シテ事件ヲ審査スヘク且當事者ヲシテ和解セシムルコトニ力ムヘシ  
貸方清算所カ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ各個ノ債權者ニ支拂フニハ所屬國政府ヨリ同清算所ノ處分ニ供シタル資金ヲ用井且同政府ノ定ムル條件ニ從フヘク殊ニ危險負擔、費用又ハ手数料ノ爲必認ト認ムル金額

〔イ〕 借方清算所カ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ各個ノ債權者ニ支拂フニハ所屬國政府ヨリ同清算所ノ處分ニ供シタル資金ヲ用井且同政府ノ定ムル條件ニ從フヘク殊ニ危險負擔、費用又ハ手数料ノ爲必認ト認ムル金額

〔ロ〕 借方清算所カ其ノ貸方ニ計上セラレタル金額ヲ各個ノ債權者ニ支拂フニハ所屬國政府ヨリ同清算所ノ處分ニ供シタル資金ヲ用井且同政府ノ定ムル條件ニ從フヘク殊ニ危險負擔、費用又ハ手数料ノ爲必認ト認ムル金額



ヲ保留スヘシ

敵金錢債務ノ辨濟ヲ請求シタル者ハ其ノ債務額カ全部又ハ一部承認セラレサルトキハ其ノ承認ナキ債務ノ部分ニ付年五分ノ利息ヲ過料トシテ清算所ニ支拂フコトヲ要ス請求ヲ受ケタル金錢債務ノ全部又ハ一部ノ承認ヲ不當ニ拒絕シタル者亦其ノ拒絕ノ理由ナシト認メラレタル額ニ付年五分ノ利息ヲ過料トシテ支拂フコトヲ要ス

右ノ利息ハ七ニ定ムル期間終了ノ日ヨリ請求力理由ナシト認メラレタル日又ハ金錢債務カ辨濟セラレタル日ニ至ル迄ノ間之ヲ附スヘシ  
清算所ハ各自其ノ關スル限リ前記過料ノ取立ヲ勵行スヘク其ノ過料ヲ取立ツルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ責ニ任スヘシ  
過料ハ對手國清算所ノ貸方ニ之ヲ計上スヘク同清算所ハ本諸規定ノ實行費用ニ充ツル爲之ヲ保留スヘシ

十一

清算所間ノ貸借勘定ハ三月毎ニ之ヲ行ヒ差引殘高ハ一月ノ期間内ニ現金ノ支拂ヲ以テ債務國之ヲ決算スヘシ  
尤モ右差引殘高カ同盟國又ハ聯合國中ノ一國又ハ數國ノ負擔ト爲リタルトキハ同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ對シ戰爭ニ基キ支拂フコトヲ要スル金額ノ完全ナル辨濟アル迄之ヲ保留スヘシ

十二

清算所間ノ協議ヲ容易ナラシムル爲各清算所ハ他ノ一方ノ清算所ノ所在地ニ一名ノ代表者ヲ置クヘシ

十三

當該國政府ハ自國清算所ノ爲ニ混合仲裁裁判所ニ出訴スルノ任務ヲ有スル代理人ヲ任命スヘシ右代理人ハ自國民ノ受任者又ハ辨護人ニ對シ一般監督ヲ行フヘシ  
同裁判所ハ書證ニ基キテ判定ス尤モ同裁判所ハ出廷スル當事者本人ノ陳述ヲ聽取シ又ハ當事者ノ希望ニ依リ或ハ當該兩國政府ノ同意スル受任者或ハ前項ノ代理人ノ陳述ヲ聽取スルコトヲ得該代理人ハ當事者側ニ立チテ事件ニ參加シ又ハ當事者ノ拋棄シタル請求ヲ繼續シ且支持スル權限ヲ有ス

十八

當該國政府間ニ反對ノ取極アル場合ヲ除クノ外金錢債務ニハ左ノ條件ニ依リ利息ヲ附スヘシ  
配當金、利息其ノ他元本ノ利息タル定期支拂金トシテ支拂フヘキ金額ニ對シテハ何等ノ利息ヲ附セズ  
利率ハ年五分トス但シ契約、法令又ハ地方慣習ニ基キ債權者カ別段ノ率ニ依リ利息ヲ受取ルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ右別段ノ利率ヲ適用スヘシ  
利息ハ敵對行爲開始ノ日又ハ取立ツヘキ金錢債務ノ辨濟期限カ戰時中到來シタルトキハ其ノ期限到來ノ日ヨリ該金錢債務額カ貸方清算所ノ貸方ニ計上セラルル日ニ至ル迄ノ間之ヲ附スヘシ  
利息トシテ支拂フ要スル金額ハ清算所ノ承認シタル金錢債務ト看做シ同ノ條件ニ於テ貸方清算所ノ一方ニ之ヲ計上スヘシ

十九

當該清算所ハ混合仲裁裁判所ヲシテ其ノ繫屬事件ノ判定ヲ迅速ナラシムル爲其ノ所持スル一切ノ參考資料及文書ヲ同裁判所ニ提供スヘシ

二十

當事者ノ一方カ兩清算所ノ合同判定ニ對シ上訴ヲ爲ストキハ上訴人ニ於テ供託金ヲ負擔スヘシ右供託金ハ原判定カ上訴人ニ有利ニ變更セラレタル場合ニ限り且其ノ勝訴ノ程度ニ應シ之ヲ返還スヘク右ノ場合ニハ相手方ハ相當ノ割合ニ於テ損害及諸費用ヲ負擔セシメラルヘシ供託金ハ混合仲裁裁判所ノ同意スル保證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
混合仲裁裁判所ニ提起セラルル一切ノ事件ニ付テハ係爭金額ノ百分ノ五ノ手数料ヲ課ス右手数料ハ該裁判所カ別段ノ判定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外敗訴者ノ負擔タルヘシ此ノ手数料ハ前記供託金ト併セ課セラルヘク又保證トモ關係ナキモノトス

理由アル例外ノ場合ヲ除キ事件ノ協議ハ能フ限リ借方清算所ノ事務所ニ於テ之ヲ行フヘシ

十四

第二百三十一條(口號)ニ依リ締約國ハ其ノ國民ノ負擔スル敵金錢債務ノ辨濟ニ付其ノ責ニ任ス  
從テ借方清算所ハ承認セラレタル一切ノ金錢債務ヲ貸方清算所ノ貸方ニ計上スルコトヲ要ス各個ノ債務者ヨリ金錢債務ヲ取立ツルコト能ハサル場合ト雖異ルコトナシ尤モ關係國政府ハ承認セラレタル金錢債務ノ取立ヲ勵行スルニ付必要ナル一切ノ權能ヲ自國清算所ニ付與スルコトヲ要ス

十五

各國政府ハ其ノ版圖内ニ設置シタル清算所ノ費用(職員ノ俸給ヲ含ム)ヲ支辨スヘシ

十六

兩清算所間ニ金錢債務ノ存否ニ關スル意見ノ相違アルトキ又ハ敵債務者敵債權者間若ハ清算所間ニ爭アルトキハ其ノ爭議ハ(當事者ノ同意アルトキ且當事者間ノ合意ニ依リ定メララルル條件ニ從ヒ)之ヲ仲裁ニ付シ又ハ之ヲ本編第六款ノ混合仲裁裁判所ノ審理ニ付スヘシ  
尤モ右ノ爭議ハ貸方清算所ノ請求ニ依リ債務者住所地ノ通常裁判所ヲシテ之ヲ管轄セシムルコトヲ得

十七

混合仲裁裁判所、通常裁判所又ハ仲裁裁判所カ正當ト認メタル金額ハ借方清算所ノ承認シタル負擔額ト同様ニ兩清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ取立ツ

〔外初版〕

混合仲裁裁判所ハ訴訟費用ヲ限度トシテ損害賠償ヲ當事者ノ一方ニ與フルコトヲ得  
本規定ニ依リ支拂ハルヘキ金額ハ勝訴者ノ屬スル清算所ノ貸方ニ之ヲ計上シ且別勘定ト爲スヘシ

二十一

事件ノ進行ヲ迅速ナラシムル爲清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ職員ノ任命ニ付テハ關係對手國ノ言語ニ關スル本人ノ智識ヲ參酌スヘシ  
清算所ハ相互間ニ自由ニ通信シ且互ニ自國語ノ文書ヲ送付スルコトヲ得ヘシ

二十二

當該國政府間ニ反對ノ取極アル場合ヲ除クノ外金錢債務ニハ左ノ條件ニ依リ利息ヲ附スヘシ  
配當金、利息其ノ他元本ノ利息タル定期支拂金トシテ支拂フヘキ金額ニ對シテハ何等ノ利息ヲ附セズ  
利率ハ年五分トス但シ契約、法令又ハ地方慣習ニ基キ債權者カ別段ノ率ニ依リ利息ヲ受取ルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ右別段ノ利率ヲ適用スヘシ  
利息ハ敵對行爲開始ノ日又ハ取立ツヘキ金錢債務ノ辨濟期限カ戰時中到來シタルトキハ其ノ期限到來ノ日ヨリ該金錢債務額カ貸方清算所ノ貸方ニ計上セラルル日ニ至ル迄ノ間之ヲ附スヘシ  
利息トシテ支拂フ要スル金額ハ清算所ノ承認シタル金錢債務ト看做シ同ノ條件ニ於テ貸方清算所ノ一方ニ之ヲ計上スヘシ

二十三



清算所又ハ混合仲裁裁判所ノ判定ニ依リ請求カ第二百三十一條ノ場合ニ該當セサルモト認メラレタルトキハ債權者ハ通常裁判所ニ出訴スルカ又ハ他ノ法律上ノ手續ニ依リ自己ノ債權ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

二十四

締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ確定的ノモノト認メ且其ノ國民ニ對シ拘束力ヲ有スルモノト爲スコトニ同意ス

二十五

貸方清算所カ借方清算所ニ請求ヲ通告スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ正當ノ申告ヲ受ケタル請求ヲ全部又ハ一部有效ナラシムル爲メ本附屬書ノ手續ヲ執ルコトヲ拒ミタルトキハ貸方清算所ハ請求金額ヲ記載スル證明書ヲ債權者ニ交付スルコトヲ要ス該債權者ハ通常裁判所ニ出訴スルカ又ハ他ノ法律上ノ手續ニ依リ自己ノ債權ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

第四款 財産、權利及利益

第二百三十二條

一 敵國內ニ於ケル私人ノ財産、權利及利益ニ關シテハ本款ニ定ムル原則及本款附屬書ノ規定ニ準據シテ處理セラルヘシ  
(イ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ニ關シテ舊洪牙利王國ノ版圖内ニ於テ執リタル本款附屬書三ノ戰時非常措置及移轉措置ハ其ノ清算ノ未タ完了セサル場合ニ於テハ直ニ之ヲ中止シ又ハ停止スヘク且前記ノ財産、權利及利益ハ其ノ權利者ニ之ヲ返還スヘシ  
(ロ) 本條約中反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合國ハ本條

約實施ノ目ニ於テ舊洪牙利王國民又ハ其ノ管理スル會社ニ屬スル一切ノ財産、權利及利益ニシテ同盟國若ハ聯合國ノ版圖、殖民地、屬地及保護國(本條約ニ依リ讓受ケタル地域ヲ含ム)内ニ存在シ又ハ右諸國ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ留置シ及清算スルノ權利ヲ留保ス  
右清算ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ從ヒ之ヲ執行スヘク所有者ハ當該國ノ同意ナクシテ此等ノ財産、權利及利益ヲ處分シ又ハ其ノ上ニ何等ノ負擔ヲ設定スルコトヲ得ス  
本條約ノ規定ニ依リ或同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ當然取得シタルコトヲ本條約實施後六月以内ニ證明スル者ハ之ヲ本號ノ洪牙利國民ト看做ササルヘシ第六十二條ニ依リ當該官憲ノ同意ヲ得テ又ハ從前ノ住民資格(ベルティネンザ)ニ基キ右國籍ヲ取得スル者亦同シ  
(ロ) 號ニ規定スル權利ノ行使ヨリ生スル代金又ハ賠償額ハ該財産ノ留置又ハ清算ヲ爲シタル國ノ法令ノ定ムル評價及清算ノ方法ニ依リ決定セラルヘシ

(二)

一方同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ト他方舊洪牙利王國民トノ間並一方洪牙利國ト他方同盟及聯合國並其ノ國民トノ間ノ關係ニ於テハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル一切ノ戰時非常措置若ハ移轉措置又ハ右ノ措置ニ基キ爲シ若ハ爲スヘキ行為ハ本條約ニ定ムル留保ノ場合ヲ除クノ外確定的ニシテ且何人ニモ對抗シ得ヘキモノト看做サルヘシ

(ホ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ハ舊洪牙利王國ノ版圖内ニ在ル各自ノ財産、權利又ハ利益(右國民ヲ當事者トスル會社又ハ組合ヲ含ム)ニ付本款附屬書ノ一及三ニ定ムル戰時非常措置又ハ移轉措置ニ因リ受

〔外初版〕

ケタル損害ニ關シ賠償請求ノ權利ヲ有ス此等ノ國民ノ力爲行フ請求ノ審査及賠償額ノ決定ハ第六款ノ混合仲裁裁判所又ハ該裁判所ノ選任スル一名ノ仲裁人ニ之ヲ爲スヘシ右賠償額ハ洪牙利國ノ負擔スヘク且(ロ)號ニ規定スル如キ舊洪牙利王國民ノ財産又ハ其ノ管理スル會社ノ財産ニシテ賠償請求者所屬國ノ版圖内ニ存在シ又ハ其ノ國ノ管理ノ下ニ在ルモノヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得右ノ財産ハ本款附屬書四ニ定ムル條件ニ從ヒ敵債權ノ擔保ト爲スコトヲ得右賠償額ノ支拂ハ同盟國又ハ聯合國ノ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其ノ金額ハ洪牙利國ノ借方ニ之ヲ計上スヘシ

(ハ) 舊洪牙利王國ノ版圖内ニ於テ移轉措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權利又ハ利益ノ所有者タル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ還付ノ希望ヲ表示スル一切ノ場合ニ於テハ財産カ尙現物ノ儘存在スルトキハ右ノ財産上ニ清算後設定セラレタルコトアルヘキ一切ノ負擔又ハ役權ノ拘束ナク右ノ占有ヲ回復セシムル爲且其ノ還付ニ依リ損害ヲ受ケタル第三者ニ賠償スル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルコトヲ要ス  
本號ニ定ムル還付ヲ實行シ得サルトキハ關係諸國又ハ第三款附屬書ノ清算所ノ仲介ニ由リ個人間ノ取極ヲ爲シ以テ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ奪ハレタル財産、權利又ハ利益ノ代物トシテ受クルコトヲ同意スル便益又ハ其ノ相當物ノ許與ニ依リ諸國民ニ於テ(ホ)號ニ定ムル損害ノ賠償ヲ受クルコトヲ確保スルコトヲ得

本條ニ依リ還付ノ行ハレタルトキハ(ロ)號ニ依リ決定セラレル代金又

賠償額ノ中ヨリ右還付財産ノ實價額ヲ控除スヘシ尤モ利益阻止又ハ減損ニ對スル賠償額ヲ參酌スヘシ  
(ハ) 號ノ權利ハ敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ一般清算規定スル立法的手段ヲ休戰條約署名前自國版圖内ニ適用スルニ至ラザリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル所有者ノミニ之ヲ有ス  
(ヘ) 號ニ依リ現物還付ノ行ハレタル場合ヲ除クノ外戰時非常法令ニ基キ又ハ本條約ニ依リ敵人ノ財産、權利及利益ヲ清算シタルトキハ右財産、權利及利益ノ所在地ノ如何ヲ問ハス其ノ清算純殘高及一般ニ敵人ノ一切ノ現金資産ハ左ノ方法ニ依リ處理セラルヘシ(ロ)號末項ニ定ムル者ニ屬スル同盟國又ハ聯合國内ノ財産ノ清算殘高又ハ現金資産ハ之ヲ除ク

(一)

第三款及其ノ附屬書ヲ採用スル諸國ニ付テハ前記ノ殘高及資産ハ同款及同附屬書ニ依リ設置セララル清算所ノ仲介ニ由リ所有者所屬國ノ貸方ニ之ヲ計上スヘシ但シ之カ爲メ洪牙利國ノ受取勘定ト爲ルヘキ貸方殘高ハ第八編(賠償)第七十三條ニ從ヒ之ヲ處理スヘシ  
(二) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用セサル諸國ニ付テハ洪牙利國ニ依リ留置セラレタル同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ直ニ權利者又ハ其ノ所屬國政府ニ支拂フヘク同盟國又ハ聯合國ノ差押ヘタル財産、權利及利益ノ清算殘高並現金資産ニシテ舊洪牙利王國民又ハ其ノ管理スル會社ニ屬シタル(ロ)號所定ノ如キモノハ各同盟國又ハ聯合國其ノ法令ニ依リ之ヲ處分シ且本條又ハ本款附屬書四ニ定ムル請求及金錢債權ノ支拂ニ之ヲ充當スルコトヲ得上記ノ方法ニ依リ處分セラレザリシ財産、權利及



利益若ハ右財産ノ清算殘高又ハ現金資産ハ該同盟國又ハ聯合國ニ於テ留置スルコトヲ得ヘク右ノ場合ニ於テハ其ノ現金價額ハ第八編(賠償)第七十三條ニ從ヒ之ヲ處理スヘシ

(リ) 第二百五十條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國トシテ本條約ニ署名スル諸新國方清算ヲ行ヒタル場合又ハ洪牙利國ノ支拂フヘキ賠償金ノ分配ニ與ル權利ヲ有セサル諸國方清算ヲ行ヒタル場合ニ於テハ其ノ清算ノ殘高ハ直接所有者ニ之ヲ支拂フヘシ但シ本條約ニ於テ第八編(賠償)第六十五條及第九編(財政條項)第九十四條ニ依ル賠償委員會ノ權利ヲ留保ス前記所有者カ本編第六款ノ混合仲裁裁判所又ハ同裁判所ノ選任スル一名ノ仲裁人ニ對シ賣却ノ條件又ハ當該國政府ニ於テ其ノ一般法令ノ範圍外ニテ執リタル措置カ代金ニ不當ニ惡影響ヲ及ホシタルモノナルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ當該國ヲシテ權利者ニ公平ナル賠償ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

(ル) 千九百十八年十一月三日ヨリ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄ノ間ニ又戰時非常措置ノ適用ヲ受ケタル財産、權利若ハ利益ニ付テハ本條約ノ規定ニ據ル還付ノ行ハル迄ノ間ニ同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益ニ對シ洪牙利國カ徵收シ又ハ徵收スルコトアルヘキ元本上ノ租稅及賦課ノ額ハ權利者ニ之ヲ還付スヘシ

二 舊洪牙利王國版圖内ノ法律上又ハ事實上ノ官憲ニ依リ千九百十八年十一月三日以後本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ執ラレタルコトアルヘキ權利者ハ其ノ國國民ニ賠償ヲ爲スコトヲ約ス

附屬書

敵入ノ財産、權利又ハ利益ニ關スル戰時法令ニ基キ締約國中ノ一國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ又ハ爲シタル(發シ又ハ爲シタルモノト看做サルモノヲ含ム)所有權移轉措置、企業若ハ會社ノ清算ニ關スル命令其ノ他ノ命令、規則、決定又ハ訓令ハ何レモ第二十三條(二)號ノ規定ニ依リ有效ナルモノトシテ之ヲ確認ス各人ノ利益ハ當該利益ヲ包含スル財産ニ關スル命令、規則、決定又ハ訓令中ニ特ニ該利益ヲ明記スルト否トハ問ハス右ノ規則、命令、決定又ハ訓令ノ實際ノ目的タリシモノト看做スコトヲ要ス前記規則、命令、決定又ハ訓令ニ基キ行ハレタル財産、權利又ハ利益ノ移轉方適法ナリヤ否ヤニ關シテハ何等ノ爭議ヲ提起スルコトヲ得サルヘシ敵入ノ財産、權利又ハ利益ニ關スル戰時非常法令ニ基キ締約國中ノ一國ノ裁判所又ハ行政官廳ノ發シ、爲シ又ハ執行シタル(發シ、爲シ又ハ執行シタルモノト看做サルモノヲ含ム)命令、規則、決定又ハ訓令ニ基キ財産、企業又ハ會社ニ付行ハレタル一切ノ措置ハ財産、權利及利益ノ調査、保管、強制管理、利用、徵發、監理若ハ清算、賣却又ハ管理タルト金錢債務ノ取立及辨濟又ハ經費諸掛若ハ諸費用ノ支拂タルト其ノ他如何ナル措置タルトハ均シク有效ナルモノトシテ之ヲ確認ス但シ本規定ハ同盟及聯合國國民カ財産所在地ノ法令ニ從ヒ善意ニ且正當ニ既ニ取得シタル財産權ヲ害セサルモノトス

前記以外ノ一切ノ措置ニシテ同盟及聯合國又ハ其ノ國民ノ財産、權利及利益(右國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ヲ侵害シタルモノハ之ヲ無効ト聲明ス但シ前記規定ヲ留保ス

(イ、ホ、ヘ、チ及ル)ノ諸規定ハ同盟及聯合國國民ニ屬スル財産、權利及利益(右國民ヲ當事者トスル會社又ハ組合ヲ含ム)ニシテ法令若ハ規則ノ結果又ハ洪牙利國ニ存在シタル法律上若ハ事實上ノ官憲若ハ洪牙利國人民ノ暴行ノ結果行ハレタル收用、沒收、差押、徵發、破壊又ハ損壞等損害ヲ生スヘキ措置ノ目的物ト爲リタルモノニ之ヲ適用ス

三 會社又ハ組合ノ中ニハ例ヘハ「ブダ・ペスト」其ノ他ノ洪牙利國ノ都市ニ建設セラレタル希臘正教團及喜捨財團其ノ他ノ財團ニシテ同盟及聯合國國民カ右ノ教團又ハ財團ノ當事者タルモノヲ包含スルモノトス

四 休戰以後本條約實施前ノ洪牙利國法令ノ命スル方式又ハ届出ヲ履行セサリシ爲ノ失權ハ總テ同盟及聯合國國民(右國民ヲ當事者トスル會社又ハ組合ヲ含ム)ニ對シ有效ニ對抗スルコトヲ得サルヘシ

第二百三十三條

洪牙利國ハ第二百三十二條ニ依リ同盟及聯合國國民ニ還付セラレタル財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會社又ハ組合ヲ含ム)ニ關シ左ノ事項ヲ約ス

〔外切版〕

(イ) 本條約ニ明文アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益ハ舊洪牙利王國國民ノ財産、權利及利益カ戰爭前行ハレタル法令ニ依リ有シタル法律上ノ地位ニ於テ之ヲ存置維持スルコトヲ得

二 舊地地利洪牙利國政府カ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於テ執リタル右列ノ措置及千九百十八年十一月三日以後洪牙利國又ハ洪牙利國官憲ノ執リタル右列記ノ措置ハ一切之ヲ無効トシ本規定ヲ適用セス

三

第二百三十二條及本附屬書「戰時非常措置」トハ敵財産ニ關シテ既ニ執リ又ハ將來執ルコトアルヘキ立法上、行政上、司法上其ノ他各種ノ措置ニシテ所有權ニ變更ヲ加フルコトナキモ所有者ノ財産處分權ヲ奪フノ結果ヲ生シ又ハ生スヘキモノ殊ニ監理、強制管理及保管ノ措置並理由、形式又ハ場所ノ如何ヲ問ハス敵資産ノ差押、利用又ハ侵害ヲ目的トシ又ハ目的トスヘキ措置ヲ謂フ此等措置ノ實行ノ爲ノ行爲ハ敵財産ニ對シ此等ノ措置ヲ適用スル行政官廳又ハ裁判所ノ一切ノ決定、訓令、命令又ハ處分例ヘハ敵財産ノ管理又ハ監理ニ任シタル者ノ爲シタル一切ノ行爲即チ金錢債務ノ辨濟、金錢債權ノ取立、經費諸掛又ハ諸費用ノ支拂、報酬ノ取立ノ如キ行爲ナリトス



「移轉措置」トハ敵人タル所有者ノ同意ナクシテ右所有者以外ノ者ニ敵財  
産ノ全部又ハ一部ヲ移轉スルニ因リテ敵財産ノ所有權ニ影響ヲ及ボシ又  
ハ及ボスヘキ措置殊ニ敵財産ノ所有權ノ賣却、清算若ハ移轉又ハ權利證  
書若ハ有價證券ノ無効ヲ命スルノ措置ヲ指ス

四

同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ於ケル舊洪牙利王國民ノ財産、權利及利益  
ニ付並其ノ賣却、清算其ノ他ノ處分ヨリ生スル純殘高ニ付テハ第一次ニ  
當該同盟國又ハ聯合國ハ舊洪牙利王國ノ版圖内ニ於ケル自國民ノ財産、  
權利及利益(自國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含ム)ニ關スル請求ニ基  
キ又ハ右自國民カ洪牙利王國民ニ對シテ有スル金錢債權ニ基ク賠償額ノ支  
拂並千九百十四年七月二十八日以後當該同盟國又ハ聯合國ノ戰爭參加前  
ニ舊奧地利洪牙利國政府又ハ洪牙利國官憲ノ爲シタル行爲ニ因リ生シタ  
ル請求ノ支拂ニ之ヲ充當スルコトヲ得ヘシ此ノ種請求ノ額ハ「ギユスタ  
ーヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ノ選任ニ係リ若シ其ノ  
承諾ナキ場合ニ於テハ第六款ノ混合仲裁裁判所ノ選任ニ係ル一名ノ仲裁  
人ヲシテ之ヲ決定セシムルコトヲ得ヘシ前記ノ財産、權利及利益純殘  
高ニ付テハ第二次ニ他ノ敵國版圖内ニ於ケル當該同盟國又ハ聯合國國民  
ノ財産、權利及利益ニ關スル右國民ノ請求ニ基ク賠償額中他ノ方法ニ依  
リ履行濟ト爲リタル以外ノモノノ支拂ニ之ヲ充當スルコトヲ得ヘシ

五

第二百三十二條ノ規定ニ拘ラス同盟國又ハ聯合國内ニ於テ認メラレタル  
甲會社方其ノ勢力ノ下ニ置カレ且洪牙利國內ニ於テ認メラレタル乙會社  
ト共同ニ別國ニ於テ製造標又ハ商標ノ使用權ヲ戰爭開始ノ直前ニ有シタ

ハ執ルコトアルヘキ戰時非常措置ニ同號所定ノ清算ノ了ニ至ル迄引續  
キ之ヲ付スヘシ

十

洪牙利國ハ自國民ノ所持ニ係ル一切ノ契約書、證明書、證書及他ノ權原  
證書ニシテ各同盟國又ハ聯合國ノ版圖内ニ在ル財産、權利及利益ニ關ス  
ルモノ(右同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ依リ認メラレタル會社ノ株券、社  
債券其ノ他ノ有價證券ヲ含ム)ヲ本條約實施後六月ノ期間内ニ右同盟國  
又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

洪牙利國ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ請求アルトキハ何時タリトモ右同盟  
國又ハ聯合國内ニ於ケル洪牙利國民ノ財産、權利及利益ニ關スル資料並  
右財産、權利及利益ニ付千九百十四年七月一日以後行ハレタル取引ニ關  
スル資料ヲ供スヘシ

十一

「現金資産」トハ戰爭狀態成立ノ前又ハ後ニ設ケラレタル一切ノ預金又ハ  
資金並管理人、保管人其ノ他ノ者カ銀行預金其ノ他ノ財源ヨリ受入レタ  
ル預金、收入金又ハ利潤ニ基ク一切ノ資産ヲ謂フ但シ同盟國若ハ聯合國  
又ハ同盟國若ハ聯合國内ノ各邦、州若ハ都市ニ屬スル金額ハ之ヲ包含セ  
ズ

十二

敵財産管理ノ責ニ任シ若ハ右管理ヲ監督スル者ニ依リ又ハ此等ノ者若ハ  
官憲ノ命令ニ依リ締約國國民(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含  
ム)ノ現金資産ヲ以テ爲サレタル投資ハ其ノ何レノ地ニ於テ爲サレタル  
チ間ハ之ヲ無効トス右現金資産ノ處理ニ付テハ此等ノ投資ヲ參酌スル  
コトナカルヘシ

ルトキ又ハ別國ニ於ケル販賣ニ供スル貨物又ハ物品ノ獨占的製造方法ノ  
利益チ乙會社ト共ニ享受シタルトキハ甲會社ハ乙會社ヲ排除シ別國內ニ  
於テ右製造標ヲ使用スルノ權利ヲ專有スヘク此ノ共同製造方法ハ奧地利  
洪牙利君主國內ニ於テ行ハルル戰時法令ニ依リ乙會社ニ關シ又ハ其ノ利  
益、營業財産又ハ株式ニ關シテ執ラレタル措置ノ如何ニ拘ラス甲會社ニ  
引渡サルヘシ尤モ甲會社ハ請求ヲ受ケタルトキハ乙會社ヲシテ洪牙利國  
内ニ於テ消費セラレヘキ貨物ノ製造ヲ繼續セシムルニ足ル難形チ之ニ交  
付スヘキモノトス

六

第二百三十二條ニ依リ還付ノ實行セラレル時期ニ至ル迄ノ間洪牙利國ハ  
同盟國又ハ聯合國國民ノ財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會  
社及組合ヲ含ム)ニシテ同國カ戰時非常措置ニ付シタルモノノ保全ニ付  
其ノ責ニ任ス

七

同盟國又ハ聯合國ハ財産、權利及利益ニシテ其ノ上ニ第二百三十二條ハ  
號ノ權利ヲ行使セムトスルモノヲ本條約實施後一年ノ期間内ニ知悉セシ  
ムルコトヲ要ス

八

第二百三十二條ニ定ムル還付ハ洪牙利國政府又ハ之ニ代ル官憲ノ命令ニ  
依リ實行セラレヘシ洪牙利國官憲ハ本條約實施後爲サレ得ル請求ニ基キ  
管理人ノ管理行爲ニ關スル詳細ノ報告ヲ利害關係人ニ供スヘシ

九

第二百三十二條ノ號ニ定ムル者ノ財産、權利及利益ハ之ニ關シテ執リ又

〔外初版〕

十三

本條約實施ノ日ヨリ一月ノ期間内ニ又ハ其ノ後請求アルトキハ何時タリ  
トモ洪牙利國ハ舊洪牙利王國ノ版圖内又ハ舊洪牙利王國若ハ其ノ同盟國  
ノ占領地域内ニ於テ戰時非常措置又ハ移轉措置ニ付セラレタル同盟及聯  
合國國民ノ財産、權利及利益(其ノ國民ヲ當事者トスル會社及組合ヲ含  
ム)ニ關スル一切ノ勸定書、記録、書類其ノ他ノ資料ニシテ洪牙利國ノ版  
圖内ニ存在スルモノヲ夫々同盟國又ハ聯合國ニ引渡スヘシ

十四

敵國內ニ在ル財産、權利及利益並其ノ清算殘高ニ關スル第二百三十二條  
及本附屬書ノ規定ハ金錢債務、金錢債權及勸定ニ之ヲ適用ス第三款ノ規  
定ハ支拂ノ方法ヲ定ムルニ過キサルモノトス

洪牙利國ト同盟及聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國ノ一自治領若  
ハ印度ニシテ之ニ付第三款ヲ採用スル旨ノ宣言ノ爲サレサリシモノトノ  
間並雙方ノ國民相互間ニ生スル第二百三十二條規定事項ノ處理ニ關シテ  
ハ支拂ニ用井ルヘキ通貨並爲替相場及利率ニ關スル第三款ノ規定ヲ適用  
スヘシ但シ當該同盟國又ハ聯合國ノ政府カ此等規定ノ一條項又ハ數條項  
ノ適用ナカルヘキ旨ヲ本條約實施ノ日ヨリ六月内ニ洪牙利國ニ通告スル  
トキハ此ノ限ニ在ラス

十五

第二百三十二條及本附屬書ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ニ於ケル戰時非常



法令ニ依リ又ハ第二百三十二條(ロ)號ノ規定ニ依リテ行ハレタル財産、權利、利益、會社又ハ企業ノ清算ノ中ニ加ヘ又ハ加ヘラルヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用ス

第五款 契約、時効、判決

第二百三十四條

(イ) 敵人間ノ契約ハ之ヲ當事者中ノ何レカノ二人カ敵人ト爲リタル時ヨリ效力ヲ失ヒタルモノト看做スヘシ但シ其ノ契約ニ基キ行爲ヲ爲シ又ハ金錢ノ支拂ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス尙或契約又ハ或種類ノ契約ニ付本款又ハ本款附屬條ニ掲ケル除外例又ハ特別規則アル場合ヲ除ク

(ロ) 當事者ノ一方ノ屬スル同盟國又ハ聯合國ノ政府カ公益ノ爲本條約實施ノ日ヨリ六月ノ期間内ニ履行ヲ請求スル契約ハ本條ニ依リ效力ヲ失フノ限ニ在ラス

斯ノ有效ニ存續スル契約ノ履行カ通商狀態ノ變更ノ結果著シキ損害ヲ當事者ノ一方ニ與フル場合ニ於テハ第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ衡平ナル賠償ヲ與フルコトヲ得ヘシ

(ハ) 亞米利加合衆國及日本國ノ憲法及法律ノ規定ニ願ミ本條並第二百三十五條及本款附屬書ハ此等諸國ノ國民カ舊洪牙利王國民ト締結セル契約ニ之ヲ適用セス又第二百四十條ハ亞米利加合衆國又ハ其ノ國民ニ之ヲ適用セス

(ニ) 當事者ノ一方カ主權ノ變更アル一地方ノ住民タルノ故ヲ以テ當事者カ敵人ト爲リシ契約ニ付テハ右當事者カ同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ本條約ニ依リ取得スルトキハ本條及本款附屬書ハ之ヲ適用セス當事者ノ

ハ被害當事者ニ對シ洪牙利國政府ノ負擔ニ歸スヘキ賠償ヲ與フルコトヲ得ヘシ

(ニ) 敵人間ノ契約又ハ當事者ノ一方ニ於テ其ノ契約ノ條項ヲ履行セサル事實ニ基キ或ハ契約中ニ定ムル權利ノ行使ニ基キ失效シタルトキハ被害當事者ハ賠償ヲ得ル爲混合仲裁裁判所ニ申出ツルコトヲ得ヘシ同裁判所ハ此ノ場合ニ於テ(ハ)號ニ定ムル權能ヲ有スヘシ

(ホ) 本條前諸號ノ規定ハ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ舊洪牙利國政府ノ官憲ノ執リタル前記ノ措置ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケサリシ場合ニ該國民ニ之ヲ適用ス

(ハ) 洪牙利國ハ本條前諸號ノ規定ニ從ヒ混合仲裁裁判所ノ宣告シタル現物還付又ハ原狀回復ニ因リ損害ヲ受ケタル第三者ニ賠償スヘシ

(ト) 流通證券ニ付テハ(イ)號ニ定ムル三月ノ期間ハ關係國ノ版圖内ニ於テ流通證券ニ關シテ適用セラレタル非常措置ノ確定的ニ終了シタル日ヨリ之ヲ起算スヘシ

第二百三十六條

敵人間ノ關係ニ於テハ戰爭前ニ作成シタル流通證券ハ所要ノ期間内ニ引受若ハ支拂ノ爲ニスル其ノ呈示ヲ爲サス、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知ヲ爲サス又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲サス其ノ他戰時中或形式ヲ履行セザリシ故ノミナリテ失效シタルモノト看做サルルコトナカルヘシ

引受若ハ支拂ノ爲ニスル流通證券ノ呈示、振出人若ハ裏書人ニ對スル引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲スコトヲ要スル期間カ戰時中經過シ且同證券ノ呈示、拒絕證書ノ作成又ハ引受拒絕若ハ支拂

一方カ敵人ノ占領ニ係ル同盟國又ハ聯合國ノ一地方内ニ在ルノ故ヲ以テ相互間ノ通商ヲ禁止セラレタル同盟國又ハ聯合國ノ國民間ノ契約ニ付亦同シ

(ホ) 本條及本款附屬書ノ何レノ規定モ交戰國ノ一方ノ認許ヲ得テ締結シタル敵人間ノ契約ニ依リ適法ニ行ハレタル取引ヲ失效セシムルモノト看做スコトヲ得ス

第二百三十五條

(イ) 締約國ノ版圖内ニ於テ一切ノ時効期間又ハ出訴期間ハ敵人間ノ關係ニ付テハ其ノ進行ノ開始カ開戰前ナルト開戰後ナルトト問ハス戰時中其ノ進行ヲ停止スヘシ右ノ期間ハ本條約實施後早クトモ三月ヲ經過シタル時ヨリ再ヒ其ノ進行ヲ始ムヘシ右ノ規定ハ利札若ハ配當證ノ呈示期間又ハ當籤セル有價證券若ハ他ノ事由ニ因リ償還セララルヘキ有價證券ノ拂戻ヲ受ケル爲ノ呈示期間ニ之ヲ適用スヘシ

(ロ) 戰時中或行爲ヲ爲スコト又ハ或形式ヲ履ムコトヲ怠リタルカ爲舊洪牙利王國ノ版圖内ニ於テ執行處分行ハレ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ損害ヲ受ケタル場合ニ若シ右ノ事件カ同盟國又ハ聯合國ノ裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ該國民ハ其ノ請求ニ付第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所ノ審理ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

(ハ) 同盟國又ハ聯合國ノ當該國民ノ請求ニ基キ混合仲裁裁判所(ロ)號ニ掲ケル執行處分ニ因リ侵害セラレタル權利ノ原狀回復カ當該事件ノ特殊ノ事情ニ照シ衡平ニシテ且可能ナリト認メタルトキハ右原狀回復ヲ命スヘシ

若シ右原狀回復カ不公正ナルカ又ハ不可能ナルトキハ混合仲裁裁判所

[初外版]

拒絕ノ通知ヲ爲スコトヲ要スル當事者カ戰時中之ヲ爲ササリシ場合ニ於テハ同證券ノ呈示、引受拒絕若ハ支拂拒絕ノ通知又ハ拒絕證書ノ作成ヲ爲ス爲本條約實施後三月ヲ下ラサル期間ヲ當事者ニ付與スヘシ

第二百三十七條

同盟國又ハ聯合國ノ裁判所カ本條約ニ依リ管轄權ヲ有スル事件ニ付爲シタル判決ハ之ヲ洪牙利國內ニ於テ確定判決ノ效力アルモノト看做スヘシ且同國內ニ於テ執行ノ裁判ヲ須井スシテ之ヲ執行スヘシ

同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ其ノ國民カ當事者トスル會社若ハ組合カ防禦ヲ爲スコト能ハサリシ事件ニ於テ舊洪牙利王國司法官憲カ戰時中該國民又ハ會社若ハ組合ニ不利益ノ判決又ハ執行處分ヲ爲シタルトキハ右ニ因リ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民ハ右ノ判決又ハ執行處分カ如何ナル事項ニ關シテ爲サレタル事問ハス第六款ノ混合仲裁裁判所ノ定ムル賠償ヲ受ケルコトヲ得ヘシ

同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求ニ因リ右ノ賠償ハ混合仲裁裁判所ノ命令ニ基キ且實行可能ナルトキハ當事者ニ洪牙利國裁判所ノ判決前ノ地位ヲ回復セシムルコトニ依リテ之ヲ實行スルコトヲ得ヘシ

前記ノ賠償ハ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ執ラレタル司法上ノ措置ニ因リテ損害ヲ受ケタル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ他ノ方法ニ依リ賠償ヲ受ケサリシ場合ニハ該國民ハ又混合仲裁裁判所ニ就キテ之ヲ受ケルコトヲ得ヘシ

第二百三十八條

本編第三款乃至第五款及第七款ノ「戰時中」トハ各同盟國又ハ聯合國ニ付該國ト舊奧地利洪牙利君主國トノ間ニ戰爭狀態ノ存在シタル時ヨリ本條



附屬書 第一 一般規定

契約當事者間ノ取引力其ノ當事者ノ一方ノ服スル法律、命令又ハ規則ニ依リ禁止セラレ又ハ不法ト爲リタルトキハ其ノ契約當事者ハ右取引力禁止セラレ又ハ不法ト爲リタル日ヨリ之ヲ第二百三十四條乃至第二百三十六條ノ敵人ト看做ス

左ニ掲クルモノハ第二百三十四條ニ定ムル失效ノ例外トシテ有效ニ存續ス但シ第二百三十二條口號ニ定ムル權利ヲ害スルコトナシ尙同盟國又ハ聯合國ノ戰時中制定シタル國內ノ法律、命令又ハ規則ノ適用及契約條項ヲ留保ス

- (イ) 動産又ハ不動産ノ所有權ノ移轉ヲ目的トスル契約ニシテ當事者カ敵人ト爲ルニ先チ右所有權ノ移轉又ハ目的物ノ引渡ヲ了シタルモ
- (ロ) 貨貸借、貨貸契約及貨貸契約ノ約束
- (ハ) 抵當權、質權其ノ他ノ擔保ノ契約
- (ニ) 鑛山、採石場又ハ埋藏礦物ニ關スル特許契約
- (ホ) 個人ト國、州、都市又ハ他ノ類似ノ行政法人トノ間ノ契約及右ノ國、州、都市又ハ他ノ類似ノ行政法人ノ許與シタル特許

三

善意ニ且相當ノ注意ヲ以テ行ヒタルモノナルトキハ所有者ニ豫メ之ヲ通知シ得ザリシトキト雖尙有效ナルモノト看做スヘシ此ノ場合ニ於テハ所有權ノ擔保物ノ賣却ヲ理由トシテ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルヘシ右ノ規定ハ敵ノ侵入又ハ占領ニ係ル地域内ニ於テ占領中ニ敵ノ行ヒタル擔保物ノ賣却ニ之ヲ適用セス

流通證券

六

敵人間ニ存スル金錢上ノ債務ニシテ流通證券ノ發行ヨリ生シタルモノハ本編第三款及其ノ附屬書ヲ採用シタル諸國ニ付テハ該附屬書ニ從ヒ清算所ノ仲介ニ由リテ處理セラルヘシ清算所ハ所持人ノ有スル諸種ノ救済ニ關シ該所持人ノ權利ニ付代位ス

七

戰爭前又ハ戰時中甲者カ敵人ト爲リタル乙者ノ擔保約束アリシニ因リテ流通證券支拂ノ債務ヲ負擔シタルトキハ甲者ノ債務ノ結果ニ付甲者ニ賠償スル乙者ノ責任ハ戰爭開始ニ拘ラス存續ス

第三 保險契約

八

保險契約ニシテ當事者ノ一方カ後ニ至リ敵人ト爲リタル他方ト締結シタルモノハ左ノ規定ニ依リ之ヲ處理スヘシ

火災保險

九

財產ニ關スル火災保險契約ニシテ該財產ニ付利害關係ヲ有スル者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ戰爭ノ開始ニ因リ、當

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

契約ノ條項カ第二百三十四條ニ依リ一部效力ヲ失ヒタル場合ニ若シ其ノ條項カ分割シ得ヘキモノナルトキハ殘餘ノ條項ハ其ノ效力ヲ存續スヘシ尤モ前記ニ定ムル國內ノ法律、命令及規則ノ適用ヲ留保ス若シ又分割シ得サルモノナルトキハ其ノ契約ハ之ヲ全部效力ヲ失ヒタルモノト看做スヘシ

第二 特種ノ契約ニ關スル特別規定

株式取引所及商品取引所ノ契約

四

(イ) 公認ノ株式取引所又ハ商品取引所カ戰時中制定シタル規則ニシテ戰爭前ニ敵人ノ締結シタル取引所ノ契約ノ清算ヲ規定スルモノ及右規則ニ依リ執リタル措置ハ締約國之ヲ確認ス尤モ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- (一) 取引力右取引所ノ規則ニ準據スヘキコトヲ特定メタルコト
- (二) 右規則カ一切ノ者ニ付拘束力ヲ有セシモノナルコト
- (三) 清算ノ條件カ公正妥當ナリシコト

(ロ) 前記ノ規定ハ敵ノ占領シタル地域内ノ取引所カ占領中ニ執リタル措置ニ之ヲ適用セス

(ハ) 「リヂナプール」棉花協會ノ決議ニ依リ千九百十四年七月三十一日ニ行ハレタル棉花定期取引ノ清算ハ之ヲ確認ス

擔保物

五

敵人ノ金錢債務ノ保證タル擔保物ノ賣却ハ支拂ナキ場合ニ於テ債權者カ

〔外初版〕

事者カ敵人ト爲リタルノ事實ニ因リ又ハ戰時中若ハ戰爭後三月ノ期間内ニ當事者ノ一方カ契約ノ或條項ヲ履行セサルニ因リ失效シタルモノト看做サルルコトナシ尤モ本條約實施後三月ノ期間滿了後ニ於ケル年分保險料ノ最初ノ支拂期日カ到來シタルトキヨリ該契約ハ失效スヘキモノトス

十

戰爭前ニ成立シタル火災保險カ行政行為又ハ立法行為ニ基キ戰時中原保險者ヨリ他ノ保險者ニ移轉シタル場合ニ於テハ該移轉ハ之ヲ有效トシ原保險者ノ責任ハ移轉ノ日ヨリ消滅シタルモノト看做スヘシ尤モ原保險者ハ自己ノ請求ニ因リ移轉ノ條件ニ關シ詳細ナル報告ヲ受クルコトヲ得ヘク且其ノ條件衡平ナラサルコト明ナルトキハ之ヲ衡平ナラシムル爲ニ必要ナル限度ニ於テ該條件ハ修正セラルヘシ

被保險者ハ又原保險者ノ同意アルトキハ請求ノ日ヨリ原保險者ニ契約ノ再移轉ヲ爲スコトヲ得

生命保險

十一

生命保險契約ニシテ保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ宣戰ニ因リ又ハ右ノ者カ敵人ト爲リタルノ事實ニ因リ失效シタルモノト看做サルルコトナカルヘシ

前項ニ依リ失效シタルモノト看做サルサル契約ノ條項ニ基キ戰時中支拂ヲ請求シ得ルニ至リタル金額ハ戰爭後之ヲ取立ツルコトヲ得ヘク右ノ金額ニハ支拂ヲ請求シ得ルニ至リタル日ヨリ支拂當日ニ至ル迄年五分ノ利

四百十七



息ヲ附スヘシ  
契約方保險料不拂ノ爲戰時中消滅シタルトキ又ハ契約條項不履行ノ爲其  
約實施ノ日ヨリ十二月以内何時ニテモ保險者ニ對シ契約ノ消滅又ハ失効  
ノ日ニ於ケル保險證券ノ價額ヲ請求スルコトヲ得ヘシ  
戰時措置ニ因ル保險料不拂ノ結果契約力戰時中消滅シタルトキハ被保險  
者又ハ其ノ代理人若ハ承繼人ハ拂込期限ノ到來シタル保險料二年五分ノ  
利息ヲ附シタル金額ヲ支拂ヒテ本條約實施後三月以内ニ契約ヲ復活スル  
コトヲ得

十二

生命保險契約ニシテ後ニ至リ敵國ト爲リタル國ニ在ル保險會社支店ノ締  
結シタルモノナルトキハ該契約ハ同契約中ニ反對ノ規定アル場合ヲ除ク  
ノ外其ノ所在地法ニ據ルコトヲ要ス尤モ契約ノ條項又ハ契約締結當時ノ  
法令若ハ條約ニ違反シテ戰時中ノ措置ニ基キ爲サレ又ハ強制セラレタル  
請求ニ依リ支拂ハレタル金額ハ保險者ニ於テ被保險者又ハ其ノ代理人ニ  
其ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

十三

被保險者ニ契約解除ノ通知ヲ爲ス迄ハ保險料ノ不拂ニ拘ラス保險者力該  
契約ニ適用スヘキ法令ニ基キ引續キ契約ニ依リ拘束セラレヘキ一切ノ場  
合ニ於テ保險者力戰争ノ爲其ノ通知ヲ爲スコト能ハサリシトキハ保險者  
ハ不拂保險料二年五分ノ利息ヲ附シタル金額ヲ被保險者ヨリ取立ツルコ  
トヲ得ヘシ

十四

敵對行爲ノ開始後同一ノ危險ヲ目的トスル新契約ヲ敵人ニ非サル保險者  
ト締結シタルコト明ナルトキハ右新契約ハ成立ノ日ヨリ原契約ニ代リタ  
ルモノト看做サルヘキ拂込期限到來ノ保險料ハ契約ニ依リ原保險者力新  
契約成立ノ時ニ至ル迄ノ限度トシテ責任アリトスルノ原則ニ基キテ處理  
セラレヘシ

其ノ他ノ保險

十八

保險者ト後ニ至リ敵人ト爲リタル者トノ間ニ戰争前成立シタル保險契約  
ニシテ九乃至十七ニ規定シタル契約以外ノモノハ同一當事者間ノ火災保  
險力前記ノ規定ニ依リ取扱ハルルト全然同様ニ取扱ハルヘシ

再保險

十九

敵人ト爲リタル者ト締結シタル一切ノ再保險契約ハ其ノ者力敵人ト爲リ  
タルノ事實ニ由リ失効シタルモノト看做サルヘシ尤モ生命又ハ海上ノ危  
險ノ責任力戰争前始マリタル場合ニ於テハ其ノ危險ニ基キ支拂ハルヘキ  
金額ヲ戰争後取立ツルノ權利ヲ害スルコトナシ  
尤モ敵軍侵入ノ爲再保險契約者力他ノ再保險者ヲ得ルコト能ハサリシ場  
合ニ於テハ再保險契約ハ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄其ノ效力  
ヲ存續ス

再保險契約力本規定ニ依リ失効シタルトキハ既拂及未拂ノ保險料ニ關シ  
並戰争前責任ノ始マリタル生命又ハ海上ノ危險ニ付受ケタル損害ニ對ス  
ル責任ニ關シ併セテ當事者間ニ計算ヲ爲スヘシ十一乃至十七ニ掲ケルモ  
ノ以外ノ危險ニ付テハ當事者力敵人ト爲リタル日ヲ以テ計算ノ決濟ヲ爲

當事者相互間ノ約定ニ於ケル計算ニ付人命ノ推算ト利率トヲ基礎トスル  
保險契約ハ十一乃至十三ノ適用上之ヲ生命保險契約ト看做スヘシ

海上保險

十五

海上保險契約(定期保險及航海保險ヲ含ム)ニシテ保險者ト後ニ至リ敵人  
ト爲リタル者トノ間ニ成立シタルモノハ右ノ者力敵人ト爲リタル時ニ於  
テ失効シタルモノト看做サルヘシ但シ契約ニ定メタル保險者ノ責任力右  
ノ時以前ニ始マリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
保險者ノ責任力始マラサリシ場合ニ於テハ支拂濟ノ保險料其ノ他ノ金額  
ハ保險者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得ヘシ

保險者ノ責任力始マリタル場合ニ於テハ當事者力敵人ト爲リタルニ拘ラ  
契約ハ之ヲ有效ト看做シ右契約ノ條項ニ從ヒ保險料トシテ又ハ損害ト  
シテ支拂ハルヘキ金額ハ本條約實施後之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

十六

戰争前交戰國ノ國民力支拂フコトヲ要シ又ハ支拂ヲ請求シ得ル金額ニシ  
テ戰争後取立テラレタルモノニ付利息ヲ支拂フヘキ合意成立シタル場合  
ニ於テハ該利息ハ海上保險契約ニ基キ填補シ得ヘキ損害ニ付テハ其ノ損  
害ノ日ヨリ起算シテ一年ノ期間滿了ノトキヨリ之ヲ附スヘシ

十七

後ニ至リ敵人ト爲リタル被保險者トノ海上保險契約ハ保險者ノ屬スル國  
又ハ其ノ同盟國若ハ聯合國ノ戰争行爲ニ基キ損害ヲ擔保スルモノト看做  
スコトヲ得サルヘシ

十八

スヘキ其ノ日以後ニ受ケタル損害ニ對スル請求ハ之ヲ參酌スルコトナカ  
ルヘシ

十九

十九ノ規定ハ當事者力敵人ト爲リタル日ニ存在シタル再保險ニシテ保險  
契約ニ因リ保險者力引受ケタル特殊ノ危險(生命又ハ海上ノ危險ヲ除ク)  
ニ關スルモノニ均シク之ヲ擴張ス

二十

特殊契約ニ依リテ成立シ再保險ノ一般契約ニ包含セラレサル生險保險契  
約ノ再保險ハ其ノ效力ヲ存續ス

二十一

海上保險契約ノ再保險力戰争前ニ成立シタル場合ニ再保險者ニ移轉セラ  
レタル責任力敵對行爲開始前ニ始マリタルトキハ右責任ノ移轉ハ有效ニ  
存續スヘキ契約ハ敵對行爲ノ開始ニ拘ラス有效ニ存續スヘシ再保險契約  
ニ基キ支拂フヘキ金額ニシテ保險料又ハ損害ニ關スルモノハ戰争後之ヲ  
取立ツルコトヲ得ヘシ

二十二

十六、十七及十五末項ノ規定ハ海上危險ノ再保險契約ニ之ヲ適用スヘシ

第六款 混合仲裁裁判所

第二百三十九條

(イ) 本條約實施ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ一方同盟國又ハ聯合國ノ各國ト  
他方洪牙利國トノ間ニ一箇ノ混合仲裁裁判所ヲ設置ス該裁判所ハ各三  
名ノ審判員ヲ以テ之ヲ構成ス各關係國政府ハ右審判員中ノ一名ヲ任命  
スヘキ審判長ハ兩關係國政府ノ合意ニ依リ之ヲ選任スヘシ

(外初版)



右合意ノ成立セサルトキハ審判長及必要ノ場合ニ之ニ代ルヘキ他ノ二名ノ者ハ國際聯盟理事會ニ依リ選任セラルヘク同理事會ノ設立セラルル迄ハ「ギユスタヴ、アドール」氏ニシテ承諾スルニ於テハ同氏ニ依リ選任セラルヘシ右ノ三者ハ何レモ戰爭中ノ中立國ノ國民ナルコトヲ要ス

審判員團員ノ場合ニ政府カ一月ノ期間ニ前記任命ノ手續ヲ爲ササルトキハ補關審判員ハ審判長以外ノ前記二名中ヨリ他方政府之ヲ選任スヘシ

混合仲裁裁判所ノ判定ハ審判員ノ過半數ノ決定ニ依ルヘシ

(イ) 號ニ依リ設置シタル混合仲裁裁判所ハ本編第三款乃至第六款及第七款ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬スル爭議ヲ審判スヘシ

前記ノ外同盟及聯合國ノ國民ト洪牙利國民トノ間ニ本條約實施前ニ成立シタル契約ニ關スル一切ノ爭議ハ其ノ何タルヲ問ハス混合仲裁裁判所之ヲ審判スヘシ但シ同盟國、聯合國又ハ中立國ノ法令ニ依リ此等諸國ノ內國裁判所ノ權限ニ屬スル爭議ハ之ヲ審判スルノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ當該內國裁判所ハ混合仲裁裁判所ヲ排除シテ之ヲ審理ス

尤モ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル當事者ハ自國ノ法令ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外混合仲裁裁判所ニ事件ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

(ハ) 事件數ニ應シ必要ナルトキハ各混合仲裁裁判所ヲ數部ニ分ツコトヲ得ル爲審判員ノ増員ヲ行フコトヲ要ス各部ハ前記ノ規定ニ依リ之ヲ構成ス

(ニ) 各混合仲裁裁判所ハ本條附屬書ニ規定ナキ限り其ノ審理手續ヲ定ムヘク審理費用ニ付敗訴者ノ支拂フヘキ額ヲ決定スルコトヲ得ヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ正義及衡平ニ適合スル審理手續ヲ採用シ各當事者ノ辯論ヲ爲スヘキ順序及期限ヲ定ム且證據調ニ必要ナル手續ヲ定ムヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ當事者ノ提出スル證據及參考資料ニ依リ付託ノ事件及事項ヲ判定スヘシ

締約國ハ混合仲裁裁判所ニ其ノ審理ニ必要ナル一切ノ便宜及參考資料ヲ供與スルコトヲ約ス

別段ノ合意アル場合ヲ除クノ外審理上ノ用語ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ定ムル所ニ從ヒ英吉利語、佛蘭西語、伊太利語又ハ日本語トス

各混合仲裁裁判所ノ開廷ノ場所及日ハ該裁判所ノ審判長之ヲ定ムヘシ

本編第三款乃至第五款又ハ第七款ニ掲ケル事件ニ關シ權限アル裁判所カ判決ヲ既ニ與ヘ又ハ與フル場合ニ於テ其ノ判決カ右諸款ノ規定ニ適合セサルトキハ之カ爲損害ヲ受ケタル當事者ハ混合仲裁裁判所ノ決定スル賠償ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ請求アルトキハ右ノ賠償ハ實行可能ナル限り各當事者ニ舊洪牙利王國裁判所ノ判決前ノ地位ヲ回復セシムルコトニ依リ混合仲裁裁判所之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

(ホ) 各國政府ハ其ノ任命ニ係ル混合仲裁裁判所審判員及該裁判所ニ於テ各自國政府ヲ代表セシムル爲任命スル代理人ノ報酬ヲ支拂ス審判長ノ報酬ハ關係國政府間ノ特別取極ニ依リテ之ヲ決定スヘク右審判長ノ報酬及各混合仲裁裁判所ノ共同費用ハ兩國政府折半シテ之ヲ支拂スヘシ

(ヘ) 締約國ハ各自ノ裁判所及官憲ヲシテ通知書ノ送達及證據ノ蒐集其ノ他權限内ノ一切ノ助力ヲ直接ニ混合仲裁裁判所ニ與ヘシムルコトヲ約ス

(ト) 締約國ハ混合仲裁裁判所ノ判定ヲ確定シ且各自ノ國民ニ對シ拘束力アルモノト爲スコトヲ約ス

附屬書

混合仲裁裁判所ノ審判員カ死亡シ退職シ又ハ何等カノ理由ニ因リ執務不能ト爲リタルトキハ審判員ノ任命ニ付執リタル手續ニ依リ之カ補關ヲ爲スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

混合仲裁裁判所ハ同裁判所ニ付託セラレタル事件及申立並之ニ關スル審理手續ノ日附アル記録ヲ保存スヘシ

〔外初版〕

第七款 工業所有權 第二百四十一條

第二百二十條及第二百二十二條ニ掲ケル巴里同盟條約及「ベルヌ」條約ニ規定シタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ハ戰爭狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノトキヨリ各締約國ノ版圖内ニ於テ之ヲ回復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス若シ戰爭ナカリセハ工業所有權保護ノ出願ニ基キ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果トシテ戰時中取得シ得ヘカリシ權利ハ權利者タルヘカリシ者ノ爲ニ均シク本條約實施ノトキヨリ承認設定セラルヘシ

尤モ舊洪牙利王國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國又ハ聯合國ノ立法機關又ハ執行若ハ行政官廳ノ執リタル特別措置ニ基ク行爲ハ依然有效ニシテ其ノ完全ナル效力ヲ存續スヘキモノトス

同盟國若ハ聯合國政府ノ行ヒ又ハ他ノ者カ該政府ノ爲ニ若ハ其ノ同意ヲ得テ行ヒタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ戰時中ノ利用ニ付テハ洪牙利國若ハ洪牙利國民ニ於テ又ハ舊洪牙利王國民若ハ其ノ名ニ於テ何等ノ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス該權利ノ實施ニ因リ生シタル一切ノ生産品、裝置、物品又ハ作品ノ販賣、販賣ノ提供又ハ使用ニ付亦同シ

同盟國又ハ聯合國中ノ一國ニ於テ本條約署名當時ノ法令ニ別段ノ規定ナキトキハ本條第二項ニ定ムル特別措置ニ依リ一切ノ行爲及實行ニ基キ第二百三十二條(口)號ニ定ムル者ノ權利ニ關シテ支拂ハルヘキ又ハ支拂ハレ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約



タル金額ハ本條約ノ規定ニ依リ右ノ者ノ他ノ債權ト同様ノ取扱ヲ受クヘ  
ク又同盟國又ハ聯合國國民ノ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ  
關スル權利ニ付舊洪牙利王國政府ノ執リタル特別措置ニ依リテ生シタル  
金額ハ洪牙利國民ノ他ノ一切ノ金錢債務ト同視シ之ト同様ニ取扱ハルヘ

國防上若ハ公益上ノ爲、同盟國若ハ聯合國ノ國民力洪牙利國ノ版圖内ニ  
於テ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付洪  
牙利國ノ衡平ナル取扱ヲ確保スル爲又ハ本條約ニ依リ洪牙利國ノ約定シ  
タル一切ノ義務ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲各同盟國又ハ聯合國ハ自國  
ノ法令ニ從ヒ洪牙利國民力戰爭前若ハ戰時中ニ取得シ又ハ其ノ後取得ス  
ルコトアルヘキ工業所有權(製造標又ハ商標ノ權利ヲ除ク)又ハ文學的若  
ハ美術的著作物ニ關スル權利ヲ實施シ、之ヲ實施シ免許シ、之ヲ實施ニ付  
監督權ヲ行使スル等必要ト認メラルヘキ期限、條件又ハ制限ヲ之ニ附ス  
ルノ權能ヲ留保ス本條約實施後取得セラルヘキ工業所有權又ハ文學的若  
ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付テハ同盟及聯合國ノ爲ニ留保シタル右  
ノ權能ハ上記ノ期限、條件又ハ制限方國防上又ハ公益上必要ト認メラル  
ヘキ場合ニ限リ之ヲ行使スルコトナ得

同盟及聯合國方前記ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ相當ノ補償金又ハ使  
用料ヲ支拂フコトヲ要ス右ノ補償金又ハ使用料ハ本條約ノ規定ニ依リ洪  
牙利國民ニ支拂ハルヘキ他ノ一切ノ金額ト同様ノ取扱ヲ受クヘシ  
千九百十四年七月二十八日以後ニ行ハルヘキ將來行ハルコトアルヘキ  
工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ全部又ハ一部ノ  
移轉及右權利ノ讓與ニシテ本條規定ノ適用ニ對シ障礙ト爲ルヘキモノハ

若ハ商標又ハ意匠ハ本條約實施後二年ノ期間滿了前ハ單ニ其ノ不實施又  
ハ不使用ノ事由ノミニ依リ失効シ又ハ取消サルコトナカルヘシ

第二百四十三條

發明ノ特許出願又ハ實用新案、製造標若ハ商標並意匠及雜形ノ登録出願  
ニ關シ千九百十一年舊盛頓ニ於テ改正セラレタル千八百八十三年三月二  
十日ノ巴里同盟條約第四條其ノ他ノ條約又ハ法律ニ規定シタル優先期間  
ニシテ千九百十四年七月二十八日ニ未ダ滿了ニ至ラザリシモノ及戰時中  
進行ヲ開始シタルモノ又ハ若シ戰爭ナカリセハ之ヲ開始シ得ヘカリシモ  
ノハ各締約國ニ於テ他ノ締約國ノ一切ノ國民ノ爲本條約實施後六月ノ期  
間滿了ニ至ル迄之ヲ延長スヘシ  
尤モ前項期間ノ延長ハ優先期間ヲ援用シテ出願スル工業所有權ト抵觸ス  
ル工業所有權ヲ本條約實施ノ際善意ニ占有中ナル各締約國又ハ其ノ國民  
ノ權利ヲ害スルコトナカルヘク該國又ハ該國民ハ權利侵害者トシテ訴追  
セラレサルハ勿論其ノ他何等ノ煩累ヲ受ケルコトナク或ハ自國若ハ本人  
自身ニ於テ或ハ本條約實施前ニ權利ヲ讓與セラレタル代理人若ハ實施權  
者ニ由リ其ノ權利ノ享有ヲ繼續スヘシ

第二百四十四條

一方ニ於テ舊洪牙利王國ノ國民又ハ同國版圖内ニ居住シ若ハ營業ニ從事  
スル者及他方ニ於テ同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ同國版圖内ニ居住シ若  
ハ營業ニ從事スル者並戰時中此等ノ者ヨリ其ノ權利ヲ讓受ケタル第三者  
ハ戰爭狀態成立ノ日ト本條約實施ノ日トノ間ニ他ノ一方ノ版圖内ニ生ス  
ルコトアルヘキ事實ニシテ戰時中或時ニ存在シタル又ハ第二百四十二條  
及第二百四十三條ニ依リ回復セラレヘキ工業所有權又ハ文學的若ハ美術

各同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ無効ト看做スノ權能ヲ留保ス  
本條ノ規定ハ同盟國若ハ聯合國ニ依リ戰時非常法令ニ從ヒテ行ハレタル  
又ハ第二百三十二條(口號ニ基キテ行ハルヘキ會社又ハ企業ノ清算ニ屬ス  
ル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用セス

第二百四十二條

各締約國國民ハ千九百十四年七月二十八日ニ於ケル其ノ既得ノ工業所有  
權若ハ戰爭ナカリセハ戰爭前若ハ戰時中ノ出願ニ基キ同日以後ニ其ノ取  
得シ得ヘカリシ工業所有權ヲ保存若ハ取得スル爲又ハ右ニ付異議ヲ申立  
ツル爲本條約實施ノトキヨリ一年ヲ下ラサル期間内ハ何等ノ附加金又ハ  
過意金ヲ徵收セラルルコトナク一切ノ行爲ヲ追完シ、手續ヲ履行シ、料  
金ヲ納付シ其ノ他當該國ノ法令規則ノ定ムル一切ノ義務ヲ履行スルコト  
ヲ得但シ本條ハ亞米利加合衆國ニ於テ最終ノ審問ヲ終リタル抵觸審判ノ  
再開ヲ請求スルノ權利ヲ與フルコトナカルヘシ  
工業所有權ニシテ其ノ行爲ノ追完、手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ意リタ  
ルノ結果一旦失効シタルモノハ其ノ效力ヲ回復スヘシ但シ特許及意匠ニ  
關シテハ其ノ失効シタル期間内ニ右ノ特許又ハ意匠ヲ實施シ又ハ使用  
シタル第三者ノ權利ヲ保護スル方爲各同盟國又ハ聯合國ハ衡平ノ見地ヨ  
リ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ルモノトス尙洪牙利國民ノ有スル發  
明特許又ハ意匠ニシテ斯ク效力ヲ回復シタルモノハ實施ノ許諾ニ付テ  
戰時中ニ之ヲ適用スヘカリシ規定及本條約ノ一切ノ規定ニ從フヘシ  
千九百十四年七月二十八日ヨリ本條約實施ノ日ニ至ル迄ノ期間ハ特許ノ  
實施ニ付又ハ製造標若ハ商標又ハ意匠ノ使用ニ付定メラレタル期間ニ之  
ヲ算入セス尙千九百十四年七月二十八日ニ於テ有效ナリシ特許、製造標

〔外初版〕

的著作物ニ關スル權利ノ侵害ト看做サルコトアルヘキモノヲ理由トシ  
テ何等ノ訴訟又ハ請求ヲ爲スコトヲ得サルヘシ  
戰爭狀態成立ノ日ト本條約署名ノ日トノ間ニ於テ製造セラレタル生産物  
若ハ物品又ハ同期間内ニ公ニセラレタル文學的若ハ美術的著作物ニ關シ  
一方同盟國又ハ聯合國ノ版圖内、他方洪牙利國版圖内ニ於テ本條約署名  
後一年内ニ爲ス販賣又ハ販賣ノ提供ニ付テハ工業所有權又ハ文學的若ハ  
美術的著作物ニ關スル權利ノ侵害トシテ前記ノ者カ提起スル訴訟ハ如何  
ナル時ニ於テモ亦之ヲ受理セサルヘシ前記ノ物ノ取得又ハ使用ニ付亦同  
シ尤モ本規定ハ右權利者カ戰時中地地利洪牙利軍ノ占領シタル地方ニ  
於テ其ノ住所又ハ工場若ハ商館ヲ有シタル場合ニ之ヲ適用セサルモノ  
トス

第二百四十五條

工業所有權ノ實施許諾又ハ文學的若ハ美術的著作物ノ複製許諾ニ關シ一  
方ニ於テ同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ同國版圖内ニ居住シ若ハ營業ニ從  
事スル者ト他方ニ於テ舊洪牙利王國國民トノ間ニ戰爭狀態成立前ニ締結セ  
ラレタル契約ハ舊地地利洪牙利君主國ト同盟國又ハ聯合國トノ間ニ於ケ  
ル戰爭狀態成立ノ日ヨリ解除セラレタルモノト看做スヘシ尤モ何レノ場  
合ニ於テモ此ノ種ノ契約ニ依リ從前ノ受益者ハ本條約實施ノ日ヨリ六月  
ノ期間内ニ當該權利者ニ對シ右ノ實施又ハ複製ノ新許諾ヲ請求スルノ權  
利ヲ有ス右新許諾ノ條件ニ關シ當事者間ニ協議調ハサルトキハ上記ノ權  
利ヲ取得スルニ至リタル準據法令ヲ定ムル國ノ管轄裁判所之ヲ決定スヘ  
シ但シ舊洪牙利王國ノ法令ノ下ニ取得シタル權利ニ基キ許諾ニ關シテハ



此ノ限ニ在ラス此ノ但書ノ場合ニ於テハ本編第六款ノ混合仲裁裁判所其ノ條件ヲ決定スヘシ若シ必要アルトキハ該裁判所ハ戰時中ニ於ケル上記ノ權利ノ利用ニ基キ其ノ相當ト認ムル補償金額ヲ定ムルコトヲ得

第八款 讓渡地域ニ關スル特別規定

從前舊洪牙利王國ノ國民(「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」ノ州民ヲ含ム)タリシ自然人及法人中本條約ニ依リ當然或同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スル者ハ次條以下ノ規定ニ於テ之ヲ「舊洪牙利王國民」ト稱シ爾餘ノ者ハ之ヲ「洪牙利國民」ト稱ス

第二百四十七條

本條約ニ依リ讓渡セラレル地域内ノ住民ハ右地域ノ讓渡及其ノ結果タル國籍ノ變更ニ拘ラス讓渡當時ノ法令ニ依リ其ノ有シタル一切ノ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ洪牙利國內ニ於テ引續キ完全

ニ享有スヘシ

第二百四十八條

舊洪牙利王國民及洪牙利國民並其ノ權利、特權及財產ニ關スル問題ニシテ本條約中ニ其ノ規定ナク又舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル諸國若ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル諸國ノ間ノ直接關係ヲ處理スル條約中ニモ其ノ規定ナキモノハ關係諸國(洪牙利國ヲ含ム)間ノ特別條約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ尤モ右ノ特別條約ハ何等本條約ノ規定ト牴觸スルコトヲ得サルモノトス

第二百四十九條

洪牙利國政府ハ自國版圖内ニ存在スル舊洪牙利王國民ノ財產、權利及利益ヲ遲滞ナク該國民ニ還付スヘシ  
舊洪牙利王國民ノ財產、權利及利益ニ付千九百十八年十一月三日以後徵收シ若ハ増徴セラレタル元本上ノ租稅及賦課又ハ本條約ノ規定ニ從ヒ其ノ還付セラレルニ至ル迄ノ間ニ徵收シ若ハ増徴セラレルヘキ元本上ノ租稅及賦課ハ其ノ總額ヲ權利者ニ下戻スヘシ戰時非常措置ノ適用ヲ受ケザリシ財產、權利及利益ニ關シテハ本條約實施後三月ノ期間滿了ニ至ル迄ノ間ニ徵收シ若ハ増徴セラレルヘキ右ノ租稅及賦課ニ付亦同シ  
還付セラレタル財產、權利及利益ニ付テハ洪牙利國ヨリ右財產ヲ引取りタルトキ以後又ハ同國ニ於テ其ノ事業ヲ中止スルニ至リタルトキ以後ハ同一人ニ屬スル他ノ財產又ハ他ノ事業ニ關シ徵收スル何等ノ租稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

〔外初版〕

洪牙利國ヨリ引取りタル財產、權利及利益ニ付各種ノ租稅ヲ前納シアリタルトキハ既納租稅額中該財產、權利及利益引取後ノ期間ニ對スル部分ハ權利者ニ之ヲ下戻スヘシ

支拂ニ用申ルヘキ通貨及爲替相場ニ關スル第二百三十一條(二)號及第二百三十四條ノ規定ハ本條第一項ニ定ムル資産ノ償還ニ付夫々之ヲ適用ス  
舊洪牙利王國內ニ於テ爲シ又ハ設ケラレタル遺贈、贈與、給費其ノ他各種ノ財團ニシテ右王國民ノ利益ヲ目的トスルモノハ洪牙利國ノ版圖内ニ存在スル限リ該財團ノ目的ノ爲適當ニ爲サレタル支拂ヲ參酌シテ千九百十四年七月二十八日現在ノ狀態ニ於テ同國ニ依リ右舊洪牙利王國民ノ現ニ屬シ又ハ本條約若ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結スル諸條約ノ規定ニ依リ其ノ屬スヘキ同盟國又ハ聯合國ノ任意處分ニ委セラレヘシ  
洪牙利國ニ依リ引續キ管理セラレル家族財團ノ定款力洪牙利國國籍ノ保有ヲ以テ右財團ノ利益ヲ享有スルノ條件トスル場合ニ於テハ其ノ推定受益者カ本條約又ハ目下ノ問題ヲ解決スル目的ヲ以テ締結スル諸條約ニ依リ舊洪牙利王國ノ諸地方ヲ讓受ケ又ハ之ヲ讓受クヘキ諸國中ノ一國ノ國籍ヲ該條約ニ基キ既ニ取得シ又ハ今後取得スヘキ場合ニ於テモ右ノ推定受益者ハ年金、教育費、嫁資其ノ他ノ利益ニ對スル權利ヲ保有スヘシ  
或家族ノ爲スル財團ノ設アリタルトキニ當該家族ノ消滅ニ依リ基金力洪牙利國ニ又ハ同國ノ或施設ニ歸屬スヘキ場合ニ於テハ繼承權ハ最後ノ受益者ノ屬セシ國ニ移轉スヘシ

第二百五十條

第二百三十二條及第四款附屬書ノ規定ニ拘ラス洪牙利國民又ハ其ノ管理スル會社ノ財產、權利及利益ニシテ舊奧地利洪牙利君主國ノ版圖内ニ存

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

在スルモノハ右ノ規定ニ依リ留置又ハ清算セララルコトナカルヘシ  
前項ノ財產、權利及利益ハ千九百十八年十一月三日ヨリ本條約ノ實施ニ至ル迄ノ間ニ執リタル此ノ種ノ措置又ハ他ノ移轉、強制管理若ハ保管ノ措置ヲ解除シ權利者ニ之ヲ還付スヘシ右ノ還付ハ當該措置ノ適用前ノ狀態ニ於テ爲サルヘキモノトス  
本條ニ依リ洪牙利國民ノ提出スルコトアルヘキ要求ハ第二百三十九條ノ混合仲裁裁判所ニ之ヲ付託スヘシ  
本條ニ定ムル財產、權利及利益中ニハ第九編(財政條項)第百九十一條ノ適用ヲ受クヘキ財產ヲ包含セス  
本條ノ規定ハ洪牙利國民ノ船舶上ノ所有權ニ關スル第八編(賠償)第一款第三附屬書ノ規定ニ何等影響スルコトナシ

第二百五十一條

海上運送ニ依リ貨物賣却ノ契約ニシテ一方舊洪牙利王國民ト他方舊奧地利洪牙利君主國、洪牙利國若ハ「ボスニア、ヘルツェゴヴィナ」ノ行政官廳又ハ洪牙利國民トノ間ニ千九百十七年一月一日前ニ締結セラレタルモノハ其ノ契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關スルモノヲ除キ其ノ效力ヲ失フヘシ  
千九百十八年十一月一日前ノ締結ニ依リ同日ニ於テ其ノ效力ヲ有シタル同一當事者間ノ他ノ契約ハ一切其ノ效力ヲ存續スヘシ

第二百五十二條

讓渡地域内ニ於ケル時効、出訴期間及失効ニ關シテハ第二百三十五條及第二百三十六條ノ規定ヲ適用ス但シ「開戰」ノ語ハ「當事者間ノ關係力事實上又ハ法律上不能ト爲リシ日ニシテ各同盟及聯合國ノ行政處分ニ依リ



決定セラルヘキ日「戰時中」ノ語ハ「右ノ日本條約實施ノ日」ノ間ノ期間」ノ語ヲ以テ之ニ代フヘキモノトス

第二百五十三條

洪牙利國ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ法律ニ從ヒ設立セラレ同盟國又ハ聯合國ノ國民ヲ當事者トスル會社ニ屬スル財產、權利及利益カ他ノ國ノ法律ニ從ヒ設立セラレタル會社ニ讓渡セララルコトニ關シテハ何等之ヲ阻礙セサルコト、其ノ讓渡ノ實行ニ必要ナル一切ノ措置ヲ容易ナラシムルコト並同盟國若ハ聯合國ノ國民又ハ右ノ國民ヲ當事者トスル會社ニ洪牙利國又ハ讓渡地域内ニ存在スル其ノ財產、權利及利益ヲ還付スル爲メ請求セラルルコトアルヘキ助力ヲ與フルコトヲ約ス

第二百五十四條

第二百三十一條ニ號テ除キ本編第三款ハ洪牙利國民ト舊洪牙利王國民トノ間ニ契約セラレタル金錢債務ニ之ヲ適用セサルヘシ  
新國ニ關スル第二百三十一條ニ號テ特別規定ヲ除クノ外本條第一項ノ金錢債務ハ舊洪牙利王國民カ國籍ヲ取得シタル國ニ於ケル支拂當時ノ法貨ヲ以テ支拂ハルヘシ右ノ決済ニ適用スヘキ爲替相場ハ千九百十八年十一月一日ノ直前二月間ニ於ケル「ジュネーヴ」取引所建相場ノ平均トス

第二百五十五條

從前舊奧地利洪牙利君主國ノ一部分タリシ地域内ニ主タル營業所ヲ有スル保險會社ハ從來享有シタル法律上ノ地位ニ付其ノ國籍變更ノ結果何等ノ影響ヲ受クルコトナク本條約實施後十年間ハ洪牙利國版圖内ニ於テ其ノ營業ニ從事スルノ權利ヲ有スヘシ  
洪牙利國ハ前項ノ期間内此等ノ會社ノ業務ニ對シ内國會社ノ業務ニ課ス

登錄簿及圖面ニ關係アル一切ノ事項並舊奧地利洪牙利君主國ノ官廳カ該君主國ノ諸地方ヲ讓受ケタル國ノ官廳又ハ新ニ成立シタル國ノ官廳ニ對シテ爲スコトアルヘキ右書類ノ移送ハ特別條約ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二百五十八條

洪牙利國政府ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ政府若ハ行政官廳又ハ其ノ監督ノ下ニ在ル公私ノ機關カ讓渡地域内ニ於テ社會保險又ハ官營保險ノ經營ニ充ツル爲積立テタル準備金ノ部分ヲ舊奧地利洪牙利君主國ノ諸地方ヲ讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國ニ引渡スコトヲ其ノ關スル限り約ス但シ本條約ノ他ノ規定ヲ害スルコトナシ  
此等基金ノ引渡ヲ受ケタル國ハ其ノ基金ヲ該保險ヨリ生スル義務ノ履行ニ充當スルコトヲ要ス

右引渡ノ條件ハ洪牙利國政府ト關係國政府トノ間ニ締結スル特別條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ

右ノ特別條約カ前項ノ規定ニ基キ本條約實施後三月以内ニ締結セラレサル場合ニ於テハ引渡ノ條件ハ各場合ニ付五名ノ委員ヨリ成ル委員會ノ議ニ付セララルヘシ右ノ委員五名中一名ハ洪牙利國政府ニ於テ、一名ハ他方ノ關係國政府ニ於テ任命シ三名ハ國際勞動事務局勞動理事會ニ於テ爾餘ノ諸國ノ國民中ヨリ之ヲ任命スヘシ同委員會ハ國際聯盟理事會ノ議ニ付スヘキ勸告ヲ委員任命後三月以内ニ過半数ニ依リ決定スヘク聯盟理事會ノ決定ハ洪牙利國及他方ノ關係國政府ニ於テ直ニ之ヲ確定的ノモノト看做スコトヲ要ス

第二百五十九條

洪牙利國又ハ洪牙利國民ト舊洪牙利王國民トノ間ノ關係ニ付テ本款ノ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

ルモノヨリ高キ何等ノ租稅又ハ課金ヲ課スルコトヲ得ス右會社ノ財產權ニ損害ヲ與フヘキ措置ハ内國保險會社ノ財產、權利又ハ利益ニ均シク適用セラレサル限り之ヲ執ルコトヲ得ス此ノ如キ措置ヲ執リタル場合ニハ適當ノ賠償ヲ支拂フヘキモノトス

本規定ハ讓渡地域内ニ於テ業務ヲ從前執行シタル洪牙利保險會社カ其ノ主タル營業所ヲ右地域ノ外ニ有スルモ右地域ノ内ニ於テ其ノ營業ニ從事スルニ付同様ノ權利ヲ享用スルコトヲ相互的ニ許容セララル場合ニ限り之ヲ適用スヘシ

同盟及聯合國ノ國籍ヲ有スル前記保險會社ハ前掲十年ノ期間後ハ第二十一條ニ定ムル待遇ヲ享受スヘシ

本條ノ規定ハ共同組合ノ法律上ノ制度カ右組合ノ目的タル一切ノ行爲及契約ニ付組合員ニ現實ノ責任ヲ負ハシムルモノナル場合ニ限り共同組合ニ均シク之ヲ適用ス

第二百五十六條

本條約ノ結果分割セラレタル地域内ニ於テ其ノ事務ニ從事スル團體又ハ公的法人ニ屬スル財產ノ配分ハ特別條約ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二百五十七條

舊奧地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國及該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國ハ此等地域カ當該國ノ主權ノ下ニ移リタル際其ノ地域内ニ於テ有效ナル又ハ第二百四十一條ノ規定ニ依リ回復スヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ヲ承認スヘシ此等ノ權利ハ舊奧地利洪牙利君主國ノ法令ニ依リテ與ヘラルヘキ期間内其ノ效力ヲ保有スヘシ  
工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ノ保護ニ關スル記錄、

〔外初版〕

規定ハ洪牙利國又ハ洪牙利國民ト奧地利國トノ平和條約ノ第二百六十三條ニ掲ケル舊奧地利帝國國民トノ間ノ同種ノ關係ニ之ヲ適用ス

奧地利國又ハ奧地利國民ト舊奧地利帝國國民トノ間ノ關係ニ付テノ前記條約第十編第八款ノ規定ハ亦奧地利國又ハ奧地利國民ト本條約第二百四十六條ニ掲ケル舊洪牙利王國民トノ間ノ同種ノ關係ニ之ヲ適用ス

第十一編 航空

第二百六十條

同盟國又ハ聯合國ノ航空機ハ洪牙利國版圖上ヲ飛行シ又之ニ著陸スルノ完全ナル自由ヲ有スヘシ且洪牙利國ノ航空機ト同一ノ便宜ヲ享受スヘク遭難ノ場合ニ於テ殊ニ然リトス

第二百六十一條

同盟國又ハ聯合國ノ航空機ニシテ何レカノ外國ニ向ヒ通過中ノモノハ洪牙利國版圖上ヲ著陸スルコトナク飛行スルノ權利ヲ享有ス尤モ洪牙利國ノ制定スル法規ニシテ洪牙利國ノ航空機並同盟及聯合國ノ航空機ニ對シ均シク適用セララルヘキモノニ當ニ準據スルモノトス

第二百六十二條

洪牙利國內ニ設ケラレ内國公共交通ノ爲開放セラレタル飛行場ハ同盟及聯合國ノ航空機ノ爲之ヲ開放スヘシ同盟及聯合國ノ航空機ハ右飛行場ニ於テ著陸手續料、設備使用料其他ノ一切ノ料金ニ關シ洪牙利國ノ航空機ト同等ノ待遇ヲ受クヘシ

第二百六十三條

第二百六十條乃至第二百六十二條ニ定ムル飛行、通過及著陸ノ權利ニ付テハ本諸規定ニ依ルノ外洪牙利國ノ必要ト認メテ制定スル法規ヲ遵守ス



ルコトヲ要ス尤モ右ノ法規ハ洪牙利國ノ航空機並同盟ノ航空機ニ對シ差別ナク適用セラルヘキモノトス

第二百六十四條

同盟國又ハ聯合國中ノ一國カ下付シ又ハ有效ト認ムル國籍證明書、堪航證明書、技術證明書及諸免狀ハ洪牙利國ニ於テ有效ト認メラレ且洪牙利國ノ下付スル諸證明書及諸免狀ト均シキモノト認メラルヘシ

第二百六十五條

商業上ノ内國空中交通ニ關シ同盟及聯合國ノ航空機ハ洪牙利國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ受クヘシ

第二百六十六條

洪牙利國ハ其ノ版圖上ヲ飛行スル洪牙利國ノ航空機方同盟ノ聯合國間ニ締結セラルル航空條約中ニ規定スル燈火及信號ニ關スル規則、飛行ニ關スル規則並飛行場ニ於ケル及其ノ近傍ニ於ケル空中交通ニ關スル規則ヲ遵守スヘキコトヲ保障スル爲適當ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第二百六十七條

前諸規定ニ依リテ課セラルル義務ハ千九百二十三年一月一日迄存續スヘシ但シ該期日ニ先チ洪牙利國カ國際聯盟ニ加入スルコトヲ許容セラレ又ハ同盟及聯合國ノ同意ニ依リ右諸國間締結ノ航空條約ニ加入スルコトヲ認許セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二編 港、水路及鐵道

第一款 一般規定

第二百六十八條

洪牙利國ハ鐵道、航行可能水路又ハ運河ニ由リ國際交通上最適當ナル通

路ヲ經テ同盟國ノ版圖ヲ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國(其ノ洪牙利國ニ隣接スルト否トナ問ハス)中ノ一國ノ版圖ヨリ來リ又ハ其ノ版圖ニ向フ人、貨物、船舶、舟艇、車輛及郵便ニ許スルコトヲ約ス

前項ノ人、貨物、船舶、舟艇、車輛及郵便ハ何等通過稅ヲ課セラレ又ハ無用ニ遲延セシメラレ若ハ制限セラルルコトナカルヘク且料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ洪牙利國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ

通過貨物ハ一切ノ關稅其ノ他類似ノ稅金ヲ免除セラレヘシ通過運送ニ課スル一切ノ料金ハ運送ノ條件ニ應シ相當ノモノタルコトヲ要ス

全道程中ノ或一部分ニ付用井ラレ又ハ用井ラレヘキ船舶其ノ他ノ運輸機關ノ所有者又ハ國籍ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ノ差別ヲ設クルコトナカルヘシ

第二百六十九條

洪牙利國版圖ヲ通過スル移出民ノ往復運送ノ業務ニ對シ洪牙利國ハ旅客ノ真實通過者タルコトヲ確ムル爲必要ナル措置ヲ講スルノ外何等ノ取締ヲ設ケス又ハ之ヲ持續セサルコトヲ約ス洪牙利國ハ船舶會社其ノ他右ノ運送ニ關係アル私團體、私法人又ハ私人カ右目的ノ爲設ケラルル行政組織ニ何等關與スルコトヲ許サス又此等ノ者カ右ニ付直接又ハ間接ニ其ノ勢力ヲ及ボスコトヲ許ササルヘシ

第二百七十條

洪牙利國ハ其ノ版圖ヘノ輸入又ハ其ノ版圖ヨリノ輸出ニ關スル關稅、料金及禁止ニ付出入シタル國境ノ如何、運送(空中運送ヲ含ム)ニ用井ラルル運輸機關ノ種類、所有者若ハ國籍ノ如何、船舶若ハ舟艇、車輛、航空

[外初版]

機其ノ他ノ運輸機關ノ最初若ハ最後ノ出發地若ハ其ノ最終若ハ中間ノ到達地ノ如何、運送ノ道筋若ハ積換ノ場所ノ如何、貨物カ洪牙利港ヨリ直接ニ若ハ外國港ヨリ間接ニ輸入若ハ輸出セラルルカノ事實ノ如何又ハ貨物ノ輸入若ハ輸出カ陸路ニ由ルカ若ハ空中路ニ由ルカノ事實ノ如何ニ因リ直接又ハ間接ノ差別又ハ優先權ヲ設定スヘカラス洪牙利國ノ版圖ニ向ヒ又ハ其ノ版圖ヨリ出ツル貨物又ハ人ノ運送ニ對スル條件及料金ニ付テハ本條約中ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外亦同シ

洪牙利國ハ殊ニ同盟國又ハ聯合國中ノ一國ノ港、船舶又ハ舟艇ニ對シ不利益ナル何等ノ附加稅、洪牙利國又ハ別國ノ港又ハ船舶若ハ舟艇ニ依ル輸出又ハ輸入ニ對シ直接又ハ間接ノ何等ノ獎勵金(殊ニ聯絡貨率)ヲ設ケヘカラス洪牙利國又ハ同盟國若ハ聯合國中ノ一國ノ港ヲ經由シ又ハ其ノ船舶若ハ舟艇ニ依ル人又ハ貨物カ洪牙利國ノ港若ハ別國ノ港ヲ經由シ又ハ洪牙利國ノ船舶若ハ舟艇若ハ別國ノ船舶若ハ舟艇ニ依ル場合ニ於テハ必要トセサルヘキ何等ノ手續ヲ履マシメ又ハ何等ノ遲延ヲ生セシムヘカラス

第二百七十一條

貨物カ同盟國若ハ聯合國ノ版圖ヨリ洪牙利國ニ來リ又ハ洪牙利國ヨリ同盟國若ハ聯合國ノ版圖ニ向フモノナルト同盟國若ハ聯合國ノ版圖ヨリ來リテ洪牙利國ヲ通過シ又ハ同盟國若ハ聯合國ノ版圖ニ向ヒテ洪牙利國ヲ通過スルモノナルトナク同様に運送條件ノ下ニ洪牙利國版圖内ヲ運送セラルル同種ノ貨物ノ享受スル實質上ノ條件ト(殊ニ速度及運送中ノ注意ニ付)同一ノ條件ニ於テ右貨物ノ洪牙利國境通過ヲ成ルヘク簡便ニスル爲且其ノ洪牙利國境ヨリ發送及運送セラルルコトヲ確保スル

爲有用ナル管理上及技術上ノ一切ノ措置ヲ執ルヘシ殊ニ損敗シ易キ貨物ノ運送ハ迅速ニ且規則正シク行ハルヘク又關稅手續ハ聯絡列車ニ依ル貨物ノ直送ヲ妨クルコトナク爲サルヘシ

第二百七十二條

同盟及聯合國ノ海港ハ別國ノ或港ノ利益ノ爲洪牙利國ノ鐵道又ハ航行可能水路ニ於テ付與スル一切ノ恩典及低減貨率ノ利益ヲ受クヘシ

第二百七十三條

洪牙利國ハ別國ノ港ニ付與スルト同様ノ便益ヲ同盟及聯合國中ノ一國ノ港ニ確保スルコトヲ目的トスル貨率又ハ聯絡貨率ヘノ加入ヲ拒絕スルコトヲ得サルヘシ

第二章 航行

第二百七十四條

同盟及聯合國ノ國民並其ノ財產、船舶及舟艇ハ洪牙利國ノ一切ノ港及洪牙利國ノ内地水路ニ於テ洪牙利國ノ國民、財產並船舶及舟艇ト全然同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

殊ニ同盟及聯合國中ノ一國ノ船舶及舟艇ハ洪牙利國ノ船舶及舟艇ノ到ルコトヲ得ヘキ洪牙利國版圖内ノ港若ハ地ニ向ヒ又ハ之ヨリ來ル各種貨物及旅客ヲ内國ノ船舶及舟艇ノ場合ニ適用セラルル條件ヨリ重カラサル條件ノ下ニ運送スルコトヲ許サルヘク港及埠頭ニ於ケル各種ノ便益及料金(碇泊及貨物ノ積卸ニ關スル便益政府、公務員、私人又ハ各種ノ社團若ハ財團ノ名義ヲ以テ及其ノ利益ノ爲ニ徵收スル噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ニ類似スル各種ノ稅金及料金ヲ含ム)ニ關シ



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

テ内國ノ船舶及舟艇ト同等ノ待遇ヲ受ケヘシ  
洪牙利國カ同盟及聯合國中ノ一國ニ對シ又ハ別國ニ對シテ特惠待遇ヲ許  
與スル場合ニ於テハ右ノ待遇ハ即時且無條件ニテ一切ノ同盟及聯合國ニ  
之ヲ擴張スヘシ

人並船舶及舟艇ノ移動ニ付テハ税關、警察、衛生、移出民及移入民並禁  
制品ノ輸入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フル  
コトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク濫ニ交通ヲ阻礙セサル  
モノナルコトヲ要ス

第二章 「ダニユーア」河ニ關スル條項

一 國際河川ニ關スル一般規定

第二百七十五條

「サルム」ヨリ下流ノ「ダニユーア」河ハ之ヲ國際河川ト聲明ス右河系中ニ  
ハ其ノ航行可能ナル部分ニシテ一ノ舟艇ヨリ他ノ舟艇ニ積換チ行フト否  
トチ問ハス海洋ニ到ル自然の通路ヲ二國以上ニ供スルモノ及右河系ノ自  
然的ニ航行可能ナル區域ヲ擴張シ若ハ改良スル爲又ハ右水流ノ自然の  
航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿シタル傍系ノ運河及水道ヲ含  
ム  
前記河系中一般定義ニ包括セラレサル部分ハ沿河國ノ締結スル取極ニ依  
リ之ヲ國際河川ト爲スコトヲ得

第二百七十六條

前條ニ依リ國際河川ト聲明セラレタル水路ニ於テハ一切ノ國ノ國民、財  
產又ハ船舶ハ完全ナル均等待遇ヲ受ケヘク何レノ國ノ國民、財產又ハ船  
舶ニ對シテモ沿河國自身ノ又ハ最惠國ノ國民、財產又ハ船舶ニ比シ不利

本規定ハ沿河國カ關稅、地方入市稅又ハ消費稅ヲ定メ又ハ起重機、昇降  
機、埠頭、倉庫其ノ他類似ノ設備ノ使用ニ對シ公表料金率ニ依リ各港ニ  
於テ取立ツル相當ニシテ劃一ナル料金ヲ設定スルコトヲ妨ケス

第二百八十一條

航行可能水系ノ國際的部分ノ維持及改良ノ工事遂行ニ關スル特別機關存  
在セサル場合ニ於テハ各沿河國ハ航行ニ對スル障礙又ハ危險ヲ除去シ且  
航行ノ適當ナル狀態ノ維持ヲ確保スル爲適宜ノ限度ニ於テ必要ノ措置ヲ  
執ルノ義務ヲ有ス

此ノ義務ヲ遵守セサル國アル場合ニ於テハ之ニ付沿河國ノ何レカヨリ又  
ハ國際委員會ニ代表セララルル國ノ何レカヨリ國際聯盟ノ之カ爲設クル裁  
判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百八十二條

沿河國カ國際的部分ニ於テ航行ヲ阻礙スヘキ性質ノ工事ヲ企畫スル場合  
ニモ同様ノ措置ヲ執ルヘシ前條ノ裁判所ハ其ノ工事ノ停止又ハ廢止ヲ命  
ズルコトヲ得ヘシ尤モ同裁判所カ判定ヲ爲スニ當リテハ灌溉、水力、漁  
獵其ノ他内國ノ利害關係事項ニ關スル權利ヲ參酌スヘク此等ノ權利ハ沿  
河國ノ全部又ハ國際委員會ニ代表セララルル國ノ全部ノ同意アルトキハ航  
行上ノ必要ニ對シ優先權ヲ有スヘシ

第二百八十三條

前記第二百七十六條及第二百七十八條乃至第二百八十二條ニ規定スル制  
度ハ同盟及聯合國ノ定メ且國際聯盟ノ承認スル一般條約ニ依リ國際的性  
質ヲ承認セララルル航行可能水路ニ關シ右條約中ニ規定セララルヘキ制度ヲ

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス  
洪牙利舟艇ハ同盟及聯合國ノ一國ノ數港間ニ於テハ其ノ國ノ特別ノ許可  
ナキ限り定期線ニ依リ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ行フト得サルヘシ

第二百七十七條

現行條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外航行可能水路又ハ其ノ入口ヲ  
使用スル舟艇ニ付テハ河川ノ區域ニ依リテ其ノ額ヲ異ニスル料金ヲ取立  
ツルコトヲ得右料金ハ河川及其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ  
河川及其ノ入口ヲ改良スル爲ノ經費ヲ平衡ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利  
益ノ爲ニ要シタル費用ニ充當スルノ目的ニ供セララルルモノナルコト  
ヲ要ス其ノ料金率ハ右ノ費用ヲ基礎トシテ算出シ且各港ニ之ヲ揭示スヘ  
シ此ノ料金ハ密輸入又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外載貨ノ綿密ナル  
検査ヲ必要トセサル様ニ定ムヘシ

第二百七十八條

旅客、舟艇及貨物ノ通過ハ第一款ニ定ムル一般條件ニ從ヒテ行ハルヘシ  
國際河川ノ兩岸カ同一國ニ屬スル場合ニ於テハ通過貨物ハ之ニ封印ヲ施  
シ又ハ稅關吏員ヲシテ之ヲ監視セシムルコトヲ得河川カ國境ヲ形成スル  
場合ニ於テハ通過ノ貨物及旅客ハ一切ノ稅關手續ヲ免除セララルヘク貨物  
ノ積卸及旅客ノ乗降ハ沿河國ノ特ニ定ムル港ニ於テノミ之ヲ行フト得  
ヘシ

第二百七十九條

前記航行可能水路ノ河流又ハ其ノ入口ニ於テハ本編ニ規定スルモノヲ除  
クノ外何等ノ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第二百八十條

以テ之ニ代フヘシ右條約ハ殊ニ前記ノ「ダニユーア」河系ノ全部又ハ一部  
並右河系ノ他ノ部分ニシテ一般定義ニ包括セララルコトアルヘキモノニ  
適用セララルヘシ  
洪牙利國ハ第三百十四條ニ依リ前項ノ一般條約ニ加入スルコトヲ約ス

第二百八十四條

洪牙利國ハ第二百七十五條ニ掲グル河系内ノ港ニ登記セラレタル曳船及  
舟艇ノ中ヨリ選付又ハ賠償ノ名義ヲ以テスル控除ヲ爲シタル後其ノ一部  
分ヲ通告アリタル日ヨリ三月ノ最長期間内ニ當該同盟及聯合國ニ引渡ス  
ヘシ洪牙利國ハ同様ニ右河系利用ノ爲當該同盟及聯合國ニ必要ナル各種  
ノ材料ヲ引渡スヘシ  
曳船及舟艇ノ引渡數及材料ノ引渡數量並此等ノ分配ハ亞米利加合衆國ノ  
指名スル一名又ハ數名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ尤モ當事國ノ正當ナル  
必要ヲ參酌スヘク殊ニ戰爭前五年間ノ航運狀態ヲ基礎トスヘシ

一切ノ引渡船ハ其ノ設備及操縱具ヲ備ヘ、良好ノ狀態ニ在リ且貨物ノ運  
搬ニ堪ヘ得ヘキモノタルコトヲ要シ尙最近ノ建造ニ係ルモノノ中ヨリ選  
擇セララルコトヲ要ス

本條ノ引渡ニ依リ所有權ヲ移轉ヲ必要トスル場合ニ於テハ前記ノ一名又  
ハ數名ノ仲裁委員ハ千九百十八年十月十五日ニ於ケル前所有者ノ權利及  
右ノ者ニ支拂フヘキ補償金額ヲ決定スヘク且各場合ニ付該補償ノ處理方  
法ヲ決定スヘシ前記ノ一名又ハ數名ノ仲裁委員ニ於テ右補償金額ノ全部  
又ハ一部カ賠償義務國ニ直接又ハ間接ニ歸屬スヘキモノナルコトヲ認メ  
タルトキハ之カ爲其ノ國ノ貸方勘定ニ計上スヘキ金額ヲ決定スヘシ  
「ダニユーア」河ニ關シテハ船舶ニシテ其ノ所有權又ハ國籍ニ付諸國間ニ

〔外初版〕



紛争ヲ生ズルモノノ永久的分配及右分配ノ條件ニ關スル一切ノ問題ハ均シク之ヲ前記一名又ハ數名ノ仲裁委員ノ仲裁ニ付スヘシ  
此等船舶ノ管理ハ其ノ確定的分配アル迄亞米利加合衆國、英帝國、佛蘭西國及伊太利國ノ各代表者ヨリ成ル委員會ニ之ヲ委託スヘシ右委員會ハ地方團體カ此等船舶ヲ公益上ニ利用スルコトヲ保障スル爲暫定的措置ヲ執ルヘシ若シ然ラサルトキハ右委員會自ラ此等船舶ヲ利用スヘシ尤モ之カ爲確定的分配ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ  
右ノ暫定的利用ハ成ルヘク商の基礎ノ上ニ行ハルヘク此等船舶ノ貸貸ヨリ生スル前記委員會ノ純收入ハ賠償委員會ノ指定スル所ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

「ダニユーブ」河ニ關スル特別規定

第二百八十五條

「ダニユーブ」河歐羅巴委員會ハ其ノ戰爭前ニ有シタル機能ヲ更ニ行使スヘシ尤モ大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國及羅馬尼亞國ノ代表者ノミヲ以テ假ニ同委員會ヲ組織スヘシ

第二百八十六條

歐羅巴委員會ノ權限ノ終止スル地點ヨリ上流ノ第二百七十五條所掲ノ「ダニユーブ」河系ハ左記各代表者ヨリ成ル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ  
沿河獨逸諸邦代表者二名  
其ノ他ノ沿河國代表者各一名

將來「ダニユーブ」歐羅巴委員會ニ代表セララルヘキ非沿河國代表者各一名  
前項ノ代表者中本條約實施ノトキ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖

明ス

第二百八十九條

千八百七十八年七月十三日ノ伯林條約第五十七條ニ依リ奧地利、匈牙利國ニ與ヘラレ更ニ同國ヨリ 牙利國 移サレタル「イアン、ゲーツ」ニ於ケル工事ノ執行ニ關スル委任ハ之ヲ廢止ス此ノ部分ノ同河ノ管ヲ委任セラレタル委員會ハ本條約中ノ財政規定ニ從フノ外收支決算ノ規定ヲ制定スヘシ必要ナル料金ト雖洪牙利國ハ決シテ之ヲ取立ツルコトヲ得ス

第二百九十條

國際委員會ヨリノ授權又ハ委任ニ依リ「チェッコ、スロヴァキア」國「セルブ、クロアチ、スロヴェニア」國ハ羅馬尼亞國カ「ダニユーブ」河系中此等諸國ノ國境ヲ形成スル部分ニ於テ整理、改良、堰其ノ他ノ工事ヲ執行スルトキハ此等諸國ハ同河ノ對岸ニ於テ及此等諸國ノ版圖外ニ屬スル河床ノ部分ニ於テ右工事ノ測量、執行ハ維持ノ爲必要ナル一切ノ便益ヲ享受スヘシ

第二百九十一條

洪牙利國ハ「ダニユーブ」河歐羅巴委員會カ戰時中受ケタル損害ニ付一切ノ原狀回復、賠償及補償ヲ同委員會ニ爲スノ義務ヲ有スヘシ

第三章 治水

第二百九十二條

新國境劃定ノ結果一國内ノ治水（運河ノ開鑿、浸水、灌溉、排水又ハ類似ノ事項）カ他國版圖内ノ既設工事ニ倚據スル場合又ハ一國ノ版圖内ニ於テ他國版圖内ニ發源スル水若ハ水力ヲ戰爭前ノ慣習ニ基キテ使用スル場合ニハ別段ノ規定ナキ限り關係諸國間ニ此等諸國ノ各自取得シタル利

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

第二百八十七條

前條ノ國際委員會ハ本條約實施後成ルヘク速ニ會合シ同盟及聯合國ノ指定スル諸國カ「ダニユーブ」河ニ關スル確定規則ヲ制定スルニ至ル迄ノ間第二百七十六條及第二百七十八條乃至第二百八十二條ノ規定ニ從ヒテ假ニ同河ノ管理ニ任スヘシ

右國際委員會ノ決議ハ表決ノ過半數ニ依ルヘシ委員ノ俸給ハ各其ノ本國ニ於テ決定シ且之ヲ支拂フヘシ  
國際委員會ノ管理費ニ不足ヲ生シタルトキハ右委員會ニ代表セララル諸國ニ於テ均分シテ假ニ之ヲ負擔スヘシ  
委員會ハ殊ニ水先人ノ免許資格及水先案内料ヲ規定シ並水先案内業務ヲ監督スルノ任務ヲ有スヘシ

第二百八十八條

洪牙利國ハ同盟及聯合國ノ指定ニ係ル諸國ノ會議ニ於テ制定セララルヘキ「ダニユーブ」河ニ關スル制度ニ同意スルコトヲ約ス右會議ハ本條約實施後一年ノ期間内ニ開催セララルヘク洪牙利國代表者ハ之ニ出席スルコトヲ得ヘシ

「ダニユーブ」河ニ關スル確定規則ノ制定セララルニ至ル迄ノ間第二百八十六條ノ國際委員會ハ「ダニユーブ」河中「トルヌ、セヴェリン」及「モルダヴァ」間ノ部分ニ於ケル工事ノ執行及維持ニ用井ラレル器具機械、建物及設備ノ使用ヲ其ノ一時的管理ノ下ニ置クコトヲ得右ノ器具機械、建物及設備ノ確定的歸屬ハ前項ノ會議ニ於テ決定スヘシ洪牙利國ハ前記ノ器具機械、建物及設備ニ關スル一切ノ權利、權原及利益ヲ拋棄スルコトヲ聲

〔外初版〕

益及權利ヲ保全スル爲ノ取極ヲ締結スヘシ  
新國境劃定ノ結果他國版圖内ニ源ヲ有スルコトト爲レル電氣又ハ水ヲ都市又ハ家庭ノ用ニ供スル爲一國内ニテ使用スル場合ニ於テハ別段ノ規定ナキ限り關係諸國間ニ此等諸國ノ各自取得シタル利益及權利ヲ保全スル爲ノ取極ヲ締結スヘシ右取極ノ締結セララル迄ハ中央電氣所及給水所ハ千九百十八年十一月三日ニ於ケル條件及契約ニ相當スル基礎ニ依リ其ノ供給ヲ繼續スルノ義務ヲ有ス

第二百九十三條

「ダニユーブ」河流域（「オルト」河流域ヲ含マス）ヲ形成スル舊洪牙利王國ノ諸地方ニ付第二百九十二條ヲ適用スル爲及左記ノ權限ヲ行使スル爲前記諸地方ニ對シ主權ヲ有スル諸國共通ノ利益ノ爲常設治水專門委員會ヲ設置スヘシ右委員會ハ地域的ニ利害關係アル諸國ノ代表者各一名及國際聯盟理事會ノ任命スル議長一名ヲ以テ之ヲ組織スルモノトス

右委員會ハ第二百九十二條ノ取極ノ締結ヲ促進シ、其ノ實行ヲ監督シ且緊急ノ場合ニ之ヲ確保スルコトヲ要ス該委員會ハ治水ノ統一及水速測量、水準上昇報告ノ如キ治水ニ關スル事務ノ統一ヲ殊ニ伐林及造林ニ關シテ維持改良スルコトヲ要ス該委員會ハ上部「ダニユーブ」河ニ關スル當該航行委員會ノ權限ニ屬スヘキ問題（該問題ハ前記委員會之ヲ當該航行委員會ニ付託スヘキモノトス）ヲ除クノ外航行ニ關スル問題ノ調査ヲ行フヘク特ニ漁業上ノ利害關係ヲ參酌スヘシ該委員會ハ右ノ外關係諸國全



部ノ同意ニ依リ委託セラルヘキ事業又ハ調査ヲ行ヒ事務ヲ開設スヘシ  
治水委員會ハ本條約實施後三月ノ期間内ニ會合スルコトヲ要ス右委員會  
ハ其ノ權限及處務ニ關スル規則ヲ制定スヘク該規則ハ關係諸國ノ承認ヲ  
受クヘキモノトス  
本條ノ目的タル諸事項ニ關シ生シタル爭議ハ國際聯盟ノ定ムル所ニ依リ  
處理セラルヘシ

第三章 鐵道

第一章 「アドリアティク」海ニ到ル洪牙利國ノ通過ノ自由

第二百九十四條

洪牙利國ハ「アドリアティク」海ニ到ルノ自由ヲ許與セラルヘク之カ爲  
洪牙利國ノ舊領地利洪牙利君主國ヨリ分離シタル諸地方及諸港ニ於ケル  
通過ノ自由ヲ承認セラルヘシ  
右通過ノ自由ハ本件ニ付同盟及聯合國間ニ一般條約ヲ締結スルニ至ル迄  
ハ第二百六十八條ニ定ムル通過ノ自由ニ依リ新條約締結ノ上ハ同條約ノ  
規定ヲ以テ之ニ代フヘシ  
關係ノ諸國間又ハ諸行政官廳間ノ特別條約ニ於テハ前記ノ權利ヲ行使ス  
ヘキ條件ヲ決定スヘク殊ニ諸港及其ノ港内ニ存スル自由地域並諸港ヘノ  
順路ニ當ル鐵道ノ利用方法ニ關シ、直通切符及直通運送狀ニ依リ國際  
（聯絡）運送及國際（聯絡）貨率表ノ設定ニ關シ並千八百九十年十月十四日  
ノ「ベルヌ」條約ノ規定及其ノ補足條款ヲ新條約ノ之ニ代ルニ至ル迄維持  
スルコトニ關シテ規定ヲ設クヘシ

第二章 國際運送ニ關スル條項

第二百九十五條

同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來リ洪牙利國ニ仕向ケラルル貨物並同盟及聯合  
國ノ版圖ヨリ來リ又ハ右版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ洪牙利國ヲ通過  
スルモノハ洪牙利國ノ鐵道ニ於テ料金（割戻及割引ヲ含ム）、便益及一切  
ノ事項ニ付國內運送ノ爲ナルト輸出、輸入又ハ通過ノ爲ナルトト間ハス  
洪牙利國ノ鐵道線ニ由リ同様に運送條件（殊ニ運送路ノ長短）ノ下ニ運送  
セラルル同種ノ貨物ニ適用スル最惠待遇ヲ當然享受スヘシ同盟國又ハ聯  
合國ノ一國又ハ數國ノ請求アルトキハ洪牙利國ヨリ右請求國ノ版圖ニ仕  
向ケラルル貨物ニシテ該國ノ特ニ指定スルモノニ對シテモ右規定ヲ適用  
スヘシ  
前項ノ料金率ニ從ヒテ設立セラレ且直通運送狀ニ依リ國際貨率表ハ同盟  
國又ハ聯合國中ノ一國ヨリ洪牙利國ニ請求アルトキ之ヲ作成スヘシ  
尤モ洪牙利國ハ「アドリアティク」海及黑海ノ諸港ノ運送ニ關シテ戰爭  
前存在シタル運賃制度ヲ自國鐵道線ニ於テ右諸港ノ北獨逸諸港トノ競爭  
ノ爲ニ維持スルコトヲ約ス但シ第二百七十二條及第二百七十三條ノ規定  
ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第二百九十六條

本條約實施後續約國ハ千八百九十年十月十四日、千八百九十三年九月二  
十日、千八百九十五年七月十六日、千八百九十八年六月十六日及千九百  
六年九月十九日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル貨物ノ鐵道運送ニ關スル  
諸條約及諸協定ヲ其ノ自國ニ關スル限り且本條第二項ニ掲ケル留保ニ從  
ヒ復活セシムヘシ  
本條約實施後五年ノ期間内ニ旅客、手荷物及貨物ノ鐵道運送ニ關シ千八

〔外初版〕

百九十年十月十四日ノ「ベルヌ」條約及前記ノ續約ニ代ルヘキ新條約ヲ締  
結スル場合ニ於テハ該新條約及之ニ基キテ規定セラルルコトアルヘキ國  
際鐵道運送補足條款ハ洪牙利國カ同條約ノ審議ニ參加スルコト又ハ同條  
約ニ加入スルコトヲ拒ム場合ト雖尙同國ヲ拘束スヘシ新條約ノ締結ニ至  
ル迄ハ洪牙利國ハ「ベルヌ」條約ノ規定及前記續約並補足條款ヲ遵守スヘ  
シ

第二百九十七條

洪牙利國ノ版圖ヲ通過シテ行ハルル同盟國又ハ聯合國相互間及此等諸國  
ト他ノ諸國トノ間ノ鐵道交通ヲ確實ナラシムル爲同盟國又ハ聯合國ノ一  
國又ハ數國ノ請求アルトキハ洪牙利國ハ旅客及手荷物ノ直通切符ニ依リ  
運送ヲ設クルコトニ協力スルノ義務ヲ有ス之カ爲洪牙利國ハ殊ニ同盟及  
聯合國ノ版圖ヨリ來ル列車及車輛ヲ受繼キ且當該鐵道線ニ於ケル自國ノ  
最良長距離列車ト少クトモ同等ノ速力ヲ以テ之ヲ運轉スルコトヲ要ス右  
ノ直通運送ニ適用セラルヘキ運賃ノ速力及設備ニ付同一條件ニ於テ行ハ  
ルル洪牙利國內ノ同一通路ノ運送ニ對シテ取立ツル運賃ヨリ決シテ高カ  
ラサルヘシ

同盟及聯合國ノ諸港ニ向ヒ又ハ同盟及聯合國ノ諸港ヨリ來ル移出民ヲ洪  
牙利國內ノ鐵道ニテ運送スル場合ニ適用セラルヘキ運賃ハ他ノ諸港ニ向  
ヒ又ハ他ノ諸港ヨリ來ル移出民ノ速力及設備ニ付同一條件ノ下ニ同國鐵  
道ニ於テ享受スル最惠運賃率（割引及割戻ヲ含ム）ヨリ高キ吉米率ナルコ  
トヲ得ス

第二百九十八條

洪牙利國ハ前條ノ直通運送ニ付又ハ同盟及聯合國ノ諸港ニ向ヒ若ハ同盟

第二百九十五條

同盟及聯合國ノ版圖ヨリ來リ洪牙利國ニ仕向ケラルル貨物並同盟及聯合  
國ノ版圖ヨリ來リ又ハ右版圖ニ仕向ケラルル貨物ニシテ洪牙利國ヲ通過  
スルモノハ洪牙利國ノ鐵道ニ於テ料金（割戻及割引ヲ含ム）、便益及一切  
ノ事項ニ付國內運送ノ爲ナルト輸出、輸入又ハ通過ノ爲ナルトト間ハス  
洪牙利國ノ鐵道線ニ由リ同様に運送條件（殊ニ運送路ノ長短）ノ下ニ運送  
セラルル同種ノ貨物ニ適用スル最惠待遇ヲ當然享受スヘシ同盟國又ハ聯  
合國ノ一國又ハ數國ノ請求アルトキハ洪牙利國ヨリ右請求國ノ版圖ニ仕  
向ケラルル貨物ニシテ該國ノ特ニ指定スルモノニ對シテモ右規定ヲ適用  
スヘシ  
前項ノ料金率ニ從ヒテ設立セラレ且直通運送狀ニ依リ國際貨率表ハ同盟  
國又ハ聯合國中ノ一國ヨリ洪牙利國ニ請求アルトキ之ヲ作成スヘシ  
尤モ洪牙利國ハ「アドリアティク」海及黑海ノ諸港ノ運送ニ關シテ戰爭  
前存在シタル運賃制度ヲ自國鐵道線ニ於テ右諸港ノ北獨逸諸港トノ競爭  
ノ爲ニ維持スルコトヲ約ス但シ第二百七十二條及第二百七十三條ノ規定  
ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第二百九十六條

本條約實施後續約國ハ千八百九十年十月十四日、千八百九十三年九月二  
十日、千八百九十五年七月十六日、千八百九十八年六月十六日及千九百  
六年九月十九日「ベルヌ」ニ於テ署名セラレタル貨物ノ鐵道運送ニ關スル  
諸條約及諸協定ヲ其ノ自國ニ關スル限り且本條第二項ニ掲ケル留保ニ從  
ヒ復活セシムヘシ  
本條約實施後五年ノ期間内ニ旅客、手荷物及貨物ノ鐵道運送ニ關シ千八

及聯合國ノ諸港ヨリ來ル移出民ノ運送ニ付特別ナル且右運送ヲ阻礙シ又  
ハ運延セシムヘキ稅關検査、一般警察、衛生警察又ハ取締ノ措置ノ如キ  
技術上、財政上又ハ行政上ノ措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第三章 車輛

第二百九十七條

洪牙利國ハ自國ノ車輛ニ左記ノ取扱ニ適スル裝置ヲ備附クルコトヲ約ス  
一 千九百零七年五月十八日改正セラレタル千八百八十六年五月十五  
日ノ「ベルヌ」條約ノ當事國タル同盟及聯合國ノ鐵道線ニ運轉スル貨  
物列車ニ連結シ得ヘキモノト爲スコト尤モ本條約實施後十年以内ニ  
此等諸國ニ於テ採用スルコトアルヘキ貫通制動機ノ作用ヲ妨ケサル  
モノナルコトヲ要ス  
二 洪牙利國ノ鐵道線ニ運轉スル一切ノ貨物列車ニ前記諸國ノ車輛ヲ  
連結シ得ヘキモノト爲スコト  
同盟及聯合國ノ車輛ハ運轉、保存及修繕ニ關シ洪牙利國ノ鐵道線ニ於テ  
洪牙利國ノ車輛ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ

第四節 鐵道線ノ讓渡  
第二百九十八條  
鐵道ノ讓渡ハ左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ但シ本條約ニ依リ讓渡セラル  
ル地域内ニ在ル港、水路及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定並特許權利者及

第二百九十八條

鐵道ノ讓渡ハ左ノ條件ニ從ヒ之ヲ行フヘシ但シ本條約ニ依リ讓渡セラル  
ル地域内ニ在ル港、水路及鐵道ノ讓渡ニ關スル特別規定並特許權利者及



職員退職恩給ノ支給ニ關スル財政上ノ規定ヲ留保ス  
一 一切ノ鐵道ノ工物及設備ハ良好ノ狀態ニテ全部之ヲ引渡スヘシ  
二 自線所屬ノ車輛ヲ有スル一鐵道系統全體カ洪牙利國ヨリ同盟及聯  
合國中ノ一國ニ讓渡セラルル場合ニ於テハ其ノ車輛ハ千九百十八年  
十一月三日ノ最終財産目錄ニ從ヒ普通ノ保存狀態ニテ全部之ヲ引渡  
スヘシ

三 專屬車輛ヲ有セサル鐵道線ニ付テハ其ノ鐵道線ノ屬スル鐵道系統  
上ニ存在スル車輛ノ分配ハ同盟及聯合國ノ指名ニ係ル專門家ノ委員  
會ニ於テ洪牙利國代表者ヲモ加ヘテ之ヲ行フヘク此等ノ委員會ハ千  
九百十八年十一月三日ノ最終財産目錄ニ當該鐵道線所屬トシテノ記  
入濟車輛ノ數量、軌道ノ延長(側線含ム)並運送ノ種類及數量ヲ考  
量スルコトヲ要ス同委員會ハ又各個ノ場合ニ付引渡サルヘキ機關  
車、客車及貨車ヲ指定スヘク、車輛受領ニ關スル條件ヲ決定シ且洪  
牙利工場ニ於テ車輛ノ修繕ヲ爲シ得ルコトヲ確保スルニ必要ナル暫  
定協定ヲ爲スヘシ

四 備品、附屬品及機械類ハ車輛ト同一ノ條件ノ下ニ之ヲ引渡スヘシ  
前露領波蘭ノ鐵道線ニシテ奧地利洪牙利國官憲カ普通軌間ニ改築シタル  
モノハ之ヲ奧地利及洪牙利國有鐵道系統ノ支派ト看做シ前記第三號及第  
四號ノ規定ヲ適用スヘシ

第五章 特定ノ鐵道線ニ關スル規定

第三百二條

新國境劃定ノ結果同一國内ノ二地方ヲ連絡スル鐵道線カ他國ヲ過ル場合  
又ハ一國內ニ起點ヲ有スル支線カ其ノ終點ヲ他國內ニ有スル場合ニ於テ

必要ナル期間「チアタトルニヤ」「ナジユカニサ」鐵道線及「ザグラブ」  
「シユケニエシユ」鐵道線間ノ鐵道ニ依リ直通ノ自由使用ヲ許シ「セル  
ブ、クロアイト、スロヴヱーヌ」國版圖内ニ於テ右諸鐵道線間ノ直通鐵道  
ノ完成ヲ確保スル爲メ洪牙利國及「セルブ、クロアイト、スロヴヱーヌ」國  
ノ當該鐵道間ノ協約ニ依リ「ゴラ」停車場及「コトル」——「バルチ」鐵道ノ  
作業條件ヲ定ムヘシ前記協定ノ條件ニ付當該鐵道間ノ協議調ハサルトキ  
ハ意見相違ノ點ハ第三百一條ニ定ムル當該ノ專門家ノ委員會之ヲ解決ス  
ヘシ

第三百四條

私設會社ニ特許セラレタル舊奧地利洪牙利君主國ノ鐵道系統ニシテ本條  
約規定ノ實施ノ結果數國ノ版圖ニ跨ルニ至ルヘキモノニ付テハ之カ作業  
ノ規則正シク行ハルコトヲ確保ナラシムル爲メ此等鐵道系統ノ管理上及  
技術上ノ組織變更ハ各鐵道系統ニ付特許會社ト版圖關係國トノ間ノ取極  
ニ依リ之ヲ定ムヘシ

爭議(鐵道買戻契約ノ解釋ニ關スル問題ヲ含ム)ニ關シ協議調ハサルトキ  
ハ國際聯盟理事會ノ指名スル數名ノ仲裁委員ニ付託スヘシ

南奧地利鐵道會社ニ關シテハ前項ノ仲裁ハ同會社ノ重役會又ハ債券所持  
人代表委員會ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第三百五條

本條約實施後五年ノ期間内ニ「チエッコ、スロヴヱアキア」國ハ「アラタイ  
ラヴァ」「プレスブル」及「ナジユカニサ」兩停車場ヲ洪牙利國版圖内  
ニ於テ連絡スル鐵道ノ改良ヲ請求スルコトヲ得ヘシ  
費用ノ分擔ハ關係諸國カ右ニ依リ受クヘキ利益ニ比例スヘシ協議調ハサ

ハ其ノ作業條件ハ本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外當該鐵道間ノ  
協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ前記協定ノ條件ニ付當該鐵道間ノ協議調ハサル  
トキハ前條ノ規定ニ依リ組織シタル專門家委員會紛爭ヲ解決スヘシ  
特ニ「チアタトル」「ロシオンツ」鐵道線ノ作業協定ニ於テハ「チエッコ、スロ  
ヴヱアキア」國ノ機關車及乘務員ヲ有スル同國列車カ洪牙利國版圖ヲ經由  
シテ爲ス各方向ノ直通ヲ保障スヘシ但シ別段ノ決定ナキ限り右通行權ハ  
全然「チエッコ、スロヴヱアキア」國版圖内ニ在ル「チアタトル」「ロシオンツ」  
直通線ノ完成後又ハ遅クモ本條約實施後十五年ノ期間ノ滿了ニ依リ消  
滅スヘシ  
又「ベケスチアアバ」ヲ經由シテ「ナジユカニサ」ト「アラッド」及「キシエ  
ーネ」トヲ連絡スル鐵道線中洪牙利國版圖内ニ在ル區間ノ作業協定ニ於  
テハ羅馬尼亞國ノ機關車及乘務員ヲ有スル同國列車カ洪牙利國版圖ヲ經  
由シテ爲ス各方向ノ直通ヲ保障スヘシ但シ別段ノ決定ナキ限り右通行權  
ハ全然羅馬尼亞國版圖内ニ在ル「ナジユカニサ」ト「ベケスチアアバ」  
及「キシエーネ」ト「ベケスチアアバ」鐵道線ノ直接聯絡ノ完成後又ハ本  
條約實施後十年ノ期間ノ滿了ニ依リ消滅スヘシ  
洪牙利國ト其ノ隣接スル同盟及聯合國トノ間ノ一切ノ新國境停車場ノ設  
置並此等停車場間ノ鐵道作業ハ右ト同一ノ條件ノ下ニ締結セラルル協定ニ  
依リ之ヲ定ムヘシ

第三百三條

「セルブ、クロアイト、スロヴヱーヌ」國版圖内ノ「ゴラ」ノ市及區ニ對シ洪  
牙利國版圖内ノ「ゴラ」停車場並右「ゴラ」ノ市及區ノ交通ヲ辨スル鐵道ノ  
使用ヲ確保スル爲メ「セルブ、クロアイト、スロヴヱーヌ」國ノ運輸ニ對シ

〔外初版〕

第三百六條

ルトキハ右分擔ハ國際聯盟ノ指名スル一名ノ仲裁委員之ヲ定ムヘシ  
「チエッコ、スロヴヱアキア」國ト「アドリアティック」海トノ間ノ自由交通ハ  
同國ノ爲重要ナルニ因リ洪牙利國ハ「チエッコ、スロヴヱアキア」國カ其ノ列  
車ヲシテ左記諸線ノ洪牙利國版圖内ニ於ケル區間ヲ通行セシムルノ權利  
アルコトヲ承認ス

- 一 「アラタイ斯拉ヴァ」「プレスブル」ヨリ「ソプロン」、「ツオムバ  
テリ」及「ムラ、ケレストウール」ヲ經由シ「フィウメ」ニ向フ線並「ム  
ラ、ケレストウール」ヨリ「アラタイゲルホフ」ニ至ル支線
- 二 「アラタイ斯拉ヴァ」「プレスブル」ヨリ「ヘジユシアロン」——  
「チオルナ」——「ヘジユフアル」——「ザラベル」——「ザラスセンテ  
イヴァン」——「ムラ、ケレストウール」ヲ經由シ「フィウメ」ニ向フ線  
並「ヘジユフアル」ヨリ「ツオムバテリ」ニ至リ及「ムラ、ケレストウ  
ール」ヨリ「アラタイゲルホフ」ニ至ル兩支線

當事者ノ一方又ハ他方ノ請求アルトキハ通行權ノ行使ヲ受クヘキ鐵道線  
ハ「チエッコ、スロヴヱアキア」國ノ鐵道ト通行權ノ行使ヲ受クヘキ鐵道トノ  
間ノ取極ニ依リ一時的又ハ確定的ニ之ヲ變更スルコトヲ得ヘシ

第三百七條

通行權ニ依リテ運行スル列車ハ通過國ト「チエッコ、スロヴヱアキア」國トノ  
間ノ取極ニ依リノ外地方ノ運送ヲ行フコトヲ得サルヘシ  
前記通行權ニハ殊ニ機關車庫及車輛小修繕工場ヲ設置スルノ權利並「チ  
エッコ、スロヴヱアキア」國ノ列車ノ業務ヲ監督スル代表者ヲ指名スルノ權  
利ヲ包含スヘシ



「チエツコ、スロヴァキア」國カ其ノ通行權ヲ行使スヘキ技術上、管理上及財政上ノ條件ハ同國ノ鐵道ト其ノ洪牙利國內ニ於テ使用スル鐵道トノ間ノ條約ニ依リ之ヲ定ムヘシ右條約ノ條項ニ付當該鐵道間ニ協議調ハサルトキハ英國政府ノ任命スル一名ノ仲裁委員ニ於テ意見ノ一致セサル諸點ヲ決裁スヘク其ノ判定ハ當事者雙方ヲ拘束スルモノトス

第六章 經過規定

第三百八條

洪牙利國ハ同盟及聯合國ノ名ニ於テ行動スル官憲力左記運送上ノ事項ニ付洪牙利國ニ與フヘキ指令ヲ實行スヘシ

一 本條約ニ依リテ行ハルル軍隊ノ運送並軍用ノ材料、彈藥及糧秣等ノ運搬

二 一時的措置トシテ特定地方ヘノ供給品ノ運送、平時運送狀態ノ成ルヘク迅速ナル回復及郵便電信業務ノ整備

第七章 電信及電話

第三百九條

現行ノ諸條約ニ別段ノ規定アル場合ニ於テモ洪牙利國ハ國際交通上最適當ナル線ヲ經且現行料金率ニ依リテ通過スルノ自由ヲ同盟及聯合國中ノ一國(其ノ洪牙利國ニ隣接スルト否トナ問ハス)ヨリ來リ又ハ同盟及聯合國中ノ一國ニ向フ電報通信及電話通信ニ許與スルコトヲ約ス上記ノ通信ハ無用ニ遲延セシメラレ又ハ制限セラルルコトナカルヘク各種ノ便益ニ

關シ及殊ニ通信ノ迅速ニ關シ洪牙利國ニ於テ國民待遇ヲ享受スヘシ發信人又ハ受信人ノ國籍ノ如何ニ依リ直接又ハ間接ニ料金、便益又ハ制限ニ關シ差別ヲ設ケルコトナカルヘシ

第三百十條

洪牙利國ハ「チエツコ、スロヴァキア」國ノ地理上ノ位置ニ鑑ミ第十編(經濟條項)第二百八十八條ニ掲ケル萬國電信電話條約ニ付左記修正ヲ受諾ス

一 「チエツコ、スロヴァキア」國ノ請求アルトキハ洪牙利國ハ其ノ版圖ヲ橫斷スル電信直通線ヲ建設シ且維持スヘシ

二 前號ノ各線ニ對シ「チエツコ、スロヴァキア」國ノ支拂フヘキ料金年額ハ前記條約ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定スヘク且別段ノ條約ナキトキハ里斯本ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約第二十三條第五號ニ規定シタル低減料金率ヲ基礎トシ且新直通線建設ノ請求權ヲ含ムモノトシテ前記條約ニ定メタル通信數ニ對シ該條約ニ依リ支拂フヘキ金額ヨリ少カラサルヘシ

三 「チエツコ、スロヴァキア」國カ一直通線ニ付定ムル前記ノ最抵料金年額ヲ支拂フ限リ

(イ) 右直通線ハ「チエツコ、スロヴァキア」國ニ向ヒ又ハ「チエツコ、スロヴァキア」國ヨリ來ル通信ノ爲ニ之ヲ專用スヘシ

(ロ) 千八百七十五年七月二十二日ノ萬國電信條約第八條ニ依リ洪牙利國ノ取得シタル萬國電信業務ヲ停止スルノ權ハ右直通線ニ之ヲ適用セス

四 直通電話回線ノ建設及維持ニ付テハ右ト同様ノ規定ヲ適用スヘシ

一直通電話回線ニ對シ「チエツコ、スロヴァキア」國ノ支拂フヘキ料金

〔外初版〕

ハ別段ノ條約ナキトキハ一直通電信線ニ對シテ支拂フヘキ料金ノ倍額タルヘシ

五 現行ノ國際諸條約又ハ本條ニ規定ナキ必要ナル管理上、技術上及財政上ノ諸條件ト共ニ定ムヘキ特別線ハ關係諸國間ニ於テ將來締結スヘキ條約ニ依リ之ヲ決定スヘシ右條約ニ付協議調ハサルトキハ國際聯盟理事會ニ於テ指名スル一名ノ仲裁委員之ヲ決定スヘシ

六 本條ノ規定ハ洪牙利及「チエツコ、スロヴァキア」兩國間ノ取極ニ依リ何時タリトモ之ヲ變更スルコトヲ得本條約實施ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後「チエツコ、スロヴァキア」國カ本條ニ依リ許與セラルル權利ヲ享有スヘキ條件ハ當事國間ニ協議調ハサルトキハ當事國ノ一方ノ請求ニ基キ國際聯盟理事會ニ於テ指名スル一名ノ仲裁委員之ヲ變更スルコトヲ得ヘシ

七 本條ノ解釋又ハ本條第五號ニ掲ケル條約ノ解釋ニ付當事國間ノ爭議生シタルトキハ右爭議ハ國際聯盟ノ設置スヘキ常設國際司法裁判所ノ決裁ニ依ルヘシ

第四款 紛争ノ處理及永久條項ノ改正

第三百十一條

本編ノ解釋及適用ニ關シ關係國間ニ生スルコトアルヘキ爭議ハ國際聯盟ノ定ムル所ニ依リ解決セラルヘシ

第三百十二條

國際聯盟ハ何時タリトモ前記諸條中永久的管理制度ニ關スル規定ノ改正ヲ提議スルコトヲ得ヘシ

第三百十三條

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第二百六十八條乃至第二百七十四條、第二百七十七條、第二百九十五條、第二百九十七條乃至第二百九十九條及第三百九條ノ規定ハ本條約實施ノ日ヨリ三年ノ期間滿了ノ上ハ何時タリトモ國際聯盟理事會ニ於テ之ヲ改正スルコトヲ得ヘシ

改正ナキ場合ニ於テハ右列記ノ各條ニ規定スル利益ハ前項ノ期間滿了ノ後ハ同盟及聯合國中ノ一國ニ於テ其ノ版圖内ノ一地方ニシテ相互待遇ヲ許與セサルモノノ爲ニ之ヲ請求スルコトヲ得サルヘシ相互待遇ヲ請求シ得サル右三年ノ期間ハ國際聯盟理事會之ヲ延長スルコトヲ得ヘシ

舊境地利洪牙利君主國ノ一地方ヲ讓受ケタル國又ハ該君主國ノ解體ニ因リ生シタル國ハ前記各條ニ規定スル利益ヲ主張スルコトヲ得サルヘシ但シ右諸國カ本條約ニ依リ其ノ主權ノ下ニ移ル地方ニ付洪牙利國ニ對シ相互待遇ヲ保障スルコトキハ此ノ限ニ在ラス

第五款 特別規定

第三百十四條

洪牙利國ハ同盟及聯合國間ニ國際聯盟ノ承認ヲ得テ本條約實施ノ日ヨリ五年ノ期間内ニ締結セラルヘキ通過、航行可能水路、港及鐵道ノ國際制度ニ關スル一般條約ニ加入スルコトヲ約ス但シ同盟及聯合國ノ利益ノ爲ニ本條約ニ定ムル洪牙利國ノ特殊義務ニ影響ヲ及ボスコトナシ

第十三編 勞動

第一款 勞動機關

國際聯盟ハ世界平和ノ確立ヲ目的トシ而シテ世界平和ハ社會正義ヲ基礎トスル場合ニ於テノミ之ヲ確立シ得ヘキモノナルニ因リ



安ヲ醸生シ惹テ世界ノ平和協調ヲ危殆ナラシムヘキニ因リ彼ノ労働時間ノ制定殊ニ一日又ハ二週ノ最長労働時間ノ限定、労働供給ノ調節、失業ノ防止、相應ノ生活ヲ支フルニ足ル貨銀ノ制定、勞務傷害及疾病ニ對スル労働者ノ保護、兒童年少者及婦人ノ保護、老年及廢疾ニ對スル施設、自國外ニ於テ使用セララル労働者ノ利益ノ保護、結社自由ノ原則ノ承認、職業及技術教育ノ組織等ノ如キ手段ヲ以テ前記労働状態ヲ改善スルコトハ刻下ノ急務ナルニ因リ

一國ニ於テ人道的労働條件ヲ採用セザルトキハ他ノ諸國ノ之カ改善ヲ企圖スルモノニ對シ障礙ト爲ルヘキニ因リ

茲ニ締約國ハ正義人道ヲ旨トシ世界恆久ノ平和ヲ確保スルノ冀望ヲ以テ左ノ諸條ヲ協定ス

第一章 機關

第三百十五條

前文記載ノ目的ヲ達セムカ爲茲ニ常設機關ヲ設置ス  
國際聯盟ノ原聯盟國ハ右常設機關ノ原締盟國タルヘク今後國際聯盟ノ聯盟國ト爲ルモノハ同時ニ右常設機關ノ締盟國タルヘキモノトス

第三百十六條

常設機關ハ(一)締盟國代表者ノ労働總會及(二)第三百二十一條ニ規定スル労働理事會ノ管理ニ屬スル國際労働事務局ヨリ成ル

第三百十七條

締盟國代表者ノ労働總會ノ會議ハ必要ニ應シ隨時ニ且少クトモ毎年一回之ヲ開クヘシ労働總會ハ各締盟國四名ツツノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス内二名ハ政府ノ代表委員、他ノ二名ハ當該國ニ於ケル使用者及労働者ヲ各

第三百十七條ニ依リ労働總會カ締盟國ノ一代表委員ノ列席ヲ拒絕シタルトキハ該代表委員ノ任命ナカリシモノト看做シ本條ノ規定ヲ適用ス

第三百十九條

労働總會ノ會議ハ國際聯盟本部所在地又ハ前會議ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ總會ヲ議決シタル他ノ地ニ於テ之ヲ開ク

第三百二十條

國際労働事務局ハ聯盟機關ノ一部トシテ國際聯盟本部所在地ニ之ヲ設置ス

第三百二十一條

國際労働事務局ハ左ノ規定ニ依リ選任シタル二十四名ヲ以テ組織スル労働理事會ノ管理ニ屬ス  
労働理事會ノ組織ハ左ノ如シ

政府ヲ代表スル者十二名

使用者ヲ代表スル労働總會代表委員ノ選舉シタル者六名

労働者ヲ代表スル労働總會代表委員ノ選舉シタル者六名

政府ヲ代表スル十二名ノ中八名ハ主要産業國タル締盟國ノ之ヲ任命シ他ノ四名ハ右八國以外ノ締盟國ノ労働總會政府代表委員ニ於テ之カ爲選定シタル締盟國ノ之ヲ任命スヘシ

主要産業國カ何レナルカノ問題ハ國際聯盟ノ聯盟理事會之ヲ決定スヘシ

労働理事會員ノ任期ハ三年トス闕員ノ補充方法其ノ他之ニ類スル事項ハ労働總會ノ承認ヲ條件トシテ労働理事會之ヲ定ムルコトヲ得

労働總會ノ承認ヲ條件トシテ労働理事會之ヲ定ムルコトヲ得

労働理事會ハ會員中ノ一名ヲ隨時ニ會長ニ選舉シ議事規則ヲ設ケ及其ノ

労働理事會ハ會員中ノ一名ヲ隨時ニ會長ニ選舉シ議事規則ヲ設ケ及其ノ

代表スル代表委員タルヘシ

各代表委員ハ顧問ヲ同伴スルコトヲ得但シ會議事項ノ各項目ニ付二名ヲ超ユルコトヲ得ス労働總會ニ於テ特ニ婦人ニ關スル問題ヲ議スル場合ニ於テハ顧問中少クトモ一名ハ婦人タルコトヲ要ス

締盟國ハ其ノ國ニ於テ使用者又ハ労働者ヲ最能ク代表スル産業上ノ團體カ存在スル場合ニ於テハ該團體トノ協議ニ依リ各民間代表委員及其ノ顧問ヲ任命スルコトヲ得

顧問ハ之ヲ同伴スル代表委員ノ請求及總會ノ議長ノ特別ノ許可アル場合ヲ除クノ外發言スルコトヲ得ス又顧問ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

代表委員ハ議長宛ト通告書ニ依リ其ノ顧問ノ一名ヲ自己ノ代理者トシテ指名スルコトヲ得顧問ハ右代理中發言シ及表決ヲ爲スコトヲ得

代表委員及其ノ顧問ノ氏名ハ各締盟國政府之ヲ國際労働事務局ニ通知スヘシ

代表委員及其ノ顧問ノ委任狀ハ之ヲ労働總會ノ審査ニ付スヘシ労働總會ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ本條ニ依リ任命セラレタル者ニ非スト認ムル代表委員又ハ顧問ノ列席ヲ拒絕スルコトヲ得

第三百十八條

各代表委員ハ労働總會ニ付議セラレタル一切ノ事項ニ付各別ニ表決ヲ爲スノ權利ヲ有ス

締盟國任命權ヲ有スルニ拘ラス民間代表委員中ノ一名ヲ任命セザルトキハ他ノ民間代表委員ハ労働總會ニ出席シ發言スルコトヲ得ルモ表決ヲ爲スコトヲ得ス

〔外初版〕

會議ノ期日ヲ定ム臨時會議ハ會員十名以上ノ書面請求アリタルトキハ之ヲ開クヘシ

第三百二十二條

國際労働事務局ノ局長ヲ置キ労働理事會之ヲ任命ス局長ハ労働理事會ノ指揮ヲ受ケ國際労働事務局ノ事務及他ノ委託事務ノ遂行ニ付其ノ責任局長又ハ其ノ代理者ハ労働理事會ノ一切ノ會議ニ列席スヘシ

第三百二十三條

國際労働事務局ノ職員ハ局長之ヲ任命ス右職員ハ國際労働事務局事務ノ成績ヲ擧クルニ差支ナキ限り成ルヘク國籍ヲ異ニスル諸國中ヨリ之ヲ選任スヘク且其ノ若干名ハ婦人タルコトヲ要ス

第三百二十四條

國際労働事務局ノ職能ニハ労働者ノ生活状態及労働條件ノ國際的調節ニ關スル一切ノ情報ノ蒐集配布、殊ニ國際條約締結ノ目的ヲ以テ労働總會ニ提出セムトスル事項ノ審査並労働總會ノ命ニ依リ特別調査ノ遂行ヲ含ムモノトス

國際労働事務局ハ労働總會ノ會議事項ヲ準備ス

國際労働事務局ハ國際紛爭ニ關シ本編ノ規定ニ依リ其ノ任務ヲ行フ

國際労働事務局ハ國際利害關係アル産業及勞務ノ問題ニ付佛文、英文其ノ他労働理事會カ適當ト認ムル言語ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行スヘシ

本條ニ定メタル職能ノ外尙國際労働事務局ハ労働總會ノ委託ニ係ル一切ノ權能及任務ヲ有スルモノトス

第三百二十五條

労働總會ノ承認ヲ條件トシテ労働理事會之ヲ定ムルコトヲ得



産業及勞務ノ問題ヲ管掌スル締盟國政府ノ各省ハ勞働理事會ニ於ケル當該政府ノ代表者、代表者ナキ場合ニ於テハ之カ爲政府ノ任命シタル當該官吏ヲ經由シテ直接ニ局長ト通信スルコトヲ得

第三百二十六條

國際勞働事務局ハ國際聯盟事務總長ノ助力ヲ受クルコトヲ得ヘキ事項ニ付右助力ヲ請求スルコトヲ得

第三百二十七條

勞働總會又ハ勞働理事會ノ會議ニ出席スル代表者、代表委員及其ノ顧問ノ旅費及手當ハ各締盟國之ヲ支辨ス

國際勞働事務局並勞働總會及勞働理事會ノ會議ニ關スル他ノ一切ノ費用ハ國際聯盟事務總長聯盟ノ一般資金中ヨリ之ヲ局長ニ交付ス

局長ハ本條ニ依リ交付ヲ受ケタル金錢ノ支出ニ付國際聯盟事務總長ニ對シ其ノ責ニ任スヘシ

第二章 手續

第三百二十八條

勞働總會ノ一切ノ會議ノ會議事項ハ勞働理事會之ヲ決定ス勞働理事會ハ締盟國ノ政府又ハ第三百十七條ノ目的ノ爲承認セラレタル代表團體ノ提出スル會議事項ノ案ヲ審議スヘシ

第三百二十九條

局長ハ勞働總會ノ幹事トシテ行動ス會議事項ハ勞働總會ノ開催前四月迄ニ之ヲ各締盟國ニ送達スヘシ民間代表委員ノ選任アリタル場合ニ於テハ當該締盟國ヲ經由シテ之ヲ送達スヘシ

第三百三十條

國ニ依リ批准セララルヘキ國際條約案ノ執レノ形式ニ依ルヘキカチ決定ス

勞働總會ニ於テ前項ノ勸告又ハ條約案ヲ可決確定スル爲ニハ執レノ場合ニ於テモ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ要ス

締盟國一般ニ適用スヘキ勸告又ハ條約案ヲ立案スル場合ニ於テハ勞働總會ハ氣候ノ狀態、産業組織ノ不充分ナル發達其ノ他特殊ノ事情ニ依リ産業狀態著シキ差異アル國ニ關シ相當斟酌ヲ加フヘク且斯ノ如キ國ノ事情ニ適應セシムル爲必要ト認ムルモノアルトキハ右勸告又ハ條約案ニ加フヘキ變更ヲ提示スヘシ

勸告又ハ條約案ハ勞働總會ノ議長及局長其ノ一通ニ署名シテ之ヲ確認シ國際聯盟事務總長ニ寄託スヘク事務總長ハ其ノ勸告又ハ條約案ノ認證贈本ヲ各締盟國ニ送付スヘシ

締盟各國ハ勞働總會開催後一年以内ニ立法其ノ他ノ措置ヲ執ルカ爲右ノ勸告又ハ條約案ヲ其ノ事項ニ付權限アル機關ノ議ニ付スヘキコトヲ約ス但シ已ムチ得サル事情ノ爲右期間内ニ其ノ議ニ付スルコト能ハサルトキハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ勞働總會開催後十八月ヲ超エサル期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

勸告ニ付テハ締盟國ハ之ニ關シ執リタル措置ヲ事務總長ニ通知スヘシ

條約案ニ付テハ締盟國ニ於テ其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得タル場合ニ於テハ右條約ノ正式批准ヲ事務總長ニ通告シ且右條約ノ規定ノ實施ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

勸告ニ付其ノ實現ニ必要ナル立法其ノ他ノ措置ヲ執ルコトナカリシ場合又ハ條約案ニ付其ノ事項ニ關シ權限アル機關ノ同意ヲ得サリシ場合ニ於

締盟國政府ハ勞働總會ノ會議事項中或項目ノ存置ニ對シ反對ヲ述フルノ權ヲ有ス右反對ノ理由ハ局長宛ノ説明書ニ之ヲ記載スヘク局長ハ之ヲ本常設機關ノ各締盟國ニ送付スヘシ

尤モ前記ノ反對アリタル項目ト雖勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ審議スヘキモノト議決シタルトキハ之ヲ會議事項中ヨリ削除スルコトヲ得ス

第三百三十一條

前項ノ外勞働總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ或事項ヲ審議スヘキ旨ヲ議決シタルトキハ該事項ハ之ヲ次期會議ノ事項中ニ加フヘシ

第三百三十二條

勞働總會ハ自ラ會議手續ヲ定メ及議長ヲ選舉スヘシ又各種ノ事項ニ付審査報告ヲ爲サシムル爲委員會ヲ組織スルコトヲ得

本編ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一切ノ事項ハ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ單純多數ニ依リ之ヲ決ス

第三百三十三條

爲サレタル表決ノ總數カ勞働總會出席代表委員ノ半數ニ達セサルトキハ採決ハ之ヲ無効トス

第三百三十四條

勞働總會ハ其ノ組織シタル各委員會ニ專門委員ヲ附屬セシムルコトヲ得專門委員ハ審議ニ參加シ表決權ヲ有セス

第三百三十五條

勞働總會ニ於テ會議事項中ノ或項目ニ關シ提案ヲ可決シタルトキハ勞働總會ハ該提案ニ付(締盟國ナシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之カ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲該締盟國ニ送付スル勸告又ハ口締盟

〔初版外〕

テハ締盟國ハ他ノ何等ノ義務ヲ負フコトナシ

勞動事項ニ關スル條約ニ加盟スルノ權能ニ制限アル聯邦國ニ在リテハ當該國政府ハ其ノ裁量ニ依リ右制限ノ適用アル條約案ヲ單ニ勸告ト認ムルコトヲ得此ノ場合ニハ勸告ニ關スル本條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十六條

本條ハ左ノ原則ニ從ヒ之ヲ解釋スヘシ

第三百三十七條

締盟國ハ如何ナル場合ニ於テモ勞働總會カ或勸告又ハ條約案ヲ採用シタル結果トシテ其ノ國ノ現行法制上當該勞動者ニ與ヘタル保護ノ減殺ヲ要求セララルコトナカルヘシ

第三百三十八條

右ニ依リ批准セラレタル一切ノ條約ハ國際聯盟事務總長之ヲ登錄スヘシ該條約ハ之ヲ批准シタル締盟國ノミチ拘束スヘシ

第三百三十九條

條約案カ勞働總會ノ最終審議ニ付セラレタル場合ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ同意ヲ得サリシトキト雖本常設機關ノ締盟國ハ右條約案ヲ希望スル各國間ニ於テノミ之ヲ採用スルノ權ヲ有ス

第三百四十條

右ニ依リ採用シタル條約ハ當該國政府國際聯盟事務總長ニ之ヲ通知シ事務總長ハ之ヲ登錄スヘシ

第三百四十一條

各締盟國ハ其ノ締結シタル條約ノ規定實施ノ爲執リタル措置ニ關スル年報ヲ國際勞働事務局ニ提出スルコトヲ約ス該年報ノ様式及記載事項ハ勞働理事會ノ指定スル所ニ依リ局長ハ該年報ノ要領ヲ勞働總會ノ次期會議ニ報告スヘシ



使用者又ハ労働者ノ組織スル産業上ノ團體ヨリ國際労働事務局ニ對シ締  
盟國ノ一國力其ノ締結シタル條約ニ付其ノ管轄内ニ於テ確實ナル履行ヲ  
爲ササルコトヲ申告シタル場合ニ於テハ労働理事會ハ其ノ申告ヲ當該國  
政府ニ移牒シ且右ニ付其ノ相當ト認ムル辯明書ヲ提出ヲ勧誘スルコトヲ  
得

第三百三十八條

労働理事會ハ當該國政府ヨリ相當期間内ニ辯明書ヲ接受セス又ハ其ノ接  
受シタル辯明書ヲ不充分ト認ムル場合ニ於テハ申告書及之ニ對スル辯明  
書アルトキハ其ノ辯明書ヲ公表スルノ權ヲ有ス

第三百三十九條

各締盟國ハ他ノ締盟國カ前數條ニ依リ共ニ批准シタル條約ノ確實ナル履  
行ヲ爲サスト認ムル場合ニ於テハ國際労働事務局ニ對シ異議ヲ提起スル  
ノ權ヲ有ス

労働理事會ハ以下規定スル所ニ從ヒテ右ノ異議ヲ労働審理委員會ニ付ス  
ルニ先チ其ノ裁量ニ依リ第三百三十七條ノ定ムル方法ニ準シ右異議ノ相  
手國政府ニ之ヲ移牒スルコトヲ得

労働理事會ハ右異議ヲ相手國政府ニ移牒スルノ必要ヲ認メサルトキ又ハ  
右移牒ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ充分ト認ムル辯明書ヲ相當期間内ニ接  
受セサルトキハ該異議ノ審査及之ニ關スル報告ヲ爲サシムル爲メ労働審理  
委員會ノ設置ヲ求ムルコトヲ得

労働理事會ハ其ノ發意ニ依リ又ハ労働總會ノ代表委員ノ異議ニ基キ同一  
ノ手續ヲ爲スコトヲ得

労働理事會第三百三十八條又ハ第三百三十九條ノ適用ヨリ生スル問題ヲ

書ヲ作成スヘシ報告書ニハ係争問題ノ決定ニ關係アル一切ノ事實ノ認定  
並該異議ニ對シ執ルヘキ處置及之カ實行期限ニ關シ適當ト認ムル勸告ヲ  
記載スルモノトス

労働審理委員會ハ又勸告ヲ實行セサル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁  
手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シテ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テ  
ハ之ヲ其ノ報告書中ニ指示スヘシ

第三百四十三條

國際聯盟事務總長ハ労働審理委員會ノ報告書ヲ異議ニ關係アル各國政府  
ニ送付シ又之ヲ公表セシムヘシ

前項ノ送付ヲ受ケタル各國政府ハ労働審理委員會ノ報告書ニ記載スル勸  
告ヲ採用スルヤ否ヤ、若シ之ヲ採用セストセハ當該異議ニ付國際聯盟ノ  
常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムルノ意思アリヤ否ヤチ一月以内ニ國際  
聯盟事務總長ニ通告スヘシ

第三百四十四條

締盟國中勸告又ハ條約案ニ關シ第三百三十三條ニ依リ措置ヲ執ラサル者  
アル場合ニ於テハ他ノ締盟國ハ右ニ付常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ム  
ルノ權ヲ有ス

第三百四十五條

第三百四十三條又ハ第三百四十四條ニ依リ常設國際司法裁判所カ裁判ヲ  
求メラレタル異議又ハ他ノ事項ニ付其ノ爲シタル裁決ハ終結トス

第三百四十六條

常設國際司法裁判所ハ労働審理委員會ノ爲シタル事實ノ認定又ハ勸告ノ  
ル場合ニ於テハ之ヲ確認シ、變更シ又ハ廢棄スルコトヲ得勸告ヲ實行セ

審議スルニ當リ申告又ハ異議ノ相手國政府カ労働理事會ニ其ノ代表者ヲ  
有セサル場合ニ於テハ該政府ハ其ノ審議中労働理事會ノ議事ニ參加セシ  
ムル爲メ代表者ヲ出スノ權ヲ有ス審議ノ期日ハ該國政府ニ對シ適當ノ時期  
ニ之ヲ通知スヘシ

第三百四十條

労働審理委員會ハ左ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス

各締盟國ハ本條約實施後六月以内ニ産業上ノ經驗アル者三名ヲ任命スル  
コトヲ約ス内一名ハ使用者ノ代表者、一名ハ労働者ノ代表者、他ノ一名  
ハ中立ノ地位ニ在ル者タルヘシ労働審理委員會ノ委員ハ右任命セラレタ  
ル者ノ名簿中ヨリ之ヲ選定スヘシ

右任命セラレタル者ノ資格ハ労働理事會之ヲ審査ス労働理事會ハ資格カ  
本條ノ要件ニ適合セスト認ムル者ノ任命ニ對シ出席代表者ノ爲シタル表  
決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ承認ヲ拒ムコトヲ得

労働理事會ノ請求アリタルトキハ國際聯盟事務總長ハ労働審理委員會ヲ  
組織セシムル爲メ前記名簿ノ各部ヨリ一名ツツ三名ヲ選定シ内一名ヲシテ  
之カ議長タラシムヘシ右三名ハ何レモ直接ニ異議ニ關係アル締盟國ノ任  
命シタル者ナラサルコトヲ要ス

第三百四十一條

第三百三十九條ニ依リ異議カ労働審理委員會ニ付セラレタル場合ニ於テ  
ハ各締盟國ハ直接ニ之ニ關係アルト否トニ拘ラス該異議事項ニ付其ノ有ス  
ル一切ノ資料ヲ労働審理委員會ニ提供スルコトヲ約ス

第三百四十二條

労働審理委員會異議ニ付充分ナル審査ヲ了シタルトキハ之ニ關スル報告

〔外初版〕

サル政府ニ對スル適當ナル經濟的制裁手段ニシテ他ノ諸政府之ヲ採用シ  
テ可ナリト認ムルモノアル場合ニ於テハ之ヲ該判決中ニ指示スヘシ

第三百四十七條

労働審理委員會ノ報告書又ハ常設國際司法裁判所ノ判決中ニ勸告ノ記載  
アル場合ニ於テ締盟國カ其ノ勸告ヲ所定ノ期間内ニ實行セサルトキハ他  
ノ各締盟國ハ右勸告ヲ實行セサル國ニ對シ前記ノ報告書又ハ判決中ニ適  
當ナリトシテ指示シタル經濟的制裁手段ヲ執ルコトヲ得

第三百四十八條

勸告ヲ實行セサル政府ハ労働審理委員會ノ勸告又ハ常設國際司法裁判所  
判決中ノ勸告ニ遵由スルニ必要ナル處置ヲ執リタル旨何時タリトモ労働  
理事會ニ通知シ且其ノ通知ノ内容ヲ確ムル爲メ労働審理委員會ノ開設ヲ國  
際聯盟事務總長ニ申立ツルコトヲ労働理事會ニ請求スルコトヲ得第三百  
四十條乃至第三百四十三條、第三百四十五條及第三百四十六條ノ規定ハ  
右ノ場合ニ之ヲ適用ス労働審理委員會又ハ常設國際司法裁判所カ當該政  
府ニ對シ有利ナル報告又ハ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ他ノ諸政府ハ直  
ニ之ニ對スル經濟的制裁手段ヲ停止スヘシ

第三章 一般規定

第三百四十九條

締盟國ハ本編ノ規定ニ依リ批准シタル諸條約ヲ其ノ殖民地、保護國及屬  
地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ適用スルコトヲ  
約ス

- 一 條約カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト
- 二 土地ノ狀況ニ適應セシムル爲メ條約ニ必要ナル變更ヲ加フルコト



第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

締結國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セザルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞動事務局ニ通告スヘシ

第三百五十條

本編ノ改正ハ勞動總會ニ於テ出席代表委員ノ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ之ヲ可決シ國際聯盟理事會ヲ組織スル代表者ノ屬スル各國及總數四分ノ三ノ締結國之ヲ批准シタル場合ニ於テ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三百五十一條

本編ノ解釋又ハ締結國間ニ於テ將來本編ノ規定ニ基キ締結スル條約ノ解釋ニ關スル疑義又ハ紛争ハ之ヲ常設國際司法裁判所ノ裁判ニ付スヘキモノトス

第四章 經過規定

(千九百十九年六月二十八日獨逸國ト締結セラレタル) 平和條約ニ掲ケラレタル

第三百五十二條

勞動總會ノ第一回會議ハ千九百十九年十月之ヲ開クヘシ會議ノ地及會議事項ハ附屬書ニ之ヲ定ム

第一回會議ノ招集及組織ハ右附屬書ニ指定スル政府之ヲ準備ス該政府ハ勞動總會ニ提出スヘキ書類ノ作成ニ付同附屬書ニ依リ組織シタル國際準備委員會ノ助力ヲ受クヘシ

第一回會議ノ經費及國際聯盟カ一般資金ヲ設定シ得ルニ至ル迄ニ開催スル爾後ノ會議ノ經費ハ代表委員及其ノ顧問ノ經費ヲ除クノ外萬國郵便聯合總局ノ經費分擔ノ割合ニ從ヒ締結國之ヲ負擔ス

(ハ) 健康上有害ナル作業

四 兒童使用ノ件

(イ) 使用ノ最低年齢

夜間

(ハ) 健康上有害ナル作業

五 産業ニ使用セラレル婦人ノ夜業ノ禁止及機寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百十六年「ベルヌ」國際條約ノ擴張及適用ノ件

第二款 一般原則

第三百五十五條

締結國ハ産業ニ従事スル賃銀生活者ノ身體上道徳上及智能上ノ福祉ハ最重要ナル國際事項ナリト認メ此ノ大ナル目的ノ爲茲ニ國際聯盟ノ機關ト相付テ第一款ニ規定スル常設機關ヲ組織シタリ

締結國ハ氣候、慣行及習俗、經濟上ノ機會或産業上ノ困難ノ相異ハ勞動條件ノ劃一ヲ急速ニ實現スルコトヲ困難ナラシムルモノト認ム然レトモ締結國ハ現ニ勞動カ單ナル商品ト看做サルヘキモノニ非スト認ムルカ故ニ勞動條件ヲ規律スル方法及原則ニシテ一切ノ産業國カ各自ノ特殊事情ノ許ス限リ之ヲ適用ナカムヘキモノノ存スルヲ認ム

締約國ニ於テハ右方法及原則中左ニ掲グルモノヲ以テ特別且緊急ノ必要アルモノト認ム

- 一 勞動ハ單ニ貨物又ハ商品ト認ムヘキモノニ非ストノ前記ノ基本原則

二 使用者又ハ被用者カ一切ノ適法ナル目的ノ爲結社スルノ權利

第一類 一般共通條約 第二編 平和條約

第三百五十三條

本款ノ規定ニ依リ國際聯盟事務總長ニ提出スヘキ一切ノ書類ハ國際聯盟ノ組織セラレル迄ノ間國際勞動事務局長之ヲ保管シ追テ國際聯盟事務總長ニ之ヲ引繼クヘシ

第三百五十四條

本編ノ規定ニ依リ常設國際司法裁判所ノ裁判ヲ求ムヘキ紛争ハ該裁判所ノ開設ニ至ル迄ノ間國際聯盟理事會選定ノ三名ヲ以テ組織スル裁判所ニ之ヲ付託スヘシ

附屬書

千九百十九年第一回勞動總會會議

會議ノ地ハ華盛頓トス

會議ノ招集ハ亞米利加合衆國政府ニ之ヲ委囑ス

國際準備委員會ハ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國及瑞西國ノ任命スル七名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス右委員ハ必要ト認ムルトキハ前記以外ノ締結國ニ對シ代表者ノ任命ヲ求ムルコトヲ得

- 會議事項
  - 一 一日八時間又ハ一週四十八時間ノ原則ノ適用ノ件
  - 二 失業ニ對スル豫防又ハ救済ノ件
  - 三 婦人使用ノ件

(イ) 産前産後(産婦ニ對スル手當問題ヲ含ム)

夜間

(外初版)

三 其ノ時及其ノ國ニ於テ相當ト認メラルル生活程度ヲ維持スルニ足ル賃銀ヲ被用者ニ支拂フヘキコト

四 一日八時間又ハ一週四十八時間ノ制ヲ實行スルニ至ラサル諸國ニ於テハ之ヲ其ノ到達ノ目標トシテ採用スヘキコト

五 日曜日ヲ成ルヘク包含シ二十四時間ヲ下ラサル毎週一回ノ休息ヲ與フルノ制ヲ採用スヘキコト

六 兒童勞動ヲ廢止スヘキコト及年少者ノ勞動ニ對シ其ノ教育ヲ繼續スルコトヲ得且身體ノ正當ナル發達ヲ確保スヘキ制限ヲ設クヘキコト

七 同一價值ノ勞動ニ對シテハ男女同額ノ報酬ヲ受クヘキ原則

八 各國カ其ノ法令ニ依リ定ムル勞動條件ニ關スル標準ハ適法ニ其ノ國ニ居住スル一切ノ勞動者ニ對スル平衡ナル經濟上ノ待遇ヲ確保スヘキコト

九 各國ハ被用者ノ保護ヲ目的トスル法令ヲ勵行スル爲監督ノ制度ヲ設ケ婦人ヲシテ之ニ參加セシムヘキコト

締約國ハ前記ノ方法及原則ヲ以テ完全不易ノモノト主張セスト雖右ハ國際聯盟ノ政策ヲ指導スルニ適切ナルコトヲ信シ若ハ國際聯盟國タル各産業國ニシテ之ヲ採用シ且妥當ナル監督ノ制度ニ依リテ其ノ實行ヲ保障スルニ於テハ必ズ世界ノ賃銀生活者ノ上ニ恆久ノ福利ヲ齎スヘキコトヲ疑ハス

第十四編 雜則

第三百五十六條

洪牙利國ハ武器及火酒類ノ取引ニ關シ並千八百八十五年二月二十六日ノ



伯林一般議定書、千八百九十年七月二日ノ「ブリュッセル」一般議定書及右兩議定書ヲ補足シ又ハ變更スル條約ニ規定スル他ノ事項ニ關シ同盟及聯合國又ハ其ノ或數國カ他國ト締結シタル又ハ締結スルコトアルヘキ條約ヲ認諾スルコトヲ約ス

第三百五十七條

締約國ハ千九百十八年七月十七日佛蘭西共和國政府及「モナコ」公殿下ノ署名シタル佛蘭西國及「モナコ」公國間ノ關係ヲ定ムル條約ヲ領承シタルコト及記錄ニ留ムルコトヲ承認ス

第三百五十八條

締約國ハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ議定書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ規定セラレタル保障ニシテ平和維持ニ關スル國際義務ヲ設定シタルモノヲ承認スト雖維納會議最終議定書第九十二條第一項及千八百十五年十一月二十日ノ巴里條約第三條第二項ニ定メタル「サヴォア」縣ノ中立地帶ニ關スル條約、宣言其ノ他追加議定書ノ條約ハ現時ノ狀態ニ適合セザルニ至レルコトヲ聲明ス因テ締約國ハ該地帶ニ關スル條款ノ廢止ニ付佛蘭西及瑞西兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ領承ス右ノ條款ハ消滅ノ後復活スルコトナシ

締約國ハ又上「サヴォア」縣及「ジエツクス」郡ノ自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款カ現時ノ狀態ニ適合セザルニ至レルコトヲ承認シ且佛蘭西及瑞西兩國方其ノ適當ト認ムル條件ニ依リ取極ヲ以テ兩國間ニ前記地帶ノ狀態ヲ決定スヘキコトヲ承認ス

附屬書

第一

ニ適應スル特殊制度ノ便益ヲ供與スヘキ組織ニシテ既ニ試練ヲ經タルモノノ廢止ヲ承諾シタルモノト推斷セラレタルコトヲ欲セス聯邦政府ノ意見ニ依レハ問題ハ前記諸條約ニ依リ設定セラレタル同地帶關稅制度ノ修正ニハ非シテ單ニ該地方間ノ貨物交易ノ條件ニ付今日ノ經濟狀態ニ一層適應スル樣規定ヲ設ケムトスルニ在リ

聯邦政府ハ佛蘭西國政府ノ四月二十六日附公文ニ附屬スル該地帶將來ノ組織ニ關スル條約案ヲ詳閱シタル結果以上ノ見解ヲ有スルニ至レリ尤モ聯邦政府ハ前記ノ留保ヲ爲スト同時ニ佛蘭西國政府ニ於テ本問題ニ關シ發議スルヲ便宜ト認ムル提案アラハ最友好ノ精神ヲ以テ之ヲ考慮スルニ躊躇セザルコトヲ聲明ス

(ロ) 本自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款ハ該地帶ニ關スル事項ヲ規定スル佛蘭西及瑞西兩國間協定ノ成立スル迄引續キ效力ヲ有スルコトヲ承認ス

第二

佛蘭西國政府ハ前記ノ通告ニ對スル回答トシテ千九百十九年五月十八日瑞西國政府ニ對シ左ノ公文ヲ送付シタリ  
在巴里瑞西國公使館ハ五月五日附公文ヲ以テ佛蘭西共和國政府ニ對シ聯邦政府ハ提案セラレタル條項ヲ同盟及聯合國政府ト獨逸國トノ間ノ平和條約中ニ挿入スルコトニ同意シタル旨ヲ通告シタリ  
佛蘭西國政府ハ斯ク成立シタル取極ヲ欣然領承シタリ而シテ該提案條項ハ同盟及聯合國政府ニ於テ既ニ承諾濟ナリシヲ以テ獨逸國全權委員ニ提示シタル平和條件中ニ第四百三十五條トシテ之ヲ挿入シタリ  
本問題ニ關スル瑞西國政府ノ五月五日附公文ハ種種ノ意見及留保ヲ表明

瑞西聯邦政府ハ佛蘭西國政府ト同權友好ノ精神ヲ以テ同盟及聯合國カ獨逸國ニ提示シタル平和條件第四百三十五條ノ規定ヲ審查シ左ノ條件及保留ノ下ニ之ニ同意シ得ルコトニ決定シタルヲ欣幸トスル旨千九百十九年五月五日佛蘭西國政府ニ通告シタリ

一 「サヴォア」縣中立地帶

(イ) 「サヴォア」縣中立地帶ニ關スル條款ノ廢止ニ關シ兩國政府間ニ成立シタル取極ヲ聯邦議會ニ於テ批准セザル間ハ本件ニ關シテハ當事國ノ孰レノ一方ニ於テモ何等確定セザルモノト認メラルヘシ  
(ロ) 瑞西國政府カ前記條款ノ廢止ニ對シ同意ヲ與フルハ千八百十五年ノ諸條約殊ニ千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ニ依リ瑞西國ノ爲ニ設ケラレタル保障ヲ所定正文ニ從ヒ承認スルコトヲ條件トス

(ハ) 前記諸款ノ廢止ニ關スル佛蘭西國及瑞西國兩政府間ノ取極ハ本條カ其ノ字句通平和條約中ニ挿入セラレタルトキニ於テノミ之ヲ有效ト認メ尙平和條約締結國ハ千八百十五年ノ諸條約及千八百十五年十一月二十日ノ宣言書ノ署名國ニシテ本平和條約ノ署名國ニ非サル諸國ノ同意ヲ得ルコトニ力ムヘキモノトス  
上「サヴォア」縣及「ジエツクス」郡ノ自由地帶

(イ) 聯邦政府ハ平和條約中ニ挿入スヘキ「上」サヴォア「縣及」ジエツクス「郡」ノ自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ諸條約其ノ他追加議定書ノ條款カ現時ノ狀態ニ適合セザルニ至レルコトヲ規定スル前記條文未項ノ記述ノ解釋ニ關シ最明確ナル留保ヲ爲ス聯邦政府ハ前記ノ條約ヲ承諾シタル爲隣接地帶ニ對シ地理上及經濟上ノ位置

シタリ  
上「サヴォア」縣及「ジエツクス」郡ノ自由地帶ニ關スル見解ニ付佛蘭西國政府ハ第四百三十五條未項規定ノ趣旨ハ明瞭ニシテ誤解ノ餘地ナク殊ニ佛蘭西國及瑞西國以外ノ諸國カ該問題ニ將來利害關係ヲ有セザルヘキコトヲ暗示スルニ於テ然ルモノアルコトヲ言明スルノ光榮ヲ有ス

共和國政府ノ關スル限り同政府ハ佛蘭西國ノ當該地方ノ利益ヲ保護セムコトヲ切望シ右地方ノ特殊ノ地位ニ鑑ミ該地方ノ爲ニ適當ナル關稅制度ヲ確立シ且同地方ト隣接瑞西國地方トノ間ノ相互ノ利益ヲ參酌シテ現時ノ狀態ニ一層適合スル樣交易ニ關スル制度ヲ決定スルノ望マシキコトニ留意ス

以上ハ佛蘭西國政治上ノ國境ニ從ヒ此ノ地方ニ於テ其ノ關稅線ヲ整理スヘキ佛蘭西國ノ權利ヲ何等妨ケザルモノトス此ノ如キ整理ハ佛蘭西國ニ於テハ其ノ境界ノ他ノ部分ニ付之ヲ行ヒ又瑞西國モ久シキ以前ニ此ノ地方ニ於ケル自國境界ニ付行ヒタル所ナリ

共和國政府ハ本問題ニ關シ瑞西國政府カ前記自由地帶ニ於ケル現行制度ニ代フヘキ制度ニ關スル佛蘭西國ノ何レノ提案ヲモ友好ノ態度ヲ以テ欣然考慮スヘキコトヲ茲ニ聲明シタルヲ本懷トシ佛蘭西國政府亦同權友好ノ精神ヲ以テ右提案ヲ作成セムト欲ス  
尙五月五日附瑞西國公使館ノ公文中ノ前記條項ニ記述シタル自由地帶ニ關スル千八百十五年ノ制度ノ一時的維持ハ現行制度ヨリ協定制ニ至ル道程ニシテ之カ爲兩國政府ノ必要ト認メタル新地位ノ設定ヲ遲滯セシメサルヘキハ共和國政府ノ信シテ疑ハサル所ナリ以上ノ注意ハ五月五日附瑞西國公文第一項(イ)號「上」サヴォア「縣中立地帶」ナル標題ノ下ニ記載セ







- ニコラス、ビー、パチッチ (印)
- ドクトル、ラント、トルンビック (印)
- ドクトル、イヴァン、ゾルゲル (印)
- シアルーン (印)
- ドクトル、エドワルド、ベネシユ (印)
- ステファン、ガーススキ (印)
- アー、ベナール (印)
- ドラツシエラーザール (印)

議定書

本日附テ以テ署名ノ條約中或條項ノ履行條件ヲ明確ナラシムル爲締約國

- 一 洪牙利國カ第五十七條第二項ニ依リ同盟及聯合國ニ引渡ヲ要スル人員ノ名簿ハ本條約實施後一月以内ニ之ヲ洪牙利國政府ニ送付スヘシ
- 二 第七十條及第四附屬書中ノ二乃至四ニ掲グル賠償委員會並第百六十三條ニ定ムル特別分科會ハ製造上ノ祕密其ノ他ノ祕密事項ノ公示ヲ求ムルコトヲ得ス
- 三 平和條約署名後直ニ且四月以内ニ洪牙利國ハ賠償ニ關スル事務ノ進捗ニ資シ以テ調査ノ簡捷及決定ノ迅速ヲ期スル爲書類及提案ヲ同盟及聯合國ノ審査ニ付スルコトヲ得
- 四 洪牙利財產ノ清算ニ關シ犯罪行為ヲ爲ス者ハ之ヲ訴追スヘシ同盟及聯合國ハ右犯罪行為ニ關シ洪牙利國政府ノ提供シ得ヘキ資料及證據ヲ受領スヘシ

千九百二十年六月四日「トリアノン」ニ於テ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ本書ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正九年六月四日佛蘭西國「トリアノン」ニ於テ帝國全權委員ノ同盟及聯合國全權委員並洪牙利國全權委員ト共ニ署名調印シタル平和條約及附屬議定書ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十一年大正十年七月十九日鹽原ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 伯爵内田康哉

宣言書

戰爭中 船舶及載貨ノ沈没ヨリ生シタル損失ヲ最少ナラシムル爲且救助シ得ヘキ船舶及載貨ノ回復並之ニ關スル私的請求權ノ處理ヲ容易ナラシムル爲洪牙利國政府ハ敵對行為ノ繼續中洪牙利國海軍ニ依リ擊沈セラレ又ハ損害ヲ加ヘラレタル船舶ニ關シ同盟及聯合國政府ノ所持ニ係ル一切ノ參考資料ニシテ同盟及聯合國ノ政府又ハ國民ニ有用ナルモノヲ提供スルコトヲ約ス

本宣言ハ千九百二十年六月四日「トリアノン」ニ於テ佛蘭西語、英吉利語及伊太利語ヲ以テ之ヲ作成ス相違アル場合ニ於テハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル 附屬地圖(略ス)

●同條約批准調書ニ署名及批准書

寄託等ノ件 (大正十年八月九日 外務省告示第二十八號)

大正十年七月二十一日在佛石井大使ハ大正九年六月四日署名ノ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約及附屬議定書ニ付右條約末文第三項ノ規定ニ從ヒ大正十年七月十九日御批准濟ノ旨ヲ佛蘭西國政府ニ通報シ同七月二十六日同大使ハ英帝國、佛蘭西國、伊太利國、日本國、白耳義國、羅馬尼亞國、「セルブ、クロアト、スロヴェニア」國、暹羅國、「チエッコ、スロヴァキア」國及洪牙利國ノ代表者ト共ニ巴里ニ於テ同條約及附屬議定書ノ第一回批准寄託調書ヲ作成シ同時ニ同盟及聯合國ト洪牙利國トノ休戰諸條約ノ不履行事項ニ關スル留保ノ議定書ニ署名シタル旨同大使ヨリ電報アリタリ

(大正十一年六月一日 外務省告示第二十號)

玖馬共和國ハ本年三月二十一日對洪平和條約並同附屬議定書及宣言書ノ批准書ヲ寄託シタル旨今般佛國外務省ヨリ通告アリタリ

(昭和二年一月十一日 外務省告示第一號)

大正十五年十月一日支那國ハ千九百二十年六月四日「トリアノン」ニ於テ署名セラレタル主タル同盟及聯合國ト洪牙利國トノ平和條約議定書並宣言書ノ批准書ヲ寄託シタル旨今般佛國外務省ヨリ通告アリタリ











